

厚真町

# オニキシベ3遺跡

—厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成29年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

厚真町

# オニキシベ3遺跡

—厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成29年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター





遺跡遠景 空中写真1 (北西から)



遺跡俯瞰 空中写真2 (南東から)





H-10完掘状況(南から)



H-4 遺物出土状況(南西から)



H-4・h s-1 確認状況(北西から)



H-14(左)・15(右)完掘状況(北西から)



H-15・h f-1 確認状況(南から)

## 例 言

1. 本書は、北海道胆振総合振興局 室蘭建設管理部が行う厚幌ダム建設事業に伴い、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成26（2014）・27（2015）・28（2016）年度に実施した、厚真町オニキシベ3遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書（『厚真町 オニキシベ3遺跡』北理調報346）である。
2. 平成27（2015）・28（2016）・29（2017）年に当センターが刊行した『調査年報27・28・29』に報告した内容よりも、本報告書記載の内容が優先する。
3. 本書の執筆は、愛場和人・末光正卓・奥山さとみが分担し、文責は各項目の末尾に括弧で示した。編集は末光が行った。
4. 写真撮影は、平成27年度の現場写真は第1調査部第1調査課 吉田裕吏洋が撮影し、平成26・28年度は各担当者が撮影した。報告書掲載遺物の撮影は、第1調査部第1調査課 中山昭大が行った。
5. 調査・報告にあたり、下記の諸機関及び各氏から御指導・御協力をいただいた（順不同・敬称略）。

北海道教育庁生涯学習推進局 文化財・博物館課 厚真町教育委員会  
千歳市教育委員会埋蔵文化財センター 恵庭市郷土資料館 苫小牧市博物館  
株式会社シン技術コンサル

厚真町教育委員会

乾 哲也・奈良智法・宮塚義人・宮崎美奈子・服部一雄・松井 昭・山戸大知・岩橋由久  
様似町教育委員会

児玉正敏 高橋美鈴

余市町教育委員会

中塚風沙

株式会社シン技術コンサル

清水昌樹

## 記号等の説明

1. 確認した遺構は下記の略号を用い、連番を付し本文及び図表中に用いた。

種別

H：堅穴住居跡    P：土坑 柱穴・杭穴    TP：Tピット  
F：焼土            SF：石組炉            PS：土器集中    FC：フレイク集中  
S：礫集中            C：炭化物集中

・付属遺構は小文字で表記した。

p h：遺構内の柱穴・杭穴

2. 遺構図面等の縮尺

堅穴住居跡：40分の1    土坑 柱穴・杭穴：40分の1    Tピット：40分の1  
焼土：40分の1            石組炉：40分の1  
土器集中：20分の1        フレイク集中：40分の1        礫集中：40分の1  
炭化物集中：40分の1      骨片集中：40分の1  
遺物出土状況：20分の1    大型の遺構・地形測量図・遺構位置図：任意

各図に、スケールと方位記号（座標北）を付した。遺構平面図の「+（十字）と記号」はグリッド名で、遺構平面図等の「・（ドット）と数値」は、その地点の標高（m）を表す。

3. 遺物図の縮尺は次のとおりでスケールを付した。

復原土器：4分の1    拓本土器：3分の1  
剥片石器：2分の1    礫石器：3分の1（大型のものは4分の1）    石製品：2分の1

4. 本文及び図表中で遺構の規模は次の要領で示した。また、一部破壊されているもの等は現存する計測値を（丸括弧）で示した。

掘り込みのある遺構：

確認面の長径×短径 / 床面・坑底面の長径×短径 / 確認面からの最大深（m）

平面的な遺構：範囲の長径×短径 / 確認面からの最大深（m）

柱穴・杭穴：確認面の長径×底面の長径 / 確認面からの最大深（m）

# 目次

カラー図版	
例言	
記号等の説明	
目次	
図目次	
表目次	
写真図版目次	

## I章 緒言

1. 調査要項	1
2. 調査体制	1
3. 調査の経緯	1
(1) 厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査	
(2) オニキシベ3遺跡の調査	
4. 調査成果の概要	4

## II章 遺跡の立地と周辺の環境

1. 立地と環境	9
2. 地名「幌内」	9
3. 「オニキシベ」の由来	10
4. 名称「オニキシベ 鬼岸辺」	10
(1) 鬼岸辺川流域の現況	
(2) 「オニキシベ 鬼岸辺」の表記	
5. 調査区の現況	16
6. 周辺の遺跡	17

## III章 調査の概要

1. 発掘区の設定	25
(1) 工事図面	
(2) グリッドの設定と調査杭の打設	
2. 基本土層	25
3. 調査の方法	32
4. 整理の方法	34
(1) 一次整理の方法	
(2) 二次整理の方法	
5. 遺物の分類基準	34

## IV章 遺構

1. 概要	39
2. 堅穴住居跡	39
H-1 H-2 H-3 H-4 H-5 H-6・掘り上げ土 H-7 H-8 H-9 H-10・掘り上げ土 H-11 H-12	
H-13・掘り上げ土 H-14・掘り上げ土 H-15・掘り上げ土 H-16 H-17 H-18 H-19 H-20	

3. 土境	98
P-1 P-2 P-3 P-4 P-5 P-6 P-7 P-8 P-9 P-10 P-11 P-12 P-13 P-14 P-15 P-16 P-17 P-18 P-19 P-20 P-21 P-22 P-23 P-24 P-25 P-26 P-27 P-28 P-29 P-30 P-31 P-32 P-33 P-34 P-35 P-36 P-37 P-38 P-39	
4. Tピット	128
TP-1 TP-2 TP-3 TP-4	
5. 焼土	130
F-1 F-2 F-3 F-4 F-5 F-6 F-7 F-8 F-9 F-10 F-11 F-12 F-13 F-14 F-15 F-16	
6. 石組炉	138
SF-1 SF-2 SF-3 SF-4 SF-5 SF-6 SF-7 SF-8 SF-9 SF-10 SF-11 SF-12	
7. 土器集中	148
PS-1 PS-2 PS-3 PS-4 PS-5 PS-6 PS-7 PS-8 PS-9 PS-10	
8. フレイク集中	152
FC-1 FC-2 FC-3 FC-4	
9. 礫集中	154
S-1 S-2	
10. 骨片集中	154
B-1 B-2 B-3	
11. 炭化物集中	156
C-1 C-2 C-3 C-4	

## V章 遺構・包含層の出土遺物

1. 概要	167
2. 土器	185
(1) 復原土器	
(2) 破片土器	
3. 石器等	209
(1) 遺構出土の石器等	
(2) 包含層出土の石器等	

## VI章 まとめ

1. 自然科学的分析結果について	287
2. 遺構について	287
3. 遺物について	288
4. 調査範囲と等高線について	290

## 付篇 自然科学的手法による分析

1. 平成27(2015)年度 オニキシベ3遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)	295
2. 平成28(2016)年度 オニキシベ3遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)	303

## 写真図版

## 引用参考文献

## 報告書抄録

# 目 次

図1	遺跡位置図(1).....	3	図49	H-16(1).....	88
図2	遺跡位置図(2).....	5	図50	H-16(2).....	89
図3	遺構位置図 VI・Ⅷ層上面地形測量図.....	6	図51	H-17.....	90
図4	遺跡周辺の地形(平成).....	11	図52	H-18.....	92
図5	遺跡周辺の地形(大正).....	12	図53	H-19(1).....	93
図6	遺跡周辺の地形(昭和).....	13	図54	H-19(2).....	94
図7	周辺の地形(現況図).....	14	図55	H-20(1).....	96
図8	遺跡周辺の地形(等高線図).....	15	図56	H-20(2).....	97
図9	周辺の遺跡.....	19	図57	P-1・P-2.....	99
図10	グリッド設定図.....	27	図58	P-3・P-4.....	101
図11	基本土層.....	29	図59	P-5・P-6.....	102
図12	Sd2層土層断面.....	31	図60	P-7・P-8.....	103
図13	焼骨出土グリッド VI・Ⅷ層上面地形測量図.....	33	図61	P-9・P-10.....	105
図14	遺構位置図・V層上面地形測量図.....	40	図62	P-11・P-12.....	107
図15	H-1(1).....	41	図63	P-13・P-14.....	108
図16	H-1(2).....	42	図64	P-15・P-16.....	109
図17	H-2(1).....	43	図65	P-17・P-18.....	111
図18	H-2(2).....	44	図66	P-19・P-20.....	113
図19	H-2(3).....	45	図67	P-21・P-22.....	114
図20	H-3(1).....	47	図68	P-23・P-24.....	115
図21	H-3(2).....	48	図69	P-25・P-26.....	117
図22	H-3(3).....	49	図70	P-27・P-28.....	119
図23	H-4(1).....	52	図71	P-29・P-30.....	120
図24	H-4(2).....	53	図72	P-31・P-32.....	121
図25	H-4(3).....	54	図73	P-33・P-34.....	123
図26	H-5.....	56	図74	P-35・P-36・P-37.....	125
図27	H-6(1).....	58	図75	P-38・P-39.....	126
図28	H-6(2).....	59	図76	TP-1・TP-2.....	127
図29	H-6(3).....	60	図77	TP-3・TP-4.....	129
図30	H-6(4).....	61	図78	F-1・F-2・F-4.....	131
図31	H-6(5).....	62	図79	F-3・F-5・F-6・B-1.....	133
図32	H-7.....	63	図80	F-7・F-8・F-9・F-10・F-11.....	135
図33	H-8(1).....	65	図81	F-12・F-13・F-14・F-15・F-16.....	136
図34	H-8(2).....	66	図82	SF-1・SF-2.....	137
図35	H-8(3).....	67	図83	SF-3・SF-4.....	139
図36	H-9.....	69	図84	SF-5・SF-6.....	141
図37	H-10(1).....	71	図85	SF-7・SF-8.....	143
図38	H-10(2).....	72	図86	SF-9・SF-10.....	145
図39	H-10(3).....	73	図87	SF-11・SF-12.....	146
図40	H-11.....	75	図88	PS-1・PS-2.....	147
図41	H-12.....	77	図89	PS-3・PS-4.....	149
図42	H-13(1).....	78	図90	PS-5・PS-6.....	150
図43	H-13(2).....	79	図91	PS-7・PS-8.....	151
図44	H-14・H-15(1).....	81	図92	PS-9・PS-10.....	153
図45	H-14・H-15(2).....	83	図93	FC-1・FC-2・FC-3・FC-4・S-1.....	155
図46	H-14・H-15(3).....	84			
図47	H-14・H-15(4).....	85	図94	S-2・B-2・B-3.....	157
図48	H-14・H-15(5).....	86	図95	C-1・C-2・C-3・C-4.....	158

図96	遺物出土分布図(1)	168
図97	遺物出土分布図(2)	169
図98	遺物出土分布図(3)	170
図99	遺物出土分布図(4)	171
図100	遺物出土分布図(5)	172
図101	遺物出土分布図(6)	173
図102	遺物出土分布図(7)	174
図103	遺物出土分布図(8)	175
図104	遺物出土分布図(9)	176
図105	遺物出土分布図(10)	177
図106	遺物出土分布図(11)	178
図107	遺物出土分布図(12)	179
図108	遺物出土分布図(13)	180
図109	遺物出土分布図(14)	181
図110	遺物出土分布図(15)	182
図111	遺物出土分布図(16)	183
図112	遺物出土分布図(17)	184
図113	遺構出土の復原土器(1)	186
図114	遺構出土の復原土器(2)	187
図115	遺構出土の復原土器(3)	188
図116	遺構出土の復原土器(4)	
	A・B地区 包含層出土の復原土器(1)	190
図117	A・B地区 包含層出土の復原土器(2)	191
図118	A・B地区 包含層出土の復原土器(3)	
	石製品	192
図119	C地区 包含層出土の復原土器	194
図120	遺構出土の破片土器(1)	194
図121	遺構出土の破片土器(2)	196
図122	遺構出土の破片土器(3)	197
図123	遺構出土の破片土器(4)	198
図124	A・B地区 包含層出土の破片土器(1)	199
図125	A・B地区 包含層出土の破片土器(2)	200
図126	A・B地区 包含層出土の破片土器(3)	202

図127	A・B地区 包含層出土の破片土器(4)	203
図128	A・B地区 包含層出土の破片土器(5)	204
図129	A・B地区 包含層出土の破片土器(6)	205
図130	A・B地区 包含層出土の破片土器(7)	206
図131	A・B地区 包含層出土の破片土器(8)	207
図132	C地区 包含層出土の破片土器	208
図133	遺構出土の剥片石器(1)	210
図134	遺構出土の剥片石器(2)	211
図135	遺構出土の剥片石器(3)・礫石器(1)	212
図136	遺構出土の礫石器(2)	214
図137	遺構出土の礫石器(3)	215
図138	遺構出土の礫石器(4)	216
図139	遺構出土の礫石器(5)	217
図140	遺構出土の礫石器(6)	219
図141	遺構出土の礫石器(7)	220
図142	遺構出土の礫石器(8)	221
図143	遺構出土の礫石器(9)	222
図144	遺構出土の礫石器(10)	223
図145	遺構出土の礫石器(11)	224
図146	遺構出土の石製品(1)	225
図147	遺構出土の石製品(2)	226
図148	A・B地区 包含層出土の剥片石器	228
図149	A・B地区 包含層出土の礫石器(1)	229
図150	A・B地区 包含層出土の 礫石器(2)・石製品(1)	230
図151	A・B地区 包含層出土の 礫石器(3)・石製品(2)	231
図152	C地区 包含層出土の 剥片石器・礫石器(1)	233
図153	C地区 包含層出土の礫石器(2)	234
図154	C地区 包含層出土の礫石器(3)	235
図155	C地区 包含層出土の礫石器(4)	236
図156	C地区 包含層出土の礫石器(5)・石製品	237

## 表 目 次

表1	遺構数一覧表	7
表2	遺物点数一覧表	7
表3	周辺の遺跡一覧表	22・23
表4	測量基準点一覧表	26
表5	基本土層観察表	30
表6	土器時期分類基準	35
表7	土器部位分類基準	35
表8	土器残存状態分類基準	35
表9	石器等器種分類基準	36
表10	石器等残存状態分類基準	36
表11	岩石分類体系表	37・38
表12	岩石(石材)の略号	38

表13	竪穴住居跡一覧表	160
表14	竪穴住居跡 付属遺構一覧表	161・162
表15	土坑一覧表	163
表16	Tピット一覧表	164
表17	Tピット 付属遺構一覧表	164
表18	焼土一覧表	164
表19	石組炉一覧表	165
表20	石組炉 付属遺構一覧表	164
表21	遺物集中一覧表	165
表22	竪穴住居跡出土土器点数表	238
表23	土坑・Tピット出土土器点数表	239
表24	焼土・石組炉出土土器点数表	239

表25	遺物集中出土土器点数表	240	表51	P S - 6 出土復原土器観察表	260
表26	竪穴住居跡出土剥片石器点数表	241	表52	P S - 7 出土復原土器観察表	260
表27	土坑・Tピット出土剥片石器点数表	242	表53	P S - 8 出土復原土器観察表	260
表28	焼土・石組炉出土剥片石器点数表	242	表54	P S - 9 出土復原土器観察表	261
表29	遺物集中出土剥片石器点数表	242	表55	P S - 10 出土復原土器観察表	261
表30	竪穴住居跡出土 礫石器 ・石製品・レキ点数表	243~245	表56	I - 46区出土復原土器観察表	262
表31	土坑・Tピット出土 礫石器 ・石製品・レキ点数表	246・247	表57	S - 16区出土復原土器観察表	262
表32	焼土・石組炉出土 礫石器 ・石製品・レキ点数表	247・248	表58	F - 44区出土復原土器観察表	262
表33	遺物集中出土 礫石器 ・石製品・レキ点数表	249	表59	E - 47区出土復原土器観察表	263
表34	包含層出土土器点数表	250	表60	E - 43区出土復原土器観察表	263
表35	包含層出土剥片石器点数表	251	表61	T - 16区出土復原土器観察表	263
表36	包含層出土 礫石器 ・石製品・レキ点数表	252・253	表62	c - 22区出土復原土器観察表	264
表37	フローテーション法回収遺物一覧表	254	表63	g - 17区出土復原土器観察表	264
表38	自然遺物(手取り)出土一覧表	255	表64	U - 16区出土復原土器観察表	264
表39	H - 2 出土復原土器観察表	256	表65	c - 19区出土復原土器観察表	265
表40	H - 3 出土復原土器観察表	256	表66	d - 14区出土復原土器観察表	265
表41	H - 4・h p s - 1 出土復原土器観察表(1)	256	表67	T - 16区出土復原土器観察表	265
表42	H - 4・h p s - 1 出土復原土器観察表(2)	257	表68	Y - 16区出土復原土器観察表	266
表43	H - 4・h p s - 1 出土復原土器観察表(3)	257	表69	d - 12区出土復原土器観察表	266
表44	H - 8 出土復原土器観察表(1)	257	表70	W - 30区出土復原土器観察表	266
表45	H - 8 出土復原土器観察表(2)	258	表71	M - 42区出土復原土器観察表	267
表46	H - 15・h f - 1 H - 14出土 復原土器観察表	258	表72	a - 19区出土復原土器観察表	267
表47	P S - 1 出土復原土器観察表	258	表73	Y - 23区出土復原土器観察表	267
表48	P S - 2 出土復原土器観察表	259	表74	Z - 13区出土復原土器観察表	267
表49	H - 3 A・P S - 4 出土復原土器観察表	259	表75	h - 18区出土復原土器観察表	268
表50	P S - 5 出土復原土器観察表	259	表76	p - 7 区出土復原土器観察表	268
			表77	遺構出土破片土器観察表	269~272
			表78	A・B地区 包含層出土 破片土器観察表	273~279
			表79	C地区 包含層出土破片土器観察表	280
			表80	遺構出土土器等観察表	281~283
			表81	A・B地区 包含層出土 土器等観察表	284・285
			表82	C地区 包含層出土土器等観察表	285
			表83	放射性炭素年代測定結果一覧表	292



# 写真図版目次

## カラー図版

### カラー図版1

- 遺跡遠景 空中写真1 (北西から)
- 遺跡俯瞰 空中写真2 (南東から)

### カラー図版2

- H-10完掘状況(南から)
- H-4 遺物出土状況(南西から)
- H-4・h s-1 確認状況(北西から)
- H-14(左)・15(右)完掘状況(北西から)
- H-15・h f-1 確認状況(南から)

## モノクロ図版

### 図版1 A地区 V層上面の状況(北西から)

- 基本土層Y~Z-9 (西から)
- S d 2層確認状況(南東から)
- C地区 東側調査完了状況(北西から)
- B地区 西側調査完了状況(南東から)

### 図版2

- H-1 土層断面(南東から)
- H-1 遺物出土状況(南から)
- H-1・p h-1 土層断面(南東から)
- H-1・h p-3 完掘状況(南から)
- H-1 完掘状況(南から)

### 図版3

- H-2 土層断面(南東から)
- H-2・h s-1 確認状況(西から)
- H-2・p h-1 土層断面(西から)
- H-2・p h-2 完掘状況(南西から)
- H-2・p h-4 土層断面(東から)
- H-2 完掘状況(北西から)

### 図版4

- H-3 遺物出土状況(北東から)
- H-3・h f-1 土層断面(南西から)
- H-3・h p-1 土層断面(北東から)
- H-3・p h-1 土層断面(南から)
- H-3 完掘状況(北東から)

### 図版5

- H-3 A 土層断面(東から)
- H-3 A・h s-1 完掘状況(北西から)
- H-3 A・h p-1 完掘状況(北西から)
- H-3 A・p h-1 土層断面(西から)
- H-3 A 完掘状況(北東から)

### 図版6

- H-4 土層断面(南東から)
- H-4・h p s-1 土器出土状況(北東から)
- H-4 遺物出土状況(南西から)
- H-4・h s-1 土層断面(北東から)
- H-4・h p-1 土層断面(東から)

### 図版7

- H-5 土層断面1(南東から)
- H-5 土層断面2(南東から)
- H-5 完掘状況(南西から)
- H-5・h f-1(左)・2(右)  
土層断面(南東から)
- H-5・p h-2 土層断面(北東から)

### 図版8 H-6 土層断面1(西から)

- H-6 土層断面2(南から)
- H-6 掘り上げ土層断面(断面図 t)(西から)
- H-6・p h-3 土層断面(北西から)
- H-6・p h-7 土層断面(北東から)
- H-6 完掘状況(北西から)

### 図版9

- H-7 土層断面1(南から)
- H-7 土層断面2(東から)
- H-7 遺物出土状況(南から)
- H-7・h f-1 土層断面(北から)
- H-7 完掘状況(南から)

### 図版10

- H-8 土層断面(南から)
- H-8 遺物出土状況(南西から)
- H-8・p h-2 土層断面(南から)
- H-8・p h-3 土層断面(南から)
- H-8 完掘状況(西から)

### 図版11

- H-9 土層断面(西から)
- H-9・h f-1 土層断面(南東から)
- H-9 遺物出土状況(南西から)
- H-9 完掘状況(北西から)

### 図版12

- H-10掘り上げ土層確認状況(南西から)
- H-10調査状況(南東から)
- H-10土層断面1(南から)
- H-10土層断面2(南西から)
- H-10遺物出土状況(南から)

### 図版13

- H-10・p h-4 土層断面(南東から)
- H-10・p h-14 土層断面(西から)
- H-10・p h-24 土層断面(西から)
- H-10・h f-2 確認状況(南西から)
- H-10掘り上げ土層断面  
(断面図 j)(南西から)

- H-10完掘状況(南から)

### 図版14

- H-11土層断面(南から)
- H-11・h p-1 土層断面(南西から)
- H-11完掘状況(北から)
- H-12土層断面(南東から)
- H-12完掘状況(南東から)

### 図版15

- H-13土層断面1(南西から)
- H-13土層断面2(北西から)
- H-13遺物出土状況(南東から)
- H-13掘り上げ土層確認状況(北東から)
- H-13完掘状況(南東から)

### 図版16

- H-14土層断面(南西から)
- H-14・h p-1 土層断面(南西から)
- H-14・h p-2 遺物出土状況(南西から)
- H-14・p h-1(左)・2(右)土層断面  
(西から)
- H-14遺物出土状況(西から)

図版17	H-15土層断面(南西から) H-15・h f-1土層断面(南から) H-15・h p-2(手前)・3(壁際)・4(中央) 完掘状況(東から) H-15・p h-5土層断面(南から) H-15・p h-6土層断面(西から) H-15・p h-7土層断面(南から) H-15・h c-1雜土状況(南から)	P-11土層断面(南東から) P-11完掘状況(南東から) P-12土層断面(南東から) P-12遺物出土状況(東から)	図版26	P-13土層断面(南西から) P-13完掘状況(西から) P-14土層断面(南から) P-14完掘状況(南西から) P-15土層断面(北西から) P-15完掘状況(南西から) P-16土層断面(東から) P-16完掘状況(西から)
図版18	H-14(奥)・15(手前)遺物出土状況(南西から) H-14(左)・15(右)完掘状況(北西から)	P-15土層断面(北西から) P-15完掘状況(南西から)	図版27	P-17土層断面(南西から) P-17遺物出土状況(東から) P-18土層断面(南西から) P-18完掘状況(南から) P-19土層断面(西から) P-19完掘状況(南から) P-20土層断面(西から) P-20完掘状況(南西から)
図版19	H-16土層断面1(南から) H-16土層断面2(西から) H-16・h f-1土層断面(南から) H-16・h p-1土層断面(西から) H-16完掘状況(南から)	P-16土層断面(東から) P-16完掘状況(西から)	図版28	P-21土層断面(北から) P-21完掘状況(北西から) P-22土層断面(西から) P-22完掘状況(北東から) P-23土層断面(南東から) P-23遺物出土状況(東から) P-24土層断面(南から) P-24遺物出土状況(北から)
図版20	H-17土層断面(南から) H-17・h f-1土層断面(南から) H-17・h p-1土層断面(南西から) H-17完掘状況(南から) H-18土層断面1(東から) H-18土層断面2(南から) H-18遺物出土状況(北から) H-18完掘状況(北から)	P-18完掘状況(南から) P-19土層断面(西から) P-19完掘状況(南から) P-20土層断面(西から) P-20完掘状況(南西から)	図版29	P-25土層断面(西から) P-25完掘状況(北から) P-26土層断面(東から) P-26遺物出土状況(西から) P-27土層断面(南から) P-27完掘状況(南東から) P-28土層断面(南西から) P-28完掘状況(南西から)
図版21	H-19土層断面(南西から) H-19・h f-1土層断面(南西から) H-19・h p-1土層断面(南西から) H-19完掘状況(南西から)	P-22完掘状況(北東から) P-23土層断面(南東から) P-23遺物出土状況(東から) P-24土層断面(南から) P-24遺物出土状況(北から)	図版30	P-29土層断面(西から) P-29遺物出土状況(北西から) P-30土層断面(東から) P-30遺物出土状況(北東から) P-31土層断面(南から) P-31遺物出土状況(北から) P-32土層断面(西から) P-32遺物出土状況(西から)
図版22	H-20土層断面(南東から) H-20遺物出土状況(北から) H-20・h p-1土層断面(南東から) H-20・h p-2土層断面(南東から) H-20完掘状況(北から)	P-25土層断面(西から) P-25完掘状況(北から) P-26土層断面(東から) P-26遺物出土状況(西から) P-27土層断面(南から) P-27完掘状況(南東から) P-28土層断面(南西から) P-28完掘状況(南西から)	図版31	P-33土層断面(南西から) P-33完掘状況(北から) P-34土層断面(南から) P-34完掘状況(南から) P-35土層断面(南西から) P-35遺物出土状況(西から) P-36土層断面(北東から) P-36遺物出土状況(北から)
図版23	P-1土層断面(北東から) P-1遺物出土状況(南東から) P-2土層断面(南東から) P-2遺物出土状況(南東から) P-3土層断面(南から) P-3遺物出土状況(南西から) P-4土層断面(北西から) P-4完掘状況(南西から)	P-27土層断面(南から) P-27完掘状況(南東から) P-28土層断面(南西から) P-28完掘状況(南西から)	図版32	P-37土層断面(南西から) P-37完掘状況(北から) P-38土層断面(南から) P-38完掘状況(南から) P-39土層断面(南西から) P-39遺物出土状況(西から)
図版24	P-5土層断面(東から) P-5完掘状況(東から) P-6土層断面(西から) P-6完掘状況(南から) P-7土層断面(南東から) P-7遺物出土状況(南から) P-8土層断面(南東から) P-8完掘状況(南東から)	P-39土層断面(南西から) P-39遺物出土状況(西から) P-40土層断面(東から) P-40遺物出土状況(北東から) P-41土層断面(南から) P-41完掘状況(南から) P-42土層断面(南西から) P-42遺物出土状況(西から)	図版33	P-43土層断面(南西から) P-43完掘状況(北から) P-44土層断面(南から) P-44完掘状況(南から) P-45土層断面(南西から) P-45遺物出土状況(西から) P-46土層断面(北東から) P-46遺物出土状況(北から)
図版25	P-9土層断面(東から) P-9完掘状況(北東から) P-10土層断面(北から) P-10遺物出土状況(東から)	P-43土層断面(南西から) P-43完掘状況(北から) P-44土層断面(南から) P-44完掘状況(南から) P-45土層断面(南西から) P-45遺物出土状況(西から) P-46土層断面(北東から) P-46遺物出土状況(北から)	図版34	P-47土層断面(南西から) P-47完掘状況(北から) P-48土層断面(南から) P-48完掘状況(南から) P-49土層断面(南西から) P-49遺物出土状況(西から) P-50土層断面(北東から) P-50遺物出土状況(北から)

- 図版32 P-37土層断面(南東から)  
P-37完掘状況(南東から)  
P-38土層断面(南西から)  
P-38遺物出土状況(南東から)  
P-39土層断面(南東から)  
P-39遺物出土状況(南東から)  
T P-1土層断面(東から)  
T P-1完掘状況(東から)
- 図版33 T P-2土層断面(南東から)  
T P-2完掘状況(南東から)  
T P-3土層断面(南西から)  
T P-3完掘状況(南から)  
T P-4土層断面(南西から)  
T P-4完掘状況(南西から)  
F-1土層断面(南から)  
F-2土層断面(東から)
- 図版34 F-3土層断面(東から)  
F-4土層断面(南から)  
F-5土層断面(東から)  
F-6土層断面(南から)  
F-7土層断面(西から)  
F-8土層断面(南東から)  
F-9土層断面(北西から)  
F-10土層断面(南から)
- 図版35 F-11土層断面(南から)  
F-12土層断面(南西から)  
F-13(奥)・14(手前)(南西から)  
F-15土層断面(西から)  
F-16土層断面(南西から)  
S F-1土層断面(東から)  
S F-1・s f p h-1土層断面(北西から)  
S F-2(北西から)
- 図版36 S F-2・s f p h-1土層断面(西から)  
S F-3(北東から)  
S F-4(東から)  
S F-5土層断面(南から)  
S F-6土層断面(南西から)  
S F-7土層断面(南から)  
S F-8(南西から)  
S F-9(南から)
- 図版37 S F-10土層断面(東から)  
S F-11(下部)(北西から)  
S F-12(西から)  
P S-1(北東から)  
P S-2(南から)  
P S-3(東から)  
P S-4(南から)  
P S-5(西から)
- 図版38 P S-6 A(上部)(南東から)  
P S-6 B(下部)(北から)  
P S-7(北西から)  
P S-8(北東から)  
P S-9(西から)  
P S-10(南西から)  
F C-1(左奥)・2(右中央)・3(右手前)・  
S-1(左中央)確認状況(西から)  
F C-4調査状況(東から)
- 図版39 S-1(西から)  
S-2(東から)  
C-1(北東から)  
C-2(南から)  
C-3(東から)  
C-4(南から)  
B-1(北から)  
B-2(東から)  
B-3土層断面(南から)
- 図版40 復原土器(1)  
図版41 復原土器(2)  
図版42 復原土器(3)  
図版43 復原土器(4)  
図版44 復原土器(5)  
図版45 復原土器(6)  
図版46 復原土器(7)・石製品  
図版47 復原土器(8)・破片土器(1)  
図版48 破片土器(2)  
図版49 破片土器(3)  
図版50 破片土器(4)  
図版51 破片土器(5)  
図版52 破片土器(6)  
図版53 破片土器(7)  
図版54 石器等(1)  
図版55 石器等(2)  
図版56 石器等(3)  
図版57 石器等(4)  
図版58 石器等(5)  
図版59 石器等(6)  
図版60 石器等(7)  
図版61 石器等(8)  
図版62 石器等(9)  
図版63 石器等(10)  
図版64 石器等(11)  
図版65 石器等(12)  
図版66 石器等(13)  
図版67 石器等(14)

# I 章 緒 言

## 1. 調査要項

遺 跡 名：オニキシベ3 遺跡（J-13-78）

事 業 名：厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：北海道胆振総合振興局 室蘭建設管理部

所 在 地：勇払郡厚真町字幌内445-1、438-19ほか

調査面積：26,030㎡ 平成26年度：15,020㎡（うち遺構確認調査：9,560㎡）

平成27年度：4,630㎡ 平成28年度：6,380㎡

調査期間：平成26年4月1日～平成27年3月31日（現地調査 平成26年5月12日～10月31日）

平成27年4月1日～平成28年3月31日（現地調査 平成27年5月12日～10月30日）

平成28年4月1日～平成29年3月31日（現地調査 平成28年5月12日～10月28日）

## 2. 調査体制

### 平成26（2014）年度

第1調査部長 千葉英一（常務理事兼務）

第2調査部長 三浦正人

第2調査部第3調査課長 村田 大

主 査 末光正卓（発掘担当者）

主 任 佐川俊一（発掘担当者）

嘱 託 奥山さとみ

### 平成27（2015）年度

第1調査部長 長沼 孝（平成27年6月より常務理事兼務）

第2調査部長 三浦正人

第2調査部第2調査課長 笠原 興

主 査 愛場和人（発掘担当者）

主 査 末光正卓（発掘担当者）

嘱 託 奥山さとみ（発掘担当者）

第1調査部第1調査課

主 査 吉田裕史洋

### 平成28（2016）年度

第1調査部長 長沼 孝（常務理事兼務）

第2調査部長 三浦正人

第2調査部第1調査課長 鎌田 望（発掘担当者）

主 査 愛場和人（発掘担当者）

主 査 末光正卓（発掘担当者）

主 査 佐藤 剛（発掘担当者）

主 任 熊谷仁志（発掘担当者）

### 平成29（2017）年度（整理作業）

第1調査部長 長沼 孝（常務理事兼務）

第2調査部長 鈴木 信

第2調査部第1調査課長 鎌田 望

主 査 愛場和人

主 査 末光正卓

## 3. 調査の経緯

(1) 厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査（図1・2）

厚真川総合開発事業の一つである「厚幌ダム建設事業」は、治水（洪水調節）、流水の正常な機能の維持（河川環境の保全）、水道及び灌漑用水の確保といった複数の機能を持つ多目的ダムを、勇払郡厚真町を流れる二級河川厚真川の上流部に建設するもので、北海道胆振総合振興局 室蘭建設管理部 厚幌ダム建設事務所により行われている。昭和52（1977）年に予備調査、昭和61（1986）年には調査が着手され、平成7（1995）年に「厚真川総合開発事業 厚幌ダム建設工事に関する基本協定」が北海道と厚真町の間で結ばれた。

建設工事の具現化に先立ち、平成12（2000）年7月6日、北海道室蘭土木現業所（当時）厚幌ダム建設事務所（以下、ダム事務所）から、北海道教育委員会（以下、道教委）に埋蔵文化財保護のための事前協議書が提出された。協議区域はダムの湛水地域（洪水時最高水位（サーチャージ水位） 標高88.1m以下）と現道の切り替え部分等を合わせた範囲である。

平成13（2001）年6月に、道教委によりダム堤体の下流部で道道切り替え工事に伴う試掘調査が行われ、厚幌1遺跡が発見された。同年10月には所在調査の結果、協議区域すべてについて試掘調査が必要と回答された。以後、道教委による所在確認調査、試掘調査が継続的に行われ、発掘調査が必要な遺跡は24か所を数え、面積（遺構確認調査範囲を含む）は約20万㎡である。平成13（2001）年、道教委と厚真町教育委員会（以下、町教委）の協議では、当初、発掘調査は町教委で行うことが決められ、平成14（2002）年、町教委により厚幌1遺跡の発掘調査が開始された。以後、町教委が調査した遺跡（登録番号）は、厚幌1遺跡（25）・ヲチャラセナイチャシ跡（100）・ヲチャラセナイ遺跡（101）・上幌内モイ遺跡（79）・上幌内1遺跡（30）・上幌内2遺跡（91）・シヨロマ1遺跡（81）・シヨロマ2遺跡（92）・シヨロマ3遺跡（121）、一里沢遺跡（80）・オニキシベ2遺跡（77）・オニキシベ4遺跡（89）・オニキシベ5遺跡（90）・オニキシベ6遺跡（118）である。平成29（2017）年度4月現在、これらのうち14遺跡、16冊の調査報告書が刊行されている（厚真町教育委員会 2017他）。

ダム建設事業が進捗するに伴い、平成24（2012）年度から当センターも発掘調査を担当し、上幌内3遺跡（123）・上幌内4遺跡（124）・上幌内5遺跡（125）・シヨロマ4遺跡（122）・オニキシベ1遺跡（14）・オニキシベ3遺跡（78）・イクバンドユクチセ2遺跡（119）・イクバンドユクチセ3遺跡（120）を調査した。刊行した報告書は、平成26（2014）年度にオニキシベ1遺跡（北埋調報318）・イクバンドユクチセ2遺跡（北埋調報319）、平成27（2015）年度にシヨロマ4遺跡（北埋調報322）、イクバンドユクチセ3遺跡（北埋調報325）、平成28（2016）年度に上幌内3遺跡（北埋調報335）である。本書は厚幌ダム事業での当センターの7冊目の調査報告書（北埋調報346）で、同年度に上幌内4遺跡・上幌内5遺跡（北埋調報345）も刊行し、本事業の発掘調査と整理作業は平成29（2017）年度をもって完了する。

## （2）オニキシベ3遺跡の調査

平成14（2002）年6月10～14日に道教委による試掘調査が、本遺跡を含む同事業用地内の五つの地点で行われた。本遺跡は現町道の南側部分、地番は幌内445-1・2ほかを調査し、縄文時代後期の遺物が出土した。同年11月18～22日、現町道の北側部分、地番438-13他の試掘調査が行われ、現町道（オニキシベ沢線 地番444）部分を含む調査範囲が確定した。試掘した総面積は37,800㎡で、これらのうち発掘調査が必要とされたのは下位の黒色土層で、北側は通常の発掘調査地区（A・B地区）19,400㎡と、南側は遺構確認調査地区（C地区）9,560㎡、合計28,960㎡である。一回目の試掘調査時に、事業者から調査範囲の北側は水源かん養保安林のため、調査はこれらの指定解除後で、事業の最終年度の子定であったが、平成25（2013）年度からの3か年で調査する仮計画が立てられた。

事業を受託した当センターは、平成24（2012）年度5月～10月、第2調査部第3調査課がオニキ

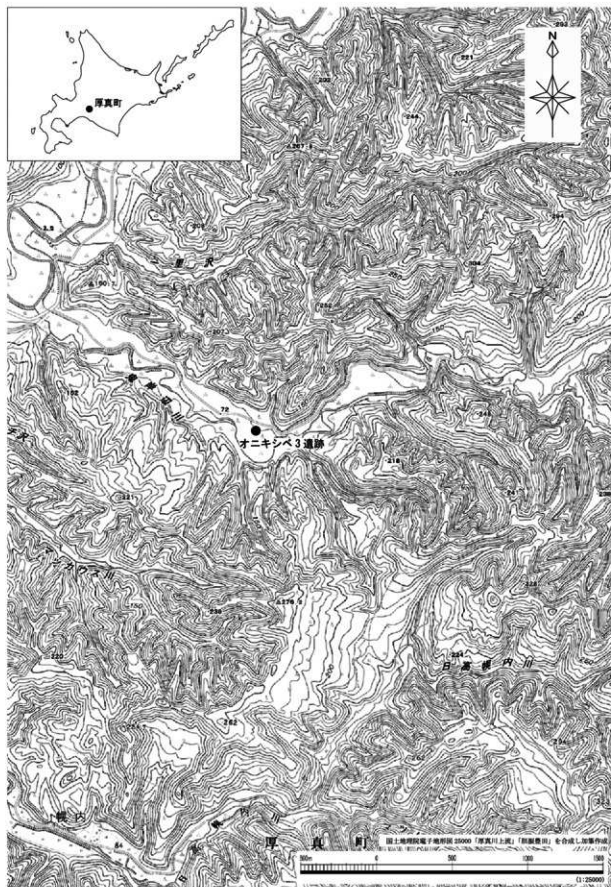


図1 遺跡位置図(1)

シベ1遺跡の調査を開始し、冬期間はオニキシベ3遺跡の準備工を進め、次年度からの調査に備えた。具体的には、4級基準点を設置、発掘調査範囲と立木の伐採範囲を示す杭を現地に打設し、保安林指定区域外の町道南側のB・C地区の伐採工事を行った。しかし、平成25(2014)年度は、上流部の厚真川の切り替え工事に伴いイクバンドユクテセ2・3遺跡の調査を優先することとなり、オニキシベ3遺跡の調査は平成26(2014)年度からの計画となった。

調査範囲について、当初、最高満水位である標高88.1m以下の部分が対象とされたが、常時満水位(平常時最高貯水位)である標高85.4m以上は発掘調査が不要と道教委により判断された。本遺跡ではA地区の北東側がこれに該当し面積3,130㎡を減じ、A地区6,370㎡、B地区9,900㎡、C地区9,560㎡で合計25,830㎡となった。

平成26(2014)年度、本遺跡の調査を開始した。B地区の北側部分5,270㎡と遺構確認調査のC地区の9,560㎡であったが、B地区の南側の崖線が図面と現地地形が異なり、5,460㎡に面積を変更した。翌平成27(2015)年度はB地区の南側部分4,630㎡を調査し、12月には保安林指定が解除され、A地区の伐採に着手し、同時に発掘調査が完了したB地区に現町道を付け替える工事も行われた。平成28(2016)年度は、町道の下位部分と北側のA地区の調査を行った。北西側部分の調査区外に遺構(住居跡 H-20)が広がり拡張したため、調査面積は6,380㎡となった。最終的な面積は、A地区:6,380㎡、B地区10,090㎡、C地区9,560㎡で合計26,030㎡である。

10月に現地調査を終え、当センターが担当する本事業の発掘調査はすべて完了した。報告書作成のための整理作業は、平成26(2014)年11月から開始し、平成29(2017)年度に本報告書(北理調報346)を刊行する。

#### 4. 調査成果の概要 (図3 表1・2)

縄文時代中期後半から後期前半が主であるが、早期・前期・後期末葉～晩期前半の遺物も出土した。

遺構は、竪穴住居跡20軒(H-1~20)、土坑39基(P-1~39)、Tピット4基(TP-1~4)、焼土16か所(F-1~16)、石組炉12か所(SF-1~12)、土器集中10か所(PS-1~10)、フレイク集中4か所(FC-1~4)、礫集中2か所(S-1・2)、炭化物集中4か所(C-1~4)、骨片集中3か所(B-1~3)、掘り上げ土4か所(H-6・10・13・14・15)である。大型の住居跡はH-2・6・10・13・14・15・19で周囲に構築時の掘り上げ土を伴うものが多く、中～小型のものは土坑がみられるものがある。石組炉はH-2・H-3(A)・H-4で、土器囲い炉はH-15である。土坑は、礫石器・レキが比較的多く出土するものと遺物が少ないものがあり、P-5・6はC地区でみつかった。Tピットは楕円形と溝状で数は少ない。焼土はやや被熱による変色が判断しにくく、石組炉は長方形と楕円形のものに分けられる。土器集中はPS-1・8がIV~V群で、これら以外はIV群a類である。フレイク集中はFC-4が広範囲で出土点数が多く、これ以外は少量である。礫集中S-1は凝灰岩、S-2は砂岩が主で、骨片集中はシカの焼骨がまとめてみられた。V層中にもこの骨片はみられ(図13)、炭化物集中とともに周囲と比して、多くみられた範囲を記録した。

出土遺物は、土器53,691点、石器等163,579点である。土器はIV群が多く、ついでI群・III群がある。石器等は、石鏃、石槍・ナイフ、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、磨製石斧、たたき石、すり石、北海道式石冠、石錘、砥石、台石・石皿、石製品がある。石材は、剥片石器は黒曜石、礫石器は脆弱な堆積岩が多く、後者の岩石は遺跡周辺に多くみられるものである。点数はU・Rレキ(加工・使用痕のある礫)やレキ(自然礫)に分類したものが最多で、被熱しているものもみられた。

(末光)

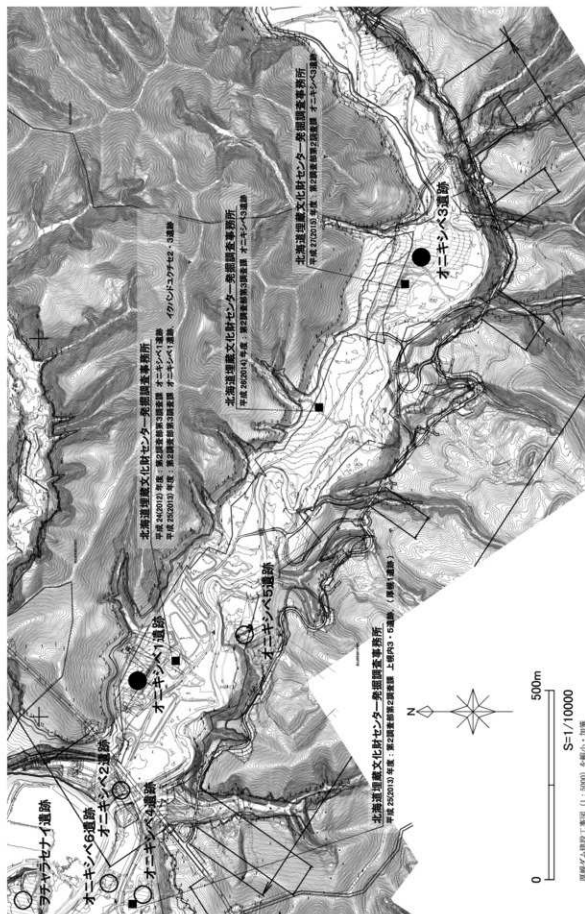


図2 遺跡位置図(2)



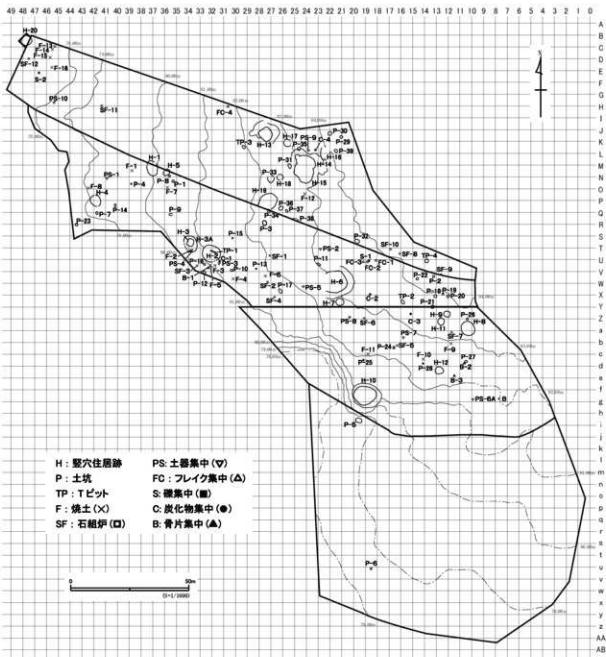


図3 遺構位置図 VII・viii層上面地形測量図

表1 遺構数一覧表

調査年度	平成26(2014)年度			平成27(2015)年度		平成28(2016)年度		合計			
	B地区	C地区	小計	B地区	小計	A地区	小計	A地区	B地区	C地区	遺跡合計
壁穴住居跡 H(軒)	7	—	7	5	5	8	8	8	12	—	20
	H-1~7	—		H-8~12		—		H-13~20	—	H-1~20	
土坑 P(基)	21	2	23	5	5	11	11	11	26	2	39
	P-1~4 ・7~23	P-5・6		P-24~28		—		P-29~39	—	P-1~39	
Tピット T P(基)	2	—	2	0	0	2	2	2	2	—	4
	T P-1・2	—		—		—		T P-3・4	—	T P-1~4	
焼土 F(か所)	8	—	8	3	3	5	5	5	11	—	16
	F-1~8	—		F-9~11		—		F-12~16	—	F-1~16	
石組伊 S F(か所)	4	—	4	3	3	5	5	5	7	—	12
	S F-1~4	—		S F-5~7		—		S F-8~12	—	S F-1~12	
土器集中 P S(か所)	5	—	5	3	3	2	2	2	8	—	10
	P S-1~5	—		P S-6~8		—		P S-9・10	—	P S-1~10	
フレイク集中 F C(か所)	3	—	3	0	0	1	1	1	3	—	4
	F C-1~3	—		—		—		F C-4	—	F C-1~4	
礫集中 S(か所)	1	—	1	0	0	1	1	1	1	—	2
	S-1	—		—		—		S-2	—	S-1・2	
炭化物集中 C(か所)	2	—	2	1	1	1	1	1	3	—	4
	C-1・2	—		C-3		—		C-4	—	C-1~4	
骨片集中 B(か所)	1	—	1	2	2	0	0	0	3	—	3
	B-1	—		B-2・3		—		—	—	B-1~3	
掘り上げ土 (か所)	1	—	1	1	1	2	2	2	2	—	4
	H-6の周囲	—		H-10の周囲		—		H-13 H-14・15の周囲	—	H-6・10・13・14・15の周囲	

表2 遺物点数一覧表

調査年度	地区	土器		石器等		石器等のうち レキ現場観察		合計		備考
		遺構	包含層	遺構	包含層	遺構	包含層	遺構	包含層	
平成26(2014)年度	B地区	3,323	11,329	7,318	54,595	2,209	38,135	10,641	65,924	
		14,652		61,913			40,344	76,565		
	C地区	0	1,954	12	414		152	12	2,368	
		1,954		426			156	2,380		
小計	3,323	13,283	7,330	55,009	2,213	38,287	10,653	68,292		
		16,606		62,339		40,500		78,945		
平成27(2015)年度	B地区	2,191	15,655	750	16,902	132	4,820	2,941	32,557	
		17,846		17,652			4,952	35,498		
平成28(2016)年度	A地区	2,695	18,994	8,463	18,984	1,700	6,539	11,158	37,978	
		21,689		27,447			8,239	49,136		
合計	A地区	2,695	18,994	8,463	18,984	1,700	6,539	11,158	37,978	
		21,689		27,447			8,239	49,136		
	B地区	5,514	26,984	8,068	71,497	2,341	42,955	13,582	98,481	
		32,498		79,565			45,296	112,063		
	C地区	0	1,954	12	414		152	12	2,368	
		1,954		426			156	2,380		
遺跡合計	8,209	47,932	16,543	90,895	4,045	49,648	24,752	138,827		
		56,141		107,438		53,691		163,579		

「レキ現場観察」は、石器等のうち、現地で分類のみをしたもの



## II章 遺跡の立地と周辺の環境

### 1. 立地と環境

厚真町市街地から北東方向へ直線距離で約12km、夕張山地の南西部分(勇払山地とも呼ばれる)の山間部を流れる厚真川の支流、鬼岸辺川の右岸に位置する。川が「U」の字状に大きく南側へ屈曲する付近、曲線的なこの流れの北側に広がる低～高位の段丘上にオニキシベ3遺跡は立地する(図4)。

勇払山地は標高200～300mの急峻な山が多く、頂や山稜、急斜面や崖がみられ、これらを開析するV字谷や急な沢が多い。これらは谷あい流れを集め河川となり、すべて本流である厚真川に流れ込み、地形図に示されていない小さな沢も多い。

遺跡の近くの三角点のある山頂は、北に標高267.5mの四等三角点「一里沢」、南に標高275.9mの四等三角点「鬼岸辺」、北東側には標高252mの頂がある。この山頂近くから南南西方向に延びる深い谷があり、直線的な流れの無名の沢が鬼岸辺川に注いでいる。この谷沿いに尾根が続き遺跡に最も近い最高標高は190mである。南側は三角点「鬼岸辺」から比較的緩やかな斜面が標高100m付近まで続き、そこからは鬼岸辺川を見下ろす崖である。この山頂部の北から東、南側は等高線の間隔が広く緩やかな傾斜である。また、東側には標高218mの頂と南東方向から流れ込む二又の無名の沢がある。

鬼岸辺川は流域延長9km、流域面積14.9km<sup>2</sup>の普通河川で(厚真町 1986)、むかわ町との行政区近く標高344mの山頂部の南側に源流部を持つ。上流部の支流は多く広範囲にみられ、これらの多くが無名である。名称が付された流れは、行政区上に位置する標高281mと352mから流れる「フキノ沢」が左岸に、三等三角点「一里沢奥」から流れ込む「冷水ノ沢」が右岸に、それぞれ流れ込む。そのやや下流には、標高289mの頂部をもつ尾根をはさみ二等三角点「幌内」(標高378.2m)近くに源流部をもつ「金本ノ沢」が左岸に流れ込み、本流は下流の「冷水橋」まで蛇行する。先に述べた右岸の「冷水ノ沢」からこの橋までの両岸の山は、北側が緩やかで南側が急である。「金本ノ沢」との合流地点付近からの下流部は河川敷地が広くなり、オニキシベ3遺跡が位置する地点で最大幅となる。遺跡から下流の両岸は、右岸の北側には標高252m、標高207m、三角点「天神山」が続き、左岸の南側は三角点「鬼岸辺」、標高221m、標高162mを望む。

厚真川上流域に立地する遺跡は山の裾部の河岸段丘上に多く、山体からの崩落物に加え、河川運搬物や樽前山の火山噴出物が堆積し現地形を形成している。勇払山地の山体を構成する岩石は、砂岩・凝灰岩等の軟質な堆積岩が主で、この地域の遺跡ではこれらを用いた礫石器や礫が多数出土する。

### 2. 地名「幌内」

オニキシベ3遺跡が位置する場所の現地名は「幌内」である。幌内地区は厚真町内の北東部分に広く、東はむかわ町、北は夕張市との行政区まで、西は高丘地区、南西は富里地区、南は宇隆地区と接する。幌内はアイヌ語の「ポロナイ」に由来し、江戸時代に松浦武四郎が記した『戊午 東部 安都麻志 全』(松浦・秋葉 1985)に「ポロナイ 右の方の小川。此辺に来るや川岸崩平多し」とある。この小川は現在の日高幌内川で、合流地点は「ポロナイ・ブトフ」(幌内太)と呼ばれた(亀井・池田 1978)。この付近から下流部は、シュルク沢川、オコッコ沢川等の河川も合流し厚真川の水量も多くなり、周囲には低位の平坦地が広がり、幌内神社・幌内小学校跡地・集落がある。アイヌ語地名「ポロナイ」の直訳は「大きい沢(川)」であるが、「ポロナイ・ブトフ」すなわち大きな川の合流点が、現在の字「幌内」の由来と考えられる。

昭和32(1957)年の字名地番改正で「メナホロナイ」、「上ホロナイ」、「ホロナイ奥」、「メナ」、「チルコ」(チルク・シュルク)、「ホロナイ」、「幌内」等を漢字表記の「幌内」に統合された。「メナホロナイ」は『厚真村古代史』(厚真村教育委員会・厚真村郷土研究会 1956)に、村内で遺物が出土した地点の字名として記載がある(北理調報318)。幌内市街地より上流の地域は「上幌内(上ホロナイ)」の名称が改正以降も使用され、上幌内ダム(厚真ダムの仮称)や道路上幌内早来停車場線の名称にも使用された。

### 3. 「オニキシベ」の由来

「オニキシベ 鬼岸辺」の由来は、松浦武四郎の『戊午 東部 安都麻志 全』に「ヲニケレベ 右の方向じく小沢也。此川すじ極皮多く有るよし。もって号とかや。此辺え来たりしや両岸嶮々として本川すじは皆赤崩平のみ也。」(松浦・秋葉 1985)とある。解すると「(オニケレベ=)オニキシベ(川の upstream へ向かって)右の方に同様な小川である。この川沿いにはシナの木の新皮が多くあるがため。それゆえそう(オニケレベと)呼ばれる。(厚真川を)この辺り(鬼岸辺川との合流点)まで来ると、兩岸の崖は山々は険しく急で、この川(厚真川)筋は、すべてまさに岩がくずれ、崖だらけである。」である。鬼岸辺川沿いには新皮(コマイ)が採取できるシナノキが多くあり、これが名称の由来と説明されている(『地名対照表』(前掲書)では「ヲニケシベ」)と別の表記もある)。また『厚真村史』では「オニキシベ」と表記され、語源は「オ・ニ・ケ・ウシ・ベ」で、「入口で・木を・削り・つけている・もの」とあり、「この沢の入口に昔シナノキがたくさん生えていて、アイヌはいつもその皮を剥いで繊維をとり、縄にしたり衣料にしたりした」と意味を補って説明されている(厚真村 1956)。

山間部の厚真川上流域には狭い谷を流れる小沢が多いが、鬼岸辺川は川幅が広い支流である。名称に「川」を意味する言葉が含まれていた可能性があり、語尾の「ツ」が脱落したと考えられる。すなわち「ヲニケレベ(ヲニケシベ)」は「ヲ・ニ・ケ・ウシ・ベ(ツ)」で、「川尻(河口)・木・削る・群生する・川」と解され、「河口に削るための木が群生している川」と説明できる。

## 4. 名称「オニキシベ 鬼岸辺」

### (1) 鬼岸辺川流域の現状

鬼岸辺川が厚真川に合流する地点近くには「オニキシベ橋」があり、昭和49(1974)年に鋼橋に架けかえられた。また、厚真川沿いの道路上幌内早来停車場線はこの橋付近まで舗装されている。鬼岸辺川沿いの道は下流部から、町道128「オニキシベ沢線」と北海道が管理する「オニキシベ林道」で、一本道で上流部までつながっている。これらの境界はオニキシベ3遺跡の東側の地点で、林道の始発点には林道名を記した看板があった。この看板から上流へ約1.2kmで「冷水橋」を渡る。その先は道路が荒れているため、通行止めであった(平成28(2016)年現地調べ)。

地形図(図4)では、道路はさらに上流に続き鬼岸辺川やその支流と12回程度と交差し、源流部の手前約1.2km付近まで続き、これから分岐する山道もみられる。本遺跡の東側から鬼岸辺川を渡り、無名の沢の河口を経て標高218m、同241m、同248mの山頂部近くを通り「冷水橋」付近に戻る道もある。この枝道にはさらに南側部分で分かれる道があり、三角点「鬼岸辺」を西側のみて、日高幌内川沿いの道に合流し三角点「幌内」が位置する尾根上に続き、分水嶺を越える道がある。これとは異なるが、かつて本河川沿いには、支流のフキノ沢等を経て、むかわ町のキナウス川に至る山越えの道があったことが知られている(厚真シンポジウム実行委員会・厚真町教育委員会 2015)。



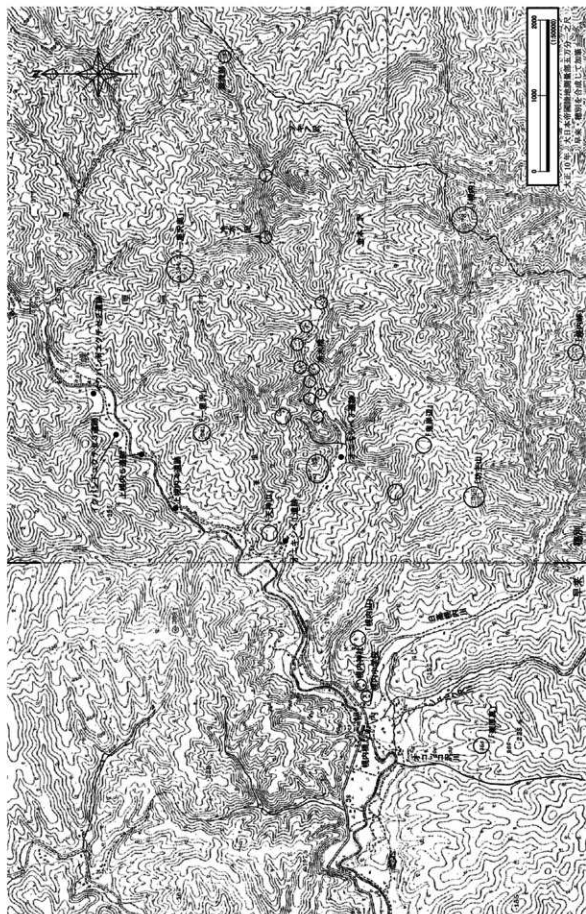


図5 遺跡周辺の地形 (大正)

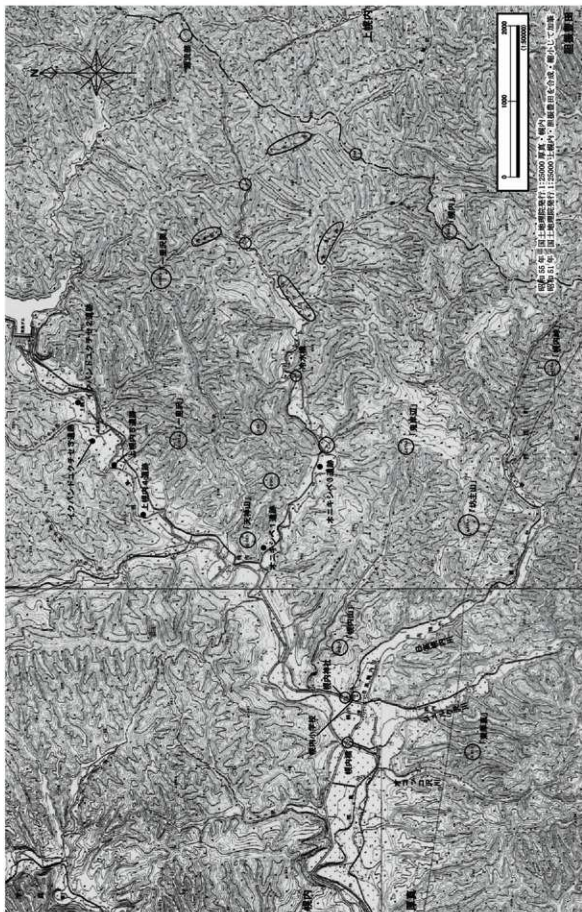


図 6 道跡周辺の地形(昭和)



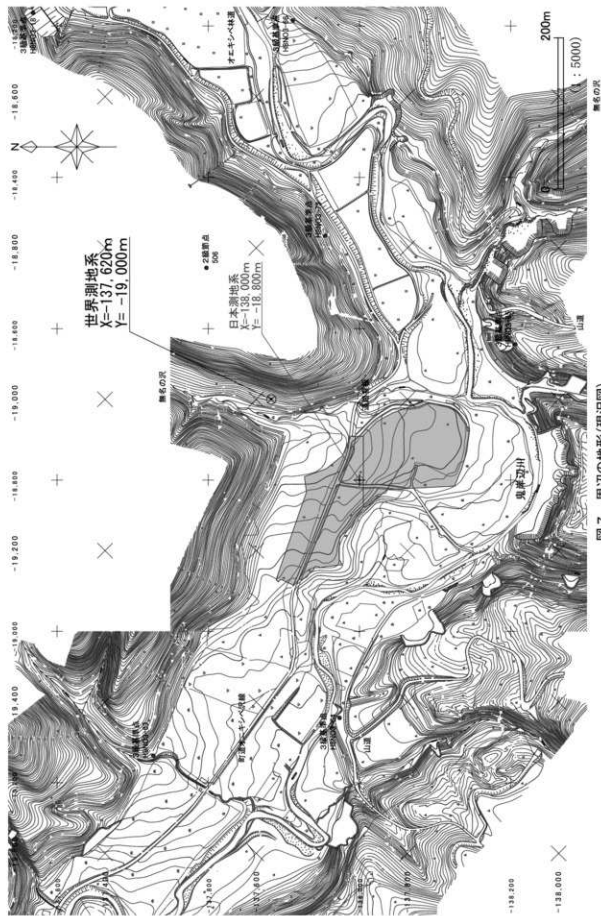


図7 周辺の地形(現況図)

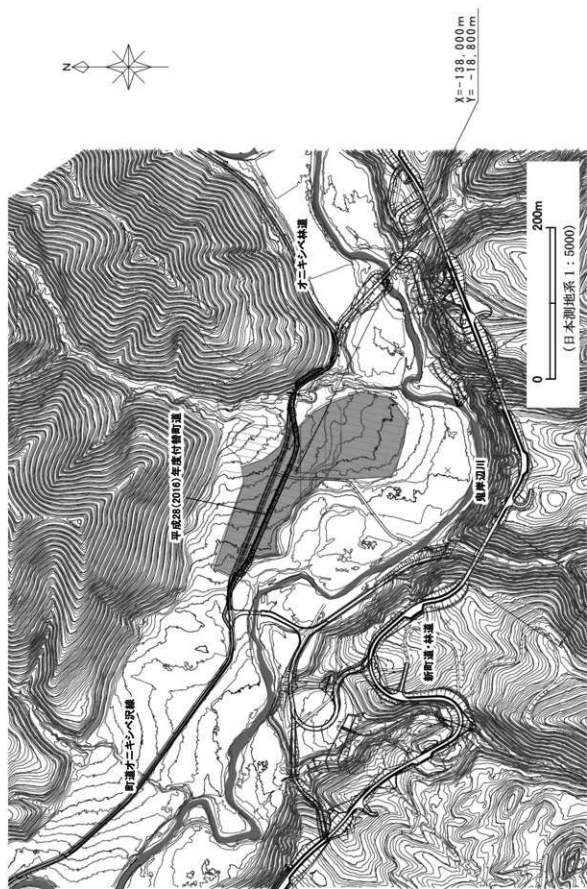


図8 遺跡周辺の地形(等高線図)

本河川流域の変遷を地形図でみてる。明治29年(1896)年製版の北海道製菓五万分の一図「留標」には河川名はなく、流路のみ記載がある。厚真川との合流点は概ね正確であるが、中流部は直線的で上流部は二つの支流に分かれ、さらに複数の小沢が模式的に描かれている。大正10(1921)年製版の五万分の一地形図「徳別」(図5)には、「オニキシベ川」(片仮名表記)と地名「幌内」が記載されている。オニキシベ3遺跡が位置する、流れが大きく南側へ屈曲し河川敷地が広がる地点等は正確でない部分がある。本河川の右岸に「小徑」(道幅半開未満)がある。河口から約300mの区間(オニキシベ1遺跡の付近)は小道が二本あり、合流して上流方向へと続く。この小道は蛇行するオニキシベ川と7回交差し、三角点「一里沢奥」の南付近、現在の「冷水ノ沢」の手前で途切れる。建物(家)は6~7軒が散在し、多くが右岸に位置している。

昭和49(1974)年測量の二万五千分の一地形図「上幌内」(図6)では河川名が「オニキシベ川」と表記され、流路が正確に図化されている。川沿いの道路は、下流部は幅2.5~5.5mで右岸を走り、「冷水橋」を過ぎて、さらに奥の無名の橋を渡った先で幅員が減少する。その先は本流と数回交差しながらこれ沿いに続き、源流部の手前約1.2km付近で途切れる。厚真川との合流点近くに建物(家)2軒と水田があり、オニキシベ3遺跡は針葉樹と荒地の地図記号がある。本遺跡の少し上流、鬼岸辺川と道路の距離が広がる場所に水田が広がっている。また、「厚真の旧地名を尋ねて」には「二股の沢」と呼ばれる深い沢があったとあるが、鬼岸辺川の上流部は、沢が「Y」字状に枝分かれする地点が多く、特定できない。さらに、上流には「硫黄臭い冷泉」(亀井・池田 1978)や、「クロム鉱が眠っているとも伝えられている」と記載がある(厚真村 1956)。

## (2)「オニキシベ 鬼岸辺」の表記

地形図での本河川の表記は、明治・大正年間「オニキシベ川」、昭和40~50年代「オニキシベ川」、現在「鬼岸辺川」と変化し、漢字表記「鬼岸辺」は「当て字」と考えられる。昭和46(1971)年頃に着手された地籍測量調査のために設置された、四等三角点の名称「鬼岸辺」により、漢字表記が出現したと考えられる。現在、河川名と三角点名は漢字、道路の名称はカタカナ表記で、「厚真町史」や「厚真町史」にも両者が散見される。これらは呼称する対象により使い分けるといった厳密なものでなく、永く併用され、現状に落ち着いていったと考えられる。また「オニキシベ 鬼岸辺」は河川の名称であるとともに、その流域地域を表す集落名としても使われた(厚真町自治会 1997)。

鬼岸辺川の左岸の山間部を走る新しい町道・林道の付替路線の建設工事は、平成26(2014)年度頃から着工され、平成28(2016)年10月現在は未開通である。道道235号上幌内早来停車場線の厚幌トンネル(2号トンネル)を出て、オニキシベ橋(7号橋)を渡る手前で東方向へ分かれる。下流部は町道「オニキシベ沢線」(長さ 2,563m)、上流部は「オニキシベ林道」(長さ 1,063m)で、合計7か所の橋があり、上流部の「冷水橋」付近で現林道と接続する。

## 5. 調査区の現況(図4・7・8)

鬼岸辺川下流域には、オニキシベ5遺跡(厚真町教育委員会 2013)とオニキシベ1遺跡(北埋調報318)がある。本遺跡はこの川の右岸の現標高84~74mの段丘上に立地する。本河川の流域でもっとも大きく屈曲し、河川敷地が広い地点である。左岸は崖で、岩石が軟質なため凹地が散見される。崖上の標高100m以上の場所は緩斜面で、三角点「鬼岸辺」の北端の裾部である。一方、右岸は標高252m無名の頂からの急斜面の裾の平坦部で、山間部の深い谷を流れる無名の沢がある。この沢は現道路から南側は、遺跡が立地する中~低位の段丘沿いに流れ、鬼岸辺川に注ぐ。また、下流側の調査区西端の現町道の南側にも湧水地点があった。

調査区は、北側の山の裾部から鬼岸辺川への緩斜面で、北東側部分は無名の沢による扇状地である。北西側では山体から崩落したと考えられる二次堆積層（S d 2層）がみられた。遺跡は三つの調査区に分けた。北側の山裾の斜面と平坦部は「A地区」で高位の段丘で、南縁を砂利敷きの町道オニキシベ沢線が東西に走る。その南の「B地区」は、北側部分は中位の段丘平坦部、南側は下位の段丘への斜面である。低位段丘の「C地区」は平坦で礫混じりの水成堆積物層が厚く堆積する。概して鬼岸辺川の主流に向かうほど、傾斜は緩やかである。

調査前は森林であり、A地区は水源かん養保安林であった。また、かつては町道から分かれ鬼岸辺川に向かう未舗装路があった。東側の道はC地区の曲線的な段丘の縁辺に沿うようにみられ、途切れる。中央の道（図13）は南方へ直線的にのび、C地区付近から南西に折れて、鬼岸辺川方向に延び、橋はないが対岸にある道に続いている。この中央の道は、B地区の北側では地山まで削平され、南側は調査区内の湧水地点から西に流れる沢と深い沢地形を盛土で埋められていた。また、平成28(2016)年度は、現町道を調査が完了した南側へ付け替えて、その下位部分も調査した。

## 6. 周辺の遺跡（図9 表3）

厚真川の上流部地域は、厚幌ダム建設事業と国営土地改良事業勇払東部（二期）地区厚幌導水路建設（以下、導水路建設）、厚真川改修工事に伴う発掘調査で、多くの遺跡が確認・調査されている。ここでは、上流の厚真ダム付近から下流の厚幌ダム堤体までの範囲に位置する遺跡の概要を、厚真川の本流と支流を含め下流から上流部の順に記述する。

### ・厚真川左岸 キウキチ沢左岸

#### 厚幌1遺跡（25）（厚真町教委 道道切替・導水路建設2・厚幌ダム調査報告書7）（北埋調報336）

平成14・15・24（2002・2003・2012）年度に厚幌ダム建設事業に伴う発掘調査が、平成20・25・27（2008・2013・2015）年度には、導水路建設に伴う発掘調査が行われた。これらのうち平成25・27（2013・2015）年度は当センター、それ以前は厚真町教育委員会が担当した。アイヌ文化期の送り場と考えられるシカの頭蓋骨の集中や列状に位置するTビッドがみつきり、爪形文が施された縄文時代晩期の東三川I式土器や、胎土に滑石を多く含む縄文時代前期の土器が多数出土した。

### ・厚真川左岸 キウキチ沢右岸

#### 厚幌2遺跡（88）

平成27・28・29（2015・2016・2017）年度に導水路建設に伴い当センターが調査し、アイヌ文化期の平地住居跡や、縄文時代前期の遺物集積がみつかった。土器は少なく石器の出土が多い。また、調査区東側部分で縄文時代前期以前の樽形dテフラの再堆積層が確認された。

### ・厚真川左岸 鬼岸辺川との合流地点より下流部

#### オニキシベ4遺跡（89）（厚真町教委 厚幌ダム調査報告書8）

縄文文化期の複数の跡跡をもつ平地住居跡が調査され、アイヌ文化期の「ナセ」への移行を考える上で重要な調査例である。また、縄文時代中期の「厚真1式土器」（苫小牧市埋蔵文化財調査センター1998）の復原土器が報告されている。

#### オニキシベ6遺跡（118）（厚真町教委 厚幌ダム調査報告書10）

この地域では発見例の少ない、縄文時代後期の堂林式土器が多数出土した。

### ・厚真川右岸 ヲチャラセナイ川との合流点付近

#### ヲチャラセナイチャン跡（100）（厚真町教委 厚幌ダム調査報告書5）

ヲチャラセナイ遺跡内にあり、段丘の先端部に造られた「丘先式」のチャン跡である。一条の溝

で区画され、形状の違いから二つの時期が認められる。チャシ跡の溝の内部（内郭）で、建物跡が確認された。

#### ヲチャラセナイ遺跡（101）（厚真町教委 厚幌ダム調査報告書5・9）

本遺跡は立地から交通路上の要所であったと考えられ、各時代の遺構・遺物が確認された。アイヌ文化期の平地住居跡や土坑墓が調査され、シカやヒグマの骨が確認された。擦文文化期では土坑・焼土が調査され、土器は刻文や貼付圓縁帯をもつ後半期のものである。縄文時代は前期が主で、土坑墓が複数みつき、大型の堅穴住居跡も調査された。また、多量の両面調整石器が出土した剥片石器集中もある。

#### ・厚真川左岸 鬼岸辺川との合流地点付近

##### オニキシベ2遺跡（77）（厚真町教委 厚幌ダム調査報告書2）

各時代の遺物が出土している。アイヌ文化期の土坑墓、擦文文化期のカマドを伴う堅穴住居跡が調査された。続縄文時代の遺構・遺物が多く、続縄文時代の後北B・C<sub>1</sub>式の復元個体が多数報告されている。

#### ・鬼岸辺川 右岸

##### オニキシベ1遺跡（14）（北埋調報318）

平成24・25（2012・2013）年度に当センターが調査した。縄文時代中期・後期が主たる時期で、堅穴住居跡の炉跡は中期が地床炉、後期は石組炉である。

#### ・鬼岸辺川左岸

##### オニキシベ5遺跡（90）（厚真町教委 厚幌ダム調査報告書5）

縄文時代後期の北箭Ⅲ式土器が出土し道東地方との関係性が想定される。また、大型の石棒も出土した。

#### ・鬼岸辺川右岸

##### オニキシベ3遺跡（78）（本報告書 北埋調報346）

平成26・27・28（2014・2015・2016）年度に当センターが調査した。縄文時代中期・後期の堅穴住居跡がみつかった。大型の住居跡は、黒色土層の上面で明瞭なくぼみで見られ、周囲に掘り上げ土もみられた。縄文時代後期初頭の余市式、タブコブ式や縄文時代後～晩期の爪形文が施された土器が出土し復原でき、棍棒形石器が出土している。

#### ・厚真川左岸 河川敷地内の平坦な低地

##### 上幌内モイ遺跡（79）（厚真町教委 厚幌ダム調査報告書1・2・3）

各時代の遺構・遺物がみつかった。アイヌ文化期は平地住居跡や土坑墓が調査され、骨の集中からはヒグマの骨がみつかった。擦文文化期では類例の少ない土坑墓も発見され、副葬品の擦文土器の施文に用いられた櫛歯状工具から、オホーツク式土器の影響が推測されている。羽口や鉄滓などが多く出土した遺物集中は、鉄器生産に関するものと考えられる。続縄文時代ではアヨロ2b類の土器を伴う遺構が調査された。縄文時代は早期・中期・後期の堅穴住居跡と160基を超えるTピットが確認された。また、後期旧石器時代の札滑型細石刃核を伴う石器群が出土し、これに関連する焼土や炭化物集中も確認された。

#### ・厚真川右岸

##### 上幌内3遺跡（123）（北埋調報335）

平成25・26（2013・2014）年度に当センターが調査を担当した。三つの地区があり、C地区は離れており、A・B地区の間には小さな沢地形がある。

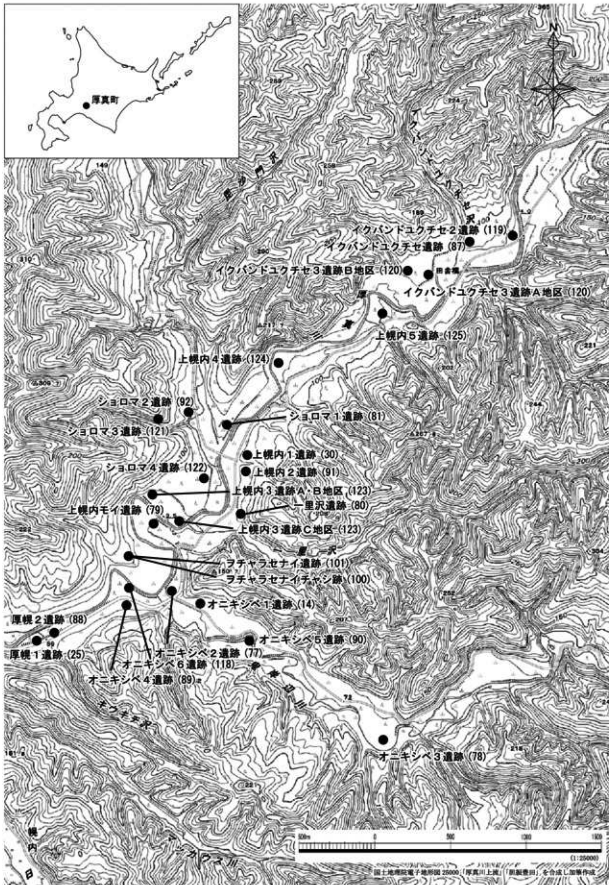


図9 周辺の遺跡

### 上幌内3遺跡C地区

縄文文化期～アイヌ文化期の移行期と考えられる平地住居跡を調査し、縄文時代の竪穴住居跡やTピットもみつかった。

#### ・無名の沢右岸

##### 上幌内3遺跡A地区

アイヌ文化期の平地住居跡や土坑墓を調査した。墓の副葬品は鉄鍋・漆製品・ガラス玉・北宋銭などである。縄文時代は竪穴住居跡を確認し、TP-20では杭そのものが出土した。

#### ・無名の沢左岸

##### 上幌内3遺跡B地区

アイヌ文化期～縄文文化期の遺構・遺物がみつかった。遺物集中から須恵器が出土し、縄文時代早期の竪穴住居跡を調査した。また、I層でアイヌ文化の伝統を残す建物跡や土坑もみつき、明治～大正年間の入植者の住居跡と判断される（厚真町幌内自治会 1997）。

#### ・厚真川左岸 一里沢右岸

##### 一里沢遺跡 (80) (厚真町教委 厚幌ダム調査報告書16)

縄文文化期後期の土器集中がみつき、鉄鍋の破片が出土した。松浦武四郎が記述した「カニシユウ」の可能性を考えると興味深い。縄文時代はTピット47基が調査され、TP-37では杭そのものが出土した。また、掘り上げ土と覆土から新旧関係が考察されている。

#### ・シヨロマ川右岸 厚真川との合流地点付近

##### シヨロマ4遺跡 (122) (北埋調報322)

平成26(2014)年度に当センターが調査を行った。縄文文化期～アイヌ文化期、統縄文時代の遺構・遺物がシヨロマ川に面する崖際に多く確認され、平地住居跡や道跡、金属製品と小児の歯を伴う土坑墓がみつかった。また、縄文時代後期の石組炉を伴う竪穴住居跡も調査した。

#### ・シヨロマ川右岸 無名の沢右岸

##### シヨロマ3遺跡 (121) (厚真町教委 厚幌ダム調査報告書11)

縄文文化期の鉄器集中と統縄文時代の三体が合葬された土坑墓が発見され、縄文時代後期の大型竪穴住居跡もみつかった。

#### ・シヨロマ川右岸 無名の沢左岸

##### シヨロマ2遺跡 (92) (厚真町教委 厚幌ダム調査報告書13)

縄文時代中期の掘り上げ土を伴う竪穴住居跡が調査され、列状に位置するTピットが多数みつかった。また、縄文時代後期初頭の緑色泥岩製の磨製石斧片の集中は接合できる資料である。

#### ・シヨロマ川左岸 厚真川右岸

##### シヨロマ1遺跡 (81) (厚真町教委 厚幌ダム調査報告書12)

厚真川とシヨロマ川に挟まれた合流地点に立地する。アイヌ文化期の平地住居跡が確認され、遺物集中からは鉄鍋が1個体出土した。縄文時代後期の石組炉を有する竪穴住居跡や、縄文時代前期の円筒土器下層d式を伴う大型竪穴住居跡が調査された。また、縄文時代後期初頭の礫集中から棍棒形石器が出土した。

#### ・厚真川左岸 無名の沢左岸

##### 上幌内2遺跡 (91) (厚真町教委 厚幌ダム調査報告書15)

中世アイヌ文化期の土坑墓5基がみつき、12世紀中葉の「秋草双鳥文鏡」、豊富な鉄器、黒曜石の転礫などが副葬されていた。また、縄文時代の竪穴住居跡や土坑、Tピットも調査された。

- ・厚真川左岸 無名の沢右岸

- 上幌内1遺跡(30)(厚真町教委 厚幌ダム調査報告書14)

- 縄文文化期～アイヌ文化期の複数の炉跡をもつ平地住居跡がみつき、縄文時代早期・中期・後期の堅穴住居跡や土坑なども調査された。

- ・厚真川左岸

- 上幌内4遺跡(124)(北埋調報345)

- 平成26・27・28(2014・2015・2016)年度に当センターが調査した。縄文時代中期・後期の堅穴住居跡やTピットがみつかった。土器集中は縄文時代中期の円筒土器上層a式の深鉢や縄文時代後期の手稲式の注口土器が出土し、ともにこの地域では例が少ない。また、厚真川への斜面部は上位の黒色土層も調査し、小刀や刀子、レキなどが出土した。

- ・厚真川左岸 無名の沢(イタルイカ)の両岸「無名の沢」の右岸

- 上幌内5遺跡(125)(北埋調報345)

- 平成25・27・28(2013・2015・2016)年度に当センターが調査をした。調査区の南西側を「無名の沢」が、調査区内を「無名の沢」(イタルイカ)が流れる。右岸をR地区、左岸をL地区と呼称した。Tピット421基を調査した。

- ・無名の沢(イタルイカ)左岸

- 上幌内5遺跡L地区(L-1～5地区)

- 堅穴住居跡1軒と土坑、Tピット116基を調査した。土坑は調査区の南西側にまとまってみられ、Tピットは緩斜面部に集中していた。

- ・無名の沢右岸

- 上幌内5遺跡R地区(R-1～3地区)

- 調査区全体にTピットがみられ、305基を調査した。

- ・厚真川右岸 イクバンドユクチセ沢右岸

- イクバンドユクチセ3遺跡(120)(北埋調報325)

- 平成25(2013)年度に当センターが調査し、遺跡を流れる「調査区中央の沢」で地区分けをした。

- ・無名の沢左岸

- イクバンドユクチセ3遺跡A地区

- アイヌ文化期の建物跡7軒を調査し、焼土や礫集中を確認し、鉄製品が出土した。アイヌ文化期の遺跡では最上流部に立地する。縄文時代のTピットもみつき、切り合うものもみられた。

- ・無名の沢右岸

- イクバンドユクチセ3遺跡B地区

- 縄文時代中期～後期の堅穴住居跡やTピットを調査した。また、調査区の南端で、約30×25mの範囲に「大規模な礫集中」を確認した。

- ・イクバンドユクチセ沢 左岸

- イクバンドユクチセ遺跡(87)

- 主な時代は縄文時代後期で、試掘調査では土器・石器・礫が出土した。標高92～96m付近に立地し、建設ダムの湛水地域でないため発掘調査していない。

- ・厚真川右岸

- イクバンドユクチセ2遺跡(119)(北埋調報319)

- 平成25(2013)年度に当センターが縄文時代中期～後期の土坑とTピットを調査した。最も上





表3 周辺の遺跡一覧表(2)

遺跡 No.	遺跡名	所在 郡市区 町村	遺跡の所在 地番	面積 (㎡)	調査 年度	調査 内容	調査 結果	調査		調査結果 の要約	調査年度	調査機関	調査者 氏名	備考
								調査面積 (㎡)	調査対象 範囲					
00	一里塚遺跡	石巻市	一里塚 地区	約1,000	昭和55年	一里塚地区 遺跡調査	—	—	—	—	昭和55年(1)	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 史学調査課	宮城県教育委員会 史学調査課 一里塚地区遺跡調査 報告書(昭和55年11月)
100	5-01074遺跡	石巻市	5-01074 地区	約1,000	昭和55年	5-01074地区 遺跡調査	—	—	—	—	昭和55年(1)	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 史学調査課	宮城県教育委員会 史学調査課 5-01074地区遺跡調査 報告書(昭和55年11月)
101	5-01077遺跡	石巻市	5-01077 地区	約1,000	昭和55年	5-01077地区 遺跡調査	—	—	—	—	昭和55年(1)	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 史学調査課	宮城県教育委員会 史学調査課 5-01077地区遺跡調査 報告書(昭和55年11月)
102	5-01077遺跡	石巻市	5-01077 地区	約1,000	昭和55年	5-01077地区 遺跡調査	—	—	—	—	昭和55年(1)	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 史学調査課	宮城県教育委員会 史学調査課 5-01077地区遺跡調査 報告書(昭和55年11月)
103	5-01077遺跡	石巻市	5-01077 地区	約1,000	昭和55年	5-01077地区 遺跡調査	—	—	—	—	昭和55年(1)	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 史学調査課	宮城県教育委員会 史学調査課 5-01077地区遺跡調査 報告書(昭和55年11月)
104	正徳川1号遺跡	石巻市	正徳川 地区	約1,000	昭和55年	正徳川地区 遺跡調査	—	—	—	—	昭和55年(1)	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 史学調査課	宮城県教育委員会 史学調査課 正徳川地区遺跡調査 報告書(昭和55年11月)
105	正徳川1号遺跡	石巻市	正徳川 地区	約1,000	昭和55年	正徳川地区 遺跡調査	—	—	—	—	昭和55年(1)	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 史学調査課	宮城県教育委員会 史学調査課 正徳川地区遺跡調査 報告書(昭和55年11月)
106	石巻市立中央小学校 跡	石巻市	石巻市立中央 小学校跡	約1,000	昭和55年	石巻市立中央 小学校跡 遺跡調査	—	—	—	—	昭和55年(1)	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 史学調査課	宮城県教育委員会 史学調査課 石巻市立中央小学校 跡遺跡調査報告書 (昭和55年11月)
107	石巻市立中央小学校 跡	石巻市	石巻市立中央 小学校跡	約1,000	昭和55年	石巻市立中央 小学校跡 遺跡調査	—	—	—	—	昭和55年(1)	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 史学調査課	宮城県教育委員会 史学調査課 石巻市立中央小学校 跡遺跡調査報告書 (昭和55年11月)
108	石巻市立中央小学校 跡	石巻市	石巻市立中央 小学校跡	約1,000	昭和55年	石巻市立中央 小学校跡 遺跡調査	—	—	—	—	昭和55年(1)	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 史学調査課	宮城県教育委員会 史学調査課 石巻市立中央小学校 跡遺跡調査報告書 (昭和55年11月)
109	石巻市立中央小学校 跡	石巻市	石巻市立中央 小学校跡	約1,000	昭和55年	石巻市立中央 小学校跡 遺跡調査	—	—	—	—	昭和55年(1)	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 史学調査課	宮城県教育委員会 史学調査課 石巻市立中央小学校 跡遺跡調査報告書 (昭和55年11月)

流に位置する周知の遺跡である。

・厚真川とメンクルナイ沢との合流点付近（厚真ダム堤体付近）

地域住民への聞き込み調査で、厚真ダム付近にも遺跡があったとの記述がある（厚真町教育委員会 2015 他）

（末光）

## III章 調査の概要

### 1. 発掘区の設定 (図10 表4)

#### (1) 工事図面

平成14(2002)年の試掘調査で道教委が確定した調査範囲は「平成12年度 厚幌ダム建設用地測量(資料整理)現況平面図 1:1,000」(以下、現況図)に示された。本事業関係の測量資料は、平成8(1996)年度に実施された用地内の2・3級基準点測量の「平成8年度 厚幌ダム建設基準点測量 3級基準点 幌内地区 成果表」(北海道室蘭土木現業所)、平成12年度前掲の図面があった。この図面は平成10・11・23(1998・1999・2011)年度に調整され、最終版の「平成24年度 厚幌ダム建設工事 資料整理 現況平面図 1:1,000」も提供を受けた。日本測地系で作成された本図面の四隅には、世界測地系の平面直角座標が追記された。また、同年、工事用地内に「仮ベンチマーク」を設け、「厚幌ダム平面図 1:2,500 平成24年度 計測航空レーザ・空中写真 日本測地系」(以下、等高線図)が作成され、先の図面上で示された遺跡の調査範囲が「厚幌ダム建設工事 1:5,000(日本測地系)」に図化された。両図面は等高線や細部地形が異なる部分がある。また、平成25(2013)年度当初に1m間隔で図化された等高線図上で厚幌ダムの常時満水位85.4m以上の部分の発掘調査は不要と道教委により判断された。

#### (2) グリッドの設定と調査杭の打設

調査グリッドは、平面直角座標(第XⅡ系)で設定した。X=-137,620mとY=-19,000の交点を調査区グリッドの原点(北東側)の「A-O」とし、南北方向はアルファベット、東西方向は算用数字で5mごとに区切った。アルファベットは南方向へ昇順し「Z」まで、そこからは小文字の「a-z」、さらに「AA」・「AB」ラインまで付した。アルファベットの大字と小文字で混同しやすい記号の区別は、A-Cの地区名(I章参照)や調査年度等の他の情報と併記することで誤認を防いだ。東西方向は、東方向へ数字が小さく西方向へと大きくなる。グリッドは5m区画で、呼称は北東側の杭名とし、アルファベットと算用数字を列記する。平成24(2012)年度、調査区と伐採の範囲を確定するために測量し、4級基準点を設けた。各年度の発掘調査では、これらの既設の基準点に加え、必要に応じ新点を設けた。これは精度が確保できない点や調査区内に位置し使用できない点があったからである。水準測量は、遺跡近くの仮ベンチマーク「2012 KBM No1」を与点とした。

### 2. 基本土層 (図11・12 表5)

基本土層は、これまでの本事業に伴う発掘調査の成果から、次のように区分した。色調及び土層の観察項目は「標準土色帖」(小山・竹原 1967)と「土壌調査ハンドブック」(ペドロジスト懇談会 1984)による。なお、本発掘調査の対象である、遺物包含層の残るA・B地区と、遺構確認調査区であるC地区は、別の基本土層を設けた。

#### A・B地区

##### I層:現地表土

黒色を呈する耕作土や森林表土で、一部にII層軽石(T a-b)を含む。表土や攪乱から出土した遺物はすべて「I層」とした。

##### II層:樽前b降下軽石層

1667年に降下した樽前b降下軽石層(T a-b)で、下位は軽石が多く粗粒である。

表4 測量基準点一覧表

年度	測量名	基準点名	種類	日本測地系		日本測地系		備考				
				平均海水面高程(m)		高程						
				X	Y	(m)						
平成8 (1996)	鳥島	HNN33-63 (323)	観測点	-137,462,154	-39,470,996	79,883	-137,727,272	-18,104,130	137,609 35,3066	79,883	日本測地系中心座標	
		HNN33-65 (345)	観測点	-137,647,829	-39,677,286	119,936	-138,308,217	-18,630,597	137,457 32,6099	119,936	日本測地系中心座標	
		UD29	観測点	-137,691,861	-38,783,157	93,652	-137,454,913	-18,477,135	132,017 20,0794	93,652	日本測地系中心座標	
		UD29	観測点			73,939					北緯度、経緯度計算用出 張図の図面用訂正値	
		UD29	観測点			17,800,609						
		UD29	観測点			19,111,281						
		UD29	観測点			17,750,617						
		UD29	観測点			19,128,261						
		UD29	観測点			17,754,867						
		UD29	観測点			19,149,309						
		UD29	観測点			17,777,515						
		UD29	観測点			19,238,335						
UD29	観測点			17,681,417								
UD29	観測点			19,238,335								
UD29	観測点			17,712,644								
UD29	観測点			19,239,616								
UD29	観測点			17,708,168								
UD29	観測点			19,238,627								
UD29	観測点			17,710,119								
UD29	観測点			19,237,657								
UD29	観測点			17,685,282								
UD29	観測点			19,287,302								
UD29	観測点			17,679,293								
UD29	観測点			19,286,672								
UD29	観測点			17,679,293								
UD29	観測点			19,286,672								
UD29	観測点			17,688,469								
UD29	観測点			19,325,949								
UD29	観測点			17,690,146								
UD29	観測点			19,323,668								
UD29	観測点			137,603,029								
UD29	観測点			39,164,969								
UD29	観測点			137,602,017								
UD29	観測点			39,116,241								
UD29	観測点			137,600,578								
UD29	観測点			39,060,651								
UD29	観測点			137,607,371								
UD29	観測点			39,041,962								
UD29	観測点			137,729,205								
UD29	観測点			39,039,537								
UD29	観測点			137,282,005								
UD29	観測点			39,004,471								
UD29	観測点			137,282,005								
UD29	観測点			39,004,471								
UD29	観測点			137,234,063								
UD29	観測点			38,922,938								
UD29	観測点			137,690,698								
UD29	観測点			39,101,268								
UD29	観測点			137,694,698								
UD29	観測点			39,238,261								
UD29	観測点			137,726,566								
UD29	観測点			39,049,183								
UD29	観測点			137,652,468								
UD29	観測点			39,005,123								
UD29	観測点			137,231,679								
UD29	観測点			39,045,728								
UD29	観測点			137,290,417								
UD29	観測点			39,120,261								
UD29	観測点			平均±28.130(1)水準誤差								
UD29	観測点			137,628,966								
UD29	観測点			39,097,572								
UD29	観測点			137,633,864								
UD29	観測点			39,248,155								
UD29	観測点			137,673,300								
UD29	観測点			39,209,987								
UD29	観測点			137,201,756								
UD29	観測点			39,149,520								
UD29	観測点			137,230,103								
UD29	観測点			39,091,625								
平成24 (2012)	4級基準点設置 調査期間：(仮)設置 ●水準測量計算数値付	UD217-16	観測点									
		UD217-17	観測点									
		UD217-18	観測点									
		UD217-19	観測点									
平成26 (2014)	4級基準点設置 調査期間：●基準尺、方眼尺	UD217-20	観測点									
		UD217-21	観測点									
		UD217-22	観測点									
		UD217-23	観測点									
平成27 (2015)	4級基準点設置 調査期間：●基準尺、方眼尺	UD27-1	観測点									
		UD27-2	観測点									
		UD27-3	観測点									
		UD27-4	観測点									
平成28 (2016)	4級基準点設置 調査期間：●基準尺、方眼尺	UD27-5	観測点									
		UD27-6	観測点									
		UD27-7	観測点									
		UD27-8	観測点									



#### Ⅳ層：黒色土層

約2千年前～近世アイヌ文化期（1667年）の黒色土層である。

#### Ⅲ層：樽前c 降下火山灰層

約2千年前に降下した樽前山の火山灰層で、粒径2mm程度以上の軽石を含まない。C地区に比べて粗粒である。

#### Ⅱ層：黒色土層

縄文時代晩期後半～同早期までの遺物包含層で、発掘調査の対象の層である。一部、T a - c（砂）やT a - d 2（礫・砂）、灰白色の凝灰岩（シルト岩）を含む部分もみられた。

#### Ⅰ層：漸移層

黒色土層と下位のⅦ層との漸移層である。

#### Ⅶ層：ローム土（埴埴土）主体の層

T a - d 2が土壌化した層で色調から三つに分けた。すなわち、褐色：Ⅶ b r 層、黄色：Ⅶ y 層、橙色：Ⅶ o r 層である。また、これらに凝灰岩が混ざる層をⅦ p b 層とした。

#### Ⅵ層：樽前d 火山噴出物層

約9千年前に樽前山が噴出したスコリア層が主体で、色調から二つに分けた。

Ⅵ d 1 層：暗灰色を呈するT a - d 1 スコリア主体の層である。

Ⅵ d 2 層：明赤褐～橙色を呈するT a - d 2 スコリア主体の層である。

Ⅵ d 1 層は比して薄く部分的にみられ、地山を構成する主たる層はT a - d 2 である。先のⅦ o r 層とⅥ d 2 層は、礫の形状を留めているか否かであり、厳密に区別できなかったが、概していうと同じである。

また、Ⅶ・Ⅷ層は、円磨度等から水成堆積と考えられ、これらの層中には、部分的に礫・砂主体の薄層が様々にみられた。これらを総称して「L - p b s d 層」とし、水成堆積であることの傍証と考えられる。

#### C地区

遺構確認調査区のC地区は、建設機械で深掘りした部分で土層を観察した。また、段丘上のA・B地区と区別するために、ローマ数字小文字で土層名を表記した。

#### i 層：表土層

黒色を呈する現地表土で、一部耕作痕がみられる。

#### ii 層：樽前b 降下軽石層

1667年に降下した樽前b 降下軽石層で、上位は細粒でラミナが三層以上みられ、下位部分は粗粒である。

#### iii 層：黒色土層

約2千年前～近世アイヌ文化期（1667年）の黒色土層である。

#### iv 層：樽前c 降下火山灰層

約2千年前に降下した樽前山の火山灰層で、A・B地区に比べて細粒で橙色を呈する。

#### v 層：黒色土層

#### vi 層：漸移層

これらはB地区との境界でみられ、V・VI層と同じである。

#### vii 層：水成堆積物層

主たる構成物の違いから二つに分けた

基本土層①(緩斜面部 S-26 杭付近)



基本土層②(斜面部 Y-9区)



基本土層③(斜面下～平坦部 e-9～f-9杭)



基本土層④(C地区 p-12 杭付近柱状模式図)

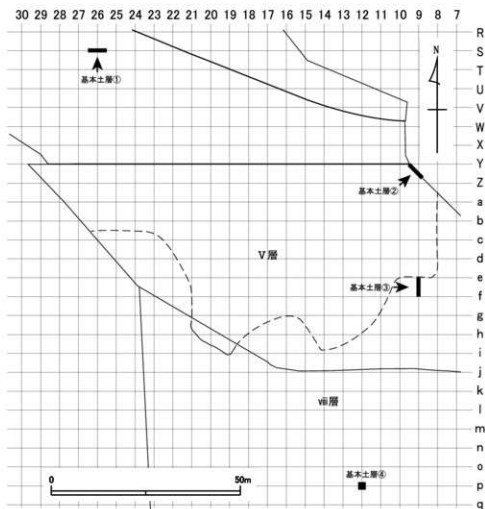
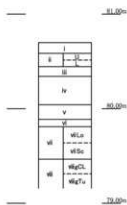


図11 基本土層





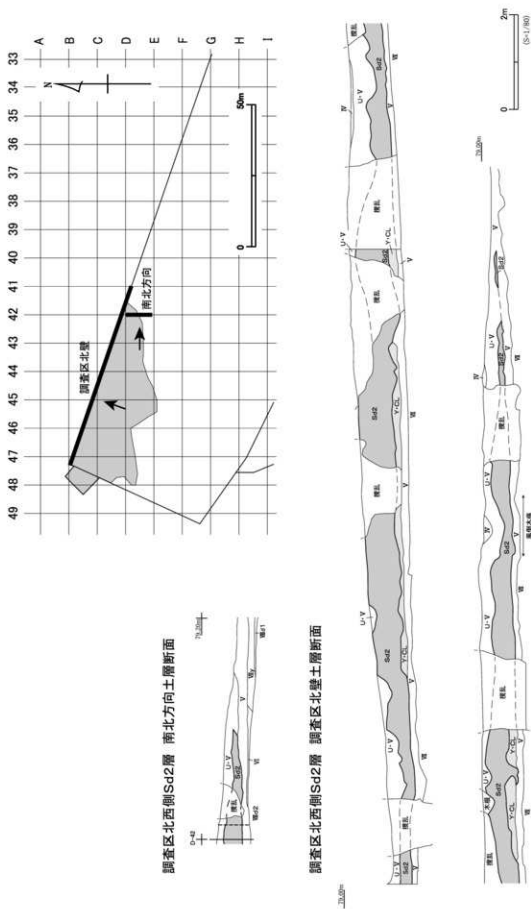


図12 S d 2層土層断面

vii L o 層：橙～黄色のローム～粘土層で、T a - d 2 が混じる。

vii S c 層：T a - d 2 主体の層。

#### viii 層：灰白色の粘土層

礫の有無で二つに分けた。

viii g C L 層：粗粒な礫が混ざらない。

viii g t u 層：平均粒径30mm程度の白色の岩石（凝灰岩）が混ざる。

遺構確認調査はこの層の上面で行い、一部は遺物も出土した。

#### 土層断面図

##### 基本土層①：緩斜面部 S-26 杭付近

IV層が薄く、V層の下位は色調の異なるVII層である。VII d 1層もみられる。地下水により形成されたと考えられる鉄盤層がみられた。

##### 基本土層②：斜面下～平坦部 e-9～f-9 杭付近

B地区とC地区との境界付近で、V層中にviii g C L層がみられ、下位の色調は淡い。V・v層の下位はVII層とvii L o層で、砂礫主体のL-p b s d層が部分的にみられる。下位はVII d 1層とVII d 2層である。

#### A地区「S d 2層」北西側 V層を分ける二次堆積層

先行トレンチ調査でV層を地山まで掘り下げに当たり、念のため地山から数回掘り下げることとした。遺跡の北西側のD-41区付近では地山と判断したT a - d 2主体層の下位から、さらに黒色土層がみられた。厚真川上流地域では、厚幌1遺跡、イクバンドユクチセ3遺跡等で、黒色土層を分かちようにT a - d 2主体の二次堆積層がみつかり、これらと同様と考えられる。これを「S d 2」層とし、下位の浅黄色粘土層（Y・C L層）も二次堆積と考えられる。上位の黒色土層（U・V層）を調査した後、土層断面と平面を図化し、建設機械で下位のV層まで除去した。ここから出土した遺物は「V 2層」で取り上げたが、明確に分けきれなかった。また、S d 2層はH-20の覆土に厚く堆積していた（図55）。下位のV層からIV群a類土器が出土しており、この堆積層の時期は縄文時代後期前半以降と判断される。

## 3. 調査の方法

### A・B地区

はじめに建設機械によりI～IV層下位までを除去し（表土・火山灰除去）、次に人力で残りのIV層を掘り、V層上面を検出した。その後、先行トレンチを設けて掘り下げ、土量や遺構・遺物のあり方の情報を調査の早い段階で把握・検討し、全体の調査計画をたてた。調査した部分と先行トレンチを設けた場所は、平成26(2014)年度はB地区の北側部分で、東西方向(M-44杭～W-14杭を結ぶ直線)と30ライン沿い、平成27(2015)年度はB地区の南側部分で南北方向9と17ライン、平成28(2016)年度はA地区で、南北方向17、23、36、43ラインと北側の調査区境界(24～47ライン)である。

包含層調査では、遺物の出土状況の把握と遺構の発見に努めた。遺構と予想される部分は半載、あるいはトレンチを設けて掘り下げ、土層断面や壁の立ち上がり、坑底面や遺物の出土状況から判断した。地形測量図は調査の進行状況に合わせて、V層上面(図14)とVII層上面(図13)のものを作成した。

### C地区

本地区は遺構確認調査区で、平成26(2014)年度にすべてを調査した。建設機械でi～vii層を除去し、viii層上面を検出した。このviii層上面を精査し遺構の確認に努めた。また、この層の上位部分から遺物

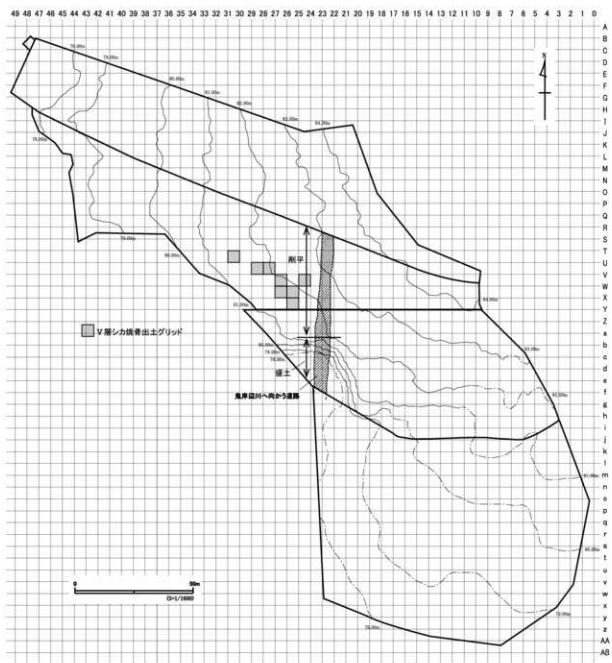


図13 焼骨出土グリッド Ⅶ・Ⅷ層上面地形測量図

が出土したので、そのグリッドは人力による発掘調査を行い、結果、C地区全体の面積の約125%を包含層調査した。遺物は北側部分に多く、南側では出土しなかった。また、北側のB地区との境界部分では一部、段丘上から続く黒色土層が残存しており、その部分は人力による発掘調査を行った。

## 4. 整理の方法

### (1) 一次整理の方法

土器・石器等の遺物は、現場で「遺跡名：地区名（略号：オ3 A・B・C）：出土地点（遺構名・グリッド）：出土層位：遺物種別（土器・剥片石器・礫石器とレキ・その他の四つに大別）：取り上げ番号（出土位置記録のもの）：取り上げ年月日」の情報を記したビニール袋に取り上げた。現場事務所では袋ごとに「取り上げ台帳」に記録し、一次整理作業の流れを管理した。遺物は「水洗」・「乾燥」した後、「分類」し、出土地点・出土層位・遺物名等の遺物個別の情報を「遺物カード」に記し、遺物とともにビニール袋に収納した。また、その遺物カードの記載事項を一覧表にまとめ、Excel文書の「遺物登録台帳」を作成し、二次整理作業を進めるための基本情報とした。接合作業を行う土器は、遺物カードの情報の一部を直接遺物に「注記」した。内容は「遺跡名：地区名：出土地点：出土層位：遺物番号」である。礫石器やレキは多数出土し、使用・加工痕が不明瞭なもの、破片化したもの、脆弱な岩石で土と化したもの等もあり、これらには特定できない礫石器の一部もあると思われる。一次整理では、これらの礫石器・レキの総体を勘案し、一部は現場でカード作成・遺物台帳登録までの記録を作成した後、現場で廃棄し、これらは遺物登録台帳の備考欄に「現場（で）観察」と記載した。

### (2) 二次整理の方法

#### ・土器

土器の接合作業は、残存状態が「良好」・「剥離」のものを中心に行い、遺構出土土器の接合は遺構内、遺構間、遺構が位置するグリッド、周辺のグリッドへと展開し、包含層出土のものは、破片が多いグリッドから周囲へ広げるように進めた。接合した破片は復原可能なものを接着し復原し、立面図等の実測図を作成した。破片は、特徴が認識しやすい口縁部や底部の破片を中心に選び出し、拓影図と垂直方向の断面図を組み合わせて図示した。すべての掲載土器は観察表を作成した。

#### ・石器等

石器等は、残存状態が「完形」・「準完形」のものを中心に、器種や形態の多様性を示せることを考慮して、掲載する石器を選び出し、実測図と観察表を作成した。

## 5. 遺物の分類基準

土器は、表6「土器時期分類基準」・表7「土器部位分類基準」・表8「土器残存状態分類基準」で、石器等は表9「石器等器種分類基準」・表10「石器等残存状態分類基準」・表11「岩石分類体系表」・表12「岩石（石材）の略号」で分類した。

（末光）

表6 土器時期分類基準

種別	時代	時期	群	類	土器群・型式名
土器	縄文時代	早期	I群	a類	貝殻文・条痕文・沈線文を有する土器群
				b類	東細路式系土器群
		前期	II群	a類	縄文尖底土器群
				b類	円筒土器下層式 それに伴う土器群
		中期	III群	a類	円筒土器上層式・サイベ沢Ⅷ式 萩ヶ岡1式・萩ヶ岡2式に相当する土器群
				b類	萩ヶ岡3(天神山式)・柏木川式 北筋式に相当する土器群
		後期	IV群	a類	余市式・タブコブ式・入江式に相当する土器群
				b類	ウサクマイC式・手稲式・ホクマ式に相当する土器群
				c類	堂林式・三ツ谷式・御殿山式に相当する土器群
		晩期	V群	a類	大洞B式・大洞BC式 それに伴う土器群
				b類	大洞C1式・大洞C2式 それに伴う土器群
				c類	大洞A式・大洞A'式 それに伴う土器群
	縄文時代	VI群	縄文式土器		
弥文時代	VII群	弥文土器			
時期不明・ 判断不可能なもの	不明	剥離や磨耗、小破片が多い			

表7 土器部位分類基準

部位・名称	内容
口縁部	・口唇部が残存するもの ・口唇部は残存しないが、これに近い部位と判断できるもの
底部	・底面が残存するもの ・底面は残存しないが、これに近い部位と判断できるもの
胴部	・口縁部、底部、不明以外のもの
不明	・部位を特定できないもので、小破片が多い

表8 土器残存状態分類基準

呼称	内容	備考
良好	・器の形状を留める個体土器 ・破片の表裏面及び割れ口の残存状態が良いもの	・接合可能な破片 ・文様等が残り、時期判断等に有効な情報が多い
剥離	・破片の表裏面のいずれか、あるいは両面が 約1/2以上剥離・剥落しているもの	・接合可能な破片 ・文様が残る場合、時期判断等に有効な情報を有する ・剥離面は粘土の観察に通ずる ・破片化した後、人為的に加工されたものもある(再生土製品)
磨耗	・破片が磨耗しているもの	・磨耗した割れ口は接合に耐えられない ・文様等の磨滅により、破片そのものの情報は少ない ・遺物の二次的な移動を考える上で有意な情報を有する ・破片化した後、人為的に加工されたものもある(再生土製品)
小破片	・大きさが長径2cm程度以下の小さな破片	・破片が小さいため接合に通さず、復原作業に与える影響も少ない ・破片そのものの情報は少ない ・小さいため注記できないものもある ・ある破片に接合した場合、接合関係についての情報が得られる

表9 石器等器種分類基準

分類	器種・名称	備考	主要な石材
剥片石器	石鏃		黒曜石 頁岩 等
	石槍・ナイフ		
	石鏟		
	つまみ付きナイフ	「石匙」	
	スクレイパー		
	U・Rフレイク	定型的な形態を有さないが、人為的な使用痕・加工痕が認められるフレイク U=utilized R=retouched	
	石核		
	フレイク・チップ		
礎石器	原石		泥岩 片岩 等
	磨製石斧		
	磨製石斧原石		安山岩 砂岩 凝灰岩 等
	たたき石		
	すり石		
	北海道式石冠		
	石錘		
	砥石		
台石・石皿			
石製品	名称・通称	玉 根棒形石器	タルク岩 等
礎	U・Rレキ	人為的な使用痕・加工痕が認められる礎 U=utilized R=retouched	各種
	レキ	自然礎で、遺跡に人為的に持ち込まれたと考えられるもの	

表10 石器等残存状態分類基準

分類	分類	内容
剥片石器・石製品	完形	残存する部分が90%以上のもの
	準完形	「完形」と「半形」の中間的なもの 完形に近いもの
	半形	残存する部分が50～25%程度のもの
	片	残存する部分が25%程度未満のもの
礎石器	完形	大きな割れ口が無いもの。割れ口を有しても機能部が損なわれていないもの
	準完形	割れ口があり、完形の状態を想定でき、残存する部分が75%程度のもの
	半形	割れ口があり、完形の状態を想定でき、残存する部分が50～25%程度のもの
	片	割れ口があり、完形の状態を想定し難く、残存する部分が25%程度未満のもの
礎	完形	割れ口のないもの
	片	割れ口があるもの

表11 岩石分類体系表

火成岩		優白岩(酸性)	中性岩(中性)	優黒岩(塩基性岩)	超塩基性岩
火山岩	火山噴出物(多孔質)	溶岩(地表に出たマグマが冷え固まったもの)			
	ガラス質(非結晶質)石基のみ	浮岩(軽石)	岩滓(スコリア)		—
	斑状組織 微晶石基	黒曜岩(石)	—	—	—
半深成岩	斑状組織 微晶	流紋岩	安山岩	玄武岩	—
深成岩	等粒状組織 完結晶	石英斑岩	ヒン岩	輝緑岩	—
	斑状組織 微晶	花崗岩	閃緑岩	斑輝岩	橄輝岩 蛇紋岩
	二酸化ケイ素(ケイ酸 SiO <sub>2</sub> )	66%以上	52~66%	52%以下	45%以下
	有色造岩鉱物(色指数)	10%以下	10~30%	30%以上	60~70%以上
	主体的な有色造岩鉱物	黒雲母	輝石		橄輝石 蛇紋石
	主体的な無色造岩鉱物	石英 斜長石	角閃石	橄輝石	—
			斜長石		—
堆積岩					
火山砕屑岩		: 火山噴出物から構成される			
	火山角礫岩	: 32mm以上の火山噴出物(火山岩塊)50%以上含む			
	凝灰角礫岩	: 32mm以上の火山噴出物(火山岩塊)50%未満含む			
	火山礫凝灰岩	: 2~32mmの火山噴出物(火山礫)から主体的に構成される			
	凝灰岩(溶結凝灰岩)	: 2mm以下の火山噴出物(火山礫)から主体的に構成される			
砕屑岩		: 丸みを帯びた鉱物片、岩片等から構成され「層理」がみられる			
	礫岩	: 粒度区分上の礫を50%以上含む			
	角礫岩	: 含有する礫が角ばっている(歪角~角礫状)もの			
	砂岩	: 粒度区分上の砂を50%以上含む			
	泥岩	・ 砂の粒度により「粗粒」、「細粒」に、硬さにより「硬質」、「軟質」等に分けられる : 粒度区分上の泥(シルト+粘土)50%以上から構成される ・ 粒度区分から「シルト岩」と「粘土岩」に分けられる			
	頁岩	: 泥岩で固結が強く、貝殻状の割れ口を呈するもの			
	珪質頁岩	: 頁岩で透明な石英(ケイ酸 SiO <sub>2</sub> )部分を含むもの			
	粘板岩・千枚岩	: 堆積岩と変成岩の中間的なもの			
有機岩					
	チャート	: 潜晶質石英(SiO <sub>2</sub> ) ・ 有機質(生物遺体) ・ 無機質			
変成岩		: 変成鉱物から構成される 結晶質			
接触(熱)変成岩		: 熱による変成作用を受けたもの			
	ホルンフェルス	: 堆積岩が熱変成作用を受け、微粒状組織となったもの			
広域変成岩		: 熱・圧力による変成作用を受けたもの			
	片岩	: 再結晶化により「片理」がみられるもの			
	片麻岩	: 再結晶化が進行し、「板状変晶」や「片麻状組織」がみられるもの			
石製品・玉類の石材					
超塩基性岩					
	蛇紋岩	: 蛇紋石・橄輝石を主成分とするもの 橄輝岩等が変成したもの			
蛇紋岩からの変成岩					
	ロジン岩	: 蛇紋岩化作用により、生じる変成岩			
	緑泥石岩 (緑泥片岩 緑色片岩)	: 輝石・角閃石・黒雲母等の二次変質により生じる鉱物(緑泥石)を主成分とする岩石			
	タルク岩(滑石片岩)	: 橄輝岩・輝石・角閃石等の二次変質により生じる鉱物(滑石)を主成分とする岩石			
鉱物等					



\* 石英質(ケイ酸 SiO<sub>2</sub>)の岩石・鉱物の便宜的な分類体系

堆積岩	チャート	
	フリント	: チャートのうち、明瞭な貝殻断口を呈するもの 火打ち石
	珪質頁岩	
	珪藻岩	: 珪質の岩石が熱・圧力による変成作用を受け、極微細の石英集合体となったもの
変成岩	珪岩(珪石)	: 珪藻類のケイ酸質遺骸が堆積し生じたもの
	珪物	
鉱物	水晶	: 無色透明の石英 結晶質
	碧玉	: 超微晶質の石英で酸化鉄を多量に含む 不透明 暗緑~緑褐色
	玉髄	: 超微晶質の石英で比較的均質なもの 淡褐~灰色
	めのう	: 超微晶質 繊維状・縞状 不透明 玉髄の一種

表12 岩石(石材)の略号

大項目	小項目	岩石名	英語名	略号
火成岩	火山噴出物	軽石(浮岩)	Pumice	Pum
		岩滓(スコリア)	Scoria	Sco
	溶岩	溶岩	Lava	Lav
	火山岩	黒曜石(黒曜岩)	Obsidian	Obs
		流紋岩	Rhyolite	Rhy
		安山岩	Andesite	And
		玄武岩	Basalt	Bas
	深成岩	花崗岩	Granite	Gra
		閃緑岩	Diorite	Dio
		斑禰岩	Gabbro	Gab
堆積岩	火山砕屑岩	火山礫凝灰岩	Lapilli Tuff	Ltu
		凝灰岩	Tuff	Tuf
	砕屑岩	礫岩	Conglomerate	Con
		砂岩	Sandstone	San
		泥岩 (綠色泥岩)	Mudstone (Green Mudstone)	Mud (Gr. Mud)
		頁岩	Shale	Sha
		チャート	Chert	Che
		粘板岩	Slate	Sla
		片岩	Schist	Sch
変成岩	片麻岩	Gneiss	Gns	
	ホルンフェルス	Hornfels	Hor	
超塩基性岩	蛇紋岩	Serpentine	Ser	
	橄欖岩	Pertidotite	Per	
上記以外	和名(漢字)で表記			

## IV章 遺構

### 1. 概要 (図14)

遺構は、竪穴住居跡(H)20軒、土坑(P)39基、Tピット(TP)4基、焼土(F)16か所、石組炉(SF)12か所、土器集中(PS)10か所、フレイク集中(FC)4か所、礫集中(S)2か所、骨片集中(B)3か所、炭化物集中(C)4か所を調査した。北側の高位の段丘(A地区)と中位の段丘(B地区)に多く、Ⅷ層が地山の低位の段丘(C地区)には少ない。時期は縄文時代中期後半から後期前葉が多く、晩期前葉のものもある。AとB地区の北西側～中央付近は、住居跡が位置する場所とその周囲に石組炉や焼土、遺物集中がみられ、遺構が存在しない場所もある。東側部分とB地区の南側は、この状況とは異なり、小型の住居跡や土坑が比して散在的にみられる。最南部に位置するH-10は、低位部に突き出す台地にみられ、周囲に遺構は少ない。また、Ⅷ層のC地区は土坑が1基である。

竪穴住居跡は楕円形で長径3m程度(小型)、5～7m(中型)、7m以上(大型)の三つに大別できる。前二者は先端部ピットをもつものがあり、大型は周囲に掘り上げ土がみられる。炉跡は地床炉が多く、石組炉、土器囲い炉もみられ、H-14・15は重複する。

土坑は円形または楕円形で、礫石器やレキが出土するものが多い。Tピットは溝状、楕円形がある。焼土は地山のⅦ・Ⅷ層が橙色を呈するため、やや確認に難渋した。石組炉は、長方形、楕円形があり、掘り方(土坑状の掘り込み)を有する。土器集中は古いものからⅡ群；PS-5、Ⅳ群；PS-2・3・4・6・7・9・10、Ⅴ群；PS-1・8である。

フレイク集中はFC-1～3が近接し、FC-4は比して広い範囲である。礫集中は2か所で、堆積岩の礫石器、U・Rレキが集中する。骨片集中は多くがシカの焼骨と考えられる。

(末光)

### 2. 竪穴住居跡 (図15～56 表13～14 図版2～22)

H-1 (図15・16 表13・14 図版2)

位置 L・M-36・37区 規模 6.34×4.66/5.74×4.22/0.68m 平面形態 楕円形

確認・調査 平成26(2014)年度は南側の約四分の三を調査した。包含層調査中、V層でTa-cが堆積するくぼみがみられた。遺構と予想し、くぼみ中央で十字に交差する土層観察用のベルトを設定し、周囲を掘り下げた。平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、竪穴住居跡と判断した。その後、付属遺構を調査した。平成28(2016)年度は北側部分を調査した。V層で半円状に黒褐色土がみられ、全体を掘り下げた。

覆土 六つに分層した。黒～黒褐色土の第3層が主体で、壁際に部分的に暗褐色土の第6層、最下層に薄く黒褐色土の第5層が堆積する。

床面・壁 床面は概ね平坦で、南側は一部低く、壁は曲線的である。

付属遺構 焼土(地床炉)1か所、土坑3基、柱穴・杭穴2か所を調査した。

焼土(地床炉) hf-1 規模 0.68×0.64/0.08m 平面形態 円形

中央より南側部分の長軸上で確認し、炭化物が混ざる黒褐色土がみられた。土の一部を採取し、フローテーション法により、骨片や微細なフレイクを回収した。

土坑 hp-1 規模 0.90×0.78/0.68×0.60/0.30m 平面形態 楕円形

49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

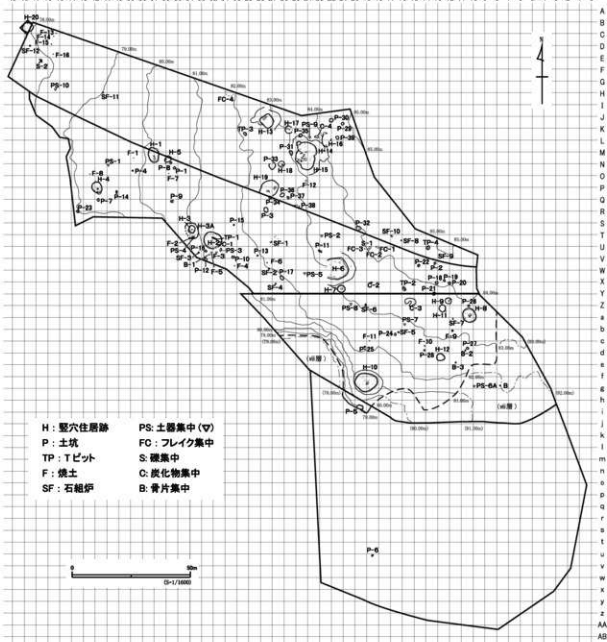


図14 遺構位置図・V層上面地形測量図

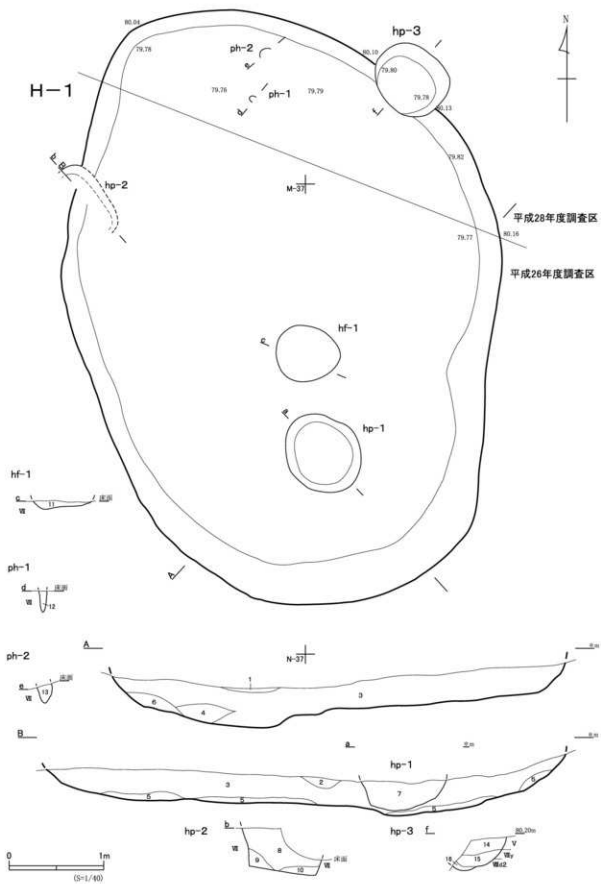
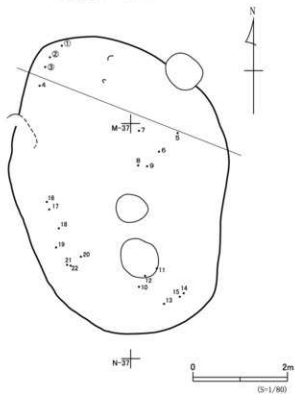


図15 H-1(1)

# H-1 遺物出土分布



遺物 番号	土層 (石段・埋蔵)	発見 位置	形状 (長さ×幅)	材質 / 重量	出土 高さ	出土 層	出土 深さ (cm)	用途	備考
1	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
2	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
3	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
4	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
5	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
6	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
7	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
8	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
9	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
10	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
11	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
12	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
13	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
14	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
15	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
16	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
17	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
18	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
19	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
20	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
21	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
22	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---

遺物 番号	土層 (石段・埋蔵)	発見 位置	形状 (長さ×幅)	材質 / 重量	出土 高さ	出土 層	出土 深さ (cm)	用途	備考
1	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
2	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
3	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
4	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
5	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
6	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
7	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
8	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
9	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
10	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
11	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
12	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
13	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
14	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
15	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
16	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
17	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
18	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
19	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
20	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
21	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---
22	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---

遺物番号 行頭遺物番号	発見 番号	発見 位置	遺物(土層/埋蔵)				埋蔵深さ(埋蔵)				埋入 層	備考	
			形状 (長さ×幅)	材質 / 重量	出土 高さ	出土 層	埋蔵 深さ (cm)	埋蔵 層	埋蔵 深さ (cm)	埋蔵 層			
H-1	1	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---	---	---	---
H-1	2	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---	---	---	---
H-1	3	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---	---	---	---
H-1	4	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---	---	---	---
H-1	5	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---	---	---	---
H-1	6	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---	---	---	---
H-1	7	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---	---	---	---
H-1	8	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---	---	---	---
H-1	9	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---	---	---	---
H-1	10	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---	---	---	---
H-1	11	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---	---	---	---
H-1	12	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---	---	---	---
H-1	13	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---	---	---	---
H-1	14	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---	---	---	---
H-1	15	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---	---	---	---
H-1	16	埋蔵	埋蔵地	1	埋蔵	---	---	---	---	---	---	---	---

図16 H-1(2)

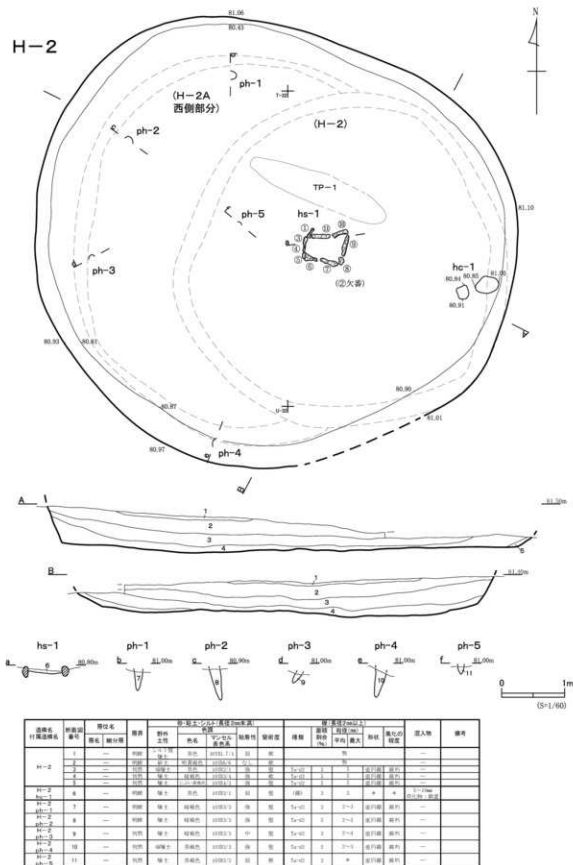
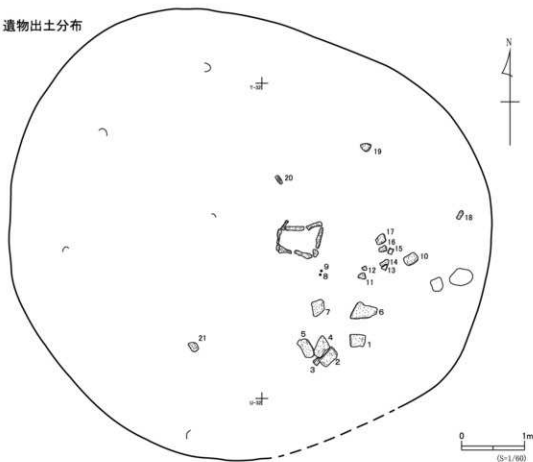


図17 H-2(1)

H-2 遺物出土分布



H-2										H-2									
遺物	品名	種類	数量	出土地	面積	深さ	状態	備考	備考	遺物	品名	種類	数量	出土地	面積	深さ	状態	備考	備考
1	石片	石器	1	1	0.1	0.1	破損			1	石片	石器	1	1	0.1	0.1	破損		
2	石片	石器	1	2	0.1	0.1	破損			2	石片	石器	1	2	0.1	0.1	破損		
3	石片	石器	1	3	0.1	0.1	破損			3	石片	石器	1	3	0.1	0.1	破損		
4	石片	石器	1	4	0.1	0.1	破損			4	石片	石器	1	4	0.1	0.1	破損		
5	石片	石器	1	5	0.1	0.1	破損			5	石片	石器	1	5	0.1	0.1	破損		
6	石片	石器	1	6	0.1	0.1	破損			6	石片	石器	1	6	0.1	0.1	破損		
7	石片	石器	1	7	0.1	0.1	破損			7	石片	石器	1	7	0.1	0.1	破損		
8	石片	石器	1	8	0.1	0.1	破損			8	石片	石器	1	8	0.1	0.1	破損		
9	石片	石器	1	9	0.1	0.1	破損			9	石片	石器	1	9	0.1	0.1	破損		
10	石片	石器	1	10	0.1	0.1	破損			10	石片	石器	1	10	0.1	0.1	破損		
11	石片	石器	1	11	0.1	0.1	破損			11	石片	石器	1	11	0.1	0.1	破損		
12	石片	石器	1	12	0.1	0.1	破損			12	石片	石器	1	12	0.1	0.1	破損		
13	石片	石器	1	13	0.1	0.1	破損			13	石片	石器	1	13	0.1	0.1	破損		
14	石片	石器	1	14	0.1	0.1	破損			14	石片	石器	1	14	0.1	0.1	破損		
15	石片	石器	1	15	0.1	0.1	破損			15	石片	石器	1	15	0.1	0.1	破損		
16	石片	石器	1	16	0.1	0.1	破損			16	石片	石器	1	16	0.1	0.1	破損		
17	石片	石器	1	17	0.1	0.1	破損			17	石片	石器	1	17	0.1	0.1	破損		
18	石片	石器	1	18	0.1	0.1	破損			18	石片	石器	1	18	0.1	0.1	破損		
19	石片	石器	1	19	0.1	0.1	破損			19	石片	石器	1	19	0.1	0.1	破損		
20	石片	石器	1	20	0.1	0.1	破損			20	石片	石器	1	20	0.1	0.1	破損		
21	石片	石器	1	21	0.1	0.1	破損			21	石片	石器	1	21	0.1	0.1	破損		

図18 H-2(2)





#### 土坑（先端部ビット）

h p-2 規 模 (0.80) × (0.20) / 0.64 × (0.10) / (0.50) m 平面形態 長楕円形？

h p-3 規 模 0.80 × 0.68 / 0.62 × 0.54 / 0.36 m 平面形態 楕円形

h p-1 は南側部分で確認し、曲線的な断面形状である。坑底面が覆土中に位置するので、本住居跡の付属遺構と断定しがたい。h p-2 は西側、h p-3 は北東側の壁際で確認した。いずれも住居跡外へ突出する形状で、坑底面はh p-2 が平坦で、h p-3 は曲線的である。

#### 柱穴・杭穴

p h-1 規 模 0.08 / 0.22 m 平面形態 円形

p h-2 規 模 0.14 / 0.20 m 平面形態 円形

どちらも北側部分で確認し、先端部は尖る。

**遺物出土状況** 床面からスクレイパー、砥石、台石・石皿、U・Rレキが出土し、h f-1からは砥石が出土した。覆土からはIV群土器が出土し、礫石器が多くみられた。

**時 期** 出土遺物から縄文時代後期初頭と判断される。

(奥山・愛場)

#### H-2 (図17~19 表13・14 図版3)

位 置 S・T・U-31・32区 規 模 7.70 × 6.92 / 7.24 × 6.34 / 0.58 m

平面形態 楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、V層でT a-cが堆積するくぼみがみられた。くぼみの中央で十字に交差する土層観察用のベルト（断面図A・B）を設定し、これ沿いにトレンチを掘り下げたところ、平坦な面がみられ、これを追いかけて周辺へ掘り広げた。石組炉が見つかったので、竪穴住居跡と判断した。当初、石組炉が中央にある円形の住居跡と想定したが、北西側に覆土が続くことがわかり、トレンチ（断面図A）を北西方向に延長し、土層断面を確認したところ、別の壁の立ち上がりみられた。二軒の重複と考え、石組炉のある南東側をH-2、北西側をH-2 Aとして調査した。その後、検出した壁を再調査したところ、全周の壁がさらに広がる事が判明し、かつ、平坦な床面が広がることから、単独の住居跡と結論づけた。

**覆 土** 五つに分層した。第2層はT a-c主体で厚く堆積する。その下位の第3層は黒色土主体で、最下位の第4層は暗褐色土である。北西側の壁際には黄褐色土が部分的にみられる。

**床面・壁** 床面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

**付属遺構** 石組炉1か所、柱穴・杭穴5か所、炭化物集中1か所を調査した。

石組炉 h s-1 規 模 0.70 × 0.60 / 0.12 m 平面形態 長方形

中央よりやや南東側部分の長軸上で、レキが長方形にみられた。内部を半載し、炭化物を含む黒色土を確認した。土の一部を採取し、フローテーション法により、黒曜石のフレイクや炭化物を回収した。

#### 柱穴・杭穴

p h-1 規 模 0.14 / 0.30 m 平面形態 円形

p h-2 規 模 0.14 / 0.48 m 平面形態 円形

p h-3 規 模 0.10 / 0.12 m 平面形態 円形

p h-4 規 模 0.18 / 0.44 m 平面形態 円形

p h-5 規 模 0.08 / 0.10 m 平面形態 円形

p h-5 は中央付近、これ以外は西側の壁近くに位置する。

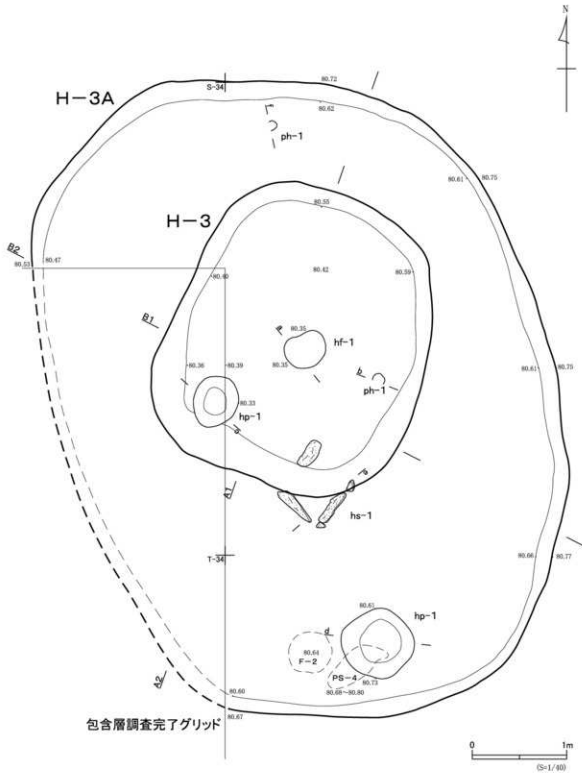
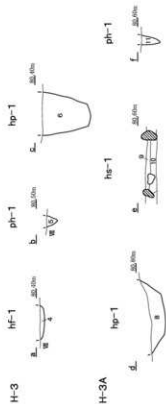
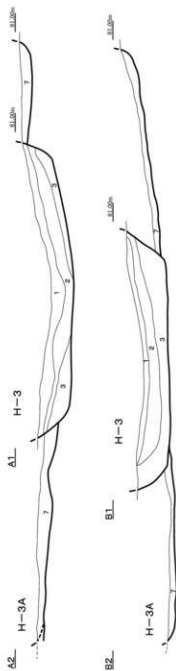


図20 H-3(1)



測点番号	測点名称	測点位置	測点高さ	測点形状	測点直径	測点面積	測点容積	測点重量	測点種類	測点状態	測点備考
1	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
2	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
3	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
4	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
5	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
6	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
7	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
8	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
9	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
10	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
11	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

測点番号	測点名称	測点位置	測点高さ	測点形状	測点直径	測点面積	測点容積	測点重量	測点種類	測点状態	測点備考
H-2	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
H-3	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
H-3A	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
hp-1	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
hs-1	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
ph-1	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
hp-2	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
hp-3	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
hp-4	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
hp-5	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
hp-6	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
hp-7	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
hp-8	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
hp-9	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
hp-10	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
hp-11	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

図21 H-3(2)



炭化物集中 h c - 1 (東側) 規 模 0.36 × 0.28 m 平面形態 楕円形  
(西側) 規 模 0.21 × 0.18 m 平面形態 楕円形

南東側の壁際でまとまりが2か所みられた。

**重 複** T P - 1 と重複する。住居跡の床面を検出した後に発見したので、新旧関係は不明である。  
**遺物出土状況** 床面出土はⅣ群土器、磨製石斧、U・Rレキがあり、土器は包含層出土のものと同接合し、復原できた(図113-1)。住居跡の東側部分の覆土からは礫石器が多数出土した。  
**時 期** 住居跡の構造や出土遺物から縄文時代後期初頭と判断される。h s - 1の炭化物の放射性炭素年代測定結果は4440calBP-4286calBP(90.1%) (2σ暦年代)で、縄文時代後期初頭から中葉である。

H-3・3A(図20-22 表13・14 図版4・5)

H-3(図版4)

位 置 S-33・34区 規 模 3.16 × 2.78/2.66 × 2.40/0.53 m 平面形態 隅丸長方形

H-3A(図版5)

位 置 R-34、S・T-33・34区 規 模 7.12 × (5.26)/6.80 × (5.06)/0.40 m

平面形態 楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、V層のくぼみにT a - cがみられた。くぼみを通るよう南北方向(断面図A1)と東西方向(断面図B1)の十字に土層観察用ベルトを設定し、これ沿いにトレンチを掘り下げたところ、平坦な面と壁の立ち上がりがみられたので、竪穴住居跡(H-3)と判断した。H-3の調査完了後の包含層調査中、本住居跡の周囲で楕円形の土がみられた。H-3の両方向のベルトを延長(断面図A2・断面図B2)し、これに沿ってトレンチを設けたところ、平坦な面と壁の立ち上がり、石組炉を確認したので、これを竪穴住居跡H-3Aとした。H-3とH-3Aは床面の高さが異なり、南西側部分は包含層調査で掘り下げてしまった。重複する二軒か、単独なのか判断できなかった。

**覆 土** H-3は三つに分層した。上位は黒褐色の第1・2層で、壁際や最下位は暗褐色土の第3層が堆積する。H-3Aは黒褐色土主体である。

**床面・壁** H-3の床面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。H-3Aの床面は一部凹凸があり、西側に傾斜し、壁は曲線的である。

**付属遺構**

H-3 焼土(地床炉)1か所、土坑1基、柱穴・杭穴1か所を調査した。

焼土(地床炉) h f - 1 規 模 0.44 × 0.38/0.04 m 平面形態 楕円形  
中央付近で確認し、黒色土に炭化物が混ざる。

土坑 h p - 1 規 模 0.78 × 0.48/0.28 × 0.24/0.52 m 平面形態 楕円形  
南西側の壁際で確認した。坑底面は曲線的で、壁は直立気味に立ち上がる。

柱穴・杭穴 p h - 1 規 模 0.12/0.12 m 平面形態 円形  
東側部分で確認し、先端部は尖る。

H-3A 石組炉1か所、土坑1基、柱穴・杭穴1か所を調査した。

石組炉 h s - 1 規 模 0.72 × 0.70/0.12 m 平面形態 正方形

中央よりやや南側部分の長軸上で確認した。石組は「コ」の字状で、北西側部分のレキは、当初H-3の遺物として取り上げた。炭化物を含む黒色土で、土の一部を採取し、フローテーション法により、黒曜石のフレイクと炭化物を回収した。

**土坑 h p-1 規 模** 0.78×0.76/0.44×0.46/0.28m **平面形態** 円形

南側の壁際で確認した。坑底面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

**柱穴・杭穴 p h-1 規 模** 0.10/0.20m **平面形態** 円形

北側の壁際で確認し、先端部は尖る。

#### 遺物出土状況

H-3の床面出土は、石槍・ナイフ、フレイク、磨製石斧、すり石、砥石、U・Rレキ、レキである。覆土から出土したIV群は底部付近が復原できた(図113-2)。H-3Aの石組炉のレキは砥石、台石・石皿、U・Rレキなどである。覆土からは礫石器が多く出土し、IV群土器もみられた。

**重 複** H-3とH-3Aが別であれば重複するが、新旧関係は不明である。またF-2、P S-4は単独の遺構として調査したが、平面がH-3A内で、かつh p-1の近くであるので、H-3Aの付属遺構の可能性もある。

**時 期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断され、H-3A・h s-1の炭化物の放射性炭素年代測定結果は4440calBP-4290calBP (91.7%) (2σ暦年代)で、縄文時代後期初頭から中葉である。

(奥山)

H-4 (図23~25 表13・14 図版6)

**位 置** O・P-41・42区 **規 模** 4.97×4.16/4.59×3.74/0.31m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、V層でT a-cの堆積がみられた。この中央を通る北西から南東方向のトレンチを設け掘り下げたところ、石組炉がみられた。このトレンチを両側に延長し、さらにこれと交わるトレンチを設定し掘り進めた。トレンチ内で住居跡の床面や壁を把握し、周囲に掘り広げるように調査した。床面は、石組炉や上位の覆土からⅣ d 2 (T a-d 2) 層中と考えた。この層は、しまりのない砂礫が主体であったので、T a-d 2を主とする覆土(第5層)との区別が困難であった。当初、この第5層を地山と判断し、黒色土が混じる覆土1~3層を掘り上げた時点で土層断面を記録したが、南東側以外の壁を誤認していた。その後、壁と判断したT a-d 2主体の層から遺物が出土したので、これも覆土と考え、T a-d 2主体の覆土第5層を掘り上げて完掘した。その後、付属遺構を調査した。

**覆 土** 五つに分層した。上位の第1~3層は黒色で、壁と誤認した第5層はT a-d 2主体で、遺物の取り上げ層位は「覆土」とのみ表記した。

**床面・壁** 床面は概ね平坦であるが一部低く、直線の壁は開き気味に立ち上がる。

**付属遺構** 石組炉1か所、土坑2基、柱穴・杭穴9か所、土器集中1か所、段構造を調査した。

**石組炉 h s-1**

**規 模** 石 組 : 0.65×0.60m **平面形態** 正方形

掘り方 : 0.82×0.57m **平面形態** 一部が突出する楕円形

焼 土 : 0.27×(0.19)/0.05m **平面形態** 楕円形

中央よりやや南側部分で、「U」字状の石組と、突出する部分を有する楕円形の掘り方を確認した。突出する北側部分は石組がない。掘り方は黒色土主体で炭化物がみられ、下位では明褐色を呈する焼土(h f-1)を確認できたが、地山の色調に類似する。土の一部を採取し、フローテーション法により、微細なフレイクを回収した。

**土坑 (先端部ビット)**

**h p-1 規 模** 0.67×0.51/0.64×(0.24)/0.16m **平面形態** 楕円形

**h p-2 規 模** 0.67×0.48/0.40×(0.14)/0.29m **平面形態** 楕円形

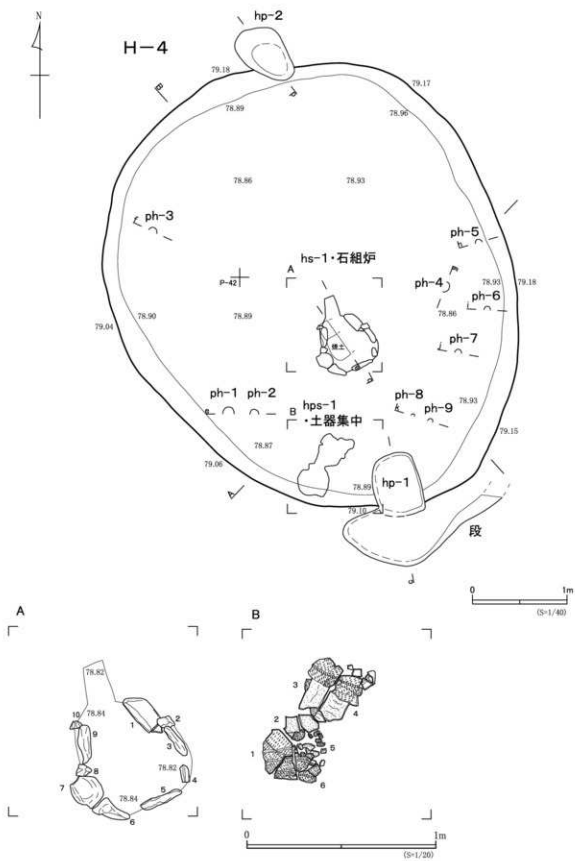


図23 H-4(1)





# H-4 遺物出土分布

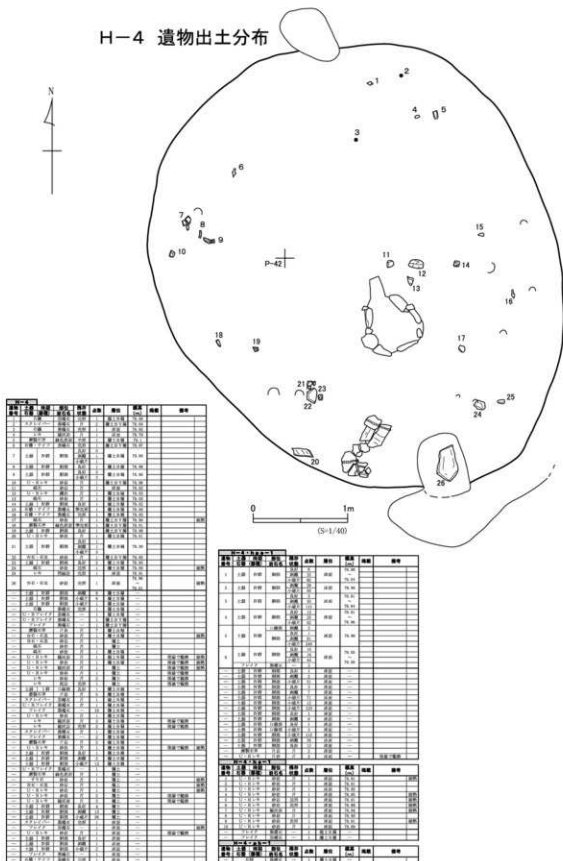


図25 H-4 (3)

南北両側部分で1基ずつ確認した。南側のh p-1は浅く、壁は直立気味に立ち上がり、坑底面は平坦である。北側のh p-2は壁・坑底面ともに曲線的である。

#### 柱穴・杭穴

p h-1	規 模	0.12/0.57 m	平面形態	円形
p h-2	規 模	0.09/0.17 m	平面形態	円形
p h-3	規 模	0.09/0.13 m	平面形態	円形
p h-4	規 模	0.11/0.18 m	平面形態	円形
p h-5	規 模	0.07(0.04)/0.33 m	平面形態	円形
p h-6	規 模	0.07/0.31 m	平面形態	円形
p h-7	規 模	0.08/0.11 m	平面形態	円形
p h-8	規 模	0.04/0.07 m	平面形態	円形
p h-9	規 模	0.05/0.10 m	平面形態	円形

柱穴・杭穴の確認は、完掘した住居跡の壁と床面を掘り広げた後、みられた黒色土をすべてトレンチで半截して行い、9か所みつかった。いずれも先端部が尖る。

#### 土器集中 h p s-1 規 模 0.76×0.34 m

南側部分のh p-1のそばで、2個体がまとまって出土した。脆弱で剥離や小破片化が著しい。口縁部から胴部までの2個体が復原できた(図113-3・4)。

#### 段 規 模 (1.70)×0.72/(1.64)×(0.64)/0.26 m 平面形態 不整な楕円形

南側のh p-1に近接する住居跡の外部で、不整な楕円形の黒色土がみられた。土層断面では、h p-1の覆土と同じである。出入り口等の構造と推測される。

**遺物出土状況** 床面や覆土からIV群土器、石鏃、石槍・ナイフ、スクレイパー、磨製石斧、砥石、台石・石皿等が出土した。床面は中央付近に遺物が少なく、壁近くから遺物が出土した。

**時 期** 住居跡の構造や出土土器から縄文時代後期前葉と判断される。h s-1 焼土(h f-1)の炭化物の放射性炭素年代測定結果は4725calBP-4530calBP(69.5%)(2σ暦年代)で、縄文時代中期中葉から後葉である。

(末光)

#### H-5(図26 表13・14 図版7)

**位 置** M-35・36区 **規 模** 3.02×2.28/2.80×1.98/0.22 m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 平成26(2014)年度は南側の約三分の二を調査した。包含層調査終了後、楕円形の黒色土がみられた。遺構と予想し、中央付近に北東から南西方向の土層観察用のベルトを残し、周囲を掘り下げた。平坦な面と壁の立ち上がり、地床炉などがみつかったので、堅穴住居跡と判断した。その後、付属遺構の調査を行った。平成28(2016)年度は北側の壁付近を調査した。北東から南西方向の土層観察用のベルトを残し、周囲を掘り下げ、床面と壁の立ち上がりを確認した。

**覆 土** 二つに分層した。上位は黒色土が主体で、下位はT a - d 2を含む褐色土が薄く堆積する。

**床面・壁** 床面は平坦で、壁は曲線的である。

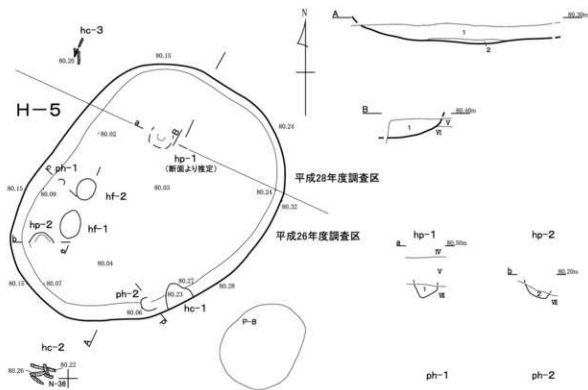
**付属遺構** 焼土(地床炉)2か所、土坑2基、柱穴・杭穴2か所、炭化物集中3か所を調査した。

#### 焼土(地床炉)

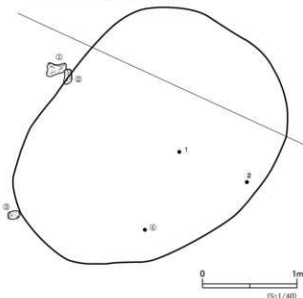
h f-1 規 模 0.28×0.22/0.05 m 平面形態 楕円形

h f-2 規 模 0.24×0.18/0.06 m 平面形態 楕円形

西側部分で並んでみられ、炭化物を含む黒色土であった。土の一部を採取し、フローテーションを



### H-5 遺物出土分布



遺物	土層	位置	材質	形状	数量	単位	高さ (m)	図面	備考
1	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
2	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
3	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
4	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
5	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
6	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
7	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
8	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
9	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
10	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
11	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
12	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
13	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
14	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
15	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
16	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
17	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
18	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
19	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
20	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
21	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
22	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
23	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
24	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
25	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
26	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
27	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
28	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
29	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
30	11	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		

遺物名	土層	位置	材質	形状	数量	単位	高さ (m)	図面	備考
H-5	1	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
H-5	2	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
ph-1	1	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
ph-2	2	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
hf-1	3	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
hf-2	4	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
hc-1	5	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
hc-2	6	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		
hc-3	7	北西	磁器	茶碗	1	個	30.30		

図26 H-5

行った結果、h f-1からフレイクを回収した。

#### 土坑

h p-1 規 模 \* × (0.24) / \* × (0.08) / 0.16 m 平面形態 円形?

h p-2 規 模 0.26 × (0.10) / 0.18 × (0.08) / 0.12 m 平面形態 不整な円形

h p-1は北側部分、h p-2は南西側の壁際で確認した。いずれも坑底面が傾斜する。h p-1は調査区境で、土層断面で発見したが、平成28(2016)年度の調査では、平面の確認に努めたが、みられなかった。

#### 柱穴・杭穴

p h-1 規 模 0.08 / 0.14 m 平面形態 円形

p h-2 規 模 0.16 / 0.20 m 平面形態 円形

p h-1は西側の壁際、p h-2は南東側の壁際で見つかり、先端部は尖る。

#### 炭化物集中

h c-1 規 模 0.28 × 0.28 m

h c-2 規 模 0.28 × 0.20 m

h c-3 規 模 0.28 × 0.08 m

h c-1は南東側部分の壁際で確認し、h c-2・3は本住居跡を掘り上げる前に、内部に位置するとの見込みで付したが、住居跡外であった。

**遺物出土状況** 床面出土はIV群土器、U・Rフレイクがある。覆土からはたたき石、北海道石冠、台石・石皿など礫石器やU・Rレキが多く出土する。

**時期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。本住居跡近くのh c-2の放射性炭素年代測定結果は4238calBP-4081calBP(90.6%)(2σ暦年代)で、縄文時代後期初頭から中葉である。

(奥山・愛場)

H-6 (図27-31 表13・14 図版8)

**位置** U-21、V・W-20~22区 掘り上げ土を含む：U-X-20~22区

**規模** (9.04) × 9.20 / 8.72 × 8.44 / (0.84) m

掘り上げ土を含む：(12.10) × (13.60) m

**平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、V層がくぼみ、その中央にT a-cの堆積がみられた。遺構と予想し、中央で十字に交差する土層観察用ベルトを残し、これに沿ってトレンチを掘り進めた。平坦な面と壁の立ち上がりを確認したため、堅穴住居跡と判断した。西側部分は町道から南へのびる道路により削平される。付属遺構を調査後、掘り上げ土の平面を調査し、トレンチを数か所設けて、土層断面を記録した。

**覆土** 三つに分層した。上位は明黄褐色土が堆積し、中位はT a-cとT a-d 2を含む黒色土、最下位はT a-d 2を含む黒褐色土である。

**床面・壁** 床面はやや凹凸があり、壁は曲線的である。

**付属遺構** 掘り上げ土、外部柱穴・杭穴2か所、柱穴・杭穴10か所、炭化物集中1か所を調査した。

#### 掘り上げ土

**規模** (12.10) × (13.60) / (0.18) m **平面形態** (楕円形)

住居跡の周囲、北側以外で確認した。色調は黒褐~暗褐色で、T a-d 2や凝灰岩を含み、IV群土器、石鏃、たたき石、すり石などが出土した。

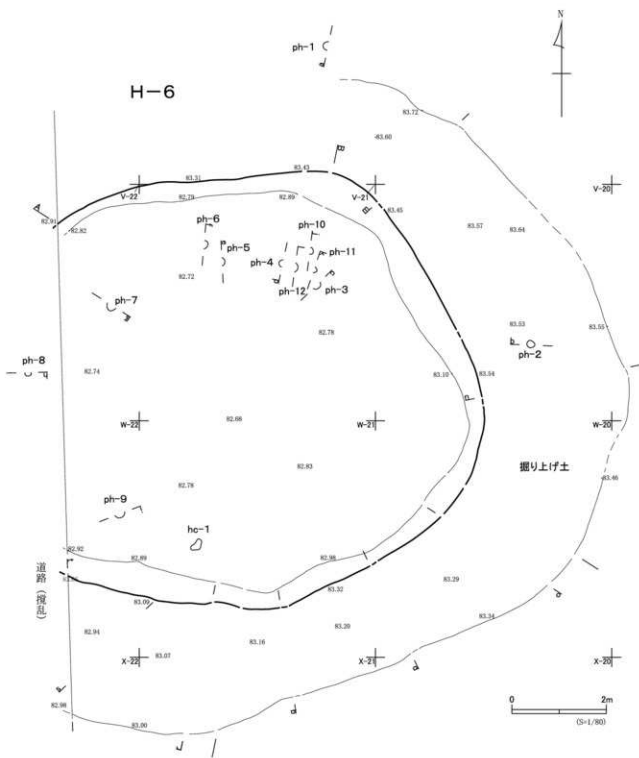
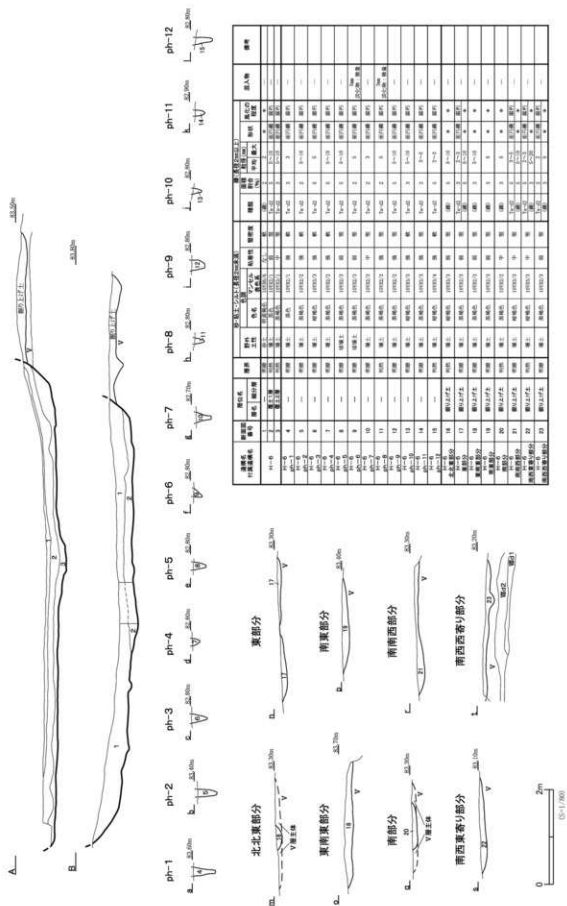


図27 H-6(1)



遺構名 付帯地帯	位置 (北緯/東経)	面積 (㎡)	形状	遺構の概要		遺構の位置		遺構の規模		遺構の構造		遺構の年代		備考
				色名	土質	色名	土質	長さ	幅	高さ	厚さ	層数	年代	
ph-1	35° 17' 1.0"	14.0	長方形	黄褐色	硬質	35° 17' 1.0"	14.0	1.0	0.1	1層	1層	1層	1層	遺構
ph-2	35° 16' 5.0"	14.0	長方形	黄褐色	硬質	35° 16' 5.0"	14.0	1.0	0.1	1層	1層	1層	1層	遺構
ph-3	35° 15' 5.0"	14.0	長方形	黄褐色	硬質	35° 15' 5.0"	14.0	1.0	0.1	1層	1層	1層	1層	遺構
ph-4	35° 14' 5.0"	14.0	長方形	黄褐色	硬質	35° 14' 5.0"	14.0	1.0	0.1	1層	1層	1層	1層	遺構
ph-5	35° 13' 5.0"	14.0	長方形	黄褐色	硬質	35° 13' 5.0"	14.0	1.0	0.1	1層	1層	1層	1層	遺構
ph-6	35° 12' 5.0"	14.0	長方形	黄褐色	硬質	35° 12' 5.0"	14.0	1.0	0.1	1層	1層	1層	1層	遺構
ph-7	35° 11' 5.0"	14.0	長方形	黄褐色	硬質	35° 11' 5.0"	14.0	1.0	0.1	1層	1層	1層	1層	遺構
ph-8	35° 10' 5.0"	14.0	長方形	黄褐色	硬質	35° 10' 5.0"	14.0	1.0	0.1	1層	1層	1層	1層	遺構
ph-9	35° 9' 5.0"	14.0	長方形	黄褐色	硬質	35° 9' 5.0"	14.0	1.0	0.1	1層	1層	1層	1層	遺構
ph-10	35° 8' 5.0"	14.0	長方形	黄褐色	硬質	35° 8' 5.0"	14.0	1.0	0.1	1層	1層	1層	1層	遺構
ph-11	35° 7' 5.0"	14.0	長方形	黄褐色	硬質	35° 7' 5.0"	14.0	1.0	0.1	1層	1層	1層	1層	遺構
ph-12	35° 6' 5.0"	14.0	長方形	黄褐色	硬質	35° 6' 5.0"	14.0	1.0	0.1	1層	1層	1層	1層	遺構

図28 H-6(2)

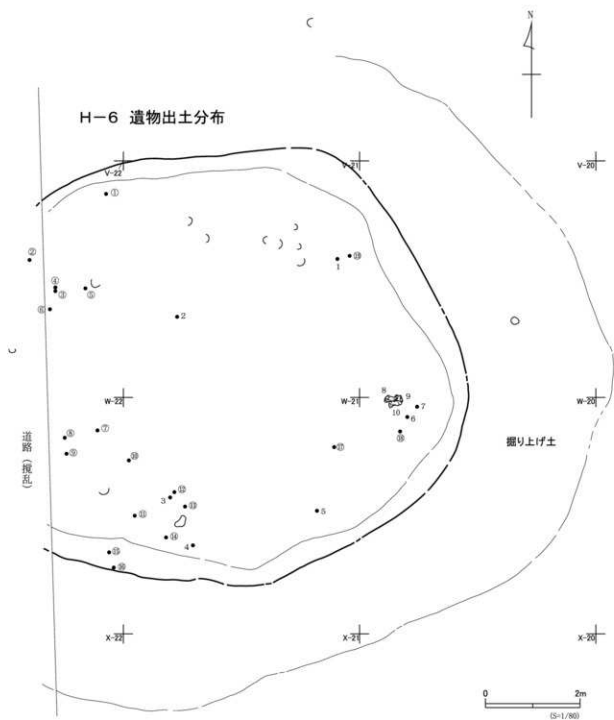
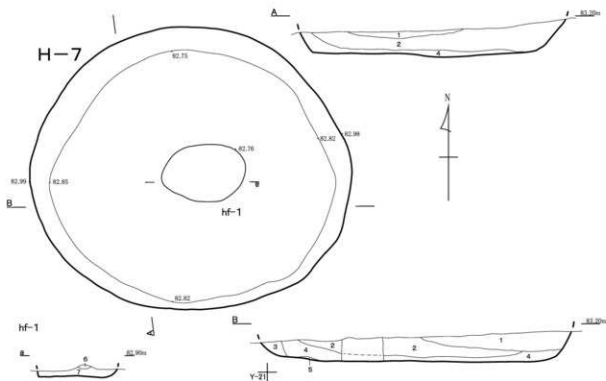


図29 H-6(3)



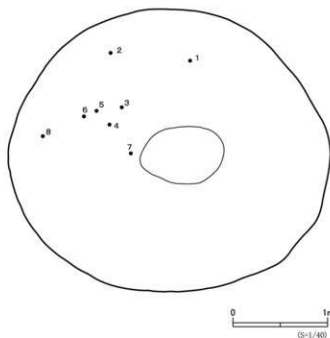






遺構名 行風遺構名	断面図 番号	層位名 層位	層別	築成 時期	壁				基礎	構造	面積 (㎡)		形状	延長の 程度	発見者	備考
					築成 時期	色	厚さ (cm)	厚さ (cm)			面積 (㎡)	面積 (㎡)				
H-7	1	---	砂質 土	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	2	---	砂質 土	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	3	---	砂質 土	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	4	---	砂質 土	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
H-7	5	---	砂質 土	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	6	---	砂質 土	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
hf-1	7	---	砂質 土	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	8	---	砂質 土	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

遺物出土分布



遺構名 層位	遺物 名	数量	単位	位置	深さ (cm)	形状	備考
1	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
2	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---
	銅製小刀	1	枚	1	20.0	---	---

図32 H-7

#### 外部柱穴・杭穴

p h-1	規 模	0.18/0.46 m	平面形態	円形
p h-2	規 模	0.18/0.40 m	平面形態	円形

p h-1 は北側、p h-2 は東側部分で確認した。

#### 柱穴・杭穴

p h-3	規 模	0.20/0.34 m	平面形態	円形
p h-4	規 模	0.14/0.16 m	平面形態	円形
p h-5	規 模	0.16/0.28 m	平面形態	円形
p h-6	規 模	0.16/0.18 m	平面形態	円形
p h-7	規 模	0.22/0.32 m	平面形態	円形
p h-8	規 模	0.14/0.20 m	平面形態	円形
p h-9	規 模	0.22/0.28 m	平面形態	円形
p h-10	規 模	0.12/0.18 m	平面形態	円形
p h-11	規 模	0.12/0.20 m	平面形態	円形
p h-12	規 模	0.20/0.36 m	平面形態	円形

10か所確認した。p h-7・9以外は北側部分でまともな形で確認され、いずれも先端部は尖る。

**炭化物集中 h c-1 規 模** 0.30×0.18 m

南側部分で確認した。

**遺物出土状況** 床面出土はIV群土器、石鏝、スクレイパー、フレイク、磨製石斧、すり石、たたき石、砥石、台石・石皿、U・Rレキ、レキである。

**時 期** 出土遺物から縄文時代後期初頭と判断される。h c-1の炭化物の放射性炭素年代測定結果は4413calBP-4229calBP(90.7%) (2σ暦年代)で、縄文時代後期初頭から中葉である。

#### H-7 (図32 表13・14 図版9)

**位 置** X-20・21区 **規 模** 3.40×2.98/3.02×2.68/0.30m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** H-6の南側の掘り上げ土の断面観察用ベルト(断面図q)に、黒色土の落ち込みが確認できた。遺構と予想し、このベルトを延長して南北方向ベルトとし、交差するように東西方向ベルトを設定した。壁と平坦な面、中央に地床炉を確認したので、堅穴住居跡と判断した。その後、付属遺構を調査した。

**覆 土** 五つに分層した。上位から下位までT a-d 2を含む黒色土が主体である。西側の壁際には黒褐色土や褐色土が部分的にみられる。

**床面・壁** 床面は平坦で、壁は曲線的である。

**付属遺構** 焼土(地床炉)1か所を調査した。

**焼土(地床炉) h f-1 規 模** 0.88×0.60/0.12m **平面形態** 楕円形

中央付近で確認した。炭化物を含む黒色土が主体で、土の一部を採取し、フローテーション法により、炭化物、黒曜石や緑色泥岩のフレイクを回収した。

**遺物出土状況** 床面出土はIV群土器、U・Rフレイク、フレイク、磨製石斧、すり石、台石・石皿、U・Rレキ、レキがある。

**時 期** 出土遺物から縄文時代後期初頭と判断される。h f-1の炭化物の放射性炭素年代測定結果は4300calBP-4147calBP(84.8%) (2σ暦年代)で、縄文時代後期初頭から中葉である。

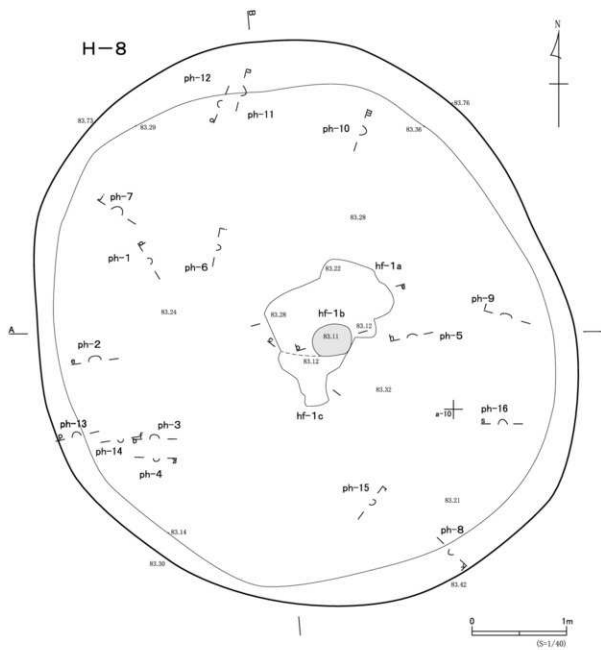
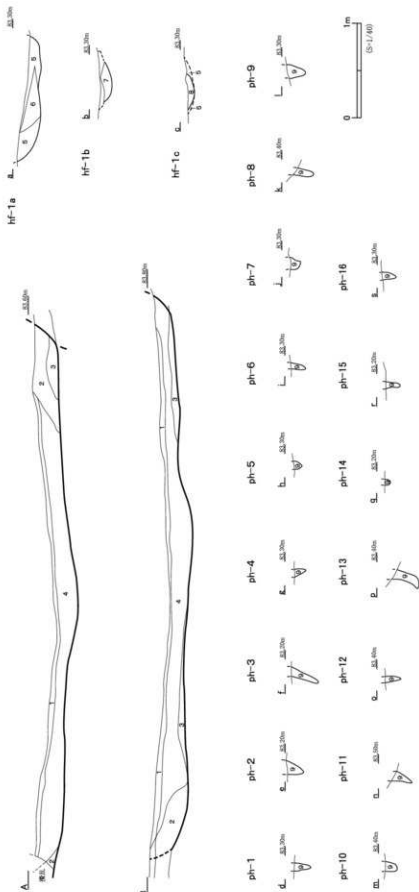


図33 H-8(1)



断面名称 断面编号	断面位置	断面形式	断面形状	断面尺寸 (m)				断面面积 (m <sup>2</sup> )	断面周长 (m)	断面水力半径 (m)	断面流速 (m/s)	断面流量 (m <sup>3</sup> /s)	断面备注
				顶宽	底宽	水深	断面面积						
ph-1	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
ph-2	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
ph-3	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
ph-4	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
ph-5	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
ph-6	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
ph-7	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
ph-8	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
ph-9	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
ph-10	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
ph-11	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
ph-12	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
ph-13	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
ph-14	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
ph-15	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
ph-16	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	

图34 H-8 (2)

H-8 遺物出土分布

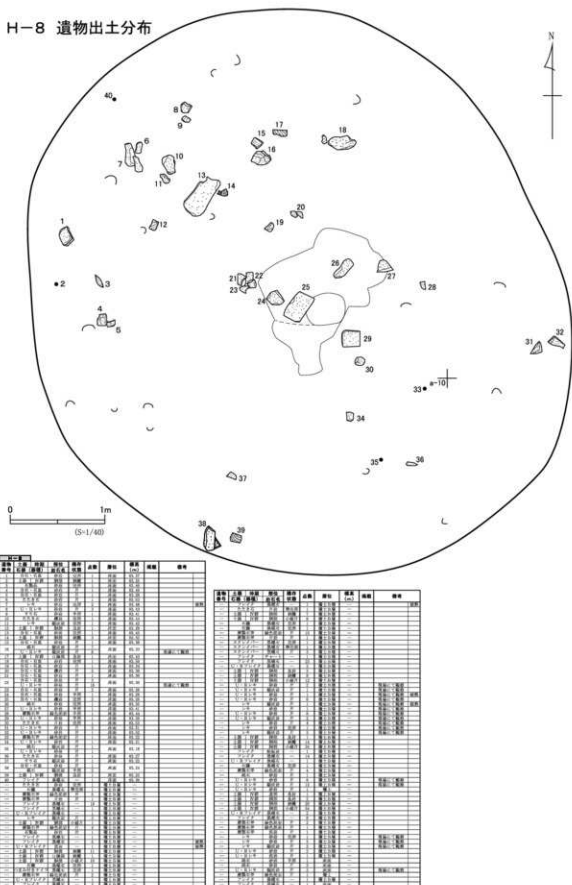


図35 H-8 (3)

**H-8** (図33～35 表13・14 図版10)

**位置** Z・a-9・10区 **規模** 6.00×5.68/5.22×5.24/0.48m **平面形態** 楕円形  
**確認・調査** 包含層調査中、V層でT a-cが堆積するくぼみがみられた。これに十字に交差する土層確認用ベルトを設定し、これ沿いにトレンチを掘り下げた。平坦な面と壁の立ち上がりを確認したので、堅穴住居跡と判断した。その後、付属遺構を調査した。

**覆土** 四つに分層した。T a-d 2を含む黒色土が主体である。壁際や最下位にはT a-d 2を含む黒褐色土が部分的にみられる。

**床面・壁** 床面は平坦で中央付近が若干くぼみ、壁は斜めに立ち上がる。

**付属遺構** 焼土(地床炉)1か所、焼土2か所、柱穴・杭穴16か所を調査した。

**焼土(地床炉) h f-1 b** **規模** 0.42×0.32/0.12m **平面形態** 楕円形

**焼土 h f-1 a・c** **規模** 1.52×1.18/0.32m **平面形態** 不整形

中央付近の床面で、赤褐色土が混ざる黒褐色土を広範囲で確認した。トレンチを3か所に設けて土層断面を観察したところ、中央のh f-1 bで焼土がみられた。この範囲にみられた土は、焼土が混じる覆土最下層と考えられる。一部を採取し、フローテーション法により、炭化物、黒曜石のフレイクを回収した。

**柱穴・杭穴**

p h-1	規 模	0.08/0.18 m	平面形態	円形
p h-2	規 模	0.14/0.18 m	平面形態	楕円形
p h-3	規 模	0.10/0.28 m	平面形態	楕円形
p h-4	規 模	0.08/0.13 m	平面形態	円形
p h-5	規 模	0.08/0.08 m	平面形態	楕円形
p h-6	規 模	0.06/0.16 m	平面形態	楕円形
p h-7	規 模	0.12/0.12 m	平面形態	円形
p h-8	規 模	0.10/0.24 m	平面形態	円形
p h-9	規 模	0.14/0.20 m	平面形態	楕円形
p h-10	規 模	0.10/0.14 m	平面形態	円形
p h-11	規 模	0.10/0.22 m	平面形態	円形
p h-12	規 模	0.07/0.16 m	平面形態	円形
p h-13	規 模	0.10/0.32 m	平面形態	円形
p h-14	規 模	0.09/0.06 m	平面形態	円形
p h-15	規 模	0.06/0.16 m	平面形態	楕円形
p h-16	規 模	0.08/0.16 m	平面形態	円形

16か所確認した。壁際に多く、先端部は尖り、覆土はすべて黒～黒褐色土層である。

**遺物出土状況** 床面出土はIV群土器、フレイク、磨製石斧、たたき石、すり石、砥石、台石・石皿、U・Rレキ、レキ、石製品がある。IV群土器は口縁部から底部まで復原できた(図113-7)。

**時期** 出土遺物から縄文時代後期初頭と判断される。h f-1の炭化物の放射性炭素年代測定結果は4089calBP-3915calBP(95.4%) (2σ暦年代)で、縄文時代後期初頭から中葉である。

**H-9** (図36 表13・14 図版11)

**位置** Y-11・12区 **規模** 2.72×2.44/2.46×2.24/0.20m **平面形態** 楕円形

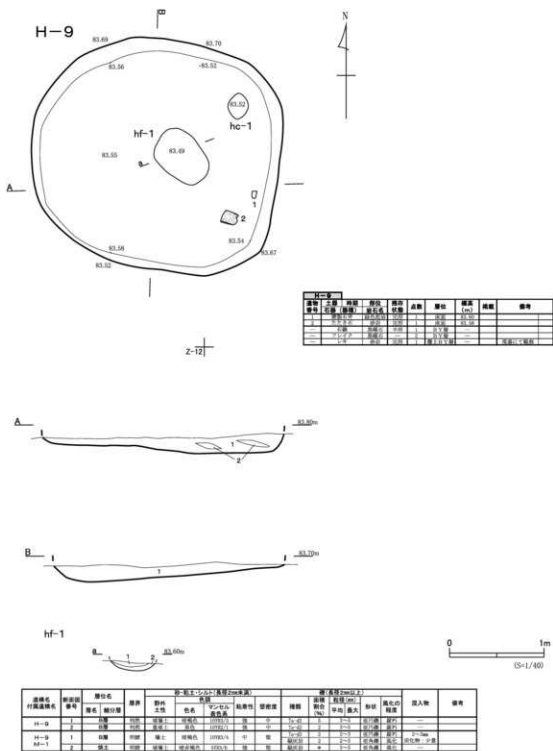


図36 H-9



**確認・調査** 包含層調査終了後、VI層で黒色土がみられた。中央で十字に交差する土層確認用のベルトを設定し、これに沿ってトレンチを掘り下げた。土層断面で平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、床面のはは中央に焼土（h f-1）がみられ、竪穴住居跡と判断した。その後、付属遺構を調査した。

**覆土** 二つに分層した。T a-d 2を含む暗褐色土が主体である。

**床面・壁** 床面は平坦で南東側へ傾斜する。壁は曲線的である。

**付属遺構** 焼土（地床炉）1か所、炭化物集中1か所を調査した。

**焼土（地床炉） h f-1 規 模** 0.64×0.46/0.20 m **平面形態** 楕円形

北東側部分で確認し、暗赤褐色土の上位に炭化物を含む暗褐色土が堆積する。

**炭化物集中 h c-1 規 模** 0.28×0.22 m **平面形態**（楕円形）

北東側部分で確認し、覆土中に細かな炭化物が混ざる。

**遺物出土状況** 床面出土は磨製石斧、たたき石である。覆土からは石鏃、フレイク、レキが出土した。

**時 期** 周辺の遺物から縄文時代後期前葉と判断した。h c-1の炭化物の放射性炭素年代測定結果は4767calBP-4613calBP（74.0%）（2σ暦年代）で、縄文時代中期中葉から後葉である。

#### H-10（図37～39 表13・14 図版12・13）

**位 置** e-18・19、f-18～20、g-18・19区

掘り上げ土を含む：e～f-17～20、g-17～19区

**規 模** 8.96×6.92/8.52×6.88/0.68 m 掘り上げ土を含む：11.68×9.60 m

**平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、V層上面で広範囲なくほみと、中央にT a-cの堆積がみられた。中央で十字に交差する土層観察用のベルトを設定し、これ沿いにトレンチを掘り下げた。土層断面で壁の立ち上がり平坦な面を確認し、これを手がかりに周囲を掘り広げた。中央に地床炉がみつかったので竪穴住居跡と判断した。その後、付属遺構と掘り上げ土を調査した。

**覆土** 三つに分層した。上位に黒褐色土、下位と壁際には暗褐色土がみられる。

**床面・壁** 床面は平坦で、壁は概ね曲線的である。南西側の壁は直立気味に立ち上がる。

**付属遺構** 掘り上げ土、焼土（地床炉）2か所、柱穴・杭穴25か所、炭化物集中1か所を調査した。

**掘り上げ土 規 模** 11.68×9.60/0.10 m **平面形態**（楕円形）

全周にみられる。南西側では比して狭く、急斜面に流出したと考えられる。

**焼土（地床炉）**

**h f-1 規 模** 0.88×0.76/0.10 m **平面形態** 楕円形

**h f-2 規 模** 0.92×0.56/0.06 m **平面形態** 楕円形

中央付近で2か所確認した。h f-1は黒褐色土、h f-2は暗褐色土がみられ、炭化物が少量混ざる。土の一部を採取し、フローテーション法により、炭化物、黒曜石のフレイクを回収した。

**柱穴・杭穴**

**p h-1 規 模** 0.20/0.32 m **平面形態** 円形

**p h-2 規 模** 0.08/0.32 m **平面形態** 円形

**p h-3 規 模** 0.12/0.20 m **平面形態** 円形

**p h-4 規 模** 0.16/0.38 m **平面形態** 円形

**p h-5 規 模** 0.16/0.52 m **平面形態** 円形

**p h-6 規 模** 0.10/0.34 m **平面形態** 円形

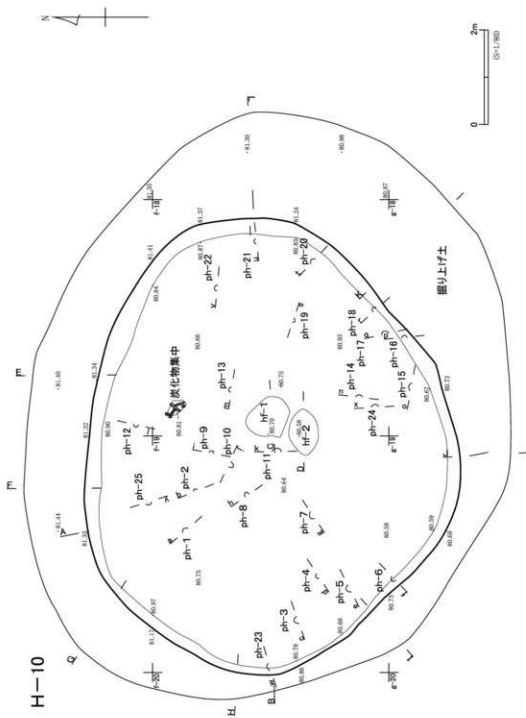
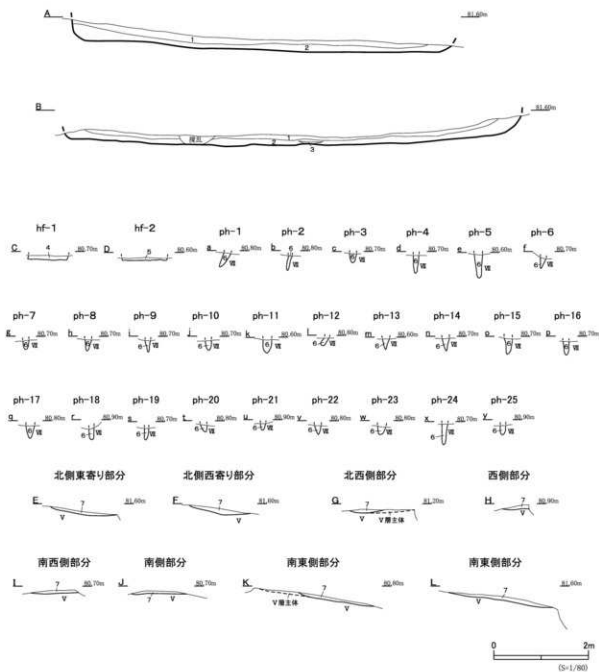


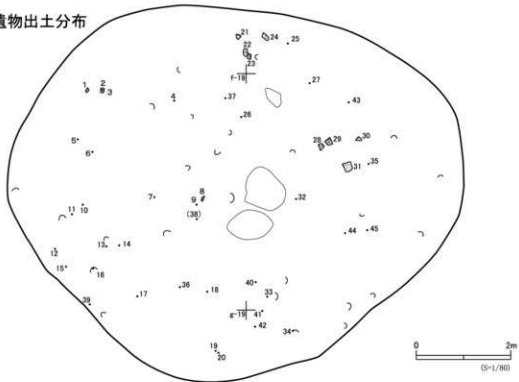
図37 H-10(1)



遺構名 行風通風機	断面図 番号	層位名 層名・層行層	層厚	土質					層構造			図人物	備考		
				野の 土質	色	硬軟性 透水性	硬軟性	硬軟性	層厚	面積 率(%)	平均 厚(μ)			層位 高さ	
H-10	1	V層	地熱	凝土上	赤褐色	1000/3	硬	軟	軟	1-2	3	2-3	凝土層	硬質	—
	2	砂層	地熱	凝土上	暗褐色	1000/4	硬	軟	軟	1-2	10	2-3	凝土層	硬質	—
	3	—	地熱	凝土上	褐色	1000/3, 1/1	硬	軟	軟	—	—	—	凝土層	硬質	2-10cm 砂層
H-10 H-11	4	砂層	地熱	凝土上	赤褐色	1000/3	硬	軟	軟	1-2	3	2-3	凝土層	硬質	2-10cm 砂層
	5	砂層	地熱	凝土上	暗褐色	1000/3	硬	軟	軟	1-2	10	2-3	凝土層	硬質	2-10cm 砂層
H-10 H-11 H-12	6	砂層	地熱	凝土上	暗褐色	1000/3- 3/3	H-10 硬	軟	軟	1-2	3-3	2-3	凝土層	硬質	—
H-10 H-11 H-12 層以上部分	7	凝土上部分	地熱	凝土上	暗褐色	1000/3- 3/3	H-10 硬	軟	軟	1-2	3	2-3	凝土層	硬質	—

図38 H-10(2)

H-10 遺物出土分布



遺物 番号	土層 (層別)	層位 (深さ)	出土 位置	種類 (品名)	数量	単位	高さ (m)	備考	備考
1	1	0.10	1	土器片	1	個	0.10		
2	1	0.10	2	土器片	1	個	0.10		
3	1	0.10	3	土器片	1	個	0.10		
4	1	0.10	4	土器片	1	個	0.10		
5	1	0.10	5	土器片	1	個	0.10		
6	1	0.10	6	土器片	1	個	0.10		
7	1	0.10	7	土器片	1	個	0.10		
8	1	0.10	8	土器片	1	個	0.10		
9	1	0.10	9	土器片	1	個	0.10		
10	1	0.10	10	土器片	1	個	0.10		
11	1	0.10	11	土器片	1	個	0.10		
12	1	0.10	12	土器片	1	個	0.10		
13	1	0.10	13	土器片	1	個	0.10		
14	1	0.10	14	土器片	1	個	0.10		
15	1	0.10	15	土器片	1	個	0.10		
16	1	0.10	16	土器片	1	個	0.10		
17	1	0.10	17	土器片	1	個	0.10		
18	1	0.10	18	土器片	1	個	0.10		
19	1	0.10	19	土器片	1	個	0.10		
20	1	0.10	20	土器片	1	個	0.10		
21	1	0.10	21	土器片	1	個	0.10		
22	1	0.10	22	土器片	1	個	0.10		
23	1	0.10	23	土器片	1	個	0.10		
24	1	0.10	24	土器片	1	個	0.10		
25	1	0.10	25	土器片	1	個	0.10		
26	1	0.10	26	土器片	1	個	0.10		
27	1	0.10	27	土器片	1	個	0.10		
28	1	0.10	28	土器片	1	個	0.10		
29	1	0.10	29	土器片	1	個	0.10		
30	1	0.10	30	土器片	1	個	0.10		
31	1	0.10	31	土器片	1	個	0.10		
32	1	0.10	32	土器片	1	個	0.10		
33	1	0.10	33	土器片	1	個	0.10		
34	1	0.10	34	土器片	1	個	0.10		
35	1	0.10	35	土器片	1	個	0.10		
36	1	0.10	36	土器片	1	個	0.10		
37	1	0.10	37	土器片	1	個	0.10		
38	1	0.10	38	土器片	1	個	0.10		
39	1	0.10	39	土器片	1	個	0.10		
40	1	0.10	40	土器片	1	個	0.10		
41	1	0.10	41	土器片	1	個	0.10		
42	1	0.10	42	土器片	1	個	0.10		
43	1	0.10	43	土器片	1	個	0.10		
44	1	0.10	44	土器片	1	個	0.10		
45	1	0.10	45	土器片	1	個	0.10		

遺物 番号	土層 (層別)	層位 (深さ)	出土 位置	種類 (品名)	数量	単位	高さ (m)	備考	備考
1	1	0.10	1	土器片	1	個	0.10		
2	1	0.10	2	土器片	1	個	0.10		
3	1	0.10	3	土器片	1	個	0.10		
4	1	0.10	4	土器片	1	個	0.10		
5	1	0.10	5	土器片	1	個	0.10		
6	1	0.10	6	土器片	1	個	0.10		
7	1	0.10	7	土器片	1	個	0.10		
8	1	0.10	8	土器片	1	個	0.10		
9	1	0.10	9	土器片	1	個	0.10		
10	1	0.10	10	土器片	1	個	0.10		
11	1	0.10	11	土器片	1	個	0.10		
12	1	0.10	12	土器片	1	個	0.10		
13	1	0.10	13	土器片	1	個	0.10		
14	1	0.10	14	土器片	1	個	0.10		
15	1	0.10	15	土器片	1	個	0.10		
16	1	0.10	16	土器片	1	個	0.10		
17	1	0.10	17	土器片	1	個	0.10		
18	1	0.10	18	土器片	1	個	0.10		
19	1	0.10	19	土器片	1	個	0.10		
20	1	0.10	20	土器片	1	個	0.10		
21	1	0.10	21	土器片	1	個	0.10		
22	1	0.10	22	土器片	1	個	0.10		
23	1	0.10	23	土器片	1	個	0.10		
24	1	0.10	24	土器片	1	個	0.10		
25	1	0.10	25	土器片	1	個	0.10		
26	1	0.10	26	土器片	1	個	0.10		
27	1	0.10	27	土器片	1	個	0.10		
28	1	0.10	28	土器片	1	個	0.10		
29	1	0.10	29	土器片	1	個	0.10		
30	1	0.10	30	土器片	1	個	0.10		
31	1	0.10	31	土器片	1	個	0.10		
32	1	0.10	32	土器片	1	個	0.10		
33	1	0.10	33	土器片	1	個	0.10		
34	1	0.10	34	土器片	1	個	0.10		
35	1	0.10	35	土器片	1	個	0.10		
36	1	0.10	36	土器片	1	個	0.10		
37	1	0.10	37	土器片	1	個	0.10		
38	1	0.10	38	土器片	1	個	0.10		
39	1	0.10	39	土器片	1	個	0.10		
40	1	0.10	40	土器片	1	個	0.10		
41	1	0.10	41	土器片	1	個	0.10		
42	1	0.10	42	土器片	1	個	0.10		
43	1	0.10	43	土器片	1	個	0.10		
44	1	0.10	44	土器片	1	個	0.10		
45	1	0.10	45	土器片	1	個	0.10		

図39 H-10(3)

p h-7	規 模	0.12/0.20 m	平面形態	円形
p h-8	規 模	0.14/0.24 m	平面形態	楕円形
p h-9	規 模	0.08/0.24 m	平面形態	円形
p h-10	規 模	0.14/0.20 m	平面形態	楕円形
p h-11	規 模	0.18/0.18 m	平面形態	円形
p h-12	規 模	0.12/0.14 m	平面形態	円形
p h-13	規 模	0.14/0.14 m	平面形態	円形
p h-14	規 模	0.16/0.16 m	平面形態	円形
p h-15	規 模	0.16/0.24 m	平面形態	円形
p h-16	規 模	0.12/0.16 m	平面形態	円形
p h-17	規 模	0.16/0.24 m	平面形態	円形
p h-18	規 模	0.10/0.10 m	平面形態	円形
p h-19	規 模	0.08/0.06 m	平面形態	円形
p h-20	規 模	0.14/0.14 m	平面形態	円形
p h-21	規 模	0.10/0.08 m	平面形態	円形
p h-22	規 模	0.12/0.12 m	平面形態	円形
p h-23	規 模	0.16/0.16 m	平面形態	円形
p h-24	規 模	0.12/0.12 m	平面形態	円形
p h-25	規 模	0.12/0.08 m	平面形態	円形

25か所確認し、概ね壁際にみられる。径は最大20cm、最小8cmである。

**炭化物集中** 規 模 0.48×0.24 m 平面形態 (楕円形)

北側部分で木材の形状が残る炭化物を確認した。

**遺物出土状況** 床面出土の遺物はIV群土器、スクレイパー、U・Rフレイク、フレイク、磨製石斧、石鎌、台石・石皿、石製品、U・Rレキ、レキである。

**時 期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。h f-1の放射性炭素年代測定結果は4299calBP-4146calBP (86.9%) (2σ暦年代) で、縄文時代後期初頭から中葉である。

#### H-11 (図40 表13・14 図版14)

**位 置** Y・Z-12区 **規 模** 3.06×2.78/2.78×2.46/0.16 m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査終了後、楕円形の黒色土を確認した。これの中央に十字に交差する土層観察用ベルトを設定し、周囲を掘り下げた。壁と平坦な面がみられたので、堅穴住居跡と判断した。その後、付属遺構を調査した。

**覆 土** 二つに分層した。上位に黒褐色土、壁際と下位に褐色土がみられ、ともにT a-d 2と凝灰岩を含む。

**床面・壁** 床面は平坦で、壁は曲線的である。

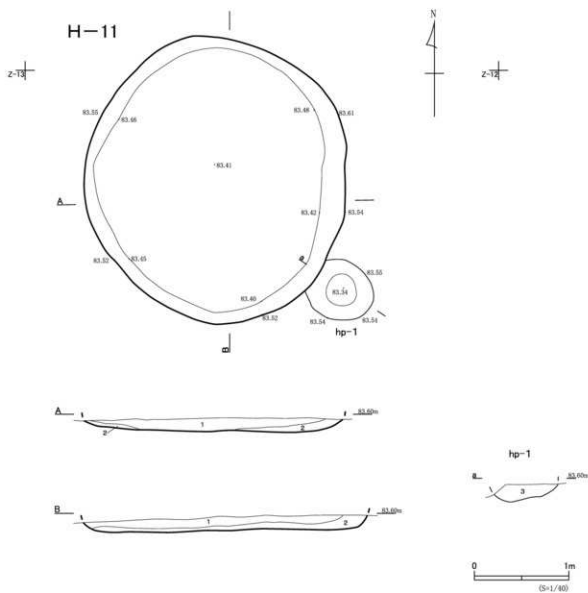
**付属遺構** 土坑1基を確認した。

**土坑 (先端部ビット) h p-1**

**規 模** 0.68×0.62/0.34×0.34/0.16 m **平面形態** 楕円形

住居跡の南東側で、壁から外部へ突出する形状の土坑で、坑底面と壁は曲線的である。

**遺物出土状況** 覆土から石鎌、スクレイパー、フレイク、すり石、レキが出土した。



遺構番号	名称	形状	高さ	幅	厚さ	位置	構造	備考
H-11	環状土壁	円形	1.5	3.0	0.3	83.41	土	
hp-1	環状土壁	円形	0.3	0.3	0.3	83.54	土	

遺構名 行先遺構名	発見回数 番号	発見名	層別	土質				土質				土質 の 状態	土質 の 状態	土質 の 状態	土質 の 状態			
				種類	色	硬さ	粘性	種類	色	硬さ	粘性							
H-11	1	環状土壁	1000	赤褐色	硬	粘	赤褐色	硬	粘	赤褐色	硬	粘	赤褐色	硬	粘	赤褐色	硬	粘
H-11	2	環状土壁	1000	赤褐色	硬	粘	赤褐色	硬	粘	赤褐色	硬	粘	赤褐色	硬	粘	赤褐色	硬	粘
hp-1	3	環状土壁	1000	赤褐色	硬	粘	赤褐色	硬	粘	赤褐色	硬	粘	赤褐色	硬	粘	赤褐色	硬	粘

図40 H-11

時期 周辺の遺構や遺物から縄文時代後期と推定できる。

H-12 (図41 表13 図版14)

位置 d-12・13区 規模  $3.49 \times 320/3.24 \times 247/0.28\text{m}$  平面形態 楕円形  
確認・調査 包含層調査終了後、楕円形の黒褐色土がみられたので、中央で十字に交差する土層観察用のベルトを設定した。これに沿ってトレンチを掘り下げ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、竪穴住居跡と判断した。

覆土 三つに分層した。上位は黒褐色土で、下位はTa-d2を多く含む暗褐色土である。北側の壁際には黒褐色土が部分的にみられる。

床面・壁 床面は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

遺物出土状況 床面出土の遺物は磨製石斧で、覆土からはIV群土器、フレイク、磨製石斧、台石・石皿、U・Rフレイク、レキが出土した。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

(奥山)

H-13 (図42・43 表13・14 図版15)

位置 I-27、J-26~28、K-27区 掘り上げ土を含む：I・J-26~28、K-26・27区

規模  $5.62 \times 5.10/5.34 \times 4.78/0.78\text{m}$  掘り上げ土を含む： $11.10 \times 9.15\text{m}$

平面形態 不整形な方形

確認・調査 包含層調査中、V層でくぼみとその周囲に黒褐色土がみられた。くぼみ中央で十字に交差する土層観察用ベルトを設定し、これに沿ってトレンチを掘り進めたところ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認したので、竪穴住居跡と判断した。南東側部分に攪乱がある。

覆土 五つに分層した。上位の第1層はTa-c主体、第2層は黒色土主体で、下位の第3~5層は黒褐色土である。

床面・壁 床面はやや凹凸があり、南側へ傾斜し、壁は曲線的である。

付属遺構 掘り上げ土、土坑1基を調査した。

掘り上げ土 規模  $11.10 \times 9.15/0.12\text{m}$  平面形態 不整形な方形

住居跡の南西側を除く周囲にみられる。

土坑 hp-1 規模  $2.03 \times 0.62/1.34 \times 0.28/*\text{m}$  平面形態 長楕円形

土層断面図A・Bで示した若干くぼみ範囲を土坑とした。平面は長楕円形である。

遺物出土状況 床面(直上)出土の遺物はIV群土器、石鏃、スクレイパー、U・Rフレイク、フレイク、磨製石斧、砥石、U・Rレキである。概して中央付近に分布する。

時期 出土遺物から縄文時代後期初頭と判断される。

H-14・15 (図44~48 表13・14 図版16~18)

H-14 (図44~47 表13・14 図版16・18)

位置 L・M-23・24区 掘り上げ土を含む：K-24・25、L-22~25、M-22・23区

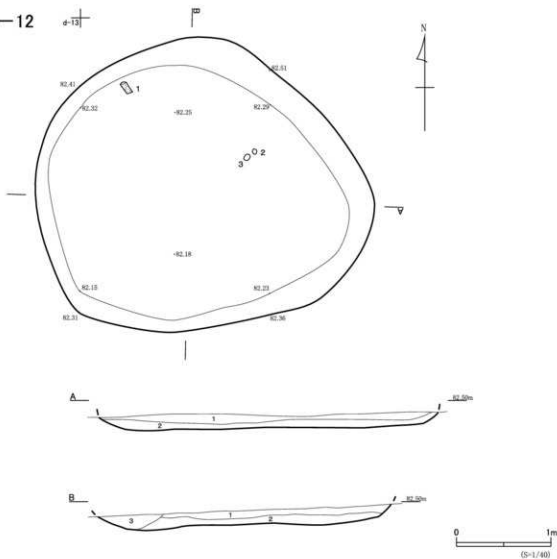
規模  $8.50 \times (5.70)/7.95 \times (5.30)/0.70\text{m}$  掘り上げ土を含む： $(16.45) \times (7.35)\text{m}$

平面形態 楕円形

H-15 (図44~48 表13・14 図版17・18)

位置 L-24、M-23~25、N-23・24区 掘り上げ土を含む：L-24、M-22~25、N-23・24区

H-12

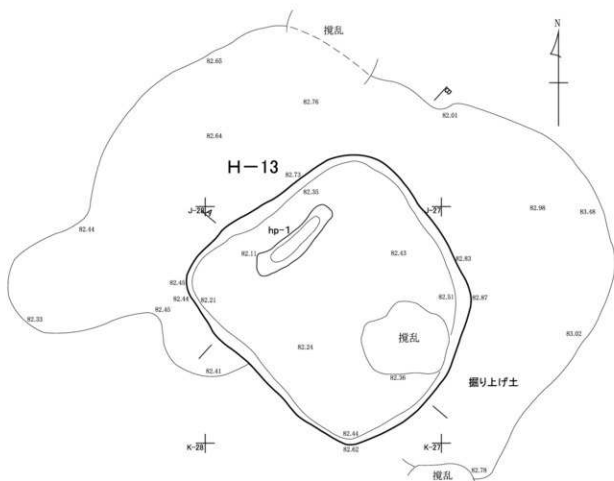


測点	名称	地層	層位	構造	点別	標高	傾斜	備考
1	92.41	砂質土	砂質土	1	観測点	92.41		
2	92.32	砂質土	砂質土	2	観測点	92.32		
3	92.25	砂質土	砂質土	3	観測点	92.25		
4	92.22	砂質土	砂質土	4	観測点	92.22		
5	92.18	砂質土	砂質土	5	観測点	92.18		
6	92.23	砂質土	砂質土	6	観測点	92.23		
7	92.36	砂質土	砂質土	7	観測点	92.36		
8	92.31	砂質土	砂質土	8	観測点	92.31		
9	92.15	砂質土	砂質土	9	観測点	92.15		

測構名 行架渡橋名	構造部 番号	層位名 層名	層位 番号	地層名				構造部名				備考
				地層名	層位 番号	構造部名	層位 番号	構造部名	層位 番号			
H-12	1	V層	砂質土	砂質土	10993.3	砂	砂	10993.3	2	砂質土	砂質土	—
	2	観測点	砂質土	砂質土	10993.4	砂	砂	10993.4	3	砂質土	砂質土	—
	3	—	砂質土	砂質土	10993.2	砂	砂	10993.2	4	砂質土	砂質土	—

図41 H-12





遺跡名 付属遺跡名	経緯度 番号	遺構名 部名	部別	層別	砂・粘土・レンガ・瓦・灰・漆				縄文(2000以上)				遺人物	備考	
					野外地 土質	土質		埋没度	種類	数量 割合(%)	形状 特徴	遺物の 層位			
						砂	粘土								埋没度
H-13	1	溝	砂	埋土	砂	100%	1	埋	埋	10-20	10%	+	砂	埋	-
	2	溝	砂	埋土	砂	100%	1	埋	埋	10-20	10%	+	砂	埋	-
	3	砂	埋土	砂	埋	100%	1	埋	埋	10-20	10%	+	砂	埋	-
	4	砂	埋土	砂	埋	100%	1	埋	埋	10-20	10%	+	砂	埋	-
H-13 掘り上げ土	5	砂	埋土	砂	埋	100%	1	埋	埋	10-20	10%	+	砂	埋	-
	6	砂	埋土	砂	埋	100%	1	埋	埋	10-20	10%	+	砂	埋	-

図42 H-13(1)

H-13 遺物出土分布

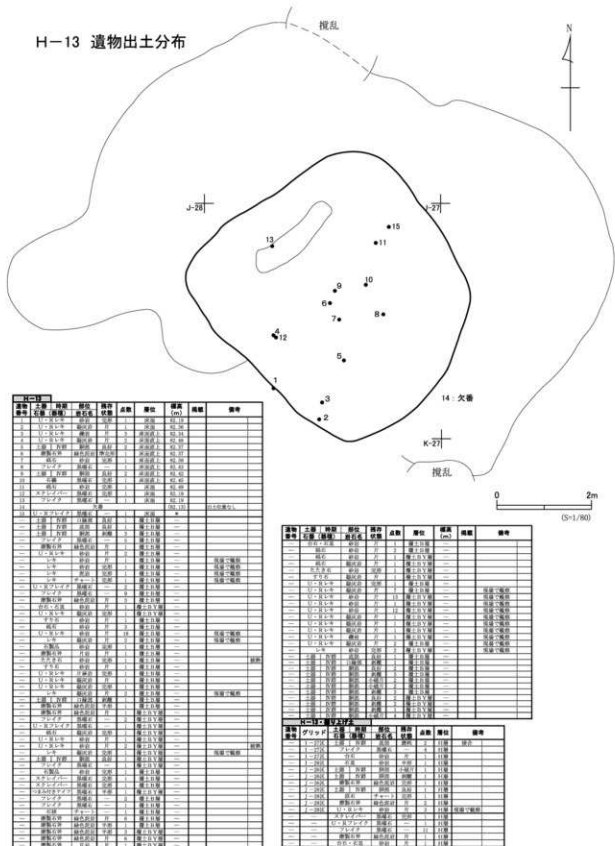


図43 H-13(2)

規 模 (7.60)×8.35/(7.35)×(8.00)/0.80m 掘り上げ土を含む：(9.45)×(13.95)m

平面形態 楕円形

確認・調査 V層で広くはみがみられた。南西方向(断面図B)と北西から南東方向(断面図A)にトレンチを設定し掘り下げたところ、平坦な面と壁の立ち上がりが見られた。大型の竪穴住居跡を想定し、北側部分を先に調査した。次に、南側部分へと壁を掘り広げていくと、壁の立ち上がりと考えられる地形の高まりが見られた。この時点で、重複している遺構の可能性を考えた。この高まりは、北側の遺構の南側の壁と解され、北側をH-14、南側をH-15とした。両遺構の新旧を連続する土層断面で追認することとしたが、この土層断面(断面図B)には風倒木痕があり、判断できなかった。

北側のH-14は、北西側の壁際に土坑(h p-1)をもち、これが長軸上に位置する楕円形で、前述の地形の高まりが南側の壁と判断した。南側のH-15は、北西から南東方向に土層観察用のベルト(断面図C)を追加し、全体を掘り広げ、土器囲い炉(h f-1)と地床炉(h f-2)を確認した。

重 複 2軒が重複する。調査でみられた地形の高まりがH-14の壁とすると、平面ではH-14がH-15を切っており、前者が新しく後者が古いと推測する。

#### H-14

覆 土 上位は黒色土主体、下位は黒褐色土で、東側の壁際に暗褐色土がみられる。

床面・壁 床面は概ね平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

付属遺構 掘り上げ土、土坑2基、柱穴・杭穴11か所を調査した。

土坑(先端部ビット) h p-1 規 模 2.05×(1.60)/1.70×(1.10)/0.25m

平面形態 楕円形

北西側の壁際から外部へ突出する形状で、当初、土層断面でH-14覆土中から掘り込まれたと判断したが、平面の位置から本遺構の付属遺構と考える。

土坑 h p-2 規 模 0.55×0.50/0.40×0.28/0.25m 平面形態 楕円形

坑底面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

#### 柱穴・杭穴

p h-1	規 模	0.10/0.31m	平面形態	円形
p h-2	規 模	0.15/0.38m	平面形態	円形
p h-3	規 模	0.15/0.35m	平面形態	円形
p h-4	規 模	0.15/0.41m	平面形態	円形
p h-5	規 模	0.12/0.40m	平面形態	円形
p h-6	規 模	0.10/0.19m	平面形態	円形
p h-7	規 模	0.10/0.25m	平面形態	円形
p h-8	規 模	0.08/0.15m	平面形態	円形
p h-9	規 模	0.15/0.44m	平面形態	円形
p h-10	規 模	0.11/0.40m	平面形態	円形
p h-11	規 模	0.13/0.32m	平面形態	円形

p h-1~5・9・10は壁際、p h-7・8はh p-1内に位置し、先端部は尖るものが多い。

遺物出土状況 床面(直上)出土はIV群土器、石槍・ナイフ、石錐、つまみ付きナイフ、U・Rフレイク、フレイク、磨製石斧、砥石、たたき石、U・Rレキである。付属遺構からIV群土器、石錐、フレイク、磨製石斧、U・Rレキが出土した。

時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

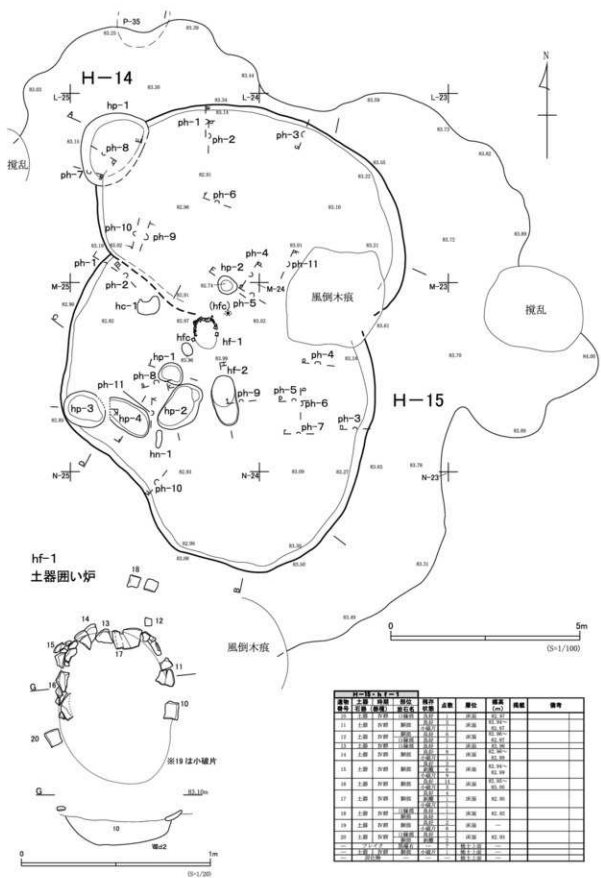


図44 H-14・H-15(1)

## H-15

**覆土** 三つに分層し、上位は概ね黒色土主体で、下位は暗褐色土がみられる。

**床面・壁** 床面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

**付属遺構** 掘り上げ土、土器囲い炉1か所、焼土(地床炉)1か所、土坑4基、柱穴・杭穴11か所、フレイク集中3か所、炭化物集中1か所、粘土集中1か所を調査した。

### 土器囲い炉 h f-1

**規模** 土器囲い部分：0.65×(0.51)m 平面形態 長方形？

焼土：0.80×0.60/0.15m 平面形態 楕円形

### 地床炉 h f-2

**規模** 焼土：0.80×0.65/0.12m 平面形態 楕円形

浅いくぼみ：(1.00)×0.65/(0.90)×0.63/0.03m 平面形態 楕円形？

h f-1は中央よりやや北側部分、h f-2は中央付近で、ともに長軸上に位置する。h f-1は土器囲い炉で、北側半分にIV群の土器がみられ、口縁部から胴部の破片が用いられている。土器は住居跡外出土のものとも接合し、復原できた(図114-8)。h f-2は坑底面の北側に褐色の焼土がみられた。

### 土坑

h p-1 **規模** 0.65×0.55/0.55×0.40/0.15m 平面形態 楕円形

h p-2 **規模** 1.40×0.90/1.25×0.65/0.20m 平面形態 楕円形

h p-4 **規模** (1.35)×0.80/(1.05)×0.65/0.13m 平面形態 楕円形

### 土坑(先端部ビット)

h p-3 **規模** 1.15×0.90/0.95×0.60/0.30m 平面形態 楕円形

h p-1~4は西側部分に多く、h p-3は壁際にみられる。

### 柱穴・杭穴

p h-1 **規模** 0.08/0.25m 平面形態 円形

p h-2 **規模** 0.12/0.25m 平面形態 円形

p h-3 **規模** 0.09/0.39m 平面形態 円形

p h-4 **規模** 0.18/0.40m 平面形態 円形

p h-5 **規模** 0.11/0.32m 平面形態 円形

p h-6 **規模** 0.09/0.45m 平面形態 円形

p h-7 **規模** 0.10/0.30m 平面形態 円形

p h-8 **規模** 0.12/0.20m 平面形態 円形

p h-9 **規模** 0.07/0.19m 平面形態 円形

p h-10 **規模** 0.12/0.35m 平面形態 円形

p h-11 **規模** 0.10/0.33m 平面形態 円形

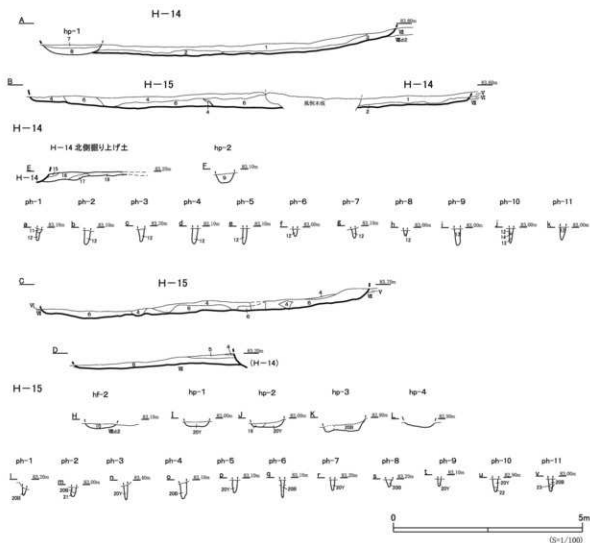
p h-1~4・10は壁際、p h-9はh f-2東側で確認した。

### フレイク集中

h f c-1 **規模** 0.35×0.30m 平面形態 楕円形

h f c-1~3を付し遺物を取り上げた。h f c-1はh f-1の南西側に近接する。h f c-2・3は平面を記録し忘れたが、h f-1、h f-2の近くであったと記憶している。

**炭化物集中** h c-1 **規模** 0.60×0.45m 平面形態 (楕円形)



遺構名 付属遺構名	探検 番号	発見 年月	層位	部・部土(シルト)質硬土(砂質土)				部・部土(シルト)質硬土(砂質土)				遺構の 程度	採入者	備考	
				野面 寸法	名称	形状	埋積	種類	埋積 寸法 (縦横)	形状	埋積の 程度				
H-14	1	1958	+	埋土	硬土	2000(1.7)	溝	溝	埋積	3	2-3	埋積	埋土	---	---
	2	1958	+	埋土	硬土	2000(2.0)	溝	溝	埋積	3	2-3	埋積	埋土	---	---
	3	1958	+	埋土	硬土	2000(2.0)	溝	溝	埋積	10	2-3	埋積	埋土	---	---
H-14 hp-1	1	1958	+	埋土	硬土	2000(1.7)	溝	溝	埋積	3	2-3	埋積	埋土	---	---
	2	1958	+	埋土	硬土	2000(2.0)	溝	溝	埋積	10	2-3	埋積	埋土	---	---
H-14 hp-2	1	1958	+	埋土	硬土	2000(2.0)	溝	溝	埋積	3	2-3	埋積	埋土	---	---
	2	1958	+	埋土	硬土	2000(2.0)	溝	溝	埋積	10	2-3	埋積	埋土	---	---
H-14 hp-1-1	13	1958	+	埋土	硬土	2000(1.7)	溝	溝	埋積	3	2-3	埋積	埋土	---	---
	14	1958	+	埋土	硬土	2000(2.0)	溝	溝	埋積	10	2-3	埋積	埋土	---	---
	15	1958	+	埋土	硬土	2000(2.0)	溝	溝	埋積	3	2-3	埋積	埋土	---	---
H-14 hp-1-2	16	1958	+	埋土	硬土	2000(1.7)	溝	溝	埋積	3	2-3	埋積	埋土	---	---
	17	1958	+	埋土	硬土	2000(2.0)	溝	溝	埋積	10	2-3	埋積	埋土	---	---
	18	1958	+	埋土	硬土	2000(2.0)	溝	溝	埋積	3	2-3	埋積	埋土	---	---
H-15	1	1958	+	埋土	硬土	2000(1.7)	溝	溝	埋積	3	2-3	埋積	埋土	---	---
	2	1958	+	埋土	硬土	2000(2.0)	溝	溝	埋積	10	2-3	埋積	埋土	---	---
	3	1958	+	埋土	硬土	2000(2.0)	溝	溝	埋積	3	2-3	埋積	埋土	---	---
H-15 hp-1-2	19	1958	+	埋土	硬土	2000(1.7)	溝	溝	埋積	3	2-3	埋積	埋土	---	---
	20	1958	+	埋土	硬土	2000(2.0)	溝	溝	埋積	10	2-3	埋積	埋土	---	---
	21	1958	+	埋土	硬土	2000(2.0)	溝	溝	埋積	3	2-3	埋積	埋土	---	---
H-15 hp-1-4	22	1958	+	埋土	硬土	2000(1.7)	溝	溝	埋積	3	2-3	埋積	埋土	---	---
	23	1958	+	埋土	硬土	2000(2.0)	溝	溝	埋積	10	2-3	埋積	埋土	---	---
H-15 hp-1-1	24	1958	+	埋土	硬土	2000(1.7)	溝	溝	埋積	3	2-3	埋積	埋土	---	---
H-15 hp-1-2	25	1958	+	埋土	硬土	2000(2.0)	溝	溝	埋積	10	2-3	埋積	埋土	---	---
H-15 hp-1-3	26	1958	+	埋土	硬土	2000(2.0)	溝	溝	埋積	3	2-3	埋積	埋土	---	---

図45 H-14・H-15(2)









**粘土集中 h n-1 規 模 0.40×0.15/\*m 平面形態 長楕円形**

h c-1は北西側部分で確認した。h n-1は灰白色の粘土のまとまりで、h p-2とh p-4の近くである。

**遺物出土状況** 床面(直上)出土はIV群土器、スクレイパー、U・Rフレイク、フレイク、磨製石斧、砥石、石製品、U・Rレキである。付属遺構から石鏃、石錐、スクレイパー、石核、U・Rフレイク、フレイク、磨製石斧、台石・石皿などが出土した。

**時 期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。h f-2出土の炭化物の放射性炭素年代測定結果は4236calBP-4083calBP(94.2%)(2σ暦年代)で、縄文時代後期前葉頃である。

**H-14・15掘り上げ土**

**位 置** K-24・25、L-22~25、M-22~25、N-23・24区

**規 模** (17.00)×(13.90)/0.20m

**平面形態** 不整な楕円形

**確認・調査** H-14・15の西側を除く周囲に掘り上げ土がみられた。H-14の北側部分で土層断面を観察したところ、住居跡の近くに、にぶい黄褐色土や黒褐色土、外側に黒色土がみられた。両住居跡構築に伴う掘り上げ土と考えられる。また掘り上げ土の北側部分はP-35と重複するが、掘り上げ土とV層を掘り下げたⅥ層で確認したので、新旧関係は不明である。

**H-16(図49・50 表13・14 図版19)**

**位 置** K-21・22、L-22区 **規 模** 5.92×4.06/5.56×3.82/0.44m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、V層がややくぼむ範囲がみられた。これの中央で十字に交差する土層観察用ベルトを設定し、これに沿ってトレンチを掘り下げた。平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、堅穴住居跡と判断した。その後、付属遺構を調査した。北東側と南東側は風倒木痕がある。

**覆 土** 四つに分層した。黒色の第2層が主体で、北側部分の壁際に黒褐色土と暗褐色土が部分的にみられる。

**床面・壁** 床面は概ね平坦で、壁は曲線的である。

**付属遺構** 焼土(地床炉)1か所、土坑1基を調査した。

**焼土 h f-1 規 模** 0.34×0.24/0.06m **平面形態** 楕円形

南側部分の黒色土主体の覆土中で、比して褐色を呈する土がみられ、焼土と判断した。

**土坑(先端部ピット) h p-1**

**規 模** 1.42×(0.78)/1.04×(0.64)/0.28m **平面形態** 楕円形

北西側の壁際から住居跡外へ突出する形状で、覆土からIV群土器が出土した。

**遺物出土状況** 覆土からIV群土器、石鏃、スクレイパー、磨製石斧、フレイク、U・Rフレイク、U・Rレキ、チャートの原石が出土した。

**時 期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

**H-17(図51 表13・14 図版20)**

**位 置** J・K-25区 **規 模** 3.12×3.06/2.86×2.82/0.34m **平面形態** 円形

**確認・調査** 包含層調査終了後、円形の黒色土がみられた。中央で十字に交差する土層観察用ベルトを設定し、これに沿ってトレンチを掘り下げたところ、平坦な面と壁の立ち上がりがみられた。周囲

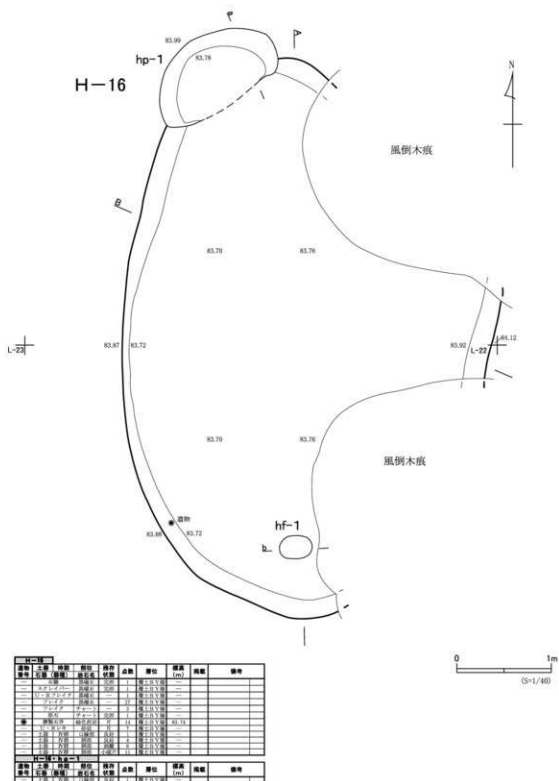
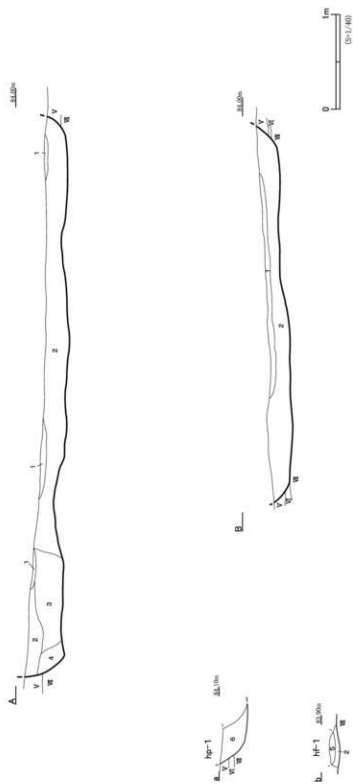
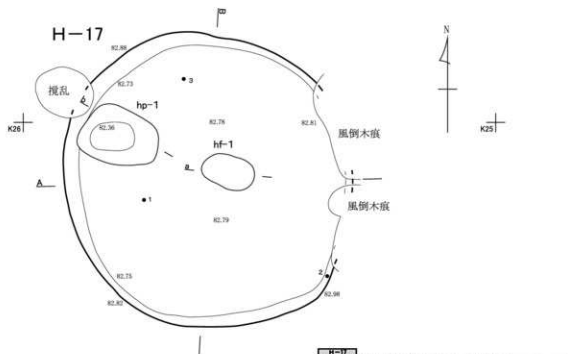


図49 H-16(1)

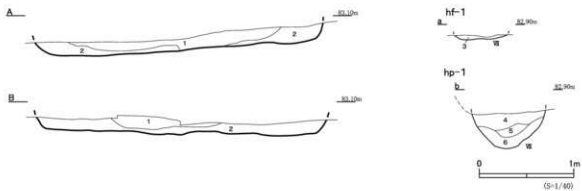


橋名 中心線里程	橋形式 橋長	橋台 形式	橋脚 形式	橋脚 形式	橋脚 形式	橋脚基礎形式		橋脚基礎形式		橋脚基礎形式		橋脚基礎 形式	橋脚基礎 形式	橋脚基礎 形式	橋脚基礎 形式	橋脚基礎 形式	橋脚基礎 形式	橋脚基礎 形式	
						橋脚基礎 形式	橋脚基礎 形式	橋脚基礎 形式	橋脚基礎 形式	橋脚基礎 形式	橋脚基礎 形式								橋脚基礎 形式
H-16	3	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC
H-16	4	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC
H-16	5	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC
H-16	4	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC	RC

図50 H-16(2)



H-17-1									
遺物	土層	位置	層位	出土	数量	層位	高さ (cm)	備考	備考
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
23	23	23	23	23	23	23	23	23	23
24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
26	26	26	26	26	26	26	26	26	26
27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
28	28	28	28	28	28	28	28	28	28
29	29	29	29	29	29	29	29	29	29
30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
31	31	31	31	31	31	31	31	31	31
32	32	32	32	32	32	32	32	32	32
33	33	33	33	33	33	33	33	33	33
34	34	34	34	34	34	34	34	34	34
35	35	35	35	35	35	35	35	35	35
36	36	36	36	36	36	36	36	36	36
37	37	37	37	37	37	37	37	37	37
38	38	38	38	38	38	38	38	38	38
39	39	39	39	39	39	39	39	39	39
40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
41	41	41	41	41	41	41	41	41	41
42	42	42	42	42	42	42	42	42	42
43	43	43	43	43	43	43	43	43	43
44	44	44	44	44	44	44	44	44	44
45	45	45	45	45	45	45	45	45	45
46	46	46	46	46	46	46	46	46	46
47	47	47	47	47	47	47	47	47	47
48	48	48	48	48	48	48	48	48	48
49	49	49	49	49	49	49	49	49	49
50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
51	51	51	51	51	51	51	51	51	51
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
53	53	53	53	53	53	53	53	53	53
54	54	54	54	54	54	54	54	54	54
55	55	55	55	55	55	55	55	55	55
56	56	56	56	56	56	56	56	56	56
57	57	57	57	57	57	57	57	57	57
58	58	58	58	58	58	58	58	58	58
59	59	59	59	59	59	59	59	59	59
60	60	60	60	60	60	60	60	60	60
61	61	61	61	61	61	61	61	61	61
62	62	62	62	62	62	62	62	62	62
63	63	63	63	63	63	63	63	63	63
64	64	64	64	64	64	64	64	64	64
65	65	65	65	65	65	65	65	65	65
66	66	66	66	66	66	66	66	66	66
67	67	67	67	67	67	67	67	67	67
68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
69	69	69	69	69	69	69	69	69	69
70	70	70	70	70	70	70	70	70	70
71	71	71	71	71	71	71	71	71	71
72	72	72	72	72	72	72	72	72	72
73	73	73	73	73	73	73	73	73	73
74	74	74	74	74	74	74	74	74	74
75	75	75	75	75	75	75	75	75	75
76	76	76	76	76	76	76	76	76	76
77	77	77	77	77	77	77	77	77	77
78	78	78	78	78	78	78	78	78	78
79	79	79	79	79	79	79	79	79	79
80	80	80	80	80	80	80	80	80	80
81	81	81	81	81	81	81	81	81	81
82	82	82	82	82	82	82	82	82	82
83	83	83	83	83	83	83	83	83	83
84	84	84	84	84	84	84	84	84	84
85	85	85	85	85	85	85	85	85	85
86	86	86	86	86	86	86	86	86	86
87	87	87	87	87	87	87	87	87	87
88	88	88	88	88	88	88	88	88	88
89	89	89	89	89	89	89	89	89	89
90	90	90	90	90	90	90	90	90	90
91	91	91	91	91	91	91	91	91	91
92	92	92	92	92	92	92	92	92	92
93	93	93	93	93	93	93	93	93	93
94	94	94	94	94	94	94	94	94	94
95	95	95	95	95	95	95	95	95	95
96	96	96	96	96	96	96	96	96	96
97	97	97	97	97	97	97	97	97	97
98	98	98	98	98	98	98	98	98	98
99	99	99	99	99	99	99	99	99	99
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100



遺物名 付属遺物名	層位番号	層位名	層位	計測 位置	遺物				層位 (cm)				採掘者	備考	
					形状	色	寸法	重量	層位	高さ	層位	高さ			
H-17	1	1層	+	層上	褐色	100x17.5	10g	10	10	10	10	10	10	10	10
	2	2層	+	層上	褐色	100x17.5	10g	10	10	10	10	10	10	10	10
H-17	3	3層	+	層上	褐色	100x17.5	10g	10	10	10	10	10	10	10	10
H-17	4	4層	+	層上	褐色	100x17.5	10g	10	10	10	10	10	10	10	10
	5	5層	+	層上	褐色	100x17.5	10g	10	10	10	10	10	10	10	10
hp-1	1	1層	+	層上	褐色	100x17.5	10g	10	10	10	10	10	10	10	10
	2	2層	+	層上	褐色	100x17.5	10g	10	10	10	10	10	10	10	10

図51 H-17

を掘り広げ、焼土(hf-1)を確認したので竪穴住居跡と判断した。東側に風倒木痕がある。

**覆土** 二つに分層した。上位は黒色土、壁際や下位は暗褐色土がみられる。

**床面・壁** 床面は概ね平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

**付属遺構** 焼土(地床炉)1か所、土坑1基を調査した。

**焼土(地床炉) hf-1 規模** 0.52×0.36/0.05m **平面形態** 楕円形

中央付近で褐色土を確認し、上面に炭化物がまとまてみられた。

**土坑(先端部ビット) hp-1**

**規模** 0.85×0.60/0.46×0.34/0.40m **平面形態** 楕円形

北西側の壁際で確認し、坑底面と壁は曲線的である。

**遺物出土状況** 床面(直上)出土は台石・石皿、石製品、U・Rレキがあり、hf-1からフレイク、磨製石斧が出土した。覆土からはIV群土器、磨製石斧、たたき石などが出土した。

**時期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。hf-1の炭化物の放射性炭素年代測定結果は4094calBP-3976calBP(91.1%)(2σ暦年代)で、縄文時代後期前葉頃である。

#### H-18 (図52 表13・14 図版20)

**位置** M・N-25・26区 **規模** 2.70×2.28/2.56×2.10/0.20m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査終了後、円形の黒色土がみられた。これの中央で十字に交わる土層観察用ベルトを設定し、これに沿ってトレンチを掘り下げたところ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認した。周囲を掘り広げ、焼土(hf-1)を確認したので、竪穴住居跡と判断した。その後、付属遺構を調査した。

**覆土** 二つに分層した。黒褐色土が主体で、北側の壁際に褐色土が部分的にみられる。

**床面・壁** 床面は平坦で、壁は曲線的である。

**付属遺構** 焼土(地床炉)1か所、土坑1基、フレイク集中2か所を調査した。

**焼土(地床炉) hf-1 規模** 0.24×0.20/0.03m **平面形態** 楕円形

中央付近で褐色の焼土を確認した。

**土坑(先端部ビット) hp-1**

**規模** 0.78×0.64/0.62×0.48/0.20m **平面形態** 楕円形

南側の壁際で外部へ突出する形状の土坑を確認した。坑底面は平坦、壁は曲線的で、坑底面からIV群土器が出土した。

#### フレイク集中

**hfc-1a 規模** 0.24×0.16m **平面形態** 不整な楕円形

**hfc-1b 規模** 0.64×0.44m **平面形態** 楕円形

hf-1の東側部分でまとまりが2か所みられ、hfc-1aはhf-1に近接する。

**遺物出土状況** 床面(直上)出土の遺物はIV群土器、石鏃、スクレイパー、フレイク、磨製石斧、U・Rレキである。

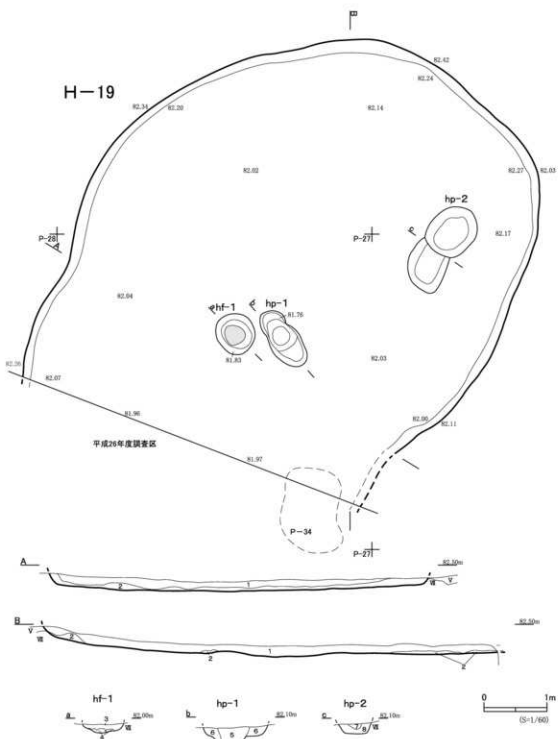
**時期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

#### H-19 (図53・54 表13・14 図版21)

**位置** O・P-26・27区 **規模** (5.06)×4.58/(5.00)×4.40/0.32m

**平面形態** 楕円形





遺構名 位置・構造	発見 層位	調査 方法	形状	土質				土質				土質 の 種類	土質 の 硬さ		
				土質 の種類	土質 の 硬さ	土質 の 硬さ	土質 の 硬さ	土質 の種類	土質 の 硬さ	土質 の 硬さ	土質 の 硬さ				
H-19	1	1	1	赤土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土
H-19	2	1	1	赤土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土
H-19	3	1	1	赤土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土
H-19	4	1	1	赤土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土
H-19	5	1	1	赤土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土
H-19	6	1	1	赤土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土
H-19	7	1	1	赤土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土
hp-1	8	1	1	赤土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土
hp-2	9	1	1	赤土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土

図53 H-19(1)





**確認・調査** 包含層調査中、V層で若干くぼみ範囲がみられ、平成26(2014)年度と平成28(2016)年度調査区の境の土層断面でも、黒色土の落ち込みがみられた。くぼみ内で交差する土層観察用ベルトを設定し、これ沿いにトレンチを掘り進めた。平坦な面と壁の立ち上がりを確認したので、堅欠住居跡と判断した。その後、付属遺構を調査した。南側部分は平成26(2014)年度の調査で掘り下げてしまっており、確認できない。

**覆土** 二つに分層した。上位は黒色土、壁際や下位は黒褐色土がみられる。

**床面・壁** 床面は概ね平坦で、壁は曲線的である。

**付属遺構** 焼土(地床炉)1か所、土坑2基を調査した。

#### 焼土(地床炉) h f-1

**規 模** 掘り方:  $0.44 \times 0.40 / 0.34 \times 0.32 / 0.08$  m 平面形態 円形

焼土:  $0.20 \times 0.20 / 0.04$  m 平面形態 円形

長軸上に位置し、赤褐色の焼土がみられた。

#### 土坑

**h p-1** 外形 **規 模**  $0.68 \times 0.34 / 0.58 \times 0.26 / 0.10$  m 平面形態 楕円形

中央 **規 模**  $0.34 \times 0.28 / 0.20 \times 0.18 / 0.22$  m 平面形態 不整形円形

**h p-2** (全体) **規 模**  $1.00 \times 0.48$  m 平面形態 長楕円形

(北東側部分) **規 模**  $0.56 \times 0.48 / 0.42 \times 0.30 / (0.12)$  m 平面形態 楕円形

(南西側部分) **規 模**  $(0.48) \times 0.46 / (0.36) \times 0.32 / (0.12)$  m 平面形態 楕円形

h p-1は中央付近でh f-1近く、h p-2は北東側部分で確認した。いずれも複数の土坑が重複する形状で、坑底面は凹凸がある。

**重複** P-34と重複する。別に調査したが、この土坑は本住居跡内に位置するので、付属遺構の可能性がある。

**遺物出土状況** 床面(直上)出土は石鏃、U・Rフレイク、フレイク、磨製石斧、たたき石、U・Rレキ、レキである。覆土は石鏃、石鏃、スクレイパー、石核、フレイクなど剥片石器が多く、他にIV群土器、磨製石斧、U・Rレキがある。

**時期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

#### H-20 (図55・56 表13・14 図版22)

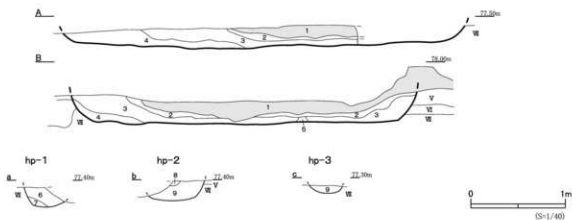
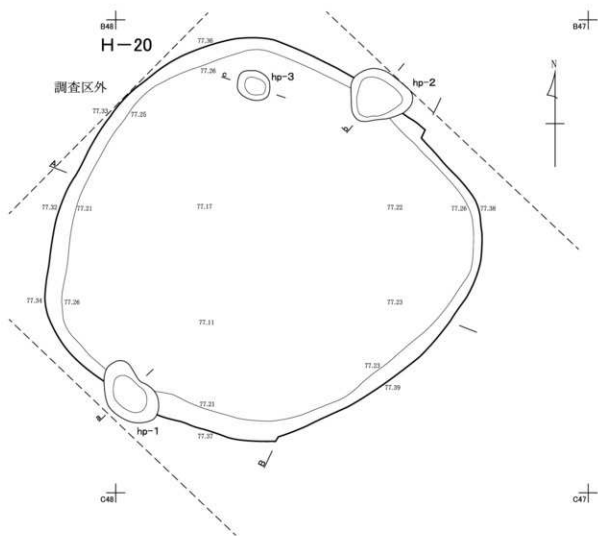
**位置** B-47・48区 **規 模**  $4.28 \times 4.18 / 4.00 \times 3.88 / 0.32$  m 平面形態 円形

**確認・調査** S d 2層(Ⅲ章2節)下位のV(V2)層の調査終了後、西側の調査区境界で半円形の黒色土がみられた。黒色土を掘り下げると平坦な面と壁の立ち上がりが見られ、遺構と判断した。西側の調査区外へ続くことから、北海道教育委員会と協議し、拡張することとなった。調査区の境で土層断面を記録し、建設機械でI~S d 2層を除去しV層上面まで掘り下げた。拡張部分では東西方向に土層観察用ベルトを追加し、これに沿ってトレンチを掘り進め、平坦な面や壁を確認した。その後、付属遺構を調査した。

**覆土** 上位にはS d 2層が堆積し、直下に黒色土がみられる。下位は黒褐色土が主体で、壁際には黒色土が部分的にみられる。

**床面・壁** 床面は平坦で、壁は曲線的である。

**付属遺構** 土坑3基を調査した。また記号は付していないが、礫集中1か所、炭化物集中を2か所確認した。



調査区 行楽遊園地	探検回数 番号	埋没式 番号	埋没 種別	計測方法と埋没の状況				埋没層の状況				埋没の 程度	埋没の 原因	埋没の 時期		
				計測 方法	埋没 状況	埋没 深度	埋没 層の 厚さ	埋没 層の 厚さ	埋没 層の 厚さ	埋没 層の 厚さ						
H-20	1	57層	埋没	計測	埋没	2000.7.1	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没
	2	57層	埋没	計測	埋没	2000.7.1	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没
	3	57層	埋没	計測	埋没	2000.7.1	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没
	4	57層	埋没	計測	埋没	2000.7.1	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没
H-20	5	57層	埋没	計測	埋没	2000.7.1	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没
	6	57層	埋没	計測	埋没	2000.7.1	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没
H-20	7	57層	埋没	計測	埋没	2000.7.1	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没
	8	57層	埋没	計測	埋没	2000.7.1	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没
hp-2-3	9	埋没	埋没	計測	埋没	2000.7.1	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没
	10	埋没	埋没	計測	埋没	2000.7.1	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没	埋没

図55 H-20(1)



#### 土坑 (先端部ビット)

h p-1 規 模 0.72×0.48/0.44×0.30/0.20m 平面形態 楕円形

h p-2 規 模 0.64×0.56/0.48×0.46/0.22m 平面形態 不整な楕円形

h p-1は南西側、h p-2は北東側の壁際で、いずれも外部へ突出する形状である。

土坑 h p-3 規 模 0.36×0.30/0.22×0.18/0.08m 平面形態 楕円形

北側部分で確認し、坑底面と壁は曲線的である。

炭化物集中 (東側部分) 規 模 0.24×0.18m 平面形態 (楕円形)

(西側部分) 規 模 0.20×0.16m 平面形態 (楕円形)

東側の壁際と中央よりやや西側で確認し、西側は木材の形状が残っていた。

覆土の確集中 規 模 2.20×0.98m

南西側部分の覆土中でU・Rレキ、レキがまとまってみられた。

遺物出土状況 床面(直上)出土の遺物は石鐮、スクレイパー、原石、U・Rレキ、レキがあり、h p-2からはスクレイパーが出土した。覆土からはたたき石、台石・石皿など礫石器が多く、他にIV群土器、磨製石斧などが出土した。

時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。炭化物集中の炭化物の放射性炭素年代測定結果は4009calBP-3896calBP(69.4%) (2σ暦年代)で、縄文時代後期前葉である。

(愛場)

### 3. 土坑 (図57~75 表15 図版23~32)

P-1 (図57 表15 図版23)

位 置 N-35区 規 模 1.09×0.84/0.82×0.62/0.38m 平面形態 楕円形

確認・調査 包含層調査終了後、楕円形の黒色土がみられた。短軸方向で半載したところ、壁と坑底面を確認し遺構と判断した。覆土からは炭化材が出土した。

覆 土 三つに分層した。黒色土主体で、壁際に黒褐色土、下位に暗褐色土が部分的にみられる。

坑底面・壁 長軸方向の坑底面は中央がくぼみ、壁は斜めに立ち上がる。

遺物出土状況 覆土下位からフレイク、台石・石皿、U・Rレキ、レキが出土した。

時 期 覆土出土の炭化材の放射性炭素年代測定結果は4244calBP-4083calBP(94.8%) (2σ暦年代)で、縄文時代後期初頭から中葉である。

(奥山)

P-2 (図57 表15 図版23)

位 置 V-13区 規 模 0.98×0.90/0.64×0.62/0.28m 平面形態 円形

確認・調査 包含層調査後、円形の黒色土がみられた。南東側を半載したところ、壁と坑底面を確認し遺構と判断した。

覆 土 五つに分層した。上位は黒色土で、壁際と最下位は褐色土と黄褐色土主体である。

坑底面・壁 坑底面は曲線的で、壁は斜めに立ち上がる。

遺物出土状況 覆土から台石・石皿、レキが出土した。

時 期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半~後期前半と判断する。

(佐川)

P-3 (図58 表15 図版23)

位 置 Q・R-27区 規 模 2.22×1.72/1.92×1.43/0.21m 平面形態 楕円形

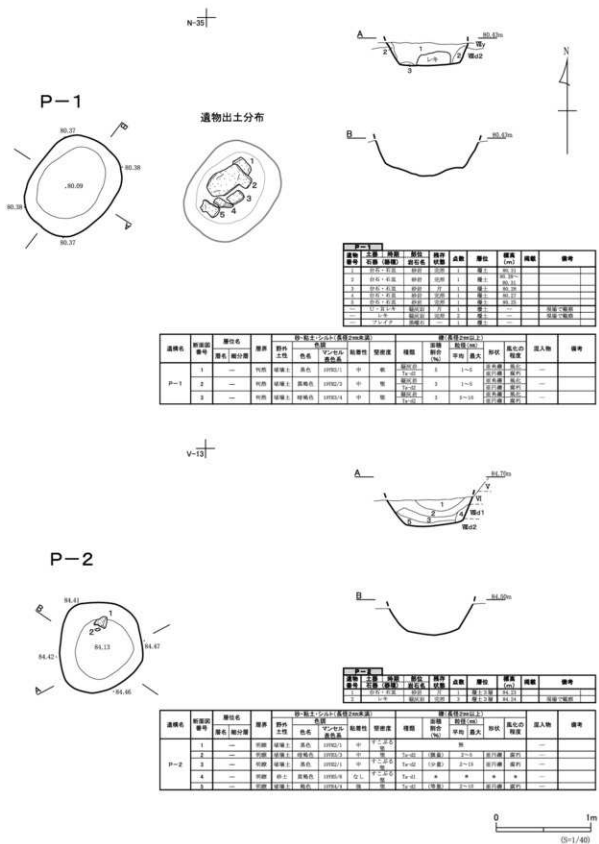


図57 P-1・P-2

**確認・調査** 包含層調査終了後、楕円形の黒色土がみられた。短軸方向で半載したところ、壁と坑底面を確認し土坑と認定した。

**覆土** 二つに分層した。T a - d 2を含む黒色土が主体で、壁から坑底面にかけて部分的に黒褐色土がみられる。

**坑底面・壁** 坑底面、壁ともに曲線的で、坑底面の中央はゆるやかにくぼむ。

**遺物出土状況** 坑底面からチャートの石鐵、台石・石皿、覆土から砥石、台石・石皿、フレイク、U・Rレキ、レキが出土した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

(末光)

P-4 (図58 表15 図版23)

**位置** N-38区 **規模** 0.60×0.56/0.46×0.44/0.12m **平面形態** 円形

**確認・調査** 包含層調査中、円形の黒色土とレキのまとまりがみられた。北西側を半載したところ、壁と坑底面を確認し小型の土坑と判断した。

**覆土** 覆土は一つの層である。

**坑底面・壁** 坑底面は曲線的で、壁は斜めに立ち上がる。

**遺物出土状況** 覆土からすり石、台石・石皿、U・Rレキが出土した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

(佐川)

P-5 (図59 表15 図版24)

**位置** h-19区 (C地区) **規模** 2.72×1.86/2.35×1.28/0.44m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 遺構確認調査区であるC地区とB地区の境界付近では、一部V層が残っており、包含層調査を行った。これの終了後、viii層で楕円形を呈する黒色土がみられた。短軸方向に土層観察用のベルトを残し、掘り進めたところ、明瞭な壁の立ち上がり)と坑底面を確認したので、遺構と判断した。

**覆土** 六つに分層した。上位にV層があり、主たる覆土は黒色土主体である。斜面の上側にあたる北側はT a - d 2主体、南側は灰色を呈するviii層主体の覆土がみられる。

**坑底面・壁** 坑底面、壁ともに曲線的で、坑底面の中央は若干低い。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 周囲の包含層の出土遺物から、縄文時代中期後半～後期前半と推測する。

P-6 (図59 表15 図版24)

**位置** u-18区 (C地区) **規模** 0.87×0.69/0.63×0.46/0.18m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** C地区の遺構確認調査中、楕円形を呈する段丘上 (B地区)の黒色土層 (V層) がみられた。長軸方向で半載したところ、平坦な坑底面と明瞭な壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。

**覆土** 段丘上の黒色土 (V層) が主体で、C地区でこの層がみられたのは、本遺構のみである。

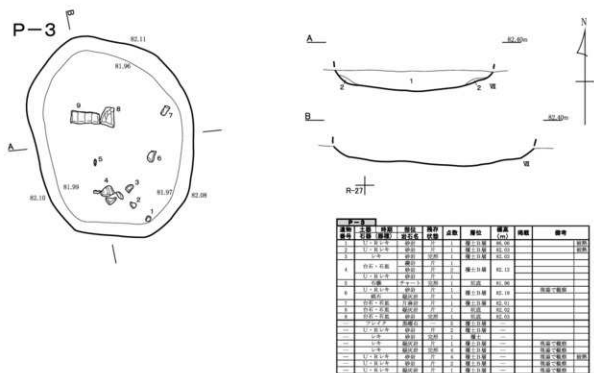
**坑底面・壁** 坑底面は概して平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 周囲の包含層の出土遺物から、縄文時代中期後半～後期前半と推測する。

P-7 (図60 表15 図版24)

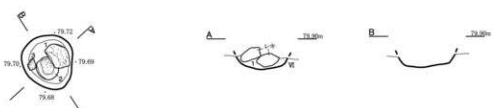
**位置** P・Q-41区 **規模** 1.24×0.87/0.92×0.60/0.39m **平面形態** 楕円形



遺構番号	土層	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20

遺構名	探検番号	層位名	層別	砂・粘土(シルト)の含有率(%)				礫(直径2mm以上)				記入物	備考		
				砂	粘土	シルト	含有率	種類	割合	平均	最大			形状	長径の程度
P-3	1	砂層	砂層	砂	粘土	シルト	含有率	種類	割合 <td>平均 <td>最大 <td>形状 <td>長径の程度</td> <td>記入物</td> <td>備考</td> </td></td></td>	平均 <td>最大 <td>形状 <td>長径の程度</td> <td>記入物</td> <td>備考</td> </td></td>	最大 <td>形状 <td>長径の程度</td> <td>記入物</td> <td>備考</td> </td>	形状 <td>長径の程度</td> <td>記入物</td> <td>備考</td>	長径の程度	記入物	備考
P-3	2	砂層	砂層	砂	粘土	シルト	含有率	種類	割合 <td>平均 <td>最大 <td>形状 <td>長径の程度</td> <td>記入物</td> <td>備考</td> </td></td></td>	平均 <td>最大 <td>形状 <td>長径の程度</td> <td>記入物</td> <td>備考</td> </td></td>	最大 <td>形状 <td>長径の程度</td> <td>記入物</td> <td>備考</td> </td>	形状 <td>長径の程度</td> <td>記入物</td> <td>備考</td>	長径の程度	記入物	備考

P-4



遺構番号	土層	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

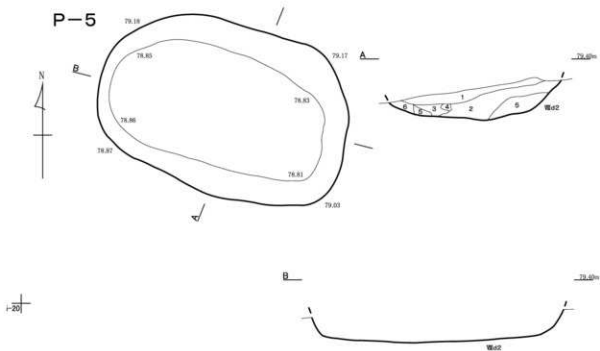
遺構名	探検番号	層位名	層別	砂・粘土(シルト)の含有率(%)				礫(直径2mm以上)				記入物	備考		
				砂	粘土	シルト	含有率	種類	割合	平均	最大			形状	長径の程度
P-4	1	砂層	砂層	砂	粘土	シルト	含有率	種類	割合 <td>平均 <td>最大 <td>形状 <td>長径の程度</td> <td>記入物</td> <td>備考</td> </td></td></td>	平均 <td>最大 <td>形状 <td>長径の程度</td> <td>記入物</td> <td>備考</td> </td></td>	最大 <td>形状 <td>長径の程度</td> <td>記入物</td> <td>備考</td> </td>	形状 <td>長径の程度</td> <td>記入物</td> <td>備考</td>	長径の程度	記入物	備考

0-30

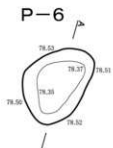


図58 P-3・P-4





遺構名	調査区 番号	構成名 層名・結分層	層厚	計測ポイント(基準2m水準)				層(基準2m以上)				遺人物	備考	
				野村 寸法	色名	サンプル 番号	粘着性	埋積度	種類	層厚 約値 (m)	平均			最大
P-5	1	砂層	埋積上	黄色	10000.0	細	堅	埋積度	0	0	1	埋積層	風化	—
	2	砂+砂 →砂	埋積上	黄褐色	10000.0	中	堅	埋積度	10	3	10	埋積層	風化	—
	3	V層	埋積上	黄褐色	10000.0	細	堅	埋積度	10	3	10	埋積層	風化	—
	4	4層	埋積上	黄褐色	10000.0	細	堅	埋積度	10	3	10	埋積層	風化	—
	5	砂層	埋積上	黄色	1.0104.9	細	堅	埋積度	10	3	10	埋積層	風化	—
	6	砂層	埋積上	黄褐色	1.0112.2	細	堅	埋積度	10	3	10	埋積層	風化	—



遺構名	調査区 番号	構成名 層名・結分層	層厚	計測ポイント(基準2m水準)				層(基準2m以上)				遺人物	備考	
				野村 寸法	色名	サンプル 番号	粘着性	埋積度	種類	層厚 約値 (m)	平均			最大
P-6	1	砂層	埋積上	黄色	10000.0	中	堅	埋積度	0	0	0	埋積層	風化	—



図59 P-5・P-6

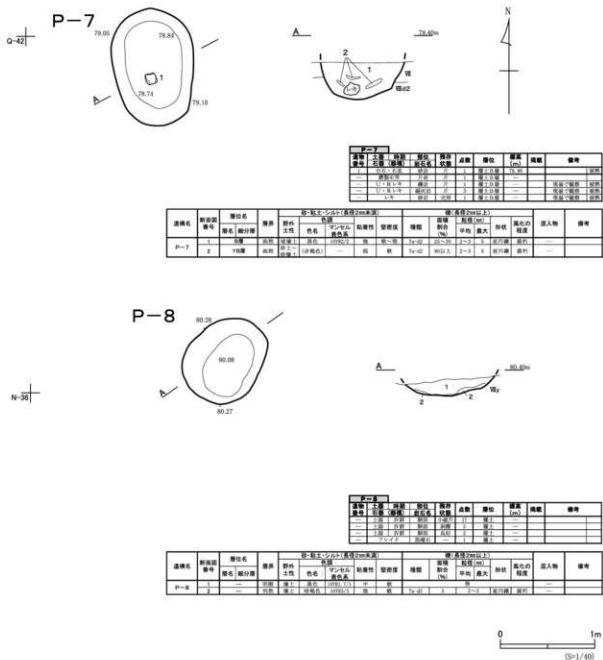


図60 P-7・P-8

**確認・調査** 包含層調査完了後、楕円形を呈する黒色土がみられた。短軸方向で半載したところ、偶然とした層界がみられたので、遺構と判断した。

**覆土** 二つに分層した。黒色土が主で、T a - d 2の薄層が部分的にみられる。

**坑底面・壁** 坑底面と壁は曲線的で、直線的な部分はみられない。

**遺物出土状況** 覆土から磨製石斧、台石・石皿、U・Rレキ、レキが出土した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

(末光)

P-8 (図60 表15 図版24)

**位置** M・N-35区 **規模** 0.90×0.90/0.66×0.54/0.38m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査終了後、楕円形を呈する黒色土がみられた。長軸方向で半載したところ、壁と坑底面が確認でき、遺構と判断した。

**覆土** T a - d 2を含む黒色土が主体で、下位に暗褐色土が部分的にみられる。

**坑底面・壁** 坑底面は曲線的で、壁は斜めに立ち上がる。

**遺物出土状況** 覆土からⅣ群土器、フレイクが出土した。

**時期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

(奥山)

P-9 (図61 表15 図版25)

**位置** Q-35区 **規模** (1.42)×(1.02)/(0.45)×0.36/0.32m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査終了後、楕円形の黒褐色土がみられ、短軸方向の西側を半載した。細長い坑底面と壁の立ち上がりがみられ、遺構と判断した。形状からTピットの可能性を考え、南側を深く掘り下げたが、覆土はみられず、土坑と考えられる。

**覆土** 五つに分層した。上位は黒褐色土で、下位にぶい黄褐色土があり、壁際には灰黄褐色土、最下位は薄い黒色土がみられる。

**坑底面・壁** 坑底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

P-10 (図61 表15 図版25)

**位置** U-30区 **規模** 1.16×0.98/0.82×0.70/0.28m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、Ⅵ層で楕円形の黒褐色土がみられ、北側を半載した。坑底面と壁の立ち上がりが確認でき土坑と判断した。

**覆土** 三つに分層した。最上位は黒褐色土で、下位に灰褐色土、黒色土が堆積する。

**坑底面・壁** 坑底面は曲線的で、壁は斜めに立ち上がる。

**遺物出土状況** 覆土からⅣ群土器、フレイク、すり石、砥石、台石・石皿、U・Rレキ、レキが出土した。

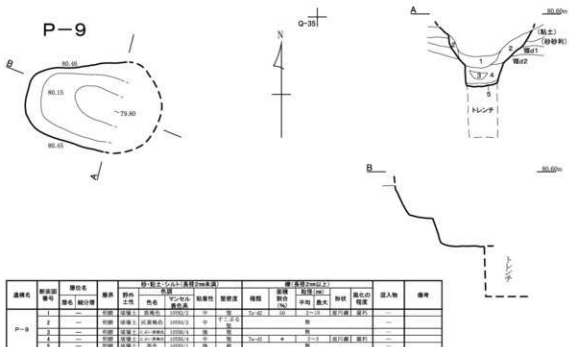
**時期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

(佐川)

P-11 (図62 表15 図版25)

**位置** U-22・23区 **規模** 1.70×0.80/1.28×0.48/0.28m **平面形態** 長楕円形

**確認・調査** 包含層調査終了後、長楕円形の黒色土がみられた。短軸方向で半載したところ、坑底面と壁が確認でき遺構と判断した。当初は第2層までを覆土と考えたが、坑底面をさらに掘り下げ、土



**P-10**

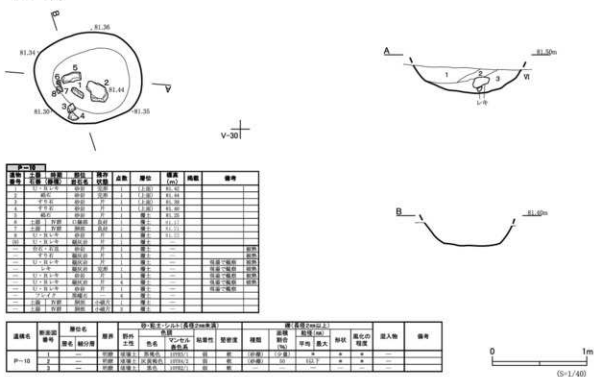


図61 P-9・P-10

層断面を確認したところ、下位のT a - d 1とT a - d 2主体土も覆土の可能性が考えられる。

**覆 土** 四つに分層し、最上位は黒色土である。

**坑底面・壁** 坑底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。

**遺物出土状況** 覆土からⅣ群土器、フレイク、すり石、砥石、U・Rレキが出土した。

**時 期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

P-12 (図62 表15 図版25)

**位 置** U・V-32区 **規 模** 1.18×1.14/0.96×0.92/0.26m **平面形態** 円形

**確認・調査** 包含層調査終了後、円形を呈する黒色土がみられた。半載したところ、壁と坑底面が確認でき遺構と判断した。

**覆 土** 三つに分層した。上位は黒色土主体で、下位には褐色土、壁際には暗褐色土がみられる。

**坑底面・壁** 坑底面、壁ともに曲線的で、坑底面の中央はややくぼむ。

**遺物出土状況** 覆土からⅣ群土器、石鏃、U・Rレキが出土した。

**時 期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

(奥山)

P-13 (図63 表15 図版26)

**位 置** U-28区 **規 模** 0.62×0.50/0.44×0.24/0.20m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、楕円形の黒色土がみられた。南西方向で半載したところ、壁と坑底面が確認でき、小型の土坑と判断した。

**覆 土** 二つに分層した。下位に薄い黒褐色土があり、上位は黒色土主体である。

**坑底面・壁** 坑底面、壁ともに曲線的である。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時 期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

P-14 (図63 表15 図版26)

**位 置** P-40区 **規 模** 1.18×0.62/0.66×0.36/0.44m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査終了後、楕円形の黒色土がみられた。短軸方向で半載したところ、壁と坑底面が確認でき遺構と判断した。

**覆 土** 五つに分層した。最上位の中央に黒色土が堆積し、それより下位は、にぶい黄褐色土、明赤褐色土が主体である。

**坑底面・壁** 坑底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。

**遺物出土状況** 覆土から磨製石斧、レキが出土した。

**時 期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

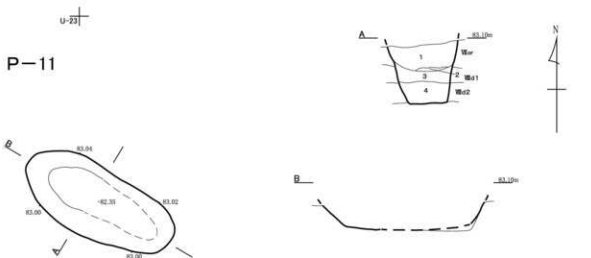
P-15 (図64 表15 図版26)

**位 置** S-30区 **規 模** 0.60×0.48/0.34×0.36/0.42m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、楕円形の黒色土とレキのまとまりがみられた。北西方向で半載したところ、壁と坑底面が確認でき、小型の土坑と判断した。

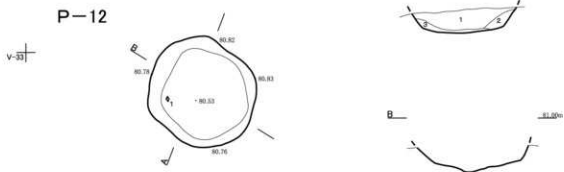
**覆 土** 黒色土主体である。

**坑底面・壁** 坑底面は曲線的で、壁は直立気味に立ち上がる。



遺構 番号	遺構 名称	種類	形状	面積 (㎡)	体積 (m <sup>3</sup> )	土質	層位	高さ (m)	周長 (m)	備考
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

遺構名	遺構 番号	遺構 名称	種類	計測方法・測定結果(単位:m)				埋没状況(単位:m)				遺構の 高さ	遺構の 長さ	遺構の 幅	遺構の 深さ	遺構の 形状	遺構の 土質	備考		
				計測 方法	測定 結果	測定 結果	測定 結果	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況									
P-11	1	---	穴	計測 方法	測定 結果	測定 結果	測定 結果	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況
	2	---	穴	計測 方法	測定 結果	測定 結果	測定 結果	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況
	4	---	穴	計測 方法	測定 結果	測定 結果	測定 結果	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況

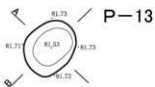


遺構 番号	遺構 名称	種類	形状	面積 (㎡)	体積 (m <sup>3</sup> )	土質	層位	高さ (m)	周長 (m)	備考
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

遺構名	遺構 番号	遺構 名称	種類	計測方法・測定結果(単位:m)				埋没状況(単位:m)				遺構の 高さ	遺構の 長さ	遺構の 幅	遺構の 深さ	遺構の 形状	遺構の 土質	備考	
				計測 方法	測定 結果	測定 結果	測定 結果	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況								
P-12	1	---	穴	計測 方法	測定 結果	測定 結果	測定 結果	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況
	2	---	穴	計測 方法	測定 結果	測定 結果	測定 結果	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況
	3	---	穴	計測 方法	測定 結果	測定 結果	測定 結果	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況	埋没 状況

0 1m  
(S=1/40)

図62 P-11・P-12

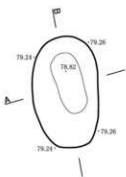


V-28

遺跡名	発見調査 番号	遺跡名 掘削層	層別 名称	計測方法(トランジット測量法)				観測条件(2000.8)				測定の 精度	測入者	備考		
				測角 方法	測角 精度	観測 回数	観測 時間	観測 時刻	観測 時刻	観測 時刻	観測 時刻					
															測角 精度	測角 精度
P-13	1	---	---	トランジット 測量法	10"	10"	10"	10"	10"	10"	10"	10"	10"	10"	---	---

P-40

P-14



計測方法(トランジット測量法)									
測角 方法	測角 精度	測角 精度	測角 精度	測角 精度	測角 精度	測角 精度	測角 精度	測角 精度	測角 精度
トランジット 測量法	10"	10"	10"	10"	10"	10"	10"	10"	10"



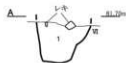
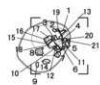
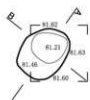
遺跡名	発見調査 番号	遺跡名 掘削層	層別 名称	計測方法(トランジット測量法)				観測条件(2000.8)				測定の 精度	測入者	備考	
				測角 方法	測角 精度	観測 回数	観測 時間	観測 時刻	観測 時刻	観測 時刻	観測 時刻				
															測角 精度
P-14	1	---	---	トランジット 測量法	10"	10"	10"	10"	10"	10"	10"	10"	10"	---	---
	2	---	---	トランジット 測量法	10"	10"	10"	10"	10"	10"	10"	10"	10"	---	---
	3	---	---	トランジット 測量法	10"	10"	10"	10"	10"	10"	10"	10"	10"	---	---
	4	---	---	トランジット 測量法	10"	10"	10"	10"	10"	10"	10"	10"	10"	---	---
	5	---	---	トランジット 測量法	10"	10"	10"	10"	10"	10"	10"	10"	10"	---	---

図63 P-13・P-14

P-15

s-30

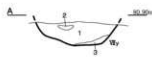
s-30



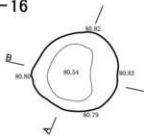
遺構 番号	土層 番号	種類	厚さ (cm)	層位 深さ (cm)	面積 (㎡)	形状	用途	備考
1	1	砂	10	0	1.2	円形	基礎	
2	2	砂	10	10	1.2	円形	基礎	
3	3	砂	10	20	1.2	円形	基礎	
4	4	砂	10	30	1.2	円形	基礎	
5	5	砂	10	40	1.2	円形	基礎	
6	6	砂	10	50	1.2	円形	基礎	
7	7	砂	10	60	1.2	円形	基礎	
8	8	砂	10	70	1.2	円形	基礎	
9	9	砂	10	80	1.2	円形	基礎	
10	10	砂	10	90	1.2	円形	基礎	
11	11	砂	10	100	1.2	円形	基礎	
12	12	砂	10	110	1.2	円形	基礎	
13	13	砂	10	120	1.2	円形	基礎	
14	14	砂	10	130	1.2	円形	基礎	
15	15	砂	10	140	1.2	円形	基礎	
16	16	砂	10	150	1.2	円形	基礎	
17	17	砂	10	160	1.2	円形	基礎	
18	18	砂	10	170	1.2	円形	基礎	
19	19	砂	10	180	1.2	円形	基礎	
20	20	砂	10	190	1.2	円形	基礎	
21	21	砂	10	200	1.2	円形	基礎	

遺構名	調査番号	層位名	種類	断面形状(単位:m)				断面形状(単位:m)				築込の 程度	築込人物	備考
				形状	高さ	幅	厚さ	形状	高さ	幅	厚さ			
P-15	1	砂	基礎	円形	1.2	1.2	10	円形	1.2	1.2	10	基礎		

U-33



P-16



遺構 番号	土層 番号	種類	厚さ (cm)	層位 深さ (cm)	面積 (㎡)	形状	用途	備考
1	1	砂	10	0	1.2	円形	基礎	
2	2	砂	10	10	1.2	円形	基礎	
3	3	砂	10	20	1.2	円形	基礎	
4	4	砂	10	30	1.2	円形	基礎	
5	5	砂	10	40	1.2	円形	基礎	
6	6	砂	10	50	1.2	円形	基礎	
7	7	砂	10	60	1.2	円形	基礎	
8	8	砂	10	70	1.2	円形	基礎	
9	9	砂	10	80	1.2	円形	基礎	
10	10	砂	10	90	1.2	円形	基礎	
11	11	砂	10	100	1.2	円形	基礎	
12	12	砂	10	110	1.2	円形	基礎	
13	13	砂	10	120	1.2	円形	基礎	
14	14	砂	10	130	1.2	円形	基礎	
15	15	砂	10	140	1.2	円形	基礎	
16	16	砂	10	150	1.2	円形	基礎	
17	17	砂	10	160	1.2	円形	基礎	
18	18	砂	10	170	1.2	円形	基礎	
19	19	砂	10	180	1.2	円形	基礎	
20	20	砂	10	190	1.2	円形	基礎	
21	21	砂	10	200	1.2	円形	基礎	

遺構名	調査番号	層位名	種類	断面形状(単位:m)				断面形状(単位:m)				築込の 程度	築込人物	備考
				形状	高さ	幅	厚さ	形状	高さ	幅	厚さ			
P-16	1	砂	基礎	円形	1.2	1.2	10	円形	1.2	1.2	10	基礎		
	2	砂	基礎	円形	1.2	1.2	10	円形	1.2	1.2	10	基礎		
	3	砂	基礎	円形	1.2	1.2	10	円形	1.2	1.2	10	基礎		



図64 P-15・P-16



**遺物出土状況** 覆土の上部にレキが集中してみられ、すり石、砥石、台石・石皿、U・Rレキ、レキが出土した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

(佐川)

P-16 (図64 表15 図版26)

**位置** U-32区 **規模** 0.86×0.92/0.62×0.48/0.24m **平面形態** 円形

**確認・調査** 包含層調査終了後、円形の黒褐色土がみられた。南東側を半載したところ、壁と坑底面が確認でき土坑と判断した。

**覆土** 三つに分層した。北側部分の最下位にT a - d 2 主体土が薄く堆積し、その上位は黒褐色土主体である。

**坑底面・壁** 坑底面は南側がやや傾斜し、壁は斜めに立ち上がる。

**遺物出土状況** 覆土からIV群土器、フレイク、砥石、台石・石皿、石製品（石英原石）、U・Rレキが出土した。

**時期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

(奥山)

P-17 (図65 表15 図版27)

**位置** W-26区 **規模** 2.00×1.26/1.76×1.08/0.24m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、レキのまとまりと楕円形の黒褐色土がみられた。遺物が多いと予想し、長軸と短軸方向にベルトを残し、全体を掘り下げた。坑底面と壁を確認し土坑と判断した。

**覆土** 四つに分層した。南東側の壁際に第2・3・4層が部分的で、これら以外は広く黒褐色土が堆積する。

**坑底面・壁** 坑底面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。北西側の坑底面には楕円形の土坑状のくぼみがみられる。

**遺物出土状況** 覆土からIV群土器、石鏃、スクレイパー、フレイク、磨製石斧、すり石、北海道式石冠、砥石、台石・石皿、U・Rレキが出土した。

**時期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

P-18 (図65 表15 図版27)

**位置** W-13、X-12・13区 **規模** 1.20×1.18/0.84×0.82/0.32m **平面形態** 円形

**確認・調査** 包含層調査終了後、円形の黒褐色土がみられた。南西側を半載したところ、壁と坑底面が確認でき土坑と判断した。

**覆土** 四つに分層した。北西側の壁際に褐色の砂礫を主体とする覆土があり、その上位は黒色土が薄く、さらにその上位は黒褐色土である。

**坑底面・壁** 坑底面は平坦で、壁は斜めに開いて立ち上がる。

**遺物出土状況** 覆土からIV群土器が出土した。

**時期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

P-19 (図66 表15 図版27)

**位置** W-12区 **規模** 0.82×0.74/0.66×0.54/0.16m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、楕円形の黒色土がみられた。西側を半載したところ、壁と坑底面が確認



でき土坑と判断した。

**覆 土** 黒色土主体である。

**坑底面・壁** 坑底面は曲線形で東側がやや低い。壁は斜めに立ち上がる。

**遺物出土状況** 覆土からU・Rフレイク、フレイクが出土した。

**時 期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

**P-20** (図66 表15 図版27)

**位 置** X-11・12区 **規 模** 1.08×1.06/0.70×0.74/0.20m **平面形態** 円形

**確認・調査** 包含層調査中、円形の黒色土がみられた。西側を半載したところ、壁と坑底面が確認でき土坑と判断した。

**覆 土** 三つに分層した。黒色土が主体的にみられ、壁際には褐色主体土が部分的に堆積する。

**坑底面・壁** 坑底面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

**遺物出土状況** 覆土からIV群土器、石鏃、フレイク、砥石、台石・石皿、レキが出土した。

**時 期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

**P-21** (図67 表15 図版28)

**位 置** X・Y-13区 **規 模** 1.46×1.18/1.08×0.78/0.30m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 平成26(2014)年度に北側、平成27(2015)年度に南側を調査した。包含層調査中、調査区境の壁際のVI層で、半円形の黒褐色土を確認した。北側を半載して坑底面と壁を確認し、土坑と判断した。

**覆 土** 三つに分層した。上下位に黒色土、中位に黒褐色土がみられる。

**坑底面・壁** 坑底面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

**遺物出土状況** 覆土からたたき石が出土した。

**時 期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

(佐川)

**P-22** (図67 表15 図版28)

**位 置** V-14区 **規 模** 1.06×0.84/0.88×0.44/0.60m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査終了後、楕円形を呈する黒色土がみられた。長軸方向で半載したところ、壁と坑底面が確認でき、遺構と判断した。

**覆 土** 五つに分層した。上位は黒褐色土で、下位は褐色土や暗褐色土がみられる。最下位はT a-d 2主体である。

**坑底面・壁** 坑底面は平坦で、壁の立ち上がりは直立気味である。

**遺物出土状況** 覆土からフレイク、砥石、レキが出土した。

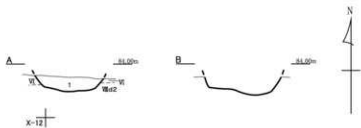
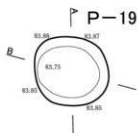
**時 期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

**P-23** (図68 表15 図版28)

**位 置** Q・R-43区 **規 模** 1.24×1.04/0.74×0.54/0.28m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査終了後、楕円形を呈する黒色土がみられた。短軸方向で半載したところ、壁と坑底面が確認でき遺構と判断した。

**覆 土** 最下位はT a-d 2主体で、上位は黒色土中に暗褐色土がみられる。

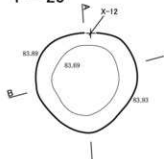


【P-19】

遺構 番号	種類	形状	方位	構造	用途	層位	深さ (m)	機能	備考
1	穴	円形	北西	土	不明	1	41.00	不明	

遺構名	調査区 番号	層位名	層位 番号	地盤構成(20m未満)				地盤構成(20m以上)				調査 深度 (m)	調査 方法	掘削 の 状況	掘削 の 高さ	掘削 の 傾斜	掘削 の 傾斜 角	掘削 の 傾斜 角	掘削 の 傾斜 角	
				土質	色	含水率 (%)	粘着性	締結度	土質	色	含水率 (%)									粘着性
P-19	1	1	1	砂	黄	15.0	弱	砂	黄	15.0	弱	41.00	掘削	41.00	0	0	0	0	0	0

P-20



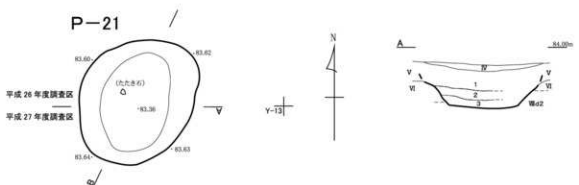
【P-20】

遺構 番号	種類	形状	方位	構造	用途	層位	深さ (m)	機能	備考
1	穴	円形	北西	土	不明	1	41.00	不明	
2	穴	円形	北西	土	不明	2	41.00	不明	
3	穴	円形	北西	土	不明	3	41.00	不明	
4	穴	円形	北西	土	不明	4	41.00	不明	
5	穴	円形	北西	土	不明	5	41.00	不明	
6	穴	円形	北西	土	不明	6	41.00	不明	
7	穴	円形	北西	土	不明	7	41.00	不明	
8	穴	円形	北西	土	不明	8	41.00	不明	
9	穴	円形	北西	土	不明	9	41.00	不明	
10	穴	円形	北西	土	不明	10	41.00	不明	
11	穴	円形	北西	土	不明	11	41.00	不明	
12	穴	円形	北西	土	不明	12	41.00	不明	
13	穴	円形	北西	土	不明	13	41.00	不明	
14	穴	円形	北西	土	不明	14	41.00	不明	
15	穴	円形	北西	土	不明	15	41.00	不明	
16	穴	円形	北西	土	不明	16	41.00	不明	
17	穴	円形	北西	土	不明	17	41.00	不明	
18	穴	円形	北西	土	不明	18	41.00	不明	
19	穴	円形	北西	土	不明	19	41.00	不明	
20	穴	円形	北西	土	不明	20	41.00	不明	
21	穴	円形	北西	土	不明	21	41.00	不明	
22	穴	円形	北西	土	不明	22	41.00	不明	
23	穴	円形	北西	土	不明	23	41.00	不明	
24	穴	円形	北西	土	不明	24	41.00	不明	
25	穴	円形	北西	土	不明	25	41.00	不明	
26	穴	円形	北西	土	不明	26	41.00	不明	
27	穴	円形	北西	土	不明	27	41.00	不明	
28	穴	円形	北西	土	不明	28	41.00	不明	
29	穴	円形	北西	土	不明	29	41.00	不明	
30	穴	円形	北西	土	不明	30	41.00	不明	
31	穴	円形	北西	土	不明	31	41.00	不明	
32	穴	円形	北西	土	不明	32	41.00	不明	
33	穴	円形	北西	土	不明	33	41.00	不明	
34	穴	円形	北西	土	不明	34	41.00	不明	
35	穴	円形	北西	土	不明	35	41.00	不明	
36	穴	円形	北西	土	不明	36	41.00	不明	
37	穴	円形	北西	土	不明	37	41.00	不明	
38	穴	円形	北西	土	不明	38	41.00	不明	
39	穴	円形	北西	土	不明	39	41.00	不明	
40	穴	円形	北西	土	不明	40	41.00	不明	
41	穴	円形	北西	土	不明	41	41.00	不明	
42	穴	円形	北西	土	不明	42	41.00	不明	
43	穴	円形	北西	土	不明	43	41.00	不明	
44	穴	円形	北西	土	不明	44	41.00	不明	
45	穴	円形	北西	土	不明	45	41.00	不明	
46	穴	円形	北西	土	不明	46	41.00	不明	
47	穴	円形	北西	土	不明	47	41.00	不明	
48	穴	円形	北西	土	不明	48	41.00	不明	
49	穴	円形	北西	土	不明	49	41.00	不明	
50	穴	円形	北西	土	不明	50	41.00	不明	
51	穴	円形	北西	土	不明	51	41.00	不明	
52	穴	円形	北西	土	不明	52	41.00	不明	
53	穴	円形	北西	土	不明	53	41.00	不明	
54	穴	円形	北西	土	不明	54	41.00	不明	
55	穴	円形	北西	土	不明	55	41.00	不明	
56	穴	円形	北西	土	不明	56	41.00	不明	
57	穴	円形	北西	土	不明	57	41.00	不明	
58	穴	円形	北西	土	不明	58	41.00	不明	
59	穴	円形	北西	土	不明	59	41.00	不明	
60	穴	円形	北西	土	不明	60	41.00	不明	
61	穴	円形	北西	土	不明	61	41.00	不明	
62	穴	円形	北西	土	不明	62	41.00	不明	
63	穴	円形	北西	土	不明	63	41.00	不明	
64	穴	円形	北西	土	不明	64	41.00	不明	
65	穴	円形	北西	土	不明	65	41.00	不明	
66	穴	円形	北西	土	不明	66	41.00	不明	
67	穴	円形	北西	土	不明	67	41.00	不明	
68	穴	円形	北西	土	不明	68	41.00	不明	
69	穴	円形	北西	土	不明	69	41.00	不明	
70	穴	円形	北西	土	不明	70	41.00	不明	
71	穴	円形	北西	土	不明	71	41.00	不明	
72	穴	円形	北西	土	不明	72	41.00	不明	
73	穴	円形	北西	土	不明	73	41.00	不明	
74	穴	円形	北西	土	不明	74	41.00	不明	
75	穴	円形	北西	土	不明	75	41.00	不明	
76	穴	円形	北西	土	不明	76	41.00	不明	
77	穴	円形	北西	土	不明	77	41.00	不明	
78	穴	円形	北西	土	不明	78	41.00	不明	
79	穴	円形	北西	土	不明	79	41.00	不明	
80	穴	円形	北西	土	不明	80	41.00	不明	
81	穴	円形	北西	土	不明	81	41.00	不明	
82	穴	円形	北西	土	不明	82	41.00	不明	
83	穴	円形	北西	土	不明	83	41.00	不明	
84	穴	円形	北西	土	不明	84	41.00	不明	
85	穴	円形	北西	土	不明	85	41.00	不明	
86	穴	円形	北西	土	不明	86	41.00	不明	
87	穴	円形	北西	土	不明	87	41.00	不明	
88	穴	円形	北西	土	不明	88	41.00	不明	
89	穴	円形	北西	土	不明	89	41.00	不明	
90	穴	円形	北西	土	不明	90	41.00	不明	
91	穴	円形	北西	土	不明	91	41.00	不明	
92	穴	円形	北西	土	不明	92	41.00	不明	
93	穴	円形	北西	土	不明	93	41.00	不明	
94	穴	円形	北西	土	不明	94	41.00	不明	
95	穴	円形	北西	土	不明	95	41.00	不明	
96	穴	円形	北西	土	不明	96	41.00	不明	
97	穴	円形	北西	土	不明	97	41.00	不明	
98	穴	円形	北西	土	不明	98	41.00	不明	
99	穴	円形	北西	土	不明	99	41.00	不明	
100	穴	円形	北西	土	不明	100	41.00	不明	

遺構名	調査区 番号	層位名	層位 番号	地盤構成(20m未満)				地盤構成(20m以上)				調査 深度 (m)	調査 方法	掘削 の 状況	掘削 の 高さ	掘削 の 傾斜	掘削 の 傾斜 角	掘削 の 傾斜 角
				土質	色	含水率 (%)	粘着性	締結度	土質	色	含水率 (%)							
P-20	1	1	1	砂	黄	15.0	弱	砂	黄	15.0	弱	41.00	掘削	41.00	0	0	0	0
P-20	2	2	2	砂	黄	15.0	弱	砂	黄	15.0	弱	41.00	掘削	41.00	0	0	0	0

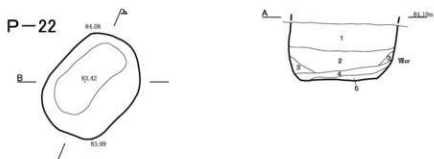


図66 P-19・P-20



遺構名	調査年度	調査区	調査区	調査区	調査区	調査区	調査区	調査区	調査区	調査区
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

遺構名	調査年度	遺構名	層位	地層・土質				埋蔵物				形状	高さの程度	埋入物	備考	
				色名	質感	厚さ	透水性	種類	数量	平均	最大					
P-21	1	---	---	赤褐色	粘土	100(2)	強	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	2	---	---	赤褐色	粘土	100(2)	強	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	3	---	---	赤褐色	粘土	100(2)	強	---	---	---	---	---	---	---	---	---



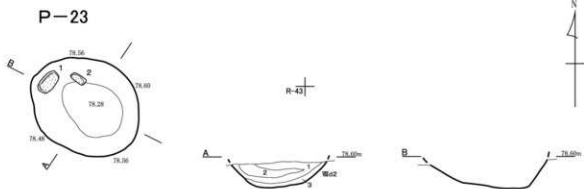
遺構名	調査年度	調査区	調査区	調査区	調査区	調査区	調査区	調査区	調査区
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

W-15

遺構名	調査年度	遺構名	層位	地層・土質				埋蔵物				形状	高さの程度	埋入物	備考	
				色名	質感	厚さ	透水性	種類	数量	平均	最大					
P-22	1	---	---	赤褐色	粘土	100(2)	強	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	2	---	---	赤褐色	粘土	100(2)	強	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	3	---	---	赤褐色	粘土	100(2)	強	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	4	---	---	赤褐色	粘土	100(2)	強	---	---	---	---	---	---	---	---	---



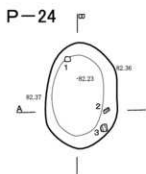
図67 P-21・P-22



遺構番号	土層	時期	層位	検出	形状	用途	構造	備考
1	1-1	前期	1	柱礎	円形	礎	---	---
2	1-2	前期	2	柱礎	円形	礎	---	---
3	1-3	前期	3	柱礎	円形	礎	---	---

遺構番号	発見位置	形状	砂・粘土質土層(20cm未満)				硬土層(20cm以上)				遺構の傾斜	遺構の深さ	遺構の長さ	遺構の幅	遺構の厚さ	遺構の形状	遺構の用途	遺構の年代	
			層位	色	成分	硬さ	層位	色	成分	硬さ									
P-23	1	柱礎	1-1	黄褐色	砂質	硬	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	2	柱礎	1-2	黄褐色	砂質	硬	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	3	柱礎	1-3	黄褐色	砂質	硬	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

b-17



遺構番号	土層	時期	層位	検出	形状	用途	構造	備考
1	1-1	前期	1	柱礎	円形	礎	---	---
2	1-2	前期	2	柱礎	円形	礎	---	---
3	1-3	前期	3	柱礎	円形	礎	---	---

遺構番号	発見位置	形状	砂・粘土質土層(20cm未満)				硬土層(20cm以上)				遺構の傾斜	遺構の深さ	遺構の長さ	遺構の幅	遺構の厚さ	遺構の形状	遺構の用途	遺構の年代
			層位	色	成分	硬さ	層位	色	成分	硬さ								
P-24	1	柱礎	1-1	黄褐色	砂質	硬	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	2	柱礎	1-2	黄褐色	砂質	硬	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---



図68 P-23・P-24

**坑底面・壁** 坑底面、壁ともに曲線的で、坑底面の南側はややくぼむ。

**遺物出土状況** 坑底面からすり石、台石・石皿、覆土からU・Rレキが出土した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

**P-24** (図68 表15 図版28)

**位置** b-16区 **規模** 1.12×0.76/0.86×0.56/0.20m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査終了後、楕円形の黒色土を確認した。短軸方向で半截したところ、明瞭な壁と坑底面がみられ、土坑と判断した。

**覆土** 二つに分層した。上位は黒褐色土で、下位は褐色土が薄く堆積する。

**坑底面・壁** 坑底面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

**遺物出土状況** 坑底面や覆土からIV群土器、U・Rレキが出土した。

**時期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

**P-25** (図69 表15 図版29)

**位置** c-19区 **規模** 0.64×0.32/0.57×0.22/0.37m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層終了後、楕円形の黒褐色土がみられた。西側を半截したところ、明瞭な壁と坑底面を確認し、小型の土坑と判断した。

**覆土** 二つに分層した。主体は黒褐色土で、下位には褐色土が薄く堆積する。

**坑底面・壁** 坑底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。

**遺物出土状況** 覆土からU・Rレキが出土した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

**P-26** (図69 表15 図版29)

**位置** Y・Z-10区 **規模** 0.92×0.88/0.54×0.64/0.19m **平面形態** 円形

**確認・調査** 包含層終了後、円形の黒色土がみられた。東側を半截し、壁と坑底面を確認した。

**覆土** 二つに分層した。上位は黒色土主体で、下位はTa-d 2主体である。

**坑底面・壁** 坑底面は平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。

**遺物出土状況** 覆土から磨製石斧、坑底面から台石・石皿が出土した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

**P-27** (図70 表15 図版29)

**位置** c-10区 **規模** 0.98×0.95/0.58×0.37/0.56m **平面形態** 円形

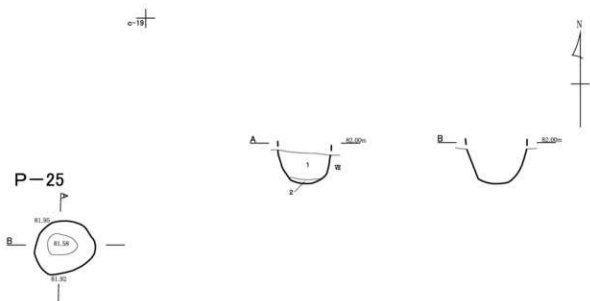
**確認・調査** 包含層調査終了後、円形の黒色土が確認された。半截したところ、壁と坑底面がみられ、土坑と判断した。南西側近くにはB-2がある。

**覆土** 上位は黒色土、黒褐色土がみられ、最下位にはTa-d 2主体が堆積する。

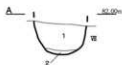
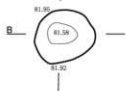
**坑底面・壁** 坑底面は平坦で、壁は南東側が斜めに、それ以外は直立気味に立ち上がる。

**遺物出土状況** 覆土からスクレイパー、U・Rフレイク、フレイクが出土した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。



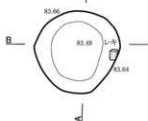
P-25



遺構 番号	遺構 名称	種類	形状	幅員 (m)	面積 (㎡)	高さ (m)	用途	備考
1	土壇	円形	円形	81.58	5221	0.42	居住	

遺構名	調査期 番号	発見名	発見 時期	発見 場所	部・組エントリ(表層)(m未満)				部・組エントリ(表層)(m未満)				発見の 状況	発見の 程度	発見人物	備考	
					部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名					
P-25	1	土壇	円形	地上	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名
	2	土壇	円形	地下	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名

P-26



Z-10



遺構 番号	遺構 名称	種類	形状	幅員 (m)	面積 (㎡)	高さ (m)	用途	備考
1	土壇	円形	円形	83.68	5541	0.42	居住	

遺構名	調査期 番号	発見名	発見 時期	発見 場所	部・組エントリ(表層)(m未満)				部・組エントリ(表層)(m未満)				発見の 状況	発見の 程度	発見人物	備考	
					部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名					
P-26	1	土壇	円形	地上	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名
	2	土壇	円形	地下	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名	部名



図69 P-25・P-26



P-28 (図70 表15 図版29)

**位置** c-14区 **規模** 0.62×0.40/0.44×0.32/0.12m **平面形態** 楕円形  
**確認・調査** 包含層調査中、楕円形の黒褐色土とレキがみられた。南西側を半載し、坑底面と壁を確認したので、土坑と判断した。  
**覆土** T a - d 2や凝灰岩を含む黒褐色土である。  
**坑底面・壁** 坑底面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。  
**遺物出土状況** 覆土から台石・石皿、レキが出土した。  
**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

(奥山)

P-29 (図71 表15 図版30)

**位置** J-20・21区 **規模** 1.27×1.14/1.08×0.80/0.22m **平面形態** 楕円形  
**確認・調査** 包含層調査中、V層で楕円形を呈する黒褐色土がみられ、西側を半載した。坑底面と壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。  
**覆土** 二つに分層した。いずれも黒褐色土で第2層が主体的にみられる。  
**坑底面・壁** 坑底面は平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。  
**遺物出土状況** 覆土からIV群土器、フレイク、磨製石斧、砥石、たたき石、U・Rレキが出土した。  
**時期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

P-30 (図71 表15 図版30)

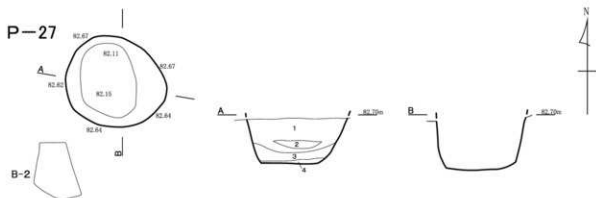
**位置** J-21・22区 **規模** 1.64×1.36/1.56×1.18/0.36m **平面形態** 楕円形  
**確認・調査** 包含層調査中、V層で楕円形を呈する黒色土がみられ、東側を半載した。坑底面と壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。  
**覆土** 六つに分層した。黒色土は上位から下位まで主体的で、下位に黒褐色土、暗褐色土が部分的にみられる。  
**坑底面・壁** 坑底面は平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。  
**遺物出土状況** 覆土からフレイク、磨製石斧、砥石、砂岩の石製品、U・Rレキが出土した。  
**時期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

P-31 (図72 表15 図版30)

**位置** L・M-25区 **規模** 2.04×1.33/1.56×0.92/0.31m **平面形態** 不整な楕円形  
**確認・調査** 包含層調査終了後、楕円形の暗褐色土がみられ、短軸方向で半載した。坑底面と壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。  
**覆土** 暗褐色土である。  
**坑底面・壁** 坑底面は曲線的で、壁はゆるやかに立ち上がる。  
**遺物出土状況** 覆土からすり石、台石・石皿が出土した。  
**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

P-32 (図72 表15 図版30)

**位置** S-19区 **規模** 2.07×1.52/1.16×0.57/0.70m **平面形態** 楕円形  
**確認・調査** 包含層調査終了後、楕円形の黒褐色土がみられ、短軸方向で半載した。坑底面と壁の立



遺構名	土層	用途	形状	幅寸	形状	点数	層位	幅員 (m)	傾斜	備考
P-27	1	穴	円形	1.5m	円形	1	1	1.5	---	---
	2	穴	円形	1.5m	円形	1	2	1.5	---	---
	3	穴	円形	1.5m	円形	1	3	1.5	---	---

遺構名	経緯度	層位	層位	砂・粘土・シルト・質層 (200μm篩)				埋土層 (200μm上)				遺構の 用途	遺構の 形状	遺構の 幅員	遺構の 傾斜		
				砂	粘土	シルト	質層	砂	粘土	シルト	質層						
P-27	1	穴	100	砂	100	粘土	100	シルト	100	質層	---	---	---	---	---	---	---
	2	穴	100	砂	100	粘土	100	シルト	100	質層	---	---	---	---	---	---	---
	3	穴	100	砂	100	粘土	100	シルト	100	質層	---	---	---	---	---	---	---
	4	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

P-28

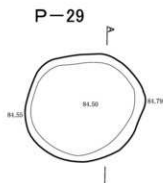


遺構名	土層	用途	形状	幅寸	形状	点数	層位	幅員 (m)	傾斜	備考
P-28	1	穴	円形	1.5m	円形	1	1	1.5	---	---
	2	穴	円形	1.5m	円形	1	2	1.5	---	---
	3	穴	円形	1.5m	円形	1	3	1.5	---	---

遺構名	経緯度	層位	層位	砂・粘土・シルト・質層 (200μm篩)				埋土層 (200μm上)				遺構の 用途	遺構の 形状	遺構の 幅員	遺構の 傾斜		
				砂	粘土	シルト	質層	砂	粘土	シルト	質層						
P-28	1	穴	100	砂	100	粘土	100	シルト	100	質層	---	---	---	---	---	---	---
	2	穴	100	砂	100	粘土	100	シルト	100	質層	---	---	---	---	---	---	---
	3	穴	100	砂	100	粘土	100	シルト	100	質層	---	---	---	---	---	---	---



図70 P-27・P-28



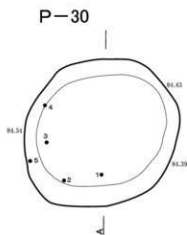
表P-29

遺物	土器	時期	形状	素材	厚さ	高さ	備註
---	陶器	---	---	---	---	---	---
---	陶器	---	---	---	---	---	---
---	陶器	---	---	---	---	---	---
---	陶器	---	---	---	---	---	---
---	陶器	---	---	---	---	---	---
---	陶器	---	---	---	---	---	---
---	陶器	---	---	---	---	---	---
---	陶器	---	---	---	---	---	---

K-21

遺構名	発掘層番号	層位	発見時期	目録上・シールド・異状(3mm未満)				縦(長さ)2mm以上				遺物の種類	遺物の数量	
				形状	土質	色	成分	形状	長さ	幅	厚さ			
P-29	1	201層	砂	塊立	赤褐色	0000/0	50	50	10-10	10	2-3	2-3	焼いた土	---
	2	202層	砂	塊立	赤褐色	0000/0	50	50	10-10	10	2-3	2-3	焼いた土	---

J-22



表P-30

遺物	土器	時期	形状	素材	厚さ	高さ	備註
1	陶器	---	---	---	---	---	---
2	陶器	---	---	---	---	---	---
3	陶器	---	---	---	---	---	---
4	陶器	---	---	---	---	---	---
5	陶器	---	---	---	---	---	---
6	陶器	---	---	---	---	---	---
---	陶器	---	---	---	---	---	---
---	陶器	---	---	---	---	---	---

0 1m  
(S=1/400)

遺構名	発掘層番号	層位	発見時期	目録上・シールド・異状(3mm未満)				縦(長さ)2mm以上				遺物の種類	遺物の数量	
				形状	土質	色	成分	形状	長さ	幅	厚さ			
P-30	1	201層	砂	塊立	赤褐色	0000/0	50	50	10-10	10	2-3	2-3	焼いた土	---
	2	202層	砂	塊立	赤褐色	0000/0	50	50	10-10	10	2-3	2-3	焼いた土	---
	3	203層	砂	塊立	赤褐色	0000/0	50	50	10-10	10	2-3	2-3	焼いた土	---
	4	204層	砂	塊立	赤褐色	0000/0	50	50	10-10	10	2-3	2-3	焼いた土	---
	5	205層	砂	塊立	赤褐色	0000/0	50	50	10-10	10	2-3	2-3	焼いた土	---
	6	206層	砂	塊立	赤褐色	0000/0	50	50	10-10	10	2-3	2-3	焼いた土	---

図71 P-29・P-30

## P-31



M-25

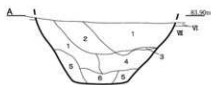
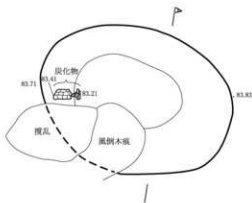


遺構番号	土層	種類	形状	面積	面積	方位	高さ	機能	備考
名称	説明	詳細	形状	面積	面積	方位	高さ	機能	備考
1	中土層	掘削跡	凹	1	掘削跡	北西	82.80~82.87	掘削跡	---
2	下土層	掘削跡	凹	1	掘削跡	北西	82.78~82.81	掘削跡	---

遺構名	探検回数	探検日	探検者	地-地土-シルト-底層(20cm未満)				層-底層(20cm以上)				探検者	備考		
				層位	層位	層位	層位	層位	層位	層位	層位				
P-31	1	1988	田代	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡

S-20

## P-32



遺構番号	土層	種類	形状	面積	面積	方位	高さ	機能	備考
名称	説明	詳細	形状	面積	面積	方位	高さ	機能	備考
1	中土層	掘削跡	凹	1	掘削跡	北西	82.80~82.87	掘削跡	---
2	下土層	掘削跡	凹	1	掘削跡	北西	82.78~82.81	掘削跡	---
3	中土層	掘削跡	凹	1	掘削跡	北西	82.80~82.87	掘削跡	---
4	下土層	掘削跡	凹	1	掘削跡	北西	82.78~82.81	掘削跡	---
5	中土層	掘削跡	凹	1	掘削跡	北西	82.80~82.87	掘削跡	---
6	下土層	掘削跡	凹	1	掘削跡	北西	82.78~82.81	掘削跡	---

遺構名	探検回数	探検日	探検者	地-地土-シルト-底層(20cm未満)				層-底層(20cm以上)				探検者	備考	
				層位	層位	層位	層位	層位	層位	層位	層位			
P-32	1	1981	田代	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡
	2	1982	田代	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡
	3	1983	田代	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡
	4	1984	田代	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡
	5	1985	田代	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡
	6	1986	田代	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡	掘削跡

0 1m  
(S=1/40)

図72 P-31・P-32

ち上がりを確認し、土坑と判断した。

**覆 土** 六つに分層した。上位は黒色土と黒褐色土主体で、下位は暗褐色土や褐色土である。

**坑底面・壁** 坑底面は平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。

**遺物出土状況** 覆土からⅣ群土器、U・Rフレイク、磨製石斧、すり石、砥石、台石・石皿、U・Rレキが出土した。

**時 期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

#### P-33 (図73 表15 図版31)

**位 置** M・N-26・27区 **規 模** 2.84×2.74/2.60×2.48/0.37m

**平面形態** 不整な楕円形

**確認・調査** 包含層調査終了後、黒色土とT a - c がみられ、南西側を半載した。坑底面と壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。

**覆 土** 三つに分層した。上位は黒色土でくぼみにT a - c が堆積する。下位は黒褐色土が坑底面や壁際に堆積する。

**坑底面・壁** 坑底面は曲線的で、若干凹凸がある。壁は斜めに立ち上がる。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時 期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

#### P-34 (図73 表15 図版31)

**位 置** P・Q-27区 **規 模** 1.32×1.02/0.90×0.58/0.19m **平面形態** 不整な楕円形

**確認・調査** H-19の調査中、床面で黒褐色土がみられ、平成26(2014)年度調査区側(南側)に続いていた。南側を半載し、坑底面と壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。

**覆 土** 二つに分層した。黒褐色土が主体で、暗褐色土が東側の壁際にみられる。

**坑底面・壁** 坑底面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

**重 複** H-19と重複し、H-19の付属遺構の可能性はあるが、別に調査したので不明である。

**遺物出土状況** 覆土からU・Rフレイク、フレイク、磨製石斧が出土した。

**時 期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

#### P-35 (図74 表15 図版31)

**位 置** K-24区 **規 模** 1.60×1.27/1.14×0.91/0.35m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査終了後、楕円形の黒褐色土がみられ、南西側を半載した。坑底面と壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。

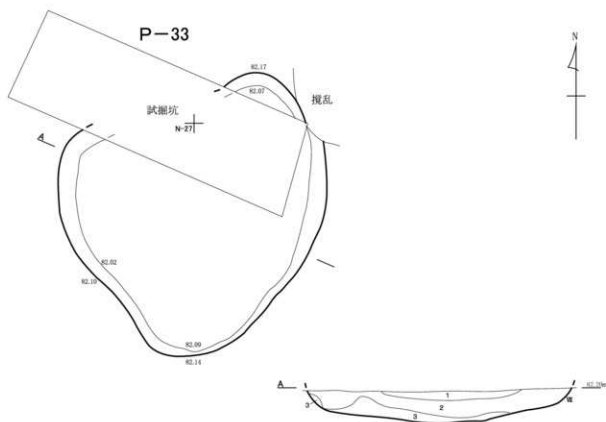
**覆 土** 四つに分層した。黒褐色土が主で、下位に黒色土が部分的にみられる。

**坑底面・壁** 坑底面は平坦で、壁は南東側が直立気味、それ以外は斜めに立ち上がる。

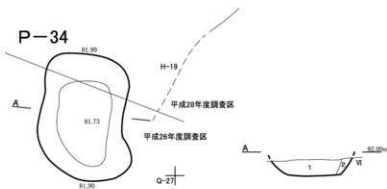
**重 複** H-14掘り上げ土と重複する。掘り上げ土および下位のV層調査終了後、本遺構を確認したため、新旧関係は不明である。

**遺物出土状況** 坑底面から石核、覆土からⅣ群土器、フレイク、磨製石斧、台石・石皿、U・Rレキ、レキが出土した。坑底面では炭化物もみられた。

**時 期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。



遺構名	発見調査番号	発見名 層名   掘削層	層状 土質	第二層土(シルト)と(表層)の境界面				層(遺構)(m) L				埋入物	備考	
				層内 土質	層名 色名	シルトと 黄土色	粘着性	硬質度	種類	面積 割合 (%)	平均			最大
P-33	1	2層	粘土	黄土	2093.173	粘	弱	20	10	2-3	表層部	高低	—	
	2	3層	粘土	黄土	1092.73	粘	中	20	10	2-3	表層部	高低	—	
	3	4層	粘土	黄土	1092.73	粘	中	20	10	2-3	表層部	高低	—	



遺構 番号	土層 名	時期	形状	面積 割合 (%)	平均	最大	埋入 物	備考
—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—

遺構名	発見調査番号	発見名 層名   掘削層	層状 土質	第二層土(シルト)と(表層)の境界面				層(遺構)(m) L				埋入物	備考	
				層内 土質	層名 色名	シルトと 黄土色	粘着性	硬質度	種類	面積 割合 (%)	平均			最大
P-34	1	1層	粘土	黄土	1092.72	粘	弱	20	10	2	表層部	高低	—	
	2	2層	粘土	黄土	1093.14	粘	弱	20	10	2	表層部	高低	—	



図73 P-33・P-34

P-36 (図74 表15 図版31)

**位置** P-25・26区 **規模** 2.00×1.42/1.72×1.20/0.21m **平面形態** 不整な楕円形  
**確認・調査** 包含層調査終了後、楕円形の黒褐色土がみられ、北東側を半載した。坑底面と壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。

**覆土** 黒褐色土主体で、凝灰岩が少量混ざる。

**坑底面・壁** 坑底面はやや凹凸があり、壁は斜めに立ち上がる。

**遺物出土状況** 坑底面から砥石、U・Rレキ、覆土からIV群土器、石鏃、スクレイパー、U・Rフレイク、フレイク、すり石、台石・石皿、U・Rレキ、レキが出土した。

**時期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

P-37 (図74 表15 図版32)

**位置** P・Q-25区 **規模** 1.33×0.78/0.96×0.50/0.22m **平面形態** 不整な楕円形  
**確認・調査** 包含層調査終了後、楕円形の黒褐色土がみられ、南東側を半載した。坑底面と壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。

**覆土** 黒色土主体で、凝灰岩が混じる。

**坑底面・壁** 坑底面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

P-38 (図75 表15 図版32)

**位置** Q-24・25区 **規模** (3.10)×(0.96)/(2.84)×(0.92)/0.18m

**平面形態** 楕円形?

**確認・調査** 平成28(2016)年度、平成26(2014)年度調査区との境の壁で黒色土の落ち込みがみられ、北側にレキがまとまってみられた。土層観察用のベルトを残し、北側部分を掘り下げたところ、坑底面と壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。北側は風倒木痕がある。

**覆土** 二つに分層した。概ね黒色土が主で、東側の壁際の下位に黒褐色土が部分的にみられる。

**坑底面・壁** 坑底面は若干凹凸があり、壁は斜めに立ち上がる。

**遺物出土状況** 覆土からIV群土器、スクレイパー、磨製石斧、台石・石皿、U・Rレキが出土した。

**時期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

P-39 (図75 表15 図版32)

**位置** K-21区 **規模** 1.49×1.16/1.28×0.96/0.16m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、V層でレキがまとまって出土した。遺物を残して周囲を掘り下げたところ、レキを中心に楕円形の黒褐色土がみられた。中央にベルトを残して掘り下げたところ、坑底面と壁の立ち上がりを確認したので、土坑と判断した。

**覆土** 黒褐色土で、Ta-d2と凝灰岩が少量混ざる。

**坑底面・壁** 坑底面は概ね平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

**遺物出土状況** 覆土からIV群土器、フレイク、磨製石斧、台石・石皿、U・Rレキ、レキが出土した。

**時期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断する。

(愛場)

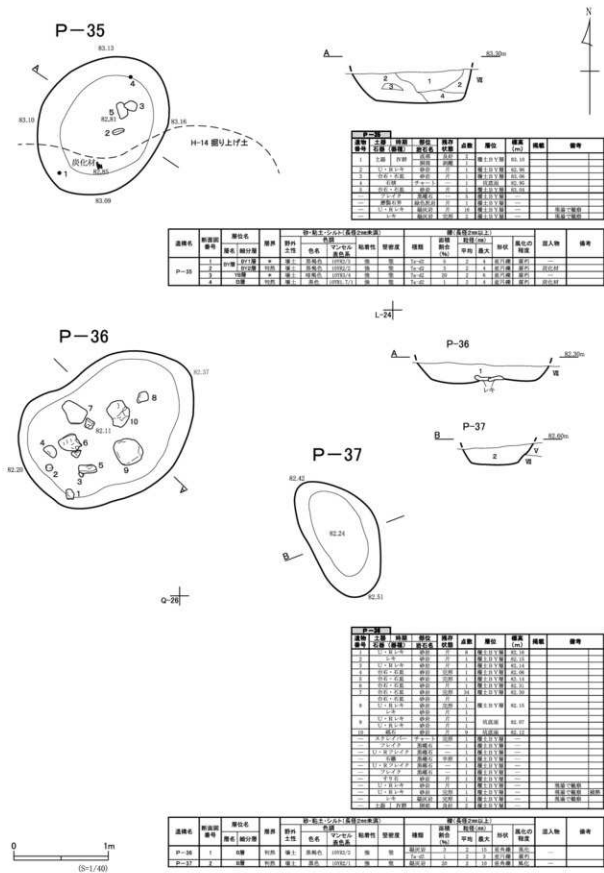
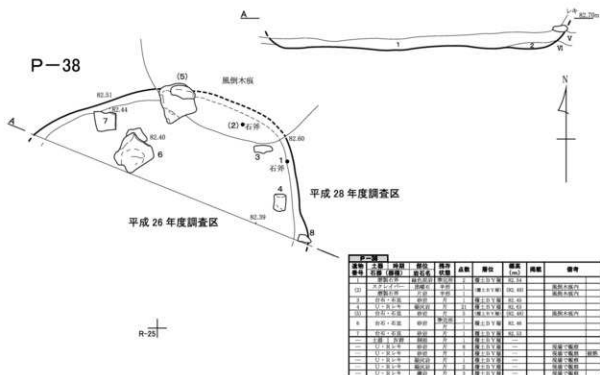
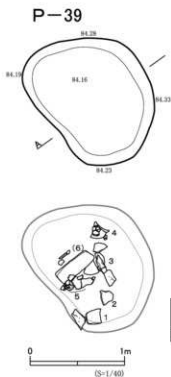


図74 P-35・P-36・P-37





遺構名	調査区番号	遺構名	種別	野跡 土性	土層 色名	形状 寸法	積層 高さ	埋込(深さ)以上			埋入物	備考
								種類	面積 (㎡)	高さ (m)		
P-38	1	風車	野跡	Ⅰ	赤色	円形	約1.5m	土	約10㎡	約1.5m	土	---
	2	石沓	野跡	Ⅰ	赤褐色	円形	約1.5m	土	約10㎡	約1.5m	土	---

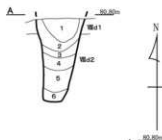
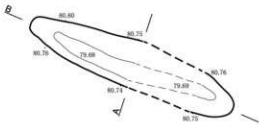


遺構名	土層	時期	形状	面積	積層	高さ	構造	備考
1	Ⅰ	古墳時代	円形	約10㎡	1	約1.5m	土	風車跡
2	Ⅰ	古墳時代	円形	約10㎡	1	約1.5m	土	風車跡
3	Ⅰ	古墳時代	円形	約10㎡	1	約1.5m	土	風車跡
4	Ⅰ	古墳時代	円形	約10㎡	1	約1.5m	土	風車跡
5	Ⅰ	古墳時代	円形	約10㎡	1	約1.5m	土	風車跡
6	Ⅰ	古墳時代	円形	約10㎡	1	約1.5m	土	風車跡

遺構名	調査区番号	遺構名	種別	野跡 土性	土層 色名	形状 寸法	積層 高さ	埋込(深さ)以上			埋入物	備考
								種類	面積 (㎡)	高さ (m)		
P-39	1	風車	野跡	Ⅰ	赤褐色	円形	約1.5m	土	約10㎡	約1.5m	土	---

図75 P-38・P-39

TP-1

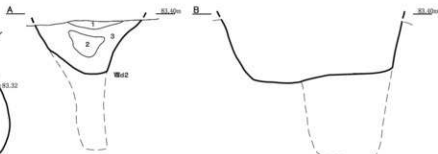
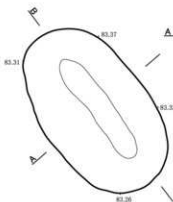


【土質】

遺構 番号	土層・地層 記号	地質 記号	層位 記号	層高 (m)	層位	構造	備考
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---

遺構名	検出 番号	層位名	層位 番号	地質(土質)・地層(地層記号)				構造(構造記号)				図入物	備考	
				地層 記号	土質 記号	地層 記号	土質 記号	構造 記号	土質 記号	構造 記号	土質 記号			
TP-1	1	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	2	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	3	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	4	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	5	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

TP-2



【土質】

遺構 番号	土層・地層 記号	地質 記号	層位 記号	層高 (m)	層位	構造	備考
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---

Y-16



遺構名	検出 番号	層位名	層位 番号	地質(土質)・地層(地層記号)				構造(構造記号)				図入物	備考
				地層 記号	土質 記号	地層 記号	土質 記号	構造 記号	土質 記号	構造 記号	土質 記号		
TP-2	1	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	2	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	3	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

図76 TP-1・TP-2

#### 4. Tピット (図76～78 表16・17 図版32・33)

##### TP-1 (図76 表16 図版32)

**位置** T-31・32区 **規模** 2.46×0.51/1.84×0.26/1.11m **平面形態** 溝状/溝状  
**確認・調査** H-2の調査終了後、床面で溝状を呈する黒色土がみられた。短軸方向にトレンチを設定し掘り進めたところ、壁と坑底面を確認しTピットと判断した。

**覆土** 六つに分層した。Ta-d2を含む黒褐色土が最上位と最下位に堆積する。中位は黒色土が主体で、これ以外は暗褐色、褐色を呈する。

**坑底面・壁** 坑底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。

**遺物出土状況** 覆土からすり石、台石・石皿、U・Rレキ、レキが出土した。

**重複** H-2と重複する。住居跡の床面で本遺構を発見したので、新旧関係は不明である。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

(奥山)

##### TP-2 (図76 表16 図版33)

**位置** X-15区 **規模** 1.91×1.12/1.26×0.28/0.67(1.54)m

**平面形態** 楕円形/溝状

**確認・調査** 包含層調査終了後、楕円形の黒色土がみられ、南東側を半截した。坑底面と壁の立ち上がりを確認し遺構と判断した。当初、Tピットと考えたのでこの記号を付し、坑底面と判断した面よりも下へ掘り下げたが、下位は覆土とⅧd2層の層界が区別できず、Tピットの形状に掘り下げたが、土坑と結論付けた。

**覆土** 覆土は黒色土主体である。

**坑底面・壁** 坑底面は曲線的で、壁は斜めに立ち上がる。

**遺物出土状況** 覆土からスクレイパー、フレイク、台石・石皿、U・Rレキが出土した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

(佐川)

##### TP-3 (図77 表16・17 図版33)

**位置** K-29区 **規模** 1.60×1.05/1.00×0.62/1.46m **平面形態** 楕円形/楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、楕円形の黒色土がみられた。土坑と想定し、長軸方向で南西側を半截したが、深く掘り下げても坑底面が確認できず、Tピットと予想した。次に南西側部分の上端の形状を記録してから、断ち割りトレンチを設けて掘り下げたところ、土層断面で坑底面と壁の立ち上がりを確認した。

**覆土** 覆土は16層に分けた。黒色土主体は最上位の第1層と下位の第15層で、下位は暗褐色土、褐色土、赤褐色土などである。

**坑底面・壁** 坑底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。

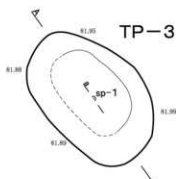
**付属遺構** 柱穴・杭穴1か所を調査した。

**柱穴・杭穴** sp-1 **規模** 0.05/0.09m **平面形態** 円形

坑底面のほぼ中央に位置し、先端部は尖る。

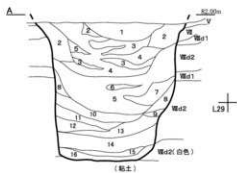
**遺物出土状況** 覆土から磨製石斧が出土した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

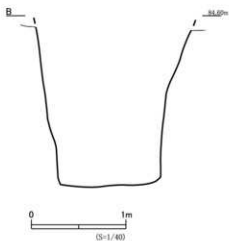
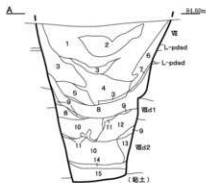
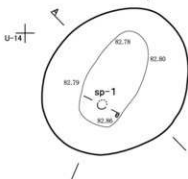


遺構(土層) 階位		階位	階位	階位	階位	階位	階位	階位
遺構	土層							
---	---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---	---

遺構番号	階位	階位	断面1-2(1) 遺構(2) 断面				断面3(2) 断面(1)				階位	階位	階位	階位		
			断面1-2(1)	断面2(2)	断面3(1)	断面4(2)	断面5(1)	断面6(2)	断面7(1)	断面8(2)						
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15



TP-4



遺構(土層) 階位		階位	階位	階位	階位	階位	階位	階位
遺構	土層							
---	---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---	---

遺構番号	階位	階位	断面1-2(1) 遺構(2) 断面				断面3(2) 断面(1)				階位	階位	階位	階位	
			断面1-2(1)	断面2(2)	断面3(1)	断面4(2)	断面5(1)	断面6(2)	断面7(1)	断面8(2)					
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15

図77 TP-3・TP-4

**TP-4** (図77 表16・17 図版33)

**位置** T・U-13区 **規模** 1.64×1.48/1.06×0.56/1.71m

**平面形態** 楕円形/楕円形

**確認・調査** 包含層調査終了後、楕円形の黒色土がみられ、南西側を半載した。坑底面まで掘り下げ、土層断面や形状からTピットと判断した。

**覆土** 覆土は15層に分けた。覆土の上位から中位は黒色土が主体で、壁際や下位は褐色土、灰黄褐色土、赤褐色土がみられる。

**坑底面・壁** 坑底面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

**付属遺構** 柱穴・杭穴1か所を調査した。

**柱穴・杭穴 sp-1 規模** 0.10/0.21m **平面形態** 円形

南西側部分の長軸上に位置する。

**遺物出土状況** 覆土からIV群土器、磨製石斧、すり石、レキが出土した。

**時期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断する。

(愛場)

**5. 焼土** (図78~81 表18 図版33~35)

**F-1** (図78 表18 図版33)

**位置** M-38区 **規模** 0.26×0.21/0.04m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で橙色土がみられ、中央にトレンチを設け掘り下げた。土層断面を観察し焼土と判断した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半~後期前葉と推測される。

(佐川)

**F-2** (図78 表18 図版33)

**位置** T-33区 **規模** 0.46×0.43/0.08m **平面形態** 円形

**確認・調査** H-3A調査中、覆土中で暗褐色土がみられ、東側を半載した。土層断面を観察し想定的な土調から焼土と判断した。南東側にはPS-4がある。H-3Aの覆土にあることからH-3Aより新しいと考える。

**遺物出土状況** IV群土器、磨製石斧、U・Rレキが出土した。

**時期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

**F-3** (図79 表18 図版34)

**位置** U-31区 **規模** 0.72×0.63/0.15m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査終了後、円形の黒褐色土がみられ、東側を半載した。周囲にはF-5やB-1がみられる。フローテーション法で骨片と炭化物、フレイクを回収した。

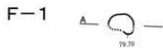
**遺物出土状況** IV群土器、石鏃、石槍・ナイフ、フレイク、磨製石斧、すり石、たたき石、砥石、U・Rレキなどが出土した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半~後期前葉と推測される。

(奥山)

**F-4** (図78 表18 図版34)

**位置** V-30区 **規模** 0.40×0.37/0.06m **平面形態** 円形

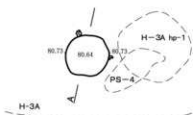


遺構名	発見順番号	発見名	発見時期	地質			構造(単位:mm)					埋入物	備考	
				層名	層番号	層厚	形状	高さ	幅	厚さ	傾斜			開口の形状
F-1	1	溝	+	+	褐色	0000.9	*	1.7x1.7				*		

N-39

T-34

F-2



構造(単位:mm)									
層名	層番号	層厚	形状	高さ	幅	厚さ	傾斜	開口の形状	備考
上層	1	100	円形	100	100				
下層	2	100	円形	100	100				
溝	3	100	円形	100	100				
土	4	100	円形	100	100				
土	5	100	円形	100	100				
土	6	100	円形	100	100				
土	7	100	円形	100	100				
土	8	100	円形	100	100				
土	9	100	円形	100	100				
土	10	100	円形	100	100				

遺構名	発見順番号	発見名	発見時期	地質			構造(単位:mm)					埋入物	備考	
				層名	層番号	層厚	形状	高さ	幅	厚さ	傾斜			開口の形状
F-2	2	溝	0000.9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

F-4



遺構名	発見順番号	発見名	発見時期	地質			構造(単位:mm)					埋入物	備考
				層名	層番号	層厚	形状	高さ	幅	厚さ	傾斜		
F-4	3	溝	+	+	褐色	0000.9	(0.1)	1.7x1.7				*	表3.7

W-30



CS-1/400

図78 F-1・F-2・F-4

**確認・調査** 包含層調査終了後、円形の橙色土がみられ、中央をトレンチで掘り下げた。土層断面を観察し焼土と判断した。フローテーション法により、焼土から骨片とフレイクを回収した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

(佐川)

**F-5** (図79 表18 図版34)

**位置** U-32区 **規模** 0.59×0.57/0.16m **平面形態** 円形

**確認・調査** 包含層調査終了後、円形の暗赤褐色土がみられ、東側を半截した。部分的に黒褐色土がみられ、炭化物が少量混じる。周囲にはF-3やB-1があり、フローテーション法により、堅果、炭化物、磨製石斧、フレイクを回収した。

**遺物出土状況** IV群土器、フレイク、U・Rレキ、レキが出土した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

(奥山)

**F-6** (図79 表18 図版34)

**位置** V-27区 **規模** 0.30×0.24/0.04m **平面形態** 不整な楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、橙色土がみられ、中央付近をトレンチで掘り下げた。土層断面を観察し、焼土と判断した。フローテーション法で骨片とフレイクを回収した。西側には「骨片のまとまり」があり、本焼土の下位にはSF-2の柱穴・杭穴sfph-1がある。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測され、sfph-1より新しい。

**F-7** (図80 表18 図版34)

**位置** N-35区 **規模** 0.28×0.23/0.08m **平面形態** 不整な楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、V層で橙色土がみられ、中央付近にトレンチを設定し、掘り下げた。土層を観察し、焼土と判断した。炭化物が少量混ざる。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

**F-8** (図80 表18 図版34)

**位置** N-42区 **規模** 0.32×0.28/0.06m **平面形態** 不整な楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、V層で橙色土がみられ、中央付近をトレンチで掘り下げた。土層断面を観察し焼土と判断した。フローテーション法によりフレイクを回収した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

(佐川)

**F-9** (図80 表18 図版34)

**位置** b-11区 **規模** 0.42×0.41/0.08m **平面形態** 円形

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で極暗赤褐色土がみられ、中央付近をトレンチで掘り下げた。土層断面を観察し焼土と判断した。炭化物が少量混ざる。

**遺物出土状況** IV群土器が出土した。

**時期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

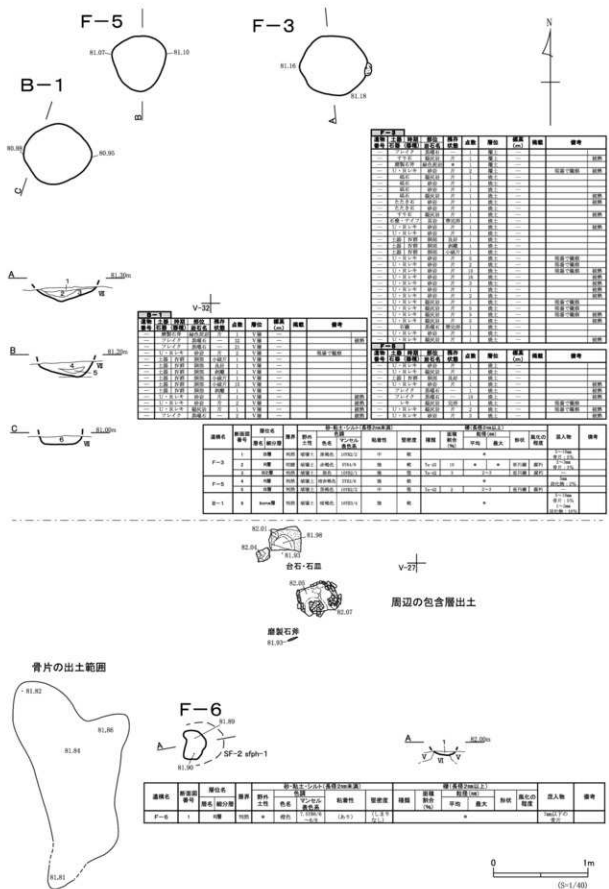


図79 F-3・F-5・F-6・B-1



F-10 (図80 表18 図版34)

位置 c-14区 規模  $0.53 \times 0.47 / 0.08\text{m}$  平面形態 楕円形

確認・調査 包含層調査中、VI層で赤褐色土がみられ、中央付近をトレンチで掘り下げた。土層断面を観察し焼土と判断した。炭化物が少量混ざる。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

F-11 (図80 表18 図版35)

位置 b・c-18区 規模  $0.33 \times 0.29 / 0.06\text{m}$  平面形態 円形

確認・調査 包含層調査中、VI層で赤褐色土がみられ、中央付近をトレンチで掘り下げた。土層断面を観察し焼土と判断した。炭化物が少量混ざる。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

(奥山)

F-12 (図81 表18 図版35)

位置 O-24区 規模  $0.68 \times 0.57 / 0.10\text{m}$  平面形態 楕円形

確認・調査 包含層調査中、V層で楕円形の褐色土がみられ、中央付近をトレンチで掘り下げた。土層断面を観察し焼土と判断した。炭化物が少量混ざる。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

F-13 (図81 表18 図版35)

位置 B-45区 規模  $0.28 \times 0.25 / 0.06\text{m}$  平面形態 円形

確認・調査 S d 2層(Ⅲ章3節)下位のV層(V2層)の調査中、円形の褐色土がみられた。中央付近をトレンチで掘り下げ、土層断面を観察し焼土と判断した。炭化物が少量混ざる。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

F-14 (図81 表18 図版35)

位置 C-45区 規模  $0.32 \times 0.16 / 0.02\text{m}$  平面形態 不整な楕円形

確認・調査 S d 2層下位のV層(V2層)の調査中、円形の褐色土がみられた。中央付近をトレンチで掘り下げ、土層断面を観察し焼土と判断した。炭化物が少量混ざる。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

F-15 (図81 表18 図版35)

位置 C-45区 規模  $0.44 \times 0.34 / 0.03\text{m}$  平面形態 不整な楕円形

確認・調査 S d 2層下位のV層(V2層)の調査中、円形の褐色土がみられた。中央付近をトレンチで掘り下げたところ、土層断面を観察し焼土と判断した。炭化物が少量混ざる。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

F-16 (図81 表18 図版35)

位置 D-45区 規模  $0.36 \times 0.34 / 0.04\text{m}$  平面形態 円形

確認・調査 S d 2層下位のV層(V2層)の調査中、円形の褐色土がみられた。中央付近にトレンチを設定して掘り下げ、土層断面を観察し焼土と判断した。炭化物が少量混ざる。

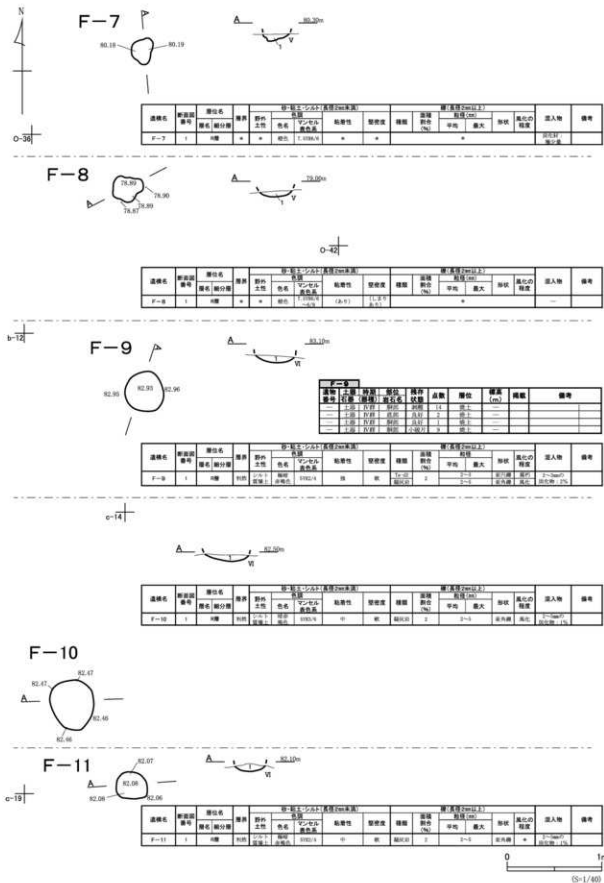
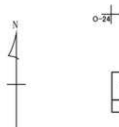
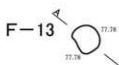
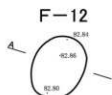


図80 F-7・F-8・F-9・F-10・F-11



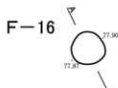
遺構名	発見順 番号	発見名 種名・種付け	種別	種別・種付け種				種別・種付け種					埋入物	備考		
				野外地 土質	色名	フッ素 含有率	粘着性	硬軟度	種類	面積 割合 (%)	厚さ (mm)				形状	腐化の 程度
F-12	1	練土層	砂質	硬土	褐色	1.000/A	強	強			強	平均	最大	砂状	腐化の 程度	埋入物 ：少量



遺構名	発見順 番号	発見名 種名・種付け	種別	種別・種付け種				種別・種付け種					埋入物	備考		
				野外地 土質	色名	フッ素 含有率	粘着性	硬軟度	種類	面積 割合 (%)	厚さ (mm)				形状	腐化の 程度
F-13	1	練土層	砂質	硬土	褐色	1.000/A	強	強			強	平均	最大	砂状	腐化の 程度	埋入物 ：少量
F-14	2	練土層	砂質	硬土	褐色	1.000/A	強	強			強	平均	最大	砂状	腐化の 程度	埋入物 ：少量



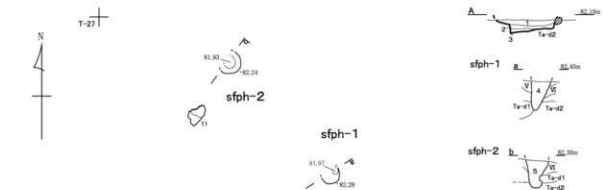
遺構名	発見順 番号	発見名 種名・種付け	種別	種別・種付け種				種別・種付け種					埋入物	備考		
				野外地 土質	色名	フッ素 含有率	粘着性	硬軟度	種類	面積 割合 (%)	厚さ (mm)				形状	腐化の 程度
F-15	1	練土層	砂質	硬土	褐色	1.000/A	強	強			強	平均	最大	砂状	腐化の 程度	埋入物 ：少量



遺構名	発見順 番号	発見名 種名・種付け	種別	種別・種付け種				種別・種付け種					埋入物	備考		
				野外地 土質	色名	フッ素 含有率	粘着性	硬軟度	種類	面積 割合 (%)	厚さ (mm)				形状	腐化の 程度
F-16	1	練土層	砂質	硬土	褐色	1.000/A	強	強			強	平均	最大	砂状	腐化の 程度	埋入物 ：少量



図81 F-12・F-13・F-14・F-15・F-16



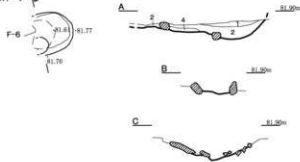
SF-1



遺構番号	土層	階層	層位	構造	形状	厚さ	幅	長さ	備考
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
10	10	10	10	10	10	10	10	10	10

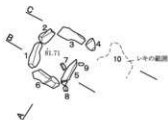
遺構名	構造番号	層位	土層	階層	構造	形状	埋没深さ(m)		形状	長さ	幅	備考
							平均	最大				
SF-1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
SF-1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
SF-1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
SF-1	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
SF-1	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5

sfpH-1



遺構番号	土層	階層	層位	構造	形状	厚さ	幅	長さ	備考
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
10	10	10	10	10	10	10	10	10	10

SF-2



遺構名	構造番号	層位	土層	階層	構造	形状	埋没深さ(m)		形状	長さ	幅	備考
							平均	最大				
SF-2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
SF-2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
SF-2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
SF-2	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
SF-2	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
SF-2	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

sfpH-1

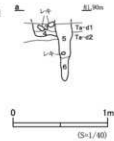


図82 SF-1・SF-2

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と推測される。

(愛場)

## 6. 石組炉 (図82～87 表19・20 図版35～37)

S F-1 (図82 表19・20 図版35)

位置 T-27区 付属遺構を含む範囲：T-26・27区

規模 石組炉：0.86×0.62/0.13m 付属遺構を含む範囲：(3.84)×(1.76)m

平面形態 長方形

確認・調査 包含層調査終了後、楕円形の黒褐色土とその周囲に長方形に巡るレキを確認し、石組炉と判断した。トレンチで中央付近を掘り下げて土層断面を観察し、その後、周囲を精査し、柱穴・杭穴2か所を確認した。

覆土 掘り方は三つに分層し、第3層は赤褐色の焼土である。

坑底面・壁 掘り方の坑底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。

付属遺構 柱穴・杭穴2か所を確認した。

柱穴・杭穴 s f p h-1 規模 0.20/0.30m 平面形状 円形

s f p h-2 規模 0.20/0.30m 平面形状 円形

石組炉から約3m北東側でみられ、同様な規模である。

遺物出土状況 掘り方の覆土からフレイク、U・Rレキが出土し、石組のレキは、すべてU・Rレキである。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と判断される。

S F-2 (図82 表19・20 図版35・36)

位置 V-27区

規模 石組炉：0.68×0.59/0.18m 付属遺構を含む範囲：(3.32)×(1.04)/0.19m

平面形態 長方形

確認・調査 包含層調査中、レキが長方形を呈する石組とその内側に黒褐色土があり、石組炉と判断した。黒褐色土を半截し、土層断面を確認した。その後、周囲を精査し、柱穴・杭穴1か所を確認した。掘り方の覆土(土壌の名称：V層下位の土)をフローテーションし、骨片、炭化物、フレイクを回収した。

覆土 掘り方は三つに分層し、最上位の第1層に極少量の骨片がみられた。

坑底面・壁 掘り方の坑底面は曲線的で、壁はなだらかに立ち上がる。

付属遺構 柱穴・杭穴1か所を確認した。

柱穴・杭穴 s f p h-1 規模 0.20/0.60m 平面形状 円形

土坑部分 規模 (0.36)/0.16m 平面形状 楕円形

石組炉から約2m北西側にある。柱穴・杭穴の上部は土坑状にくぼみ、その上位にはF-6が位置する。層的的にs f p h-1はF-6より古い。

遺物出土状況 掘り方の覆土からIV群土器、スクレイパー、すり石、砥石、U・Rレキ、レキが出土した。石組のレキは、すり石、砥石、台石・石皿、U・Rレキである。

時期 炭化物の放射性炭素年代測定結果は4300calBP-4148calBP (84.3%) (2σ暦年代)で、縄文時代後期初頭から中葉である。

(佐川)



S F-3 (図83 表19 図版36)

位置 U-33区 規模 石組炉: 0.70 × 0.52 / 0.38 m 掘り方: 0.94 × 0.52 / 0.38 m

平面形態 長方形

確認・調査 包含層調査中、レキがまとまってみられた。レキを残して周辺を掘り下げたところ、扁平なレキが長方形を呈し、内側に黒色土がみられたので、石組炉と判断した。長軸方向に半載して断面を調査し、フローテーション法により炭化物、フレイク、U・Rレキを回収した。

覆土 掘り方は三つに分層した。T a - d 2 主体の第3層は明赤褐色の焼土である。

坑底面・壁 掘り方の坑底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。

遺物出土状況 石組のレキはU・Rレキが多く、他にすり石などもある。またIV群土器、フレイクも出土した。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

(奥山)

S F-4 (図83 表19 図版36)

位置 X-26区 規模 石組炉: 0.72 × 0.70 / 0.19 m 全体: 0.90 × 0.70 m

平面形態 長方形?

確認・調査 包含層調査中、レキが2列に並んでみられ、石組炉と考えた。この中間にトレンチを設定し土層断面を調査し、フローテーション法で骨片、炭化物、土器、フレイク、磨製石斧を回収した。

覆土 掘り方は三つに分層し、第3層が焼土である。

坑底面・壁 掘り方の坑底面は平坦である。

遺物出土状況 石組のレキは台石・石皿が多く、他にすり石、砥石、U・Rレキがある。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

(佐川)

S F-5 (図84 表19 図版36)

位置 b-16区 規模 石組炉: 0.76 × 0.60 / 0.16 m 掘り方: 0.78 × 0.72 / 0.16 m

平面形態 長方形 掘り方: 不整な円形

確認・調査 包含層調査中、レキがまとまって出土した。周囲を掘り下げたところ、扁平なレキが長方形にみられ、石組炉と判断した。内側を長軸方向に半載して土層断面を観察し、フローテーション法により炭化物、IV群土器、フレイクを回収した。

覆土 掘り方は三つに分層し、いずれも炭化物が少量混じる。

坑底面・壁 掘り方の坑底面は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

遺物出土状況 掘り方の覆土から黒曜石のフレイクが出土した。石組のレキは、たたき石が1点で、これ以外は加工痕或使用痕がみられないレキ(自然礫)である。

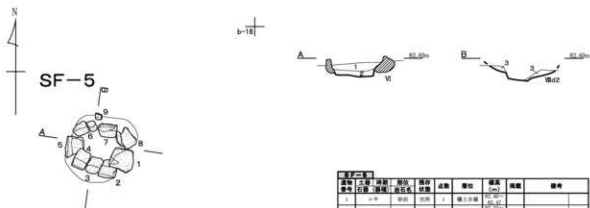
時期 炭化物の放射性炭素年代測定結果は400calBP-3888calBP(76.8%)(2σ暦年代)で、縄文時代後期初頭から中葉である。

S F-6 (図84 表19 図版36)

位置 Y・Z-19区 規模 石組炉: 0.98 × 0.76 / - m 掘り方: 1.26 × 0.72 / 0.20 m

平面形態 楕円形 掘り方: 不整な楕円形

確認・調査 包含層調査中、レキがまとまって出土した。周囲を掘り下げたところ、扁平なレキが楕円形にみられ、石組炉と判断した。中央に炭化物があり、半載して土層断面を確認した。フローテ-

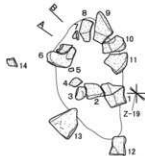


遺構位置図

遺構番号	石層・土層・溝壁・溝底	時期	層位	構造	用途	形状	幅(m)	長さ	備考
1	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
2	石層	前期	2000	2	環状溝	環状	33.00	—	
3	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
4	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
5	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
6	石層	前期	2000	2	環状溝	環状	33.00	—	
7	土層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
8	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
9	石層	前期	2000	2	環状溝	環状	33.00	—	
10	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
11	土層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
12	土層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
13	土層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
14	土層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
15	土層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
16	土層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
17	土層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
18	土層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
19	土層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
20	土層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
21	土層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
22	土層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
23	土層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
24	土層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
25	土層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
26	土層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
27	土層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
28	土層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
29	土層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
30	土層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	

遺構名	構造部 番号	層位名	材料	壁・底(100cm以上)			壁・底(100cm以下)			形状	高さの 程度	出入物	備考	
				野付 形状	野付 色名	野付 土質	野付 色名	野付 土質	野付 色名					野付 土質
SF-5	1	—	砂土	環状	赤褐色	1000/0	砂	砂	70-80	2	+	環状溝	環状	2-70cm 高さ約 15%
	2	—	砂土	環状	赤褐色	1000/0	砂	砂	70-80	2	+	環状溝	環状	2-70cm 高さ約 15%
	3	—	砂土	環状	赤褐色	1000/0	砂	砂	70-80	2	2-3	環状溝	環状	2-70cm 高さ約 15%

SF-6



遺構位置図

遺構番号	石層・土層・溝壁・溝底	時期	層位	構造	用途	形状	幅(m)	長さ	備考
1	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
2	石層	前期	2000	2	環状溝	環状	33.00	—	
3	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
4	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
5	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
6	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
7	石層	前期	2000	2	環状溝	環状	33.00	—	
8	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
9	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
10	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
11	石層	前期	2000	2	環状溝	環状	33.00	—	
12	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
13	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
14	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
15	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
16	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
17	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
18	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
19	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
20	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
21	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
22	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
23	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
24	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
25	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
26	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
27	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
28	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
29	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	
30	石層	前期	2000	1	環状溝	環状	33.00	—	

遺構名	構造部 番号	層位名	材料	壁・底(100cm以上)			壁・底(100cm以下)			形状	高さの 程度	出入物	備考	
				野付 形状	野付 色名	野付 土質	野付 色名	野付 土質	野付 色名					野付 土質
SF-6	1	—	砂土	環状	赤褐色	1000/0	砂	砂	70-80	2	+	環状溝	環状	2-70cm 高さ約 15%
	2	—	砂土	環状	赤褐色	1000/0	砂	砂	70-80	2	+	環状溝	環状	2-70cm 高さ約 15%
	3	—	砂土	環状	赤褐色	1000/0	砂	砂	70-80	2	2-3	環状溝	環状	2-70cm 高さ約 15%

図84 SF-5・SF-6



ション法により炭化物、IV群土器を回収した。

**覆土** 掘り方は三つに分層し、いずれも炭化物を含む。

**坑底面・壁** 坑底面は曲線的と平坦な部分が見られる。

**遺物出土状況** 石組のレキは、U・Rレキ、レキが多く、台石・石皿もある。

**時期** 炭化物の放射性炭素年代測定結果は3893calBP-3720calBP (95.4%) (2σ暦年代)で、暦年較正年代は縄文時代後期初頭から中葉である。

#### S F-7 (図85 表19 図版36)

**位置** a-11区 **規模** 石組炉: 0.60×0.48/\*m 掘り方: 0.36×\*/0.20m

**平面形態** 長方形 掘り方: \*

**確認・調査** 包含層調査中、黒色土とレキが長方形を呈する状況が見られ、石組炉と判断した。黒色土の南側部分を半載して断面を調査した。

**覆土** 掘り方は二つに分層し、上位の黒色土には炭化物が少量混ざる。

**坑底面・壁** 坑底面は曲線的で、壁は斜めに立ち上がる。

**遺物出土状況** 覆土からIV群土器、フレイクが出土した。石組のレキはU・Rレキ、レキである。

**時期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

(奥山)

#### S F-8 (図85 表19 図版36)

**位置** T-16区

**規模** 石組炉: 0.54×0.44/0.20m 掘り方: 0.56×0.38/0.46×0.32/0.16m

**平面形態** 楕円形 掘り方: 不整な楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、レキが楕円形を呈してみられ、石組炉と判断した。内側は黒褐色土があり、南東側部分を半載し断面を調査した。また、石組のレキと掘り方の壁の間から、IV群の土器が数点出土した。

**覆土** 掘り方の覆土は黒褐色土で、炭化材が少量混ざる。

**坑底面・壁** 坑底面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

**遺物出土状況** IV群土器、フレイク、磨製石斧、砥石などが出土した。石組のレキは台石・石皿、U・Rレキ、レキである。

**時期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

#### S F-9 (図86 表19 図版36)

**位置** V-12区

**規模** 石組炉: 0.54×(0.44)/0.18m 掘り方: 0.54×0.36/(0.48)×(0.40)/0.06m

**平面形態** 半円形 掘り方: 楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、レキが円形でみられ、石組炉と判断した。この内側には黒褐色土がみられ、半載して楕円形の掘り方を調査した。また、南東側の一部は、土器破片が炉石の代わりに用いられているのがみられ、南側部分は平成26(2014)年度の調査で一部削平されていた。

**覆土** 掘り方の覆土は黒褐色土である。

**坑底面・壁** 掘り方の坑底面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

**遺物出土状況** 覆土からIV群土器、フレイクなどが出土し、石組のレキはU・Rレキ、レキである。



時期 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

S F-10 (図86 表19 図版37)

位置 T-16区

規模 石組炉:  $0.42 \times (0.42) / 0.20$  m 掘り方:  $0.54 \times 0.36 / 0.32 \times 0.24 / 0.14$  m

平面形態 方形? 掘り方: 楕円形

確認・調査 包含層調査中、レキがまとまって出土した。これを残して周辺を掘り下げると、楕円形の黒褐色土と西側部分で半円形に並ぶレキがみられたので、石組炉と判断した。黒褐色土の東側を半載して断面を確認した。

覆土 掘り方は二つに分層し、いずれも色調は黒褐色土である。

坑底面・壁 掘り方の坑底面と壁は曲線的である。

遺物出土状況 石組に用いられたレキの他、石組炉から離れた東と南側からもレキが出土した。

時期 他の石組炉と同じ時期の縄文時代後期前葉と推測される。

S F-11 (図87 表19 図版37)

位置 G・H-41区

規模 石組炉:  $(0.52) \times (0.30) / 0.16$  m 掘り方:  $0.68 \times 0.54 / 0.62 \times 0.46 / 0.18$  m

平面形態 方形? 円形? 掘り方: 円形

確認・調査 包含層調査中、円形の黒色土と南東側にレキが集中してみられ、北西側を半載して断面を確認した。平面図に示した上部のレキではなく、掘り方の南側の壁際に位置するものを石組炉と判断した。

覆土 掘り方は四つに分層し、上位は黒色土層、下位は暗褐色土と黒色土が少量みられる。

坑底面・壁 掘り方の坑底面と壁は曲線的である。

遺物出土状況 石組のレキは、砥石、台石・石皿、U・Rレキ、レキである。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と判断される。

S F-12 (図87 表19 図版37)

位置 C・D-47区

規模 石組炉:  $(0.72) \times (0.64) / 0.24$  m 掘り方:  $(0.44) \times (0.36) / 0.52 \times 0.40 / 0.18$  m

平面形態 楕円形? 掘り方: 楕円形?

確認・調査 包含層調査中、レキが半円形を呈してみられた。Ⅶ層まで掘り下げて、黒色土のまとまりと東側の周囲に巡るレキを確認し、石組炉と判断した。西側の攪乱も含めた範囲を半載し、断面を調査した。この攪乱の下位部分で出土したレキも本遺構と関連すると推測する。

覆土 掘り方は二つに分層した。黒色土が主体で、石組の下位に黒褐色土が部分的にみられる。

坑底面・壁 掘り方の坑底面は曲線的で、壁は斜めに立ち上がる。北側部分是用いられるレキが大きく、深く掘り込まれる部分がある。

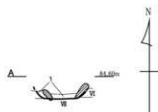
遺物出土状況 石組のレキは、U・Rレキ、レキである。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期前葉と判断される。

(愛場)

v-13

SF-9



v-13



遺構 番号	位置 (北緯・東経)	形状 / 形状	形状 / 形状	形状 / 形状	形状 / 形状	形状 / 形状	形状 / 形状	形状 / 形状	形状 / 形状	形状 / 形状
1	40°N	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形
2	40°N	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形
3	40°N	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形
4	40°N	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形
5	40°N	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形
6	40°N	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形
7	40°N	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形
8	40°N	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形

遺構名	調査年度	発見者	発見時期	形状	形状(円形)				形状	形状	形状	形状
					直径	半径	面積	容積				
SF-9-1	1	田中	2014	円形	1.0	0.5	0.785	0.39	...	...	...	...

SF-10



遺構 番号	位置 北緯・東経	形状 / 形状	形状 / 形状	形状 / 形状	形状 / 形状	形状 / 形状	形状 / 形状	形状 / 形状	形状 / 形状	形状 / 形状
1	40°N	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形
2	40°N	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形
3	40°N	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形
4	40°N	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形
5	40°N	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形

遺構名	調査年度	発見者	発見時期	形状	形状(円形)				形状	形状	形状	形状
					直径	半径	面積	容積				
SF-10-1	1	田中	2014	円形	1.0	0.5	0.785	0.39	...	...	...	...
SF-10-2	2	田中	2014	円形	1.0	0.5	0.785	0.39	...	...	...	...



図86 SF-9・SF-10

# SF-11



遺物	土層	層別	層位	層厚	層位	層厚	編年	備考
番号	区分	種別	遺物名	状況	数量	(m)		
1	シキ	砂利	片	1	埋土分層	77.77		
2	埋土	砂利	片	1	埋土分層	77.77		
3	埋土	砂利	片	1	埋土分層	78.00		
4	シキ	砂利	片	1	埋土分層	78.77		
5	シキ	砂利	片	1	埋土分層	78.00		
6	埋土	砂利	片	1	埋土分層	78.00		
7	埋土	砂利	片	1	埋土分層	78.00		
8	埋土	砂利	片	1	埋土分層	78.77		
9	埋土	砂利	片	1	埋土分層	78.77		
10	埋土	砂利	片	1	埋土分層	78.77		
11	埋土	砂利	片	1	埋土分層	78.77		
12	埋土	砂利	片	1	埋土分層	78.77		
13	埋土	砂利	片	1	埋土分層	78.77		
14	埋土	砂利	片	1	埋土分層	78.77		
15	埋土	砂利	片	1	埋土分層	78.77		

遺構名	調査区番号	層位名	層別	壁			壁(長径)以上			形状	高さの程度	出入物	備考
				野方土質	色名	マンガン含有率	粘着性	壁厚	平均				
SF-11	1	砂利層	埋土	赤土	100%	0.1	強	10	10	10	埋土層	埋土	---
	2	砂利層	埋土	赤土	100%	0.1	強	10	10	10	埋土層	埋土	---
	3	砂利層	埋土	赤土	100%	0.1	強	10	10	10	埋土層	埋土	---
	4	砂利層	埋土	赤土	100%	0.1	強	10	10	10	埋土層	埋土	---

# SF-12

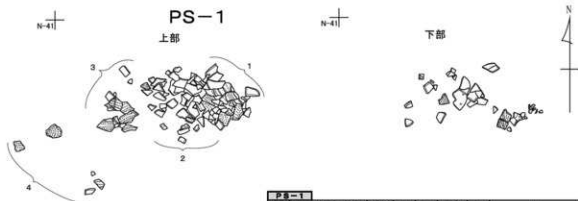


遺物	土層	層別	層位	層厚	層位	層厚	編年	備考
番号	区分	種別	遺物名	状況	数量	(m)		
1	埋土	砂利	片	1	埋土分層	77.40		
2	埋土	砂利	片	1	埋土分層	77.40		
3	埋土	砂利	片	1	埋土分層	77.40		
4	埋土	砂利	片	1	埋土分層	77.40		
5	埋土	砂利	片	1	埋土分層	77.40		
6	埋土	砂利	片	1	埋土分層	77.40		
7	埋土	砂利	片	1	埋土分層	77.40		
8	埋土	砂利	片	1	埋土分層	77.40		
9	埋土	砂利	片	1	埋土分層	77.40		
10	埋土	砂利	片	1	埋土分層	77.40		
11	埋土	砂利	片	1	埋土分層	77.40		
12	埋土	砂利	片	1	埋土分層	77.40		
13	埋土	砂利	片	1	埋土分層	77.40		
14	埋土	砂利	片	1	埋土分層	77.40		
15	埋土	砂利	片	1	埋土分層	77.40		

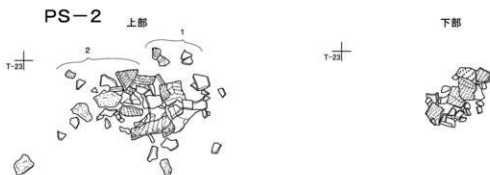
遺構名	調査区番号	層位名	層別	壁			壁(長径)以上			形状	高さの程度	出入物	備考
				野方土質	色名	マンガン含有率	粘着性	壁厚	平均				
SF-12	1	砂利層	埋土	赤土	100%	0.1	強	10	10	10	埋土層	埋土	---
	2	砂利層	埋土	赤土	100%	0.1	強	10	10	10	埋土層	埋土	---



図87 SF-11・SF-12



調査一									
遺物 番号	土層 石層 (層別)	時期	層位 掘石名	保存 状態	点数	層位	標高 (m)	視観	備考
1	土層	V層	白練瓦	良好	11	V層	79.49		
			瓦葺	劣悪	1		79.55		
			瓦葺	良好	28		79.55		
			瓦葺	劣悪	28		79.55		
2	土層	V層	白練瓦	良好	10	V層	79.49		
			瓦葺	劣悪	1		79.53		
			瓦葺	良好	22		79.53		
			瓦葺	劣悪	13		79.53		
3	土層	V層	瓦葺	良好	7	V層	79.04		
			瓦葺	劣悪	10		79.55		
			瓦葺	劣悪	1		79.55		
			瓦葺	劣悪	6		79.55		
4	土層	V層	瓦葺	良好	4	V層	79.51		
			瓦葺	劣悪	1		79.52		
—	土層	V層	瓦葺	劣悪	13	V層	—	—	—
—	土層	V層	白練瓦	劣悪	1	V層	—	—	—
—	土・瓦レテ	破砕	瓦	劣悪	1	V層	—	—	—
—	土層	V層	瓦葺	良好	41	V層	—	—	—
—	土層	V層	瓦葺	劣悪	27	V層	—	—	—
—	土層	V層	白練瓦	劣悪	1	V層	—	—	—
—	土層	V層	瓦葺	劣悪	3	V層	—	—	—
—	土層	V層	白練瓦	良好	3	V層	—	—	—



遺物番号○:礎石跡すべて

0 1m  
(S-1/20)

調査二										
遺物 番号	土層 石層 (層別)	時期	層位 掘石名	保存 状態	点数	層位	標高 (m)	視観	備考	
1	土層	IV層	瓦葺	良好	3	V層	83.24			
			白練瓦	良好	3					83.27
			瓦葺	劣悪	15					83.27
			瓦葺	劣悪	24					83.27
			瓦葺	劣悪	24					83.27
			瓦葺	劣悪	20					83.27
2	土層	IV層	白練瓦	良好	3	V層	83.18			
			瓦葺	劣悪	12		83.25			
			瓦葺	劣悪	22		83.25			
			瓦葺	劣悪	45		83.25			
3	砂石・石道	掘込	瓦	劣悪	1	V層	83.15		瓦葺	
			砂石・石道	劣悪	1		83.15			
			砂石	劣悪	1		83.33			

図88 PS-1・PS-2

## 7. 土器集中 (図88-92 表21 図版37・38)

### PS-1 (図88 表21 図版37)

位置 N-40・41区 規模 上部:1.33×0.57m 下部:0.74×0.36m

確認・調査 包含層調査中、V層上面で土器がまとめて出土し、記録して取り上げた。土器はV群a類の深鉢形で、口縁部から底部まで復原できた(図114-9)。

時期 出土土器から縄文時代晩期前葉と判断される。

### PS-2 (図88 表21 図版37)

位置 S・T-22、T-23区 規模 上部:1.12×0.67m 下部:0.40×0.36m

確認・調査 包含層調査中、V層で土器がまとめて出土した。記録して取り上げた後、下位からさらに、まとめて出土した。これらは同一個体で、IV群a類の余市式である。口縁部から胴部下半まで復原できた(図114-10)。

時期 出土土器から縄文時代後期初頭と判断される。

### PS-3 (図89 表21 図版37)

位置 U-31区 規模 0.64×0.30m

確認・調査 包含層調査中、V層下位で土器がまとめて出土し、記録して取り上げた。IV群a類の余市式で、口縁部から胴部がみられたが、復原できず拓影図で示した(図123-51・52)。北側には近接してC-1がある。

時期 出土土器から縄文時代後期初頭と判断される。

### PS-4 (図89 表21 図版37)

位置 T-33区 規模 0.65×0.26m

確認・調査 包含層調査中、V層下位で土器がまとめて出土し、記録して取り上げた。下位はH-3Aの床面であり、本住居跡の遺物の可能性がある。また西側には近接してF-2がある。土器はIV群a類の余市式で、口縁部から胴部下半まで復原できた(図114-11)。

時期 出土土器から縄文時代後期初頭と判断される。

(奥山)

### PS-5 (図90 表21 図版37)

位置 W-24区 規模 0.68×0.64m

確認・調査 包含層調査中、V層で土器がまとめて出土し、記録して取り上げた。一次整理ではIV群と誤認したが、二次整理で接合作業を進めていくと、尖底のII群a類の静内中野式と判明した。口縁部から胴部のまとまりと底部付近は、直接接合しないが、器高を推定して復原した(図115-12)。

時期 出土遺物から縄文時代前期前半と判断する。

(佐川)

### PS-6A・B (図90 表21 図版38)

位置 f-9区 規模 A(上部):0.79×0.75m B(下部):0.73×0.49m

確認・調査 包含層調査中、VIII層で土器がまとめて出土し、記録して取り上げた。さらに下部からもまとまりを確認し、上部をA、下部をBと付した。これらは同一個体で、IV群a類の余市式が口縁部から胴部下半まで復原できた(図115-13)。

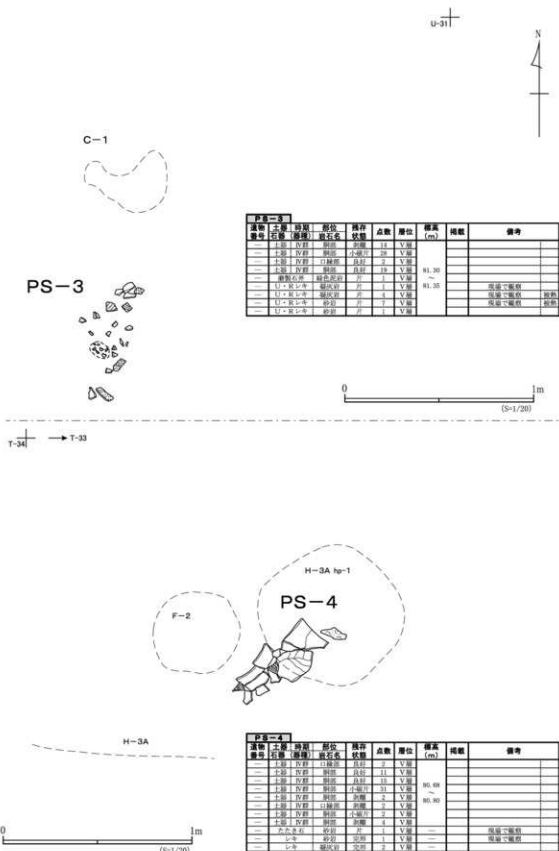


図89 PS-3・PS-4



W-24

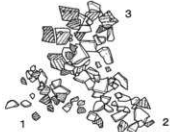
N

PS-5



PS-5									
遺物 番号	土層 名称	時期 (層位)	部位 掘削名	保存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
—	上層	IV群	掘削	瓦片	4	V層			
—	上層	IV群	掘削	銅鏃	30	V層			
—	上層	IV群	掘削	小破片	60	V層			
—	上層	IV群	竪線掘	銅鏃	1	V層			
—	上層	IV群	竪線掘	小破片	1	V層			
—	上層	IV群	竪線掘	瓦片	1	V層			
—	IV-V間	IV群	竪掘	瓦	1	V層			埋蔵文脈群 鉄製
—	上層	IV群	掘削	瓦片	30	V層	81.28		
—	上層	IV群	掘削	銅鏃	126	V層	81.28		
—	上層	IV群	掘削	小破片	200	V層	81.28		
—	上層	IV群	竪線掘	瓦片	1	V層			
—	上層	IV群	竪線掘	銅鏃	1	V層			
—	上層	IV群	掘削	銅鏃	1	V層			
—	上層	IV群	掘削	銅鏃	1	V層			鉄製
—	IV-V間	IV群	竪掘	瓦	1	V層			鉄製
—	IV-V間	IV群	竪掘	瓦	1	V層			鉄製
—	IV-V間	IV群	竪掘	瓦	1	V層			埋蔵文脈群 鉄製
—	IV-V間	IV群	竪掘	瓦	1	V層			鉄製

PS-6A(上部)



PS-6B(下部)



E-10

E-10

0 1m  
(S-1/20)

PS-6									
遺物 番号	土層 名称	時期 (層位)	部位 掘削名	保存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	上層	IV群	掘削	瓦片	11		81.24		
				銅鏃	15	Ⅴ層	~		
				小破片	27		81.25		
2	上層	IV群	掘削	瓦片	12		81.18		
				銅鏃	17	Ⅴ層	~		
				小破片	21		81.25		
				竪線掘	1				
3	上層	IV群	掘削	瓦片	16		81.24		
				銅鏃	19	Ⅴ層	~		
				小破片	3		81.20		
4	上層	IV群	掘削	瓦片	4		81.20		
				銅鏃	41				
				小破片	21	Ⅴ層	81.21		
				竪線掘	3		81.24		
行方・瓦葺				竪線掘	1				

図90 PS-5・PS-6

PS-7



PS-7									
遺物 番号	土層 石層	時期 (層位)	部位 掘削名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	規模	備考
—	Ⅰ層	V層	北壁部	乱石	6	V層	—		
—	Ⅰ層	V層	南壁	乱石	11	V層	—		
—	Ⅰ層	V層	南壁	乱石	18	V層	82.64		
—	Ⅰ層	V層	南壁	乱石	65	V層	—		
—	Ⅰ層	V層	南壁	乱石	274	V層	82.74		
—	Ⅰ層	V層	南壁	乱石	300	V層	—		
—	Ⅰ層	V層	北壁	乱石	3	V層	—		

b-16

PS-8



PS-8									
遺物 番号	土層 石層	時期 (層位)	部位 掘削名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	規模	備考
—	Ⅰ層	V層	南壁	乱石	160	V層	—		
—	Ⅰ層	V層	南壁	乱石	37	V層	—		
—	Ⅰ層	V層	南壁	乱石	162	V層	—		
—	Ⅰ層	V層	北壁部	乱石	18	V層	82.87		
—	Ⅰ層	V層	南壁	乱石	8	V層	—		
—	Ⅰ層	V層	南壁	乱石	14	V層	82.94		
—	Ⅰ層	V層	南壁	乱石	1	V層	—		
—	Ⅰ層	V層	南壁	乱石	1	V層	—		
—	Ⅰ層	V層	南壁	乱石	1	V層	—		
—	Ⅰ層	V層	南壁	乱石	1	V層	—		

z-20



図91 PS-7・PS-8

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

**PS-7** (図91 表21 図版38)

位置 a-15区 規模  $0.43 \times 0.38$  m

確認・調査 包含層調査中、V層で土器がまとめて出土し、記録して取り上げた。IV群a類の余市式で、口縁部から底部まで復原できた(図115-14)。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

**PS-8** (図91 表21 図版38)

位置 Y-20区 規模  $1.46 \times 0.87$  m

確認・調査 包含層調査中、V層上面で土器がまとめて出土し、記録して取り上げた。V群a類の深鉢形で、口縁部から胴部まで復原できた(図115-15)。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

(奥山)

**PS-9** (図92 表21 図版38)

位置 K-23区 規模  $0.54 \times 0.39$  m

確認・調査 包含層調査中、V層で土器が集中してみられ、記録して取り上げた。IV群a類の余市式で、口縁部から底部まで復原できた(図116-16)。

時期 出土土器から縄文時代後期前葉と判断される。

**PS-10** (図92 表21 図版38)

位置 G-45区 規模  $0.74 \times 0.61$  m

確認・調査 包含層調査中、V層で土器がまとめてみられ、記録して取り上げた。IV群a類の余市式で、口縁部から底部付近まで復原できた(図116-17)。

時期 出土土器から縄文時代後期前葉と判断される。

(愛場)

## 8. フレイク集中 (図93 表21 図版38)

**FC-1** (図93 表21 図版38)

位置 T-18、U-17・18区 規模  $1.37 \times 0.91 / (0.03)$  m 平面形態 不整な楕円形

確認・調査 包含層調査中、V層で細かいフレイクが集中してみられた。土ごと取り上げて範囲を記録し、土を水洗選別し遺物を回収した。西側にはFC-2・3とS-1がある。

遺物出土状況 黒曜石のフレイクの他、IV群土器が2点出土した。

時期 出土土器から縄文時代後期前葉と判断される。

**FC-2** (図93 表21 図版38)

位置 U-18区 規模  $0.88 \times 0.71 / (0.04)$  m 平面形態 楕円形

確認・調査 包含層調査中、V層で細かいフレイクが集中してみられた。この部分を土ごと取り上げ、範囲を記録した。土を水洗選別し遺物を回収した。北東側にはS-1が近接し、周囲にはFC-1・3がある。

PS-9



L-24

PS-9-1								規模	備考
遺物 番号	土層 名層	時期 (層位)	部位 取石名	形状 状態	点数	層位	高さ (m)		
—	1層	古群	側面	瓦葺	13	V層	83.28 ～ 83.68		
—	1層	古群	側面	瓦葺	14	V層			
—	1層	古群	側面	瓦葺	3	V層			
—	1層	古群	側面	瓦葺	19	V層			
—	1層	古群	側面	瓦葺	7	V層			
—	1層	古群	側面	瓦葺	83	V層			
—	1層	古群	側面	瓦葺	17	V層			
—	1層	古群	側面	瓦葺	14	V層			
—	1層	古群	側面	瓦葺	738	V層			
—	1層	古群	側面	小破片	120	V層			
—	1層	古群	側面	小破片	214	V層			
—	1層	古群	側面	小破片	202	V層			
—	1層	古群	側面	小破片	37	V層			
—	1層	古群	小破片	瓦葺	2	V層			
—	1層	古群	小破片	瓦葺	1	V層			
—	1層	古群	底面	瓦葺	1	V層			
—	1層	古群	底面	瓦葺	2	V層			
—	1層	古群	底面	瓦葺	1	V層			
—	1層	古群	底面	瓦葺	1	V層			
—	1層	古群	側面	瓦葺	7	V層			
—	1層	古群	側面	瓦葺	13	V層			
—	1層	古群	側面	小破片	127	V層			

PS-10



PS-10-1								規模	備考
遺物 番号	土層 名層	時期 (層位)	部位 取石名	形状 状態	点数	層位	高さ (m)		
—	1層	古群	側面	瓦葺	26	V層	78.19 ～ 78.26		
—	1層	古群	側面	瓦葺	12	V層			
—	1層	古群	側面	小破片	20	V層			
—	1層	古群	小破片	瓦葺	3	V層			

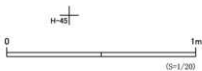


図92 PS-9・PS-10

**遺物出土状況** 黒曜石のフレイクが主体で、他に石鏃が1点出土した。

**時期** S-1と近接し、これと同時期ならば、縄文時代後期前葉と推測する。

#### FC-3 (図93 表21 図版38)

**位置** U-19区 **規模** 0.44×0.32/(0.06)m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、V層で細かいフレイクが集中してみられた。土ごと取り上げ、この範囲を記録した。土を水洗選別し遺物を回収した。近くから台石・石皿が出土し、本遺構の遺物として取り上げた。東側にはFC-1・2とS-1がある。

**遺物出土状況** 黒曜石のフレイクが主体で、他にIV群土器、台石・石皿が出土した。

**時期** 出土土器から縄文時代後期前葉と判断される。

(末光)

#### FC-4 (図93 表21 図版38)

**位置** G・H-30区 **規模** 3.50×2.74/\*m

**確認・調査** 調査区北側境でトレンチ調査中、V層でフレイクが集中してみられた。微細なものが多く、フレイクがみられなくなるまで、土ごと取り上げることとしたが、一部フレイクがみられない部分も掘り広げてしまい、図ではこれも含んで示したので、広範囲である。フレイクを含む土を水洗選別し遺物を回収した。

**遺物出土状況** 黒曜石のフレイクが主体で、他に石鏃、スクレイパー、磨製石斧なども出土した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半から後期前葉と判断する。

(愛場)

### 9. 礫集中 (図93・94 表21 図版39)

#### S-1 (図93 表21 図版39)

**位置** U-18区 **規模** 1.02×0.76/(0.02)m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、V層で砂岩と凝灰岩のレキが集中してみられ、範囲を記録して取り上げた。U・Rレキ、レキが主体で、IV群土器や砥石、フレイクも出土した。南西側には近接してFC-2、東側にはFC-1がある。

**時期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。

(末光)

#### S-2 (図94 表21 図版39)

**位置** E-46区 **規模** 1.84×1.64/-m

**確認・調査** 包含層調査中、V層で砂岩のレキがまとまって出土し、記録し取り上げた。レキは多くがU・Rレキで、すり石、たたき石、北海道式石冠も出土した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半から後期前葉と判断する。

(愛場)

### 10. 骨片集中 (図79・94 表21 図版39)

#### B-1 (図79 表21 図版39)

**位置** U-32区 **規模** 0.72×0.64/0.08m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、白色の物質がまとまってみられ、骨片集中と判断した。範囲を記録後、



半載して土層を確認した。土の一部を採取し、フローテーション法により骨片、土器（小破片）、フレイク、炭化物などを回収した。北東側には近接してF-5がある。骨片は熱を受けた焼骨で、シカと推測される。

**土層** 暗褐色土に骨片と炭化物が混ざる。

**遺物出土状況** 周囲からIV群土器、磨製石斧、フレイク、U・Rレキが出土した。

**時期** 周囲の遺物から縄文時代後期前葉と推測する。

(奥山)

#### B-2 (図94 表21 図版39)

**位置** c-10区 **規模** (0.50)×0.60/0.20m **平面形態** 不整な円形?

**確認・調査** 包含層調査中、V層で白色の物質がまとまってみられ、骨片集中と判断した。範囲を記録した後、半載して土層断面を調査した。土の一部を採取し、フローテーション法で骨片、IV群土器、フレイク、炭化物を回収した。北東側にP-27が近接する。骨片は熱を受けた焼骨で、シカと推測される。

**土層** 二つに分層し、上位の第1層は骨片と炭化物が少量混ざり、下位の極暗赤褐色土は焼土の可能性がある。

**時期** 出土土器から縄文時代後期初頭と考えられ、炭化物の放射性炭素年代測定結果は4300calBP-4153calBP (75.2%) (2σ暦年代) で、縄文時代後期初頭から中葉である。

(佐川)

#### B-3 (図94 表21 図版39)

**位置** d-11区 **規模** 0.51×0.45/0.05m **平面形態** 円形

**確認・調査** 包含層調査中、V層で白色の物質がまとまってみられ、骨片集中とした。範囲を記録した後、半載して土層断面を確認した。土の一部を採取し、フローテーション法で骨片、IV群土器、炭化物を回収した。骨片は熱を受けた焼骨で、シカと推測される。

**土層** 暗褐色土に骨片が少量混ざる。

**時期** 出土土器から縄文時代後期初頭と考えられ、炭化物の放射性炭素年代測定結果は3893calBP-3720calBP (95.4%) (2σ暦年代) で、縄文時代後期初頭～中葉である。

(奥山)

### 11. 炭化物集中 (図95 表21 図版39)

#### C-1 (図95 表21 図版39)

**位置** U-31区 **規模** 0.44×0.33m **平面形態** 不整形

**確認・調査** 包含層調査中、V層下位で細長い板状の炭化材がまとまって出土した。周囲を掘り下げ、範囲を確定し、出土状況を記録した。

**時期** 炭化材の放射性炭素年代測定結果は4438calBP-4284calBP (92.3%) (2σ暦年代) で、縄文時代後期初頭から中葉である。

#### C-2 (図95 表21 図版39)

**位置** W・X-18区 **規模** 0.54×0.39m **平面形態** 不整形

**確認・調査** 包含層調査中、V層下位で炭化物がまとまって出土した。周りを掘り下げ、範囲を確定し、出土状況を記録した。





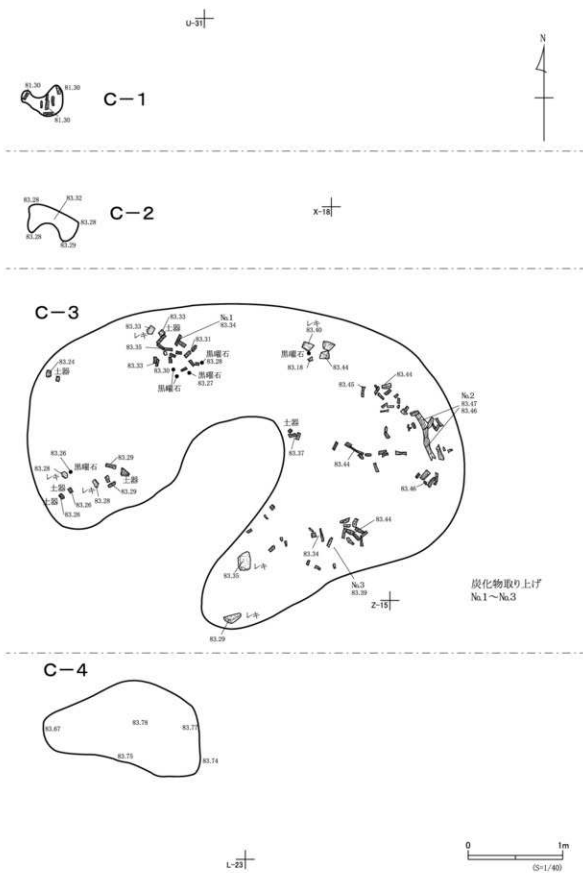


図95 C-1・C-2・C-3・C-4

**時期** 炭化物の放射性炭素年代測定結果は3269calBP-3141calBP (75.9%) ( $2\sigma$  暦年代) で、縄文時代後期後葉から晩期初頭である。

**C-3** (図95 表21 図版39)

**位置** Y-14・15・Z-15区 **規模** 4.63×3.44m **平面形態** 不整形

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で広範囲に炭化物がみられた。周辺を掘り下げて範囲を確認し、出土状況を記録した。近くからIV群土器、黒曜石、レキが出土したが、これらは包含層の遺物とした。

**時期** 炭化物取り上げNo.3の放射性炭素年代測定結果は4100calBP-3975calBP (84.5%) ( $2\sigma$  暦年代) で、縄文時代後期初頭から中葉である。

(奥山)

**C-4** (図95 表21 図版39)

**位置** K-23区 **規模** 1.66×1.02m **平面形態** 不整形

**確認・調査** 包含層調査中、V層で細かい炭化物がまとめて出土した。周囲を掘り下げ、範囲を記録した。磨製石斧が出土した。

**時期** 炭化材の放射性炭素年代測定の結果は3083calBP-2973calBP (69.6%) ( $2\sigma$  暦年代) で、縄文時代晩期初頭である。

(愛場)

表13 竪穴住居跡一覧表

調査年度	調査区画	遺構名	位置	規模 (m)				構造		土質		出土品		備考	
				縦長	横長	高さ	築	掘	土質	土質	土質	土質			
													築		掘
H1-1	1	S1-1	掘削跡	縦長	3.24	3.00	3.74	4.02	0.40	掘	掘	土質	掘	土質	中世前期(2600年)後遺構
				横長	3.00	3.74	4.02	0.40	掘	掘	土質	掘	土質		
H1-2	1	S1-2	掘削跡	縦長	3.70	4.00	3.18	3.34	4.10	掘	掘	土質	掘	土質	H1-1に前後 中世前期(2600年)後遺構 中世前期(2600年)後遺構
				横長	4.00	3.18	3.34	4.10	掘	掘	土質	掘	土質		
H1-3	1	S1-3	掘削跡	縦長	3.40	3.70	3.40	3.30	0.30	掘	掘	土質	掘	土質	H1-1と前後
				横長	3.70	3.40	3.30	0.30	掘	掘	土質	掘	土質		
H1-3.4	1	S1-3.4	掘削跡	縦長	7.10	10.30	3.00	10.00	0.40	掘	掘	土質	掘	土質	H1-1と前後
				横長	10.30	3.00	10.00	0.40	掘	掘	土質	掘	土質		
H1-4	1	S1-4	掘削跡	縦長	4.07	4.00	3.30	3.74	4.10	掘	掘	土質	掘	土質	H1-1と前後
				横長	4.00	3.30	3.74	4.10	掘	掘	土質	掘	土質		
H1-5	1	S1-5	掘削跡	縦長	3.40	3.30	3.00	3.00	0.30	掘	掘	土質	掘	土質	中世前期(2600年)後遺構
				横長	3.30	3.00	3.00	0.30	掘	掘	土質	掘	土質		
H1-6	1	S1-6	掘削跡	縦長	10.00	3.30	4.72	4.44	10.00	掘	掘	土質	掘	土質	中世前期(2600年)後遺構
				横長	3.30	4.72	4.44	10.00	掘	掘	土質	掘	土質		
H1-7	1	S1-7	掘削跡	縦長	11.30	11.00	—	10.30	—	掘	掘	土質	掘	土質	中世前期(2600年)後遺構
				横長	11.00	—	10.30	—	掘	掘	土質	掘	土質		
H1-8	1	S1-8	掘削跡	縦長	3.40	3.30	3.00	3.00	0.30	掘	掘	土質	掘	土質	H1-1と前後
				横長	3.30	3.00	3.00	0.30	掘	掘	土質	掘	土質		
H1-9	1	S1-9	掘削跡	縦長	3.00	3.00	3.00	3.14	0.40	掘	掘	土質	掘	土質	H1-1と前後
				横長	3.00	3.00	3.00	3.14	0.40	掘	掘	土質	掘	土質	
H1-10	1	S1-10	掘削跡	縦長	3.70	3.00	3.00	3.14	0.30	掘	掘	土質	掘	土質	H1-1と前後
				横長	3.00	3.00	3.00	3.14	0.30	掘	掘	土質	掘	土質	
H1-11	1	S1-11	掘削跡	縦長	11.30	9.00	—	9.10	—	掘	掘	土質	掘	土質	中世前期(2600年)後遺構
				横長	9.00	—	9.10	—	掘	掘	土質	掘	土質		
H1-12	1	S1-12	掘削跡	縦長	3.40	3.70	3.70	3.40	0.30	掘	掘	土質	掘	土質	H1-1と前後
				横長	3.70	3.40	3.40	0.30	掘	掘	土質	掘	土質		
H1-13	1	S1-13	掘削跡	縦長	3.40	3.00	3.30	4.70	0.70	掘	掘	土質	掘	土質	H1-1と前後
				横長	3.00	3.30	4.70	0.70	掘	掘	土質	掘	土質		
H1-14	1	S1-14	掘削跡	縦長	11.30	10.70	11.00	10.30	0.70	掘	掘	土質	掘	土質	H1-1と前後
				横長	10.70	11.00	10.30	0.70	掘	掘	土質	掘	土質		
H1-15	1	S1-15	掘削跡	縦長	11.40	11.00	—	9	—	掘	掘	土質	掘	土質	H1-1と前後
				横長	11.00	—	9	—	掘	掘	土質	掘	土質		
H1-16	1	S1-16	掘削跡	縦長	11.40	11.00	—	9	—	掘	掘	土質	掘	土質	H1-1と前後
				横長	11.00	—	9	—	掘	掘	土質	掘	土質		
H1-17	1	S1-17	掘削跡	縦長	11.40	11.00	—	9	—	掘	掘	土質	掘	土質	H1-1と前後
				横長	11.00	—	9	—	掘	掘	土質	掘	土質		
H1-18	1	S1-18	掘削跡	縦長	3.40	4.00	3.30	3.00	0.30	掘	掘	土質	掘	土質	H1-1と前後
				横長	4.00	3.30	3.00	0.30	掘	掘	土質	掘	土質		
H1-19	1	S1-19	掘削跡	縦長	3.70	3.30	3.30	3.10	0.30	掘	掘	土質	掘	土質	H1-1と前後
				横長	3.30	3.30	3.10	0.30	掘	掘	土質	掘	土質		
H1-20	1	S1-20	掘削跡	縦長	11.00	9.30	11.00	4.00	0.30	掘	掘	土質	掘	土質	中世前期(2600年)後遺構
				横長	9.30	11.00	4.00	0.30	掘	掘	土質	掘	土質		
H1-21	1	S1-21	掘削跡	縦長	3.40	3.40	3.40	3.40	0.30	掘	掘	土質	掘	土質	H1-1と前後
				横長	3.40	3.40	3.40	0.30	掘	掘	土質	掘	土質		

表14 竪穴住居跡 付属遺構一覧表(1)

遺構名	付属遺構名	種類	面	深部	形態 遺物番号・色図	規模 (m)				最大深部 層番号	主な 出土物	備考	
						横断面		縦断面					
						長さ	幅	長さ	幅				
H-1	h-p-1	礎石	---	---	---	0.60	0.64	---	---	0.08	---	礎石	
	h-p-1	土坑	---	---	---	---	---	---	---	---	---	層上層に付着 本遺構を以て基礎の土坑	
	h-p-2	土坑	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	h-p-2	夷床跡ピット	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-1	竪穴・柱穴	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
H-2	h-a-1	石礎石	3	---	---	0.70	0.60	---	---	0.12	---	フレイク 磁石 石片・石鏝 12・磁石・土片	遺物番号印: 丸車
	g-h-1	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-2	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-4	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-5	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
H-2 A	h-a-1	礎石	3	---	---	0.72	0.78	---	---	0.12	---	滑石・石鏝 12・磁石・土片	(H-1-1 礎石) 滑石片 フレイク 土山上
	h-p-1	土坑	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-1	竪穴・柱穴	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	h-a-1	石礎石	6	---	---	0.63	0.69	---	---	---	---	フレイク・磁石 土片・磁石・土片	本遺構跡に付着した フレイク
	h-p-1	土坑	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
H-4	h-a-1	礎石	6	---	---	0.67	0.73	---	---	0.05	---	フレイク	
	h-p-1	土坑	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-2	夷床跡ピット	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-1	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-2	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-3	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-4	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-5	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-6	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-7	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-8	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
H-5	h-a-1	土蓋兼中	6	---	---	0.76	0.74	---	---	---	---	滑石土蓋 12・磁石・土片	遺物番号
	h-p-1	土坑	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-1	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-2	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-2	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
H-6	h-a-1	土蓋	7	---	---	1.70	0.72	14.66	10.64	0.06	---	---	
	h-p-1	礎石	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-1	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-2	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-2	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-2	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-2	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-2	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-2	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-2	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-2	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-2	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
H-8	h-a-1	土蓋	8	(横断面)	---	112.10	13.60	---	---	16.10	---	---	
	g-h-1	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-2	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-2	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-3	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-4	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-5	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-6	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-7	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-8	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-9	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-10	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
H-7	h-a-1	礎石	10	---	---	0.90	0.78	---	---	---	---	---	
	h-p-1	土坑	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	h-p-1 a + g	(礎石)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-1	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-2	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-3	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-4	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-5	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-6	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-7	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-8	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-9	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
H-9	h-a-1	礎石	11	---	---	0.64	0.76	---	---	0.12	---	---	
	h-p-1	土坑	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-1	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-2	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-3	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-4	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-5	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-6	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-7	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-8	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-9	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-10	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
H-10	h-a-1	礎石	12	---	---	0.88	0.76	---	---	0.10	---	---	
	h-p-1	土坑	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-1	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-2	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-3	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-4	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-5	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-6	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-7	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-8	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-9	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	g-h-10	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	

表14 竅穴住居跡 付属遺構一覧表(2)

遺構名	付属遺構名	種別	図	図例	影響 遺物番号・色図	厚 積 (cm)				最大深 最大厚	主な 出土遺物	備考		
						平面		縦断面						
						長さ	幅	長さ	幅					
H-10	竅穴 ・ 竅穴	37 ・ 38	g h-9	---	内側	瓦	0.09	---	0.21	---	---	---		
			g h-10	---	内側	瓦	0.13	---	0.20	---	---	---		
			g h-11	---	内側	瓦	0.18	---	0.18	---	---	---		
			g h-12	---	内側	瓦	0.12	---	0.18	---	---	---		
			g h-13	---	内側	瓦	0.14	---	0.14	---	---	---		
			g h-14	---	内側	瓦	0.18	---	0.18	---	---	---		
			g h-15	---	内側	瓦	0.16	---	0.24	---	---	---		
			g h-16	---	内側	瓦	0.12	---	0.16	---	---	---		
			g h-17	---	内側	瓦	0.08	---	0.24	---	---	---		
			g h-18	---	内側	瓦	0.10	---	0.10	---	---	---		
			g h-19	---	内側	瓦	0.09	---	0.09	---	---	---		
			g h-20	---	内側	瓦	0.14	---	0.14	---	---	---		
			g h-21	---	内側	瓦	0.09	---	0.08	---	---	---		
			g h-22	---	内側	瓦	0.12	---	0.12	---	---	---		
g h-23	---	内側	瓦	0.08	---	0.16	---	---	---					
g h-24	---	内側	瓦	0.12	---	0.12	---	---	---					
g h-25	---	内側	瓦	0.12	---	0.09	---	---	---					
	遺物番号中 土瓦 (美濃焼ビット)				(横切面)	0.49	0.24	---	---	(図参照)				
H-11	h a-1	土瓦 (美濃焼ビット)	35	14	横切面	瓦類・曲線的	0.69	0.42	0.28	0.28	0.16	---		
H-12	---	盛り上げ土	42	13	不整な方形	---	11.10	9.12	---	0.12		野群土層 ストレイボー ワレオカ・瓦石 焼酎釜(瓦石・不整 瓦)・瓦片	遺物取り上げ (アゾワン・10層)	
	h a-1	土瓦		---	長條形内	*	2.03	0.42	1.24	0.29	*	---	上層部確認し 跡不明	
H-14	竅穴 ・ 竅穴	44 ・ 45	h a-1	36	横切面	瓦類・曲線的	2.05	13.60	1.70	11.00	0.20	野群土層 美濃焼瓦		
			h a-2	38	横切面	瓦類・平直	0.52	0.50	0.80	0.28	0.25	瓦類 フレイト		
			g h-1	---	内側	瓦	0.50	---	---	---	---	---	---	
			g h-2	---	内側	瓦	0.15	---	---	---	---	---	---	
			g h-3	---	内側	瓦	0.15	---	---	---	---	---	---	
			g h-4	---	内側	瓦	0.13	---	---	---	---	---	---	
			g h-5	---	内側	瓦	0.12	---	---	---	---	---	---	
			g h-6	---	内側	瓦	0.10	---	---	---	---	---	---	
			g h-7	---	内側	瓦	0.10	---	---	---	---	---	---	
			g h-8	---	内側	瓦	0.09	---	---	---	---	---	---	
g h-9	---	内側	瓦	0.15	---	---	---	---	---	---				
g h-10	---	内側	瓦	0.11	---	---	---	---	---	---				
g h-11	---	内側	瓦	0.11	---	---	---	---	---	---				
H-15	---	盛り上げ土	46	---	不整な横切面	---	(17.00)	(13.30)	---	0.20	瓦石 瓦・瓦石	図参照		
H-16	土瓦 (美濃焼ビット)	47 ・ 48	h f-1	17	横切面	瓦類・平直	0.43	0.33	---	---	---	野群土層 フレイト (図参照)		
			h f-2	---	横切面	瓦類・平直	0.40	0.40	*	*	0.15	---	---	
			h a-1	---	横切面	瓦類・平直	(1.60)	0.45	(0.60)	0.53	0.03	フレイト (図参照)		
			h a-2	17	横切面	瓦類・平直	0.43	0.33	0.30	0.40	0.15	---	---	
			h a-3	17	横切面	瓦類・斜斜	1.15	0.90	0.90	0.60	0.30	野群土層 フレイト ワレオカ・瓦石・不整 瓦	図参照	
			h a-4	17	横切面	瓦類・斜斜	(1.20)	0.80	(1.00)	0.65	0.13	野群土層・不整 スクレイパー 瓦・瓦石	瓦類の平直なし 1層部確認なし	
			g h-1	---	内側	瓦	0.09	---	---	---	---	---	---	
			g h-2	---	内側	瓦	0.12	---	---	---	---	---	---	
			g h-3	---	内側	瓦	0.09	---	---	---	---	---	---	
			g h-4	---	内側	瓦	0.18	---	---	---	---	---	---	
g h-5	---	内側	瓦	0.11	---	---	---	---	---	---				
g h-6	---	内側	瓦	0.09	---	---	---	---	---	---				
g h-7	---	内側	瓦	0.09	---	---	---	---	---	---				
g h-8	---	内側	瓦	0.11	---	---	---	---	---	---				
g h-9	---	内側	瓦	0.07	---	---	---	---	---	---				
g h-10	---	内側	瓦	0.11	---	---	---	---	---	---				
g h-11	---	内側	瓦	0.10	---	---	---	---	---	---				
h f a-1	17	横切面	---	0.35	0.30	---	---	---	---	瓦・瓦 ワレオカ・焼酎釜				
h f a-2	---	*	*	*	*	---	---	---	---	フレイト				
h f a-3	---	*	*	*	*	---	---	---	---	瓦類 瓦石・スクレイパー フレイト	h f a-2より不整な跡 遺物(瓦石)に認められ h f a-2より不整な跡 遺物(瓦石)に認められ			
h a-1	遺物番号中 土瓦	---	---	横切面	---	0.40	0.43	---	---	---	フレイト (図参照)			
h a-1	土瓦 (美濃焼ビット)	49 ・ 50	19	横切面	瓦類・曲線的	3.42	10.70	1.04	(0.60)	0.28	野群土層	瓦類確認(型不明)		
h a-1	土瓦 (美濃焼ビット)	---	19	横切面	瓦類・曲線的	0.24	0.24	---	---	---	---	---		
H-17	土瓦 (美濃焼ビット)	51	20	横切面	瓦類・平直	0.65	0.60	0.80	0.34	0.40	---	---		
			20	横切面	瓦類・曲線的	0.52	0.46	---	---	---	0.05	フレイト (図参照)	一部、h cで遺物の崩れが認め られる	
H-18	土瓦 (美濃焼ビット)	52	h a-1	---	横切面	瓦類・曲線的	0.78	0.64	0.62	0.40	0.20	野群土層 美濃焼瓦		
			h a-1	---	横切面	瓦類・曲線的	0.24	0.20	---	---	---	0.03	---	---
			h a-1	---	不整な横切面	(h f a-1) a	0.21	0.16	---	---	---	---	スクレイパー (h f a-1) a ワレオカ・フレイト	
h a-1	土瓦 (美濃焼ビット)	---	---	横切面	(内側)	0.40	0.34	0.50	0.26	0.10	---	土瓦が覆われた 土器片(中身) が多数認められる		
H-19	土瓦 (美濃焼ビット)	53	h a-1	---	不整な横切面	(中央)	0.34	0.28	0.20	0.18	0.22	---	---	
			h a-2	---	長條形内	(全体)	1.00	0.48	---	---	---	---	---	
			h a-2	---	横切面	(中央)	0.56	0.48	0.42	0.20	(0.12)	---	フレイト 瓦・瓦石	
H-20	土瓦 (美濃焼ビット)	55	h a-1	---	横切面	(西側)	0.43	0.48	0.26	0.22	0.11	---	---	
			h a-1	---	横切面	(東側)	0.44	0.40	0.24	0.22	0.08	---	---	
			h a-1	---	内側	(壁下)	0.20	0.20	---	---	---	0.04	フレイト	
h a-1	土瓦	---	---	横切面	瓦類・曲線的	0.11	0.16	0.14	0.20	0.20	---	---		
h a-2	土瓦	---	---	横切面	瓦類・曲線的	0.64	0.56	0.40	0.40	0.22	スクレイパー			
h a-3	土瓦	---	---	横切面	瓦類・平直	0.36	0.30	0.22	0.18	0.08	---	---		
	(産地不明)	---	---	横切面	(西側)	0.24	0.16	---	---	---	---	---		
	(産地不明)	---	---	横切面	(西側)	0.29	0.16	---	---	---	---	---		
	(産地不明)	---	---	横切面	(西側)	2.00	0.90	---	---	---	---	行状不明		

表15 土坑一覧表

遺構名	図番	グリッド	平面形状	規模 (m)				付属遺構	出土遺物			備考		
				埋没深		底深・底面積			土層	石器等	その他			
				長径	短径	長径	短径							
P-1	52	23	N-25K	横円形	1.09	0.84	0.82	0.62	0.38	—	—	フレイク 台石・石皿 U・Rレシキ レシキ	(炭化物)	
P-2	57	23	V-13K	円形	0.98	0.90	0.64	0.62	0.28	—	—	台石・石皿 レシキ		
P-3	58	23	Q・R -27K	横円形	2.22	1.72	1.92	1.43	0.21	—	—	石鏡 フレイク 砥石 台石・石皿 U・Rレシキ レシキ		
P-4	58	23	N-38K	円形	0.60	0.56	0.46	0.44	0.12	—	—	すり石 台石・石皿 U・Rレシキ		
P-5	59	24	K-19K (C溝区)	横円形	2.72	1.86	2.35	1.28	0.44	—	—	—		
P-6	59	24	M-16K (C溝区)	横円形	0.87	0.69	0.63	0.40	0.18	—	—	—		
P-7	60	24	P・Q -11K	横円形	1.28	0.87	0.92	0.60	0.39	—	—	磨製石斧 台石・石皿 U・Rレシキ レシキ		
P-8	60	24	M・N -25K	横円形	0.90	0.90	0.66	0.54	0.38	—	IV群	フレイク		
P-9	61	25	Q-25K	横円形	(1.42)	(1.02)	(0.93)	0.36	0.32	—	—	—		
P-10	61	25	U-30K	横円形	1.16	0.98	0.82	0.70	0.28	—	IV群	フレイク すり石 砥石 台石・石皿 U・Rレシキ レシキ		
P-11	62	25	U -22/23K	長方形	1.70	0.89	1.28	0.48	0.28	—	IV群	フレイク 砥石 U・Rレシキ レシキ		
P-12	62	25	U・V -22K	円形	1.18	1.14	0.96	0.92	0.38	—	IV群	フレイク 砥石 U・Rレシキ		
P-13	63	26	U-28K	横円形	0.62	0.50	0.44	0.24	0.20	—	—	—		
P-14	63	26	P-40K	横円形	1.68	0.62	0.66	0.50	0.44	—	—	磨製石斧 レシキ		
P-15	64	26	S-20K	横円形	0.60	0.48	0.34	0.30	0.42	—	—	すり石 砥石 台石・石皿 U・Rレシキ レシキ		
P-16	64	26	U-32K	円形	0.86	0.92	0.62	0.48	0.24	—	IV群	フレイク 砥石 台石・石皿 石製品 U・Rレシキ		
P-17	65	27	W-26K	横円形	2.00	1.26	1.76	1.08	0.24	—	IV群	石鏡 スタレイバー フレイク 磨製石斧 すり石 波曲溝式石鏡 砥石 台石・石皿 U・Rレシキ	(炭化物)	
P-18	65	27	W-13, X-12・12K	円形	1.20	1.18	0.84	0.82	0.32	—	IV群	—		
P-19	66	27	W-12K	横円形	0.82	0.74	0.66	0.54	0.16	—	—	U・Rフレイク フレイク		
P-20	66	27	X- 11・12K	円形	1.08	0.60	0.70	0.74	0.50	—	IV群	石鏡 フレイク 砥石 台石・石皿 レシキ		
P-21	67	28	X・Y -13K	横円形	1.46	1.18	1.08	0.78	0.30	—	—	—	たたく石	平成26(2014) 平成27(2015) 年度調査区
P-22	67	28	V-14K	横円形	1.08	0.84	0.88	0.44	0.60	—	—	フレイク 砥石 レシキ		
P-23	68	28	Q・R -42K	横円形	1.24	1.04	0.74	0.54	0.28	—	—	すり石 台石・石皿 U・Rレシキ		
P-24	68	28	K-16K	横円形	1.12	0.76	0.86	0.56	0.20	—	IV群	U・Rレシキ		
P-25	69	29	e-19K	横円形	0.64	0.32	0.57	0.22	0.37	—	—	U・Rレシキ		
P-26	69	29	V・Z -10K	円形	0.92	0.80	0.54	0.64	0.19	—	—	磨製石斧 台石・石皿		
P-27	70	29	e-18K	円形	0.98	0.95	0.38	0.37	0.56	—	—	(近くにB-2)	—	
P-28	70	29	e-14K	横円形	0.62	0.40	0.44	0.32	0.12	—	—	台石・石皿 レシキ		
P-29	71	30	J- 20・21K	横円形	1.27	1.14	1.06	0.80	0.22	—	IV群	フレイク 磨製石斧 砥石 たたく石 U・Rレシキ		
P-30	71	30	J- 21・22K	横円形	1.64	1.36	1.58	1.16	0.36	—	—	フレイク 磨製石斧 砥石 石製品 U・Rレシキ		
P-31	72	30	L・M -20K	不整形 横円形	2.04	1.33	1.56	0.92	0.31	—	—	すり石 台石・石皿		
P-32	72	30	S-19K	横円形	2.07	1.52	1.16	0.57	0.70	—	IV群	U・Rフレイク 磨製石斧 すり石 砥石 台石・石皿 U・Rレシキ	(炭化物)	
P-33	73	31	M・N -20・21K	不整形 横円形	2.84	2.74	2.60	2.48	0.37	—	—	—		
P-34	73	31	P・Q-27K	不整形 横円形	1.32	1.02	0.90	0.58	0.19	—	—	U・Rフレイク フレイク 磨製石斧		平成28年度に調査 目-19と重複
P-35	74	31	K-24K	横円形	1.60	1.27	1.14	0.91	0.35	—	IV群	石鏡 フレイク 磨製石斧 台石・石皿 U・Rレシキ レシキ	(炭化物)	目-14限り上げ土 と重複
P-36	74	31	P- 25・26K	不整形 横円形	2.00	1.42	1.72	1.20	0.21	—	IV群	石鏡 スタレイバー U・Rフレイク フレイク すり石 砥石 台石・石皿 U・Rレシキ レシキ		
P-37	74	32	P・Q -23K	不整形 横円形	1.33	0.78	0.96	0.50	0.22	—	—	—		
P-38	75	32	Q- 24・25K	横円形?	(2.10)	(0.96)	(2.04)	(0.92)	0.18	—	IV群	スタレイバー 磨製石斧 台石・石皿 U・Rレシキ フレイク 磨製石斧 すり石 砥石 U・Rレシキ レシキ		平成26(2014)年度 調査区では未調査
P-39	75	32	K-21K	横円形	1.49	1.16	1.28	0.96	0.16	—	IV群	砥石等 磁器 U・Rレシキ		

表16 Tピット一覧表

遺構名	図	図例	グリッド	平面形状		規模 (m)				付属遺構	出土遺物			備考		
				確認面	坑底面	長径   短径		遺溝・坑底面	最大深		土器	石器等	その他			
						長径	短径									
T P-1	76	32	T-31・32区	溝状	溝状	2.46	0.51	1.84	0.26	1.11	—	—	すり鉢 台形・石皿 U・見レキ レン	—	H-2と重複	
T P-2	76	33	X-15区	楕円形	溝状	1.91	1.12	1.26	0.28	0.67 (1.3)	—	—	スプレイバー フレイク 台形・石皿 U・見レキ	—		
T P-3	77	33	K-29区	楕円形	楕円形	1.80	1.05	1.06	0.62	1.46	柱穴・杭穴 1.5m	—	—	磨製石斧	—	
T P-4	77	33	T・U-13区	楕円形	楕円形	1.64	1.48	1.06	0.56	1.71	柱穴・杭穴 1.5m	石群	—	磨製石斧 すり鉢 レン	—	

表17 Tピット 付属遺構一覧表

遺構名	付属遺構名	種別	図	図例	形状		規模 (m)		特徴	出土遺物	備考
					平面	断面	確認面	最大深			
T P-3	s p-1	柱穴・杭穴	77	—	円形	尖	0.65	0.69	—	—	
T P-4	s p-1	柱穴・杭穴	77	—	円形	尖	0.10	0.21	—	—	

表18 焼土一覧表

遺構名	図	図例	グリッド	確認単位 (被熱層)	平面形状	焼土色調		規模 (m)			主な出土遺物	関連する遺構	備考
						色名	マンセル 値系統	長径	短径	最大深			
F-1	78	33	M-38区	V層	楕円形	棕色	5J06/6	0.26	0.23	0.04	—	—	
F-2	78	33	T-33区	H-2 A 層上	円形	暗褐色	7.5J83/4	0.46	0.43	0.08	穴群土器 磨製石斧 U・見レキ 穴群土器 石皿 穴群土器 石皿 穴群土器 フレイク 磨製石斧 すり鉢 たたき石 磁器 U・見レキ	H-3 Aと重複 近くはP S-1	
F-3	79	34	U-31区	*	楕円形	赤褐色	5J14/8	0.72	0.63	0.15	—	—	骨片 炭化物
F-4	78	34	V-30区	V層	円形	棕色	5J06/8	0.40	0.37	0.06	—	—	骨片
F-5	79	34	U-32区	*	円形	暗赤褐色	5J03/6	0.59	0.57	0.16	—	—	炭化物
F-6	79	34	V-27区	V層	不整な 楕円形	棕色	7.5J8 6.0/6.9	0.20	0.21	0.04	穴群土器 磨製石斧 フレイク 穴群土器 石皿 磨製石斧 すり鉢 たたき石 磁器 U・見レキ	S P-2・s f p h-1と重複 骨片のまじり 2.20×1.22m	
F-7	80	34	N-35区	V層	不整な 楕円形	棕色	7.5J06/6	0.28	0.23	0.08	—	—	
F-8	80	34	N-42区	V層～ 層上	不整な 楕円形	棕色	7.5J8 6.0/6.9	0.32	0.28	0.06	—	—	
F-9	80	34	b-11区	V層	円形	暗赤 赤褐色	5J82/4	0.42	0.41	0.08	穴群土器	—	炭化物
F-10	80	34	c-14区	V層	楕円形	暗赤褐色	5J03/6	0.53	0.47	0.08	—	—	炭化物
F-11	80	35	b+c-18区	V層	円形	暗赤 赤褐色	5J82/4	0.33	0.29	0.06	—	—	炭化物
F-12	81	35	O-24区	V層	楕円形	褐色	7.5J14/6	0.68	0.57	0.10	—	—	炭化物
F-13	81	35	B-45区	V層	円形	にじみ褐色	7.5J03/4	0.28	0.25	0.06	—	—	炭化物
F-14	81	35	C-45区	V層	不整な 楕円形	にじみ褐色	7.5J03/4	0.32	0.16	0.02	—	—	炭化物
F-15	81	35	C-45区	V層	不整な 楕円形	にじみ褐色	7.5J03/4	0.44	0.34	0.03	—	—	炭化物
F-16	81	35	D-45区	V層	円形	にじみ褐色	7.5J03/4	0.26	0.34	0.04	—	—	炭化物

表20 石組炉 付属遺構一覧表

遺構名	付属遺構名	種別	グリッド	図	図例	形状		規模 (m)		特徴	出土遺物	備考
						平面	断面	確認面	最大深			
S F-1	s f p h-1	柱穴・杭穴	T-26区	82	派	円形	丸	0.20	0.20	—	—	
	T-26区		円形			球丸	0.20	0.30	—	—		
S F-2	s f p h-1 (土俵表の部分)	柱穴・杭穴	V-27区	82	36	円形	尖	0.20	0.60	—	—	レン
						楕円形	—	0.26	0.16	—	—	磁石 U・見レキ

表19 石組炉一覧表

遺構名	図	図例	グリッド	基礎 層位	平面 形状	規模 (m)			壁厚	築方・全体		土色 色名	主な 出土遺物	付属遺構 関連する遺構	備考	
						石組炉 長さ	石組炉 短径	石組炉 高さ		長さ	短径					
S F-1	82	35	T-27区 (T-26, 27区)	T a-4 2	長方形	0.86	0.42	0.13	(付属遺構含む範囲) (3.84) (1.76)	—	赤褐色	5181/6	フレイク U・Rレキ	柱穴・柱穴 2ヶ所 s f p h-1・2	炭化物含む	
S F-2	82	35 36	V-27区	VI層	長方形	0.68	0.59	0.14	(付属遺構含む範囲) (3.32) (1.04) 0.19	—	—	—	IV群土器 スケレイン すり石 磁石 台石・石皿 U・Rレキ	柱穴・柱穴 1ヶ所 s f p h-1	炭化物含む	
S F-3	83	36	U-30区	V層	長方形	0.70	0.52	0.38	0.94	0.52	0.38	明赤褐色	5185/6	IV群土器 フレイク すり石 たたき石 U・Rレキ	—	炭化物含む
S F-4	83	36	X-28区	V層	長方形?	0.72	0.70	0.19	0.90	0.70	—	明褐色	2.5185/6	すり石 磁石 台石・石皿 U・Rレキ	—	炭化物含む
S F-5	84	36	b-16区	VI層	長方形	0.76	0.60	0.14	廻り方: 不明な内径 0.78 / 0.72 0.16	—	—	—	フレイク たたき石 レキ	—	炭化物含む	
S F-6	84	36	Y・Z-19区	VI層	楕円形	0.98	0.74	—	廻り方: 不明な内径 1.20 / 0.72 0.20	—	—	—	台石・石皿 U・Rレキ レキ	—	炭化物含む	
S F-7	85	36	a-11区	*	長方形?	0.60	0.48	*	廻り方: * 0.36 / * 0.20	—	—	—	IV群土器 フレイク U・Rレキ レキ	—	炭化物含む	
S F-8	85	36	T-16区	VI層	楕円形	0.51	0.44	0.20	廻り方: 不明な内径 0.56 / 0.46 0.38 / 0.32	0.16	—	—	IV群土器 フレイク 磨製石片 磁石 台石・石皿 U・Rレキ レキ	—	炭化物含む	
S F-9	86	36	V-12区	VI層	手四角	0.51	0.41	0.18	廻り方: 楕円形 0.54 / 0.40 0.36 / 0.40	0.06	—	—	IV群土器 フレイク U・Rレキ レキ	平成26(2014) ・28(2016)年度 調査区にまたがる	—	
S F-10	86	37	T-16区	VI層	方形?	0.42	0.42	0.20	廻り方: 楕円形 0.54 / 0.32 0.36 / 0.24	0.14	—	—	レキ	—	—	
S F-11	87	37	G・H-8区	V層	方形? 円形?	0.52	0.30	0.16	廻り方: 不明な内径 0.68 / 0.62 0.54 / 0.48	0.18	—	—	磁石 台石・石皿 U・Rレキ レキ	—	上部はレキ集中 (0.50×0.30m) 下部は石組炉	
S F-12	87	37	C・D-8区	*	楕円形?	0.72	0.64	0.21	廻り方: 楕円形? 0.44 / 0.32 0.36 / 0.40	0.18	—	—	U・Rレキ レキ	—	西側部分ほり出し	

表21 遺物集中一覧表

遺構名	図	図例	グリッド	基礎 層位	平面 形状	規模 (m)			壁厚	築方・全体		土色 色名	主な 出土遺物	付属遺構 関連する遺構	備考		
						長さ	短径	高さ		長さ	短径						
P S-1	88	37	N-10・8区	V層	(上部) (下部)	1.23 0.74	0.57 0.36	—	—	—	—	—	V群土器 (型式)	—	—		
P S-2	88	37	S・T-22, T-23区	V層	(上部) (下部)	1.12 0.49	0.67 0.36	—	—	—	—	—	IV群土器 (型式)	磁石 台石・石皿 レキ	—	—	
P S-3	89	37	U-30区	V層	—	0.64	0.30	—	—	—	—	—	IV群土器 (型式)	磨製石片 U・Rレキ	—	—	
P S-4	89	37	T-30区 (V層)	—	—	0.65	0.26	—	—	—	—	—	IV群土器 (型式)	たたき石 レキ	H-3 A・h p-1と重複 近くにP-2	—	
P S-5	90	37	W-21区	V層	—	0.68	0.64	—	—	—	—	—	IV群土器 (型式)	すり石 U・Rレキ	—	—	
P S-6	90	38	f-9区	V層	(上部) (下部)	0.79 0.73	0.75 0.49	—	—	—	—	—	IV群土器 (型式)	台石・石皿	—	—	
P S-7	91	38	a-11区	V層	—	0.43	0.38	—	—	—	—	—	IV群土器 (型式)	—	—	—	
P S-8	91	38	Y-26区	V層	—	1.46	0.87	—	—	—	—	—	V群土器 (型式)	磨製石片	—	—	
P S-9	92	38	K-23区	V層	—	0.94	0.39	—	—	—	—	—	IV群土器 (型式)	—	—	—	
P S-10	92	38	G-15区	V層	—	0.74	0.61	—	—	—	—	—	IV群土器 (型式)	—	—	—	
F C-1	93	38	T-18 U-17・18区	V層	不明な 楕円形	1.37	0.91	(0.63)	—	—	—	—	IV群土器 フレイク	—	—	—	
F C-2	93	38	U-18区	V層	楕円形	0.88	0.71	(0.60)	—	—	—	—	石皿 フレイク	—	近くにS-1	—	
F C-3	93	38	U-18区	V層	楕円形	0.44	0.32	(0.06)	—	—	—	—	IV群土器 フレイク	—	—	—	
F C-4	93	38	G・H-30区	V層	(楕円形)	3.50	2.74	*	—	—	—	—	石皿 スケレイン U・Rフレイク フレイク 磨製石片	—	—	—	
S-1	93	39	U-18区	V層	楕円形	1.02	0.76	(0.63)	—	—	—	—	IV群土器 フレイク 磁石 U・Rレキ レキ	—	近くにP C-2	—	
S-2	94	39	E-4区	V層	—	1.84	1.64	*	—	—	—	—	北海道式石皿 すり石 たたき石 U・Rレキ レキ	—	—	—	
B-1	79	39	U-32区	V層	楕円形	0.72	0.64	0.06	—	—	—	—	骨片 (炭化物)	磨製石片 U・Rレキ	—	近くにP-5	—
B-2	94	39	e-11区	V層	不明な 内径?	(0.50)	0.60	0.20	—	—	—	—	骨片 (炭化物)	—	—	近くにP-27	—
B-3	94	39	d-11区	V層	円形	0.51	0.45	0.05	—	—	—	—	骨片 (炭化物)	—	—	—	—
C-1	95	39	U-31区	V層	不明形	0.44	0.33	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
C-2	95	39	W・X-8区	V層	不明形	0.54	0.30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
C-3	95	39	Y-14・15 Z-15区	VI層	不明形	4.63	3.44	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
C-4	95	39	K-23区	V層	不明形	1.66	1.02	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—





## V章 遺構・包含層の出土遺物

### 1. 概要

本遺跡の遺構・包含層出土の遺物をまとめて記載する。包含層からは土器等47,932点、石器等90,878点、合計138,810点出土した。ここでは、包含層の遺物について出土のあり方を示すため、遺物登録台帳を元に出土点数表、出土分布図を作成した。二次整理を進めるにつれ、一次分類作業での判断や台帳・カードの記載等で誤りがみられた。これらは訂正していないが、遺物の出土傾向を述べるのに支障はないと考える。

#### 包含層出土点数表 (表34～36)

包含層出土の土器はⅣ群土器が47,186点と約98%を占め、次いでⅢ群316点、Ⅰ群270点、Ⅶ群53点、Ⅴ群27点、Ⅵ群8点である。Ⅱ群をⅣ群と誤認して分類したものがある。Ⅶ群土器は多くがⅠ層出土である。各群での残存状態は、Ⅳ群は小破片と剥離が多く、それ以外は良好が多い。

剥片石器は黒曜石製が多く、器種ではフレイクが23,128点と約88%を占める。次いでU・Rフレイク1,142点、石鏃824点、スクレイパー668点、つまみ付きナイフ169点、石核169点、石槍・ナイフ124点、石錐51点、原石20点である。

礫石器・石製品・レキは砂岩や凝灰岩製が多く、器種ではU・Rレキが44,377点と約69%を占める。次いで磨製石斧9,573点、レキ5,889点、台石・石皿1,543点、砥石1,127点、すり石972点、たたき石876点、北海道式石冠52点、石錘7点で、石製品は167点である。

#### 出土分布図 (図96～112)

Ⅰ群土器はc-14・19区など調査区の中央付近、Ⅲ群土器はD-47、F-44、I-46区など調査区の北西側部分に多い。Ⅳ群土器は調査区の全体から出土し、E-43、R-24、U-13、X-10区では800点以上みられる。Ⅴ群土器は同時期の土器集中(P-S-8)周辺のY-19・20区に多い。Ⅵ群はg-9区のみで出土し、Ⅶ群土器はV-31区に多い。

石鏃は調査区の全体から出土し、調査区西端のY-29区、東端のa-7区などに多い。石槍・ナイフ、石錐はA・B地区の全体から出土した。ともに集中区はなく、各グリッドから1～3点の出土である。つまみ付きナイフはT-X-25～30区にやや多い。スクレイパーはA・B地区の全体から出土し、K-21、a-7、d-10区など西側部分に多い。U・RフレイクはH-30区、石核はS～V-29～31、T～V-14～17区にやや多い。フレイクはA・B地区の全体から出土する。調査区の中央付近で多く、e-15区では1,000点以上みられる。原石は少量出土した。磨製石斧はA・B地区の全体から出土し、b・c-12・13区、J・K-21～24区に多い。たたき石、すり石はA・B地区の全体から出土し、たたき石はY-16、26区、すり石はS-X-23～31区に多い。北海道式石冠はB地区の中央付近のO-X-20～37区で多く出土した。石錘はB地区の西側部分のN-W-21～41区にかけて、少量出土した。砥石はR-25、U-30、P-41区などB地区の北側部分で多い。台石・石皿はN-34、R-25、S-30、U-13、30区に多い。U・Rレキ、レキは調査区の全体から出土し、U・RレキはR-Z-22～36区、レキはU-17・18区、T-28、O-42区などに多い。石製品はJ-22、T-17、d-4区に多い。

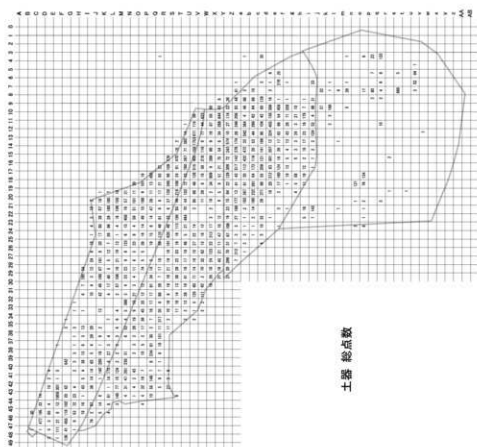
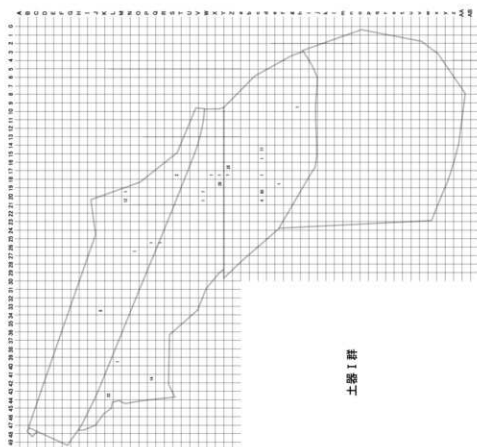


图96 遺物出土分布图(1)

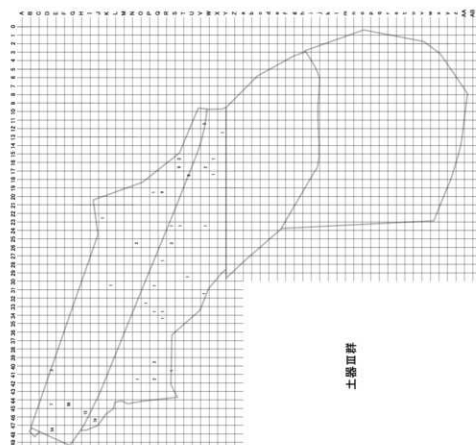
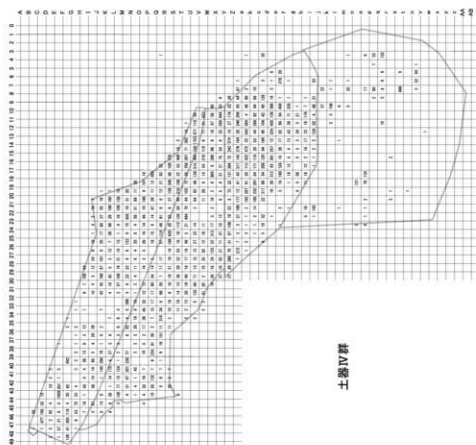


図97 遺物出土分布図(2)

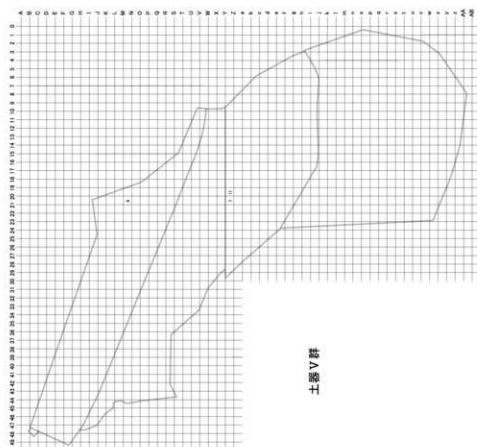
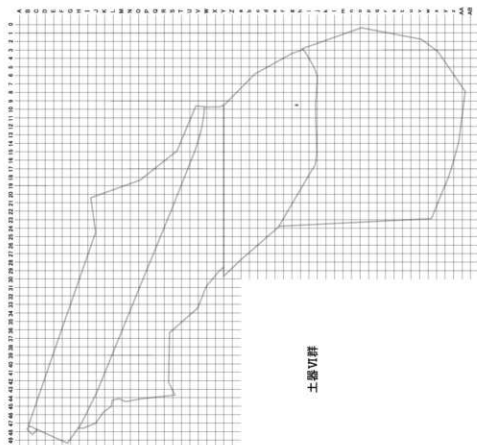


图98 遺物出土分布图(3)

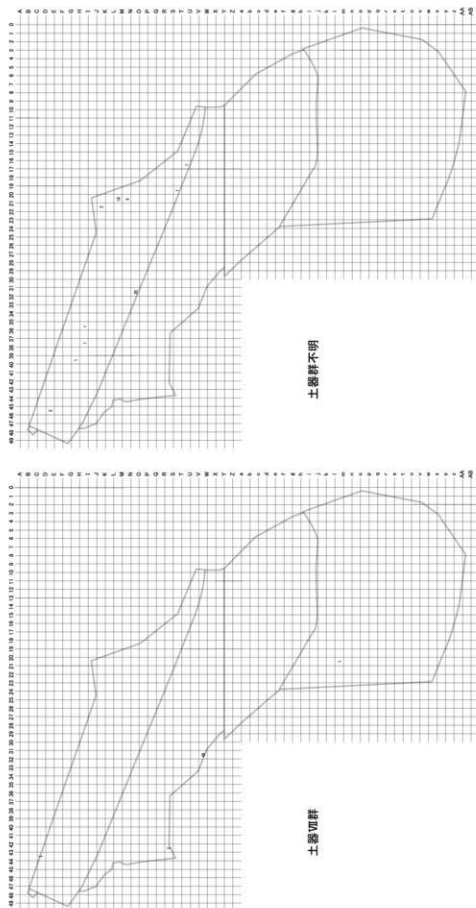


図99 遺物出土分布図(4)

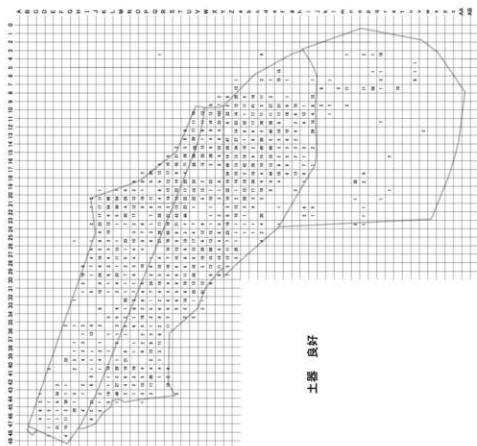
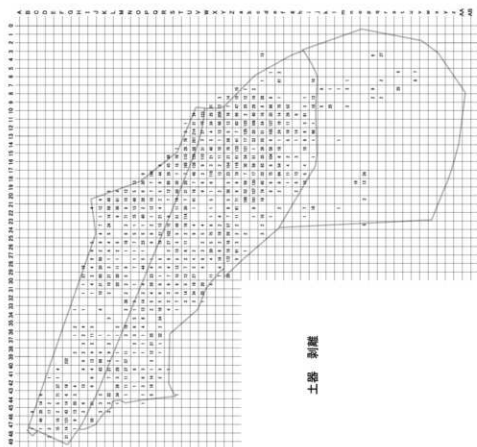


图100 遺物出土分布图(5)

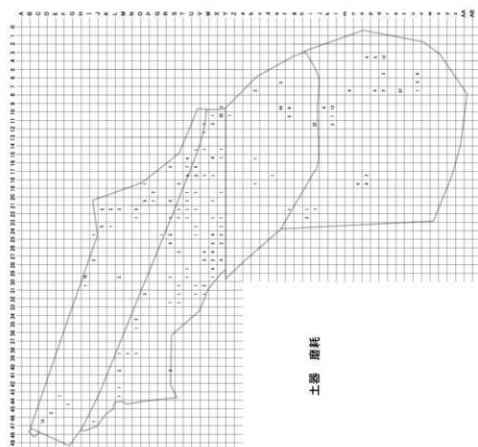
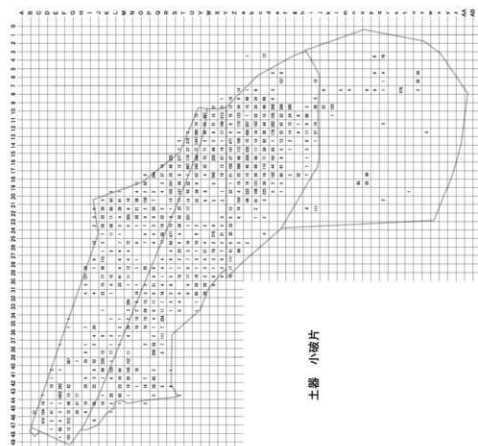


図101 遺物出土分布図(6)



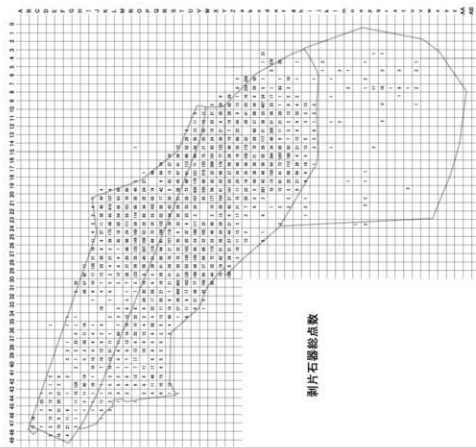
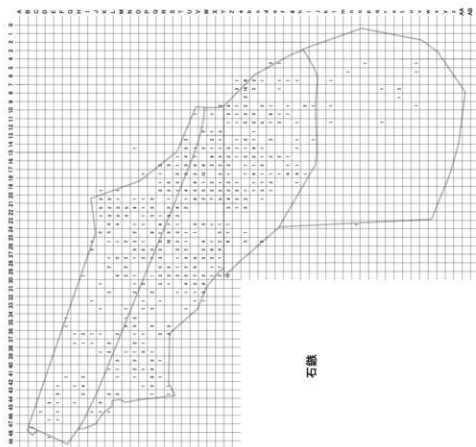


图102 遗物出土分布图(7)

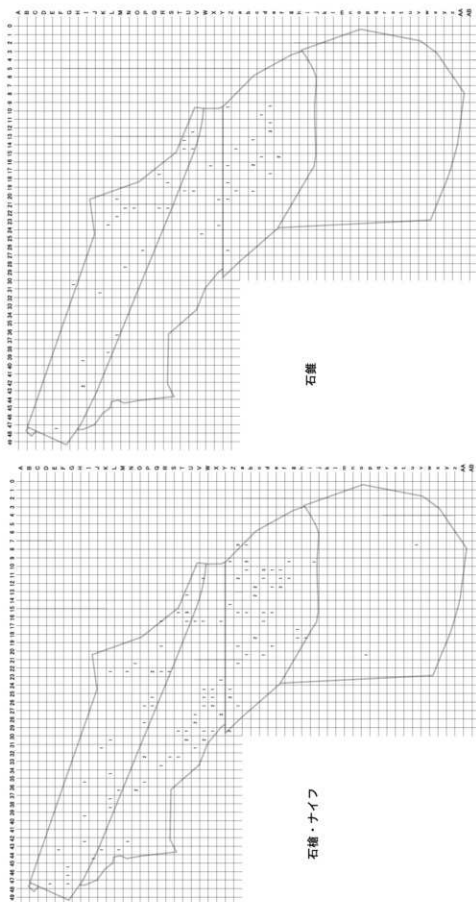


図103 遺物出土分布図(8)

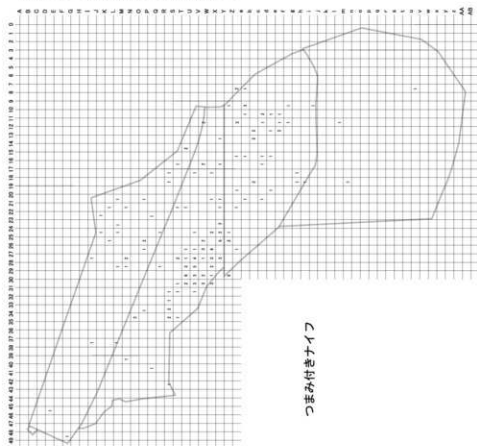
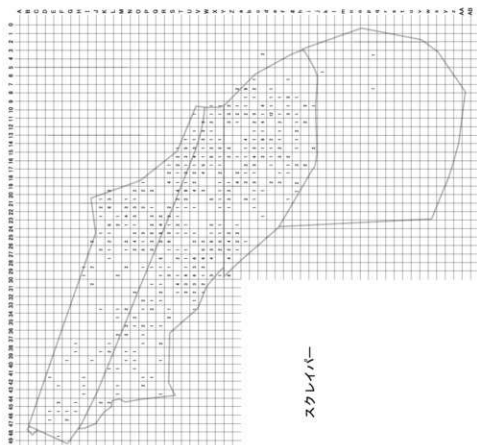


図104 遺物出土分布図(9)

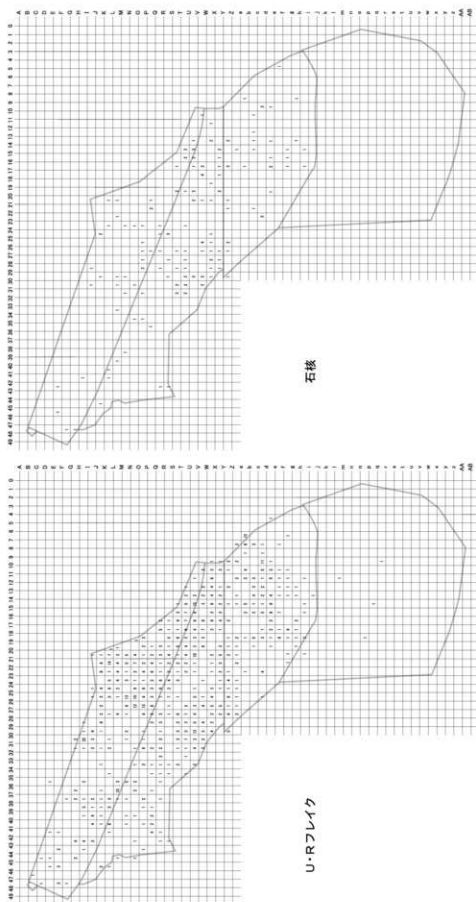


図105 遺物出土分布図(10)

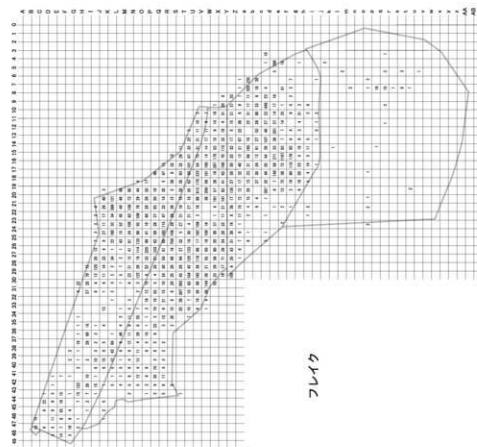
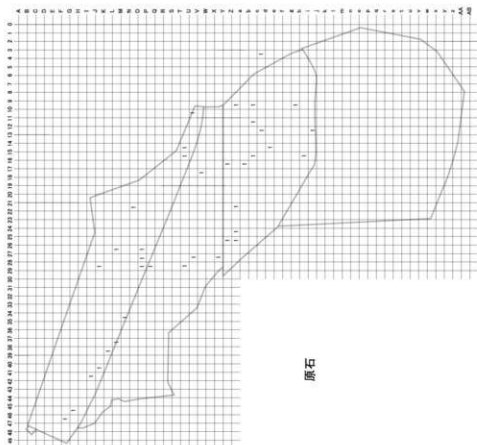


图106 遺物出土分布图(11)

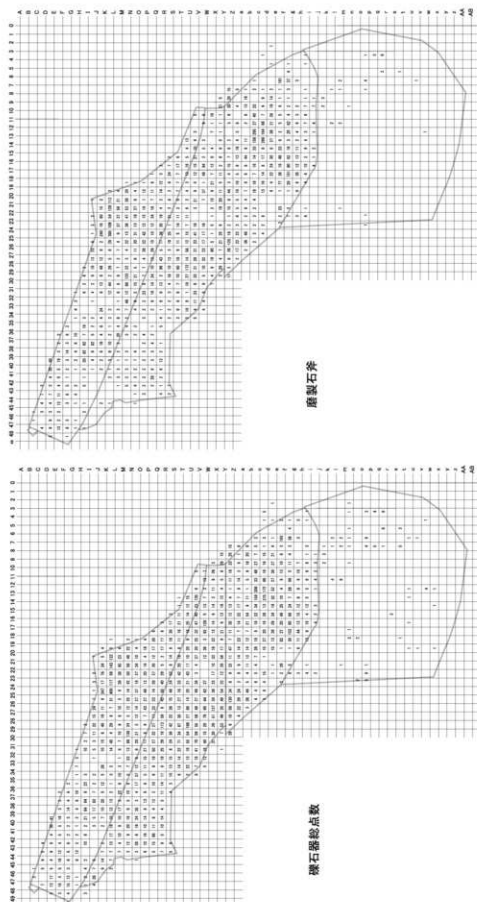


図107 遺物出土分布図(12)

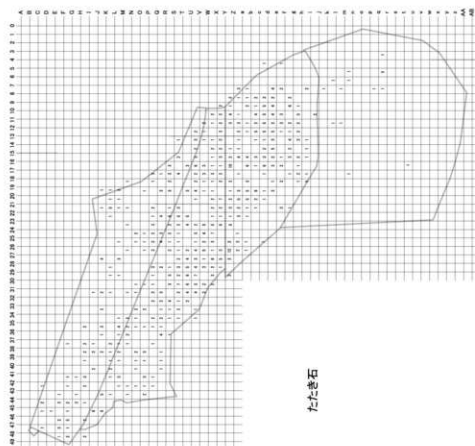
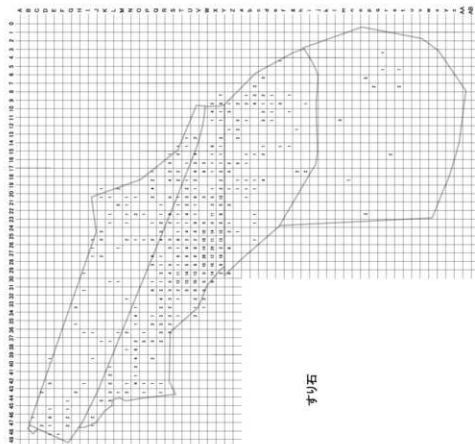


図108 遺物出土分布図(13)

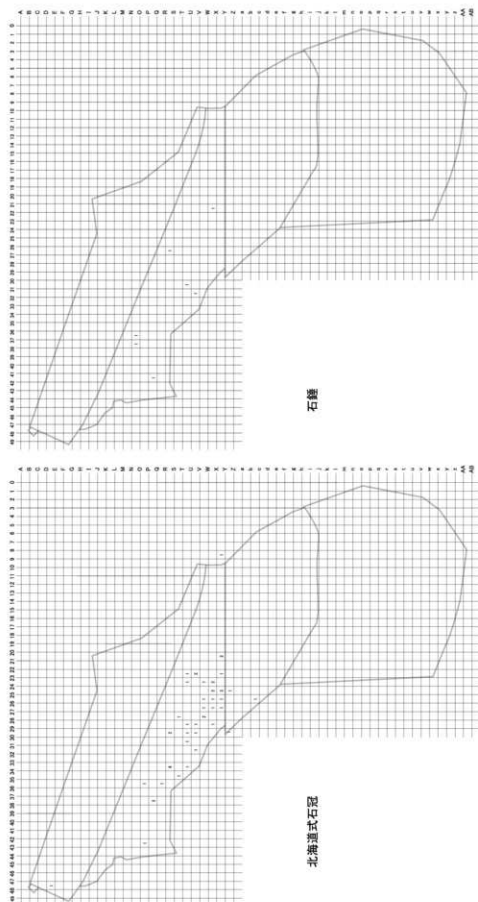


图109 遺物出土分布図(14)



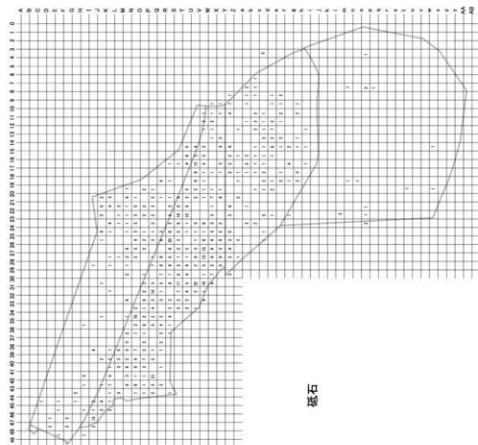
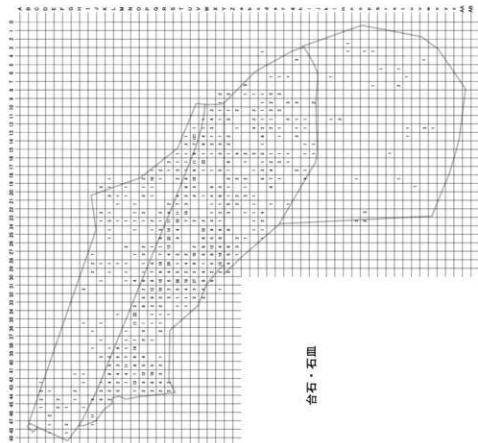


图110 遗物出土分布图(15)

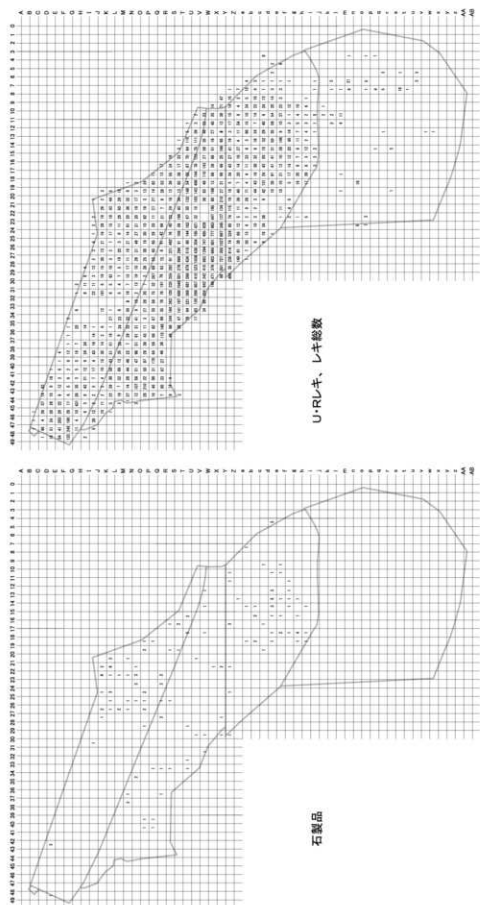
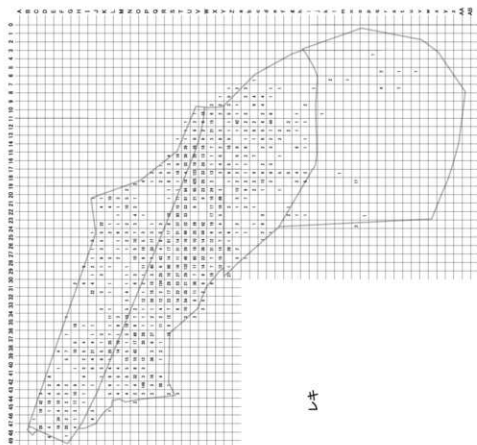
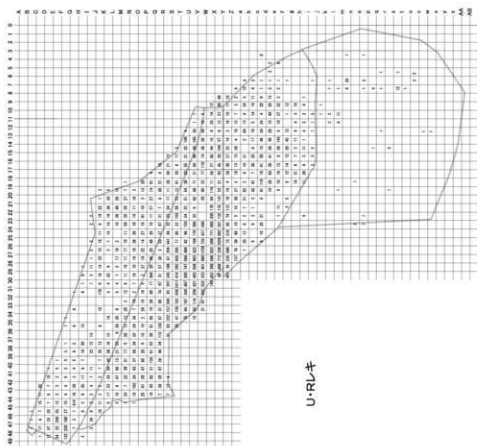


図111 遺物出土分布図(16)



レキ



U・RLレキ

図112 遺物出土分布図(17)

## 2. 土器

### (1) 復原土器

遺構出土 (図113~116 表39~55 図版40~43)

#### H-2

1は口縁部から胴部上位まで直立気味で、そこから直線的にすぼまる器形である。口唇部直下から胴部には貼付帯が三条あり、二条目は幅広である。口唇部直下の貼付帯の下位には横紐による刺突文が巡る。貼付帯上と器面にはL R縄文が施され、一部は縦位回転施文である。IV群 a類である。

#### H-3

2は小型の底部で、曲線的な沈線文で区画され、縄文が施される部分と、ミガキによる無文部分がある。IV群 b類である。

#### H-4・h p s-1

3は口縁部から胴部上位まで直立気味で、そこから胴部下位へ曲線的にすぼまる器形である。口縁部の外面は広く剥離するが、四条の貼付帯の剥離痕とその間の無文部分が観察される。胴部には貼付帯が一条あり、縄線文が施される。地文は別原体による羽状縄文で、一部重複する部分がある。

4は口縁部から胴部上位まで直立気味で、そこから胴部下位へと曲線的にすぼまる器形である。口縁部の外面は広く剥離し、文様は不明であるが、胴部上位から下位には四条の貼付帯がみられる。貼付帯上と器面には燃りの異なる原体による羽状縄文が施され、胴部下位では重複する部分がある。

5は直線的にすぼまる底部で、燃りの異なる原体による羽状縄文が施され、底外面は無文である。4と同一個体の可能性がある。3~5はIV群 a類の余市式である。

#### H-8

6は小型の深鉢で、口縁部から底部まで直線的にすぼまり、底部が張り出す器形である。口唇部に棒状工具による刻みがみられ、胴部は無文で、指頭圧痕がみられる部分がある。IV群 a類である。

7は開口縁部から胴部まで直立気味で、そこから底部へと直線的にすぼまる器形である。口唇部直下の貼付帯の下位に斜め下方からの円形刺突文がみられ、胴部には四条の貼付帯がある。貼付帯上や器面にはL R縄文が施され、下位の二条の貼付帯上にのみ太いL R原体が使用される。底部と底外面は無文で、IV群 a類の余市式である。

#### H-15・h f-1 H-14

8は土器囲い炉に用いられた口縁部から胴部と、離れたL-29区の底部が主に接合した。器形は開口する口縁部から胴部まで直立気味で、胴部がわずかにふくらみ、底部へとすぼまる。口唇部直下から胴部下位まで六条の貼付帯があり、貼付帯上と器面には複節と単節の羽状縄文がみられ、底部の複節は縦位回転施文である。IV群 a類の余市式である。

#### PS-1

9は九か所の突起部があり、口縁部から胴部下位まで直立気味で、胴部下位から底部へと曲線的にすぼまる器形である。口唇部の断面は切り出し形で、突起部の上位には円錐状の貼付があり、その下から連弧状の沈線文が二条施される。口唇部直下と沈線文の下位にはつまみ上げて施した爪形文が巡る。地文はL R縄文で、底部は上げ底である。V群 a類と考える。

#### PS-2

10はわずかに開口する口縁部から若干ふくらむ胴部を経て、底部へと直線的にすぼまる器形である。口唇部直下とその下位に貼付帯がみられ、下位は幅広である。一条目の貼付帯の下位に円形刺突文が巡り、胴部には六条の貼付帯が施される。貼付帯上と器面には、燃りの異なる原体による羽状縄

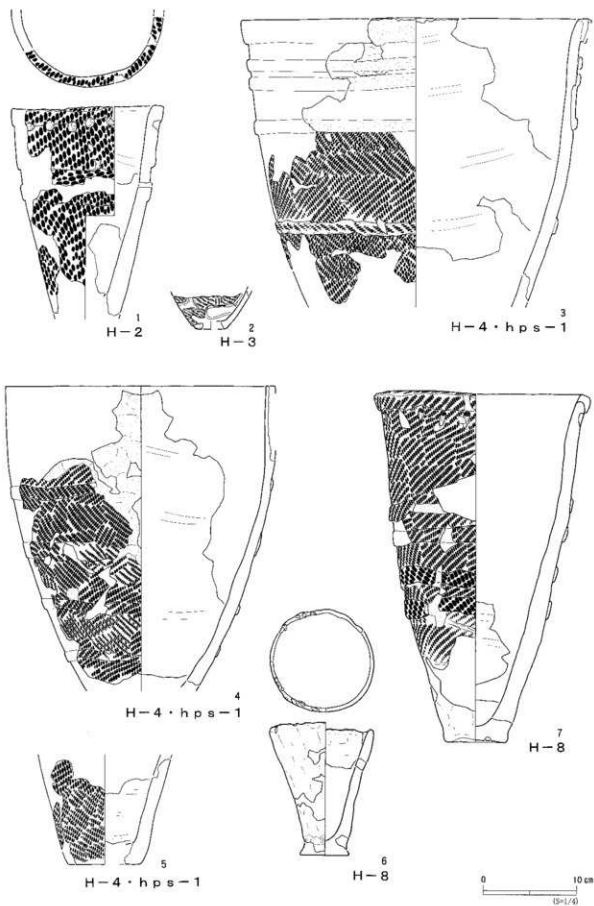


図113 遺構出土の復原土器(1)

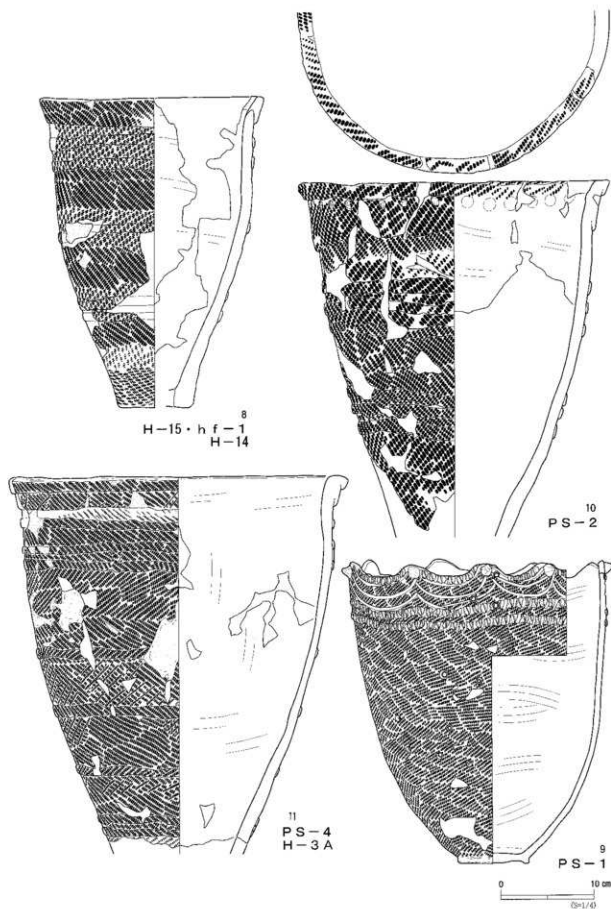


図114 遺構出土の復原土器(2)

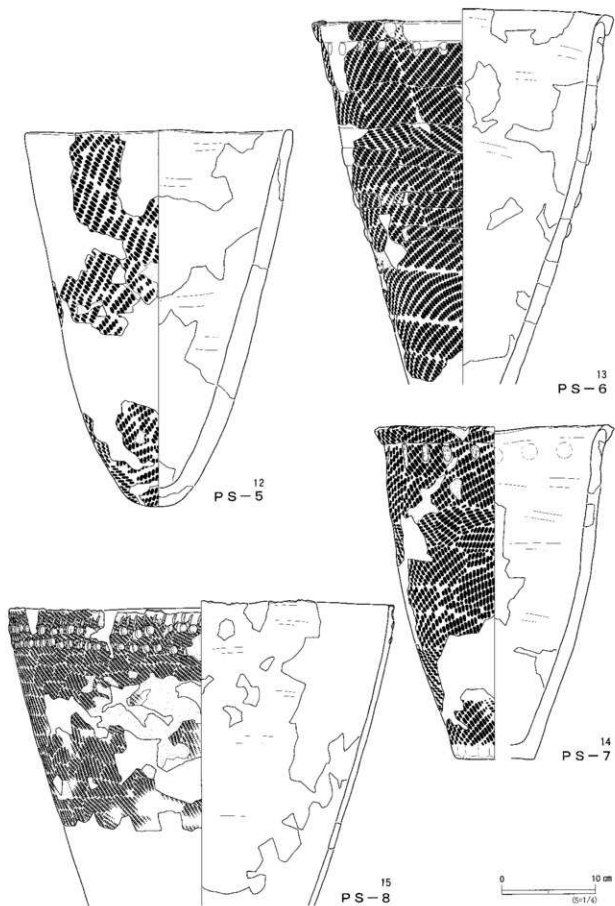


図115 遺構出土の復原土器(3)

文が施文される。IV群 a 類の余市式である。

#### PS-4・H-3A

11は口縁部が若干開き、胴部上位からわずかにふくらみ、底部へと直線的にすぼまる器形である。口唇部直下から胴部下半に十条の貼付帯があり、このうち口縁部や胴部下位では縦の貼付がみられる。貼付帯上や器面には別原体による羽状縄文が施され、一部重複する。IV群 a 類の余市式である。

#### PS-5

12は口縁部から胴部と底部のまとまりが直接接合せず、器高を推定して復原した。口縁部から尖底部へと直線的にすぼまる器形で、L R 縄文が施され、胎土に繊維を多く含む。II群 a 類の静内中野式である。

#### PS-6

13はわずかに開く口縁部から胴部まで直立気味で、底部へと直線的にすぼまる器形である。口縁部では口唇部直下から三条の貼付帯が施され、下位の二条は幅広で、一条目の貼付帯の下位に円形刺突文が巡り、胴部では貼付帯が三条施される。貼付帯上と器面にはL R 縄文が施され、胴部上位では縦位回転施文の部分がある。IV群 a 類の余市式である。

#### PS-7

14は開く口縁部から胴部まで直立気味で、底部へと直線的にすぼまる器形である。口唇部直下の貼付帯の下位には円形刺突文が横環する。地文はL R 原体の横位回転施文であるが、一部は縦位回転である。IV群 a 類の余市式である。

#### PS-8

15は口縁部が直立気味で、そこから胴部下位まで直線的にすぼまる器形である。口唇部には棒状工具による刻みがみられ、地文のR L 縄文施文後、口唇部直下に爪の押捺が一条、その下位につまみ上げの爪形文が二条施される。V群 a 類と考える。

#### PS-9

16は口縁部から胴部中位まで直立気味で、そこから底部へと直線的にすぼまる器形である。口唇部直下から胴部下位まで七条の貼付帯があり、口唇部直下の貼付帯の下位には円形刺突文が横環する。貼付帯上と器面には別の原体による羽状縄文が施される。IV群 a 類の余市式である。

#### PS-10

17は開く口縁部から胴部上位まで直立気味で、胴部が若干ふくらみ、底部へと直線的にすぼまる器形である。口唇部直下には二条の貼付帯があり、その貼付帯間の無文部分に円形刺突文が施される。口縁部と胴部の境にも貼付帯があり、貼付帯上と器面には複節と単節の原体による羽状縄文が施される。胎土には石英を多く含む。IV群 a 類の余市式である。

### A・B地区 包含層出土 (図116~118 表56~74 図版43~46)

#### III群 (18~22)

18は突起部がわずかに外反し、口縁部から胴部中位にかけふくらみ、底部へと直線的にすぼまる。口唇部には貼付があり、半截竹管状工具による刺突文が施される。地文は無節のL 縄文である。19は小型で、突起部から胴部まで直立気味で、胴部下位へとすぼまる器形である。貼付は口唇部直下に横環するものや突起部から垂下するものがあり、貼付上は半截竹管状工具による施文である。地文はL R 縄文で、一部横走する。20は突起部分がわずかに開き、口縁部から胴部下半まで直線的にすぼまる器形である。口唇部直下には貼付の剥落痕があり、突起部の下位に垂下する貼付の一部が観察される。口唇部や口縁部に半截竹管状工具により刺突文、横位の沈線文が施され、地文はL R 縄文で、条



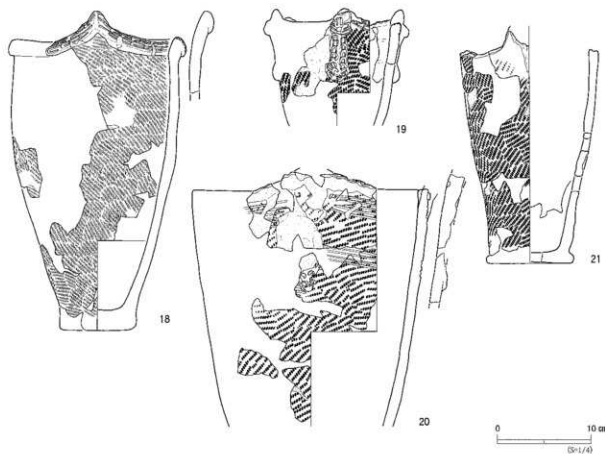
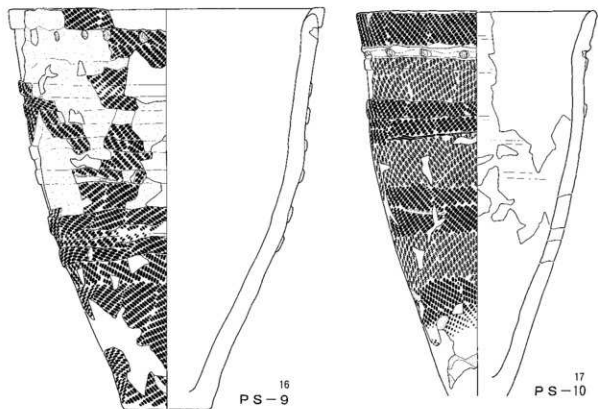


図116 遺構出土の復原土器(4) A・B地区 包含層出土の復原土器(1)

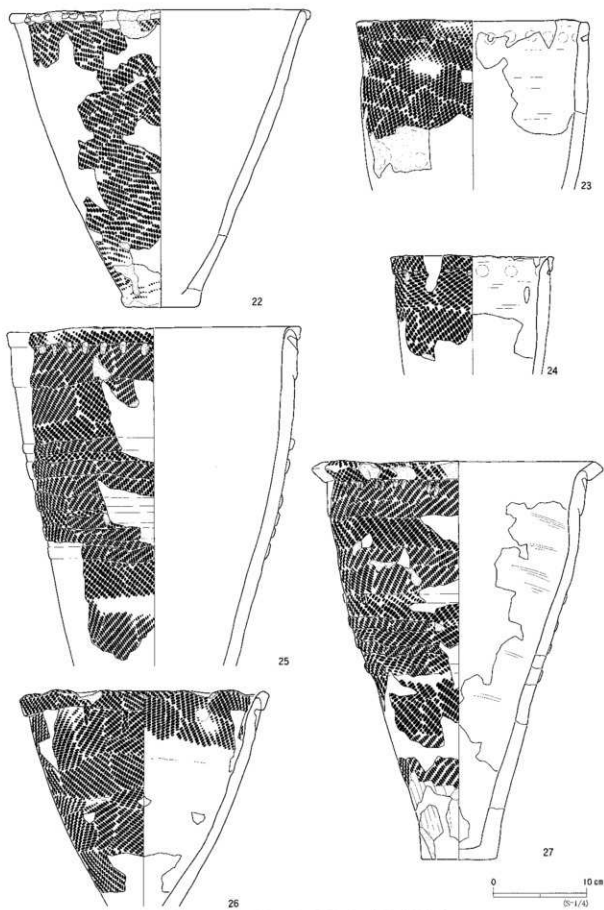


図117 A・B地区 包含層出土の復原土器(2)

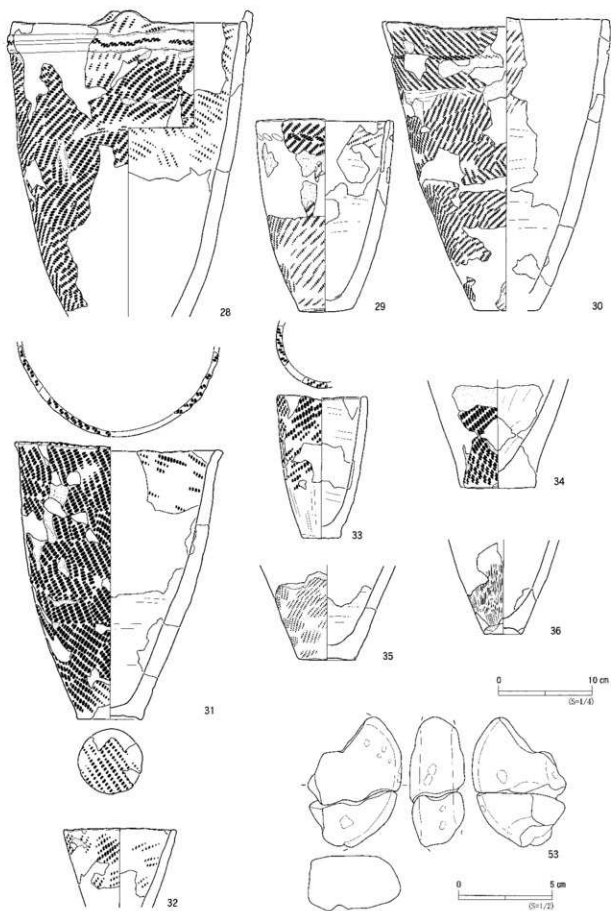


図118 A・B地区 包含層出土の復原土器(3)・石製品

間があく。21は突起部があり、口縁部から底部まで直線的にすぼまり、底部が張り出す器形である。口唇部には半截竹管状工具による沈線文がみられ、地文はL R縄文が施される。22は口縁部から底部まで直線的にすぼまり、底部が若干張り出す器形である。口唇部直下には貼付があり、貼付の刺突文は棒状工具によるものと思われる。地文はR L縄文である。20・21は萩ヶ岡2式、18・19は萩ヶ岡3式、22は柏木川式と考えられる。

#### IV群a類 (23-36)

23-25・27は刺突文、26は撚紐による刺突文が施され、23以外は貼付帯が巡る。23は口縁部がわずかに開き、胴部上位が若干ふくらみ、下位へとすぼまる器形である。口縁部には円形刺突文が巡り、地文はR L縄文が縦走する。24は口縁部から胴部まで直立気味にすぼまる器形である。口唇部直下の貼付帯の下位には円形刺突文が巡り、地文は別原体による羽状縄文が施される。25は口縁部から胴部中位まで直立気味で、そこから胴部下位まで直線的にすぼまる器形である。口唇部直下の貼付帯の下位には棒状工具による円形刺突文が斜め下方から施される。貼付帯は七条みられ、二条目の貼付帯は幅広である。貼付帯上と器面には撚りの異なる原体による羽状縄文が施される。26は口縁部から底部にかけ曲線的にすぼまる器形である。口唇部直下の貼付帯の下位には撚紐による縦長の刺突文が巡る。地文は撚りの異なる原体による羽状縄文で、口縁部の内面にもR L縄文が施される。27は外反する口縁部から胴部上位までは直立気味で、そこから直線的にすぼまり、底部が直立気味である。口唇部直下に二条の貼付帯があり、一条目の直下には二個一組の円形刺突文が斜め下方から施され、二条目の貼付帯が幅広である。胴部には四条の貼付帯がみられ、貼付帯上と器面には撚りの異なる原体による羽状縄文が施される。底部は縦位にナデ調整され無文である。

28-30は縄線文が施される。28は2か所の突起部がわずかに開き、口縁部から胴部まで直立気味で、胴部下半へと曲線的にすぼまる器形である。口縁部の貼付帯上には縄線文が横位に施される。地文はL R縄文で、口縁部の内面にも施される。29は口縁部から胴部まで直立気味で、底部へと直線的にすぼまる器形である。口縁部には縄線文が一条施され、地文はL R縄文で、口縁部の内面や底外面にも施される。30は口縁部から胴部まで直立気味で、そこから底部へと直線的にすぼまる器形である。口縁部には縄線文が一条巡り、地文はL R原体で、口縁部から胴部中位まで回転方向を変えた羽状縄文が施される。口唇部や口縁部の内面にもL R縄文が施される。

31-33は縄文のみがみられる。31は開く口縁部から胴部まで直立気味で、そこから底部まで直線的にすぼまる器形である。地文はR L縄文で、底外面や口唇部、口縁部の内面にも施される。32は小型で、口縁部から胴部まで直線的にすぼまる器形で、L R縄文が内外面に施される。33は小型で、口縁部から胴部まで直立気味で、底部へと曲線的にすぼまる器形である。地文はL R縄文で、底部は無文である。

34-36は底部である。34はL RとR L R原体による羽状縄文、35はL R縄文が施される。36は無文で、縦位の調整痕がみられ、上げ底である。

23-25・27は余市式、26・28-33はタブコブ式である。

#### C地区 包含層出土 (図119 表75・76 図版47)

37は突起部が二か所あり、口縁部から底部まで直線的にすぼまる器形である。突起部には縦位の縄線文が施され、地文は撚りの異なる原体による羽状縄文である。IV群a類のタブコブ式である。38は若干内傾する口縁部から胴部上位がふくらみ、下位へと曲線的にすぼまる器形である。口唇部直下には内側から外側への突縮文が巡り、地文はL R縄文が施される。IV群c類の堂林式である。

(愛場)

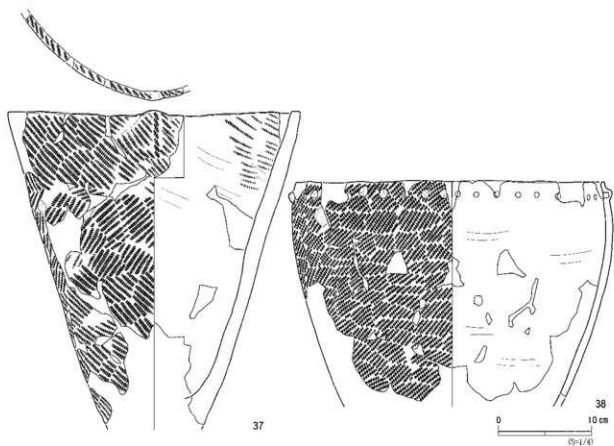


図119 C地区 包含層出土の復原土器

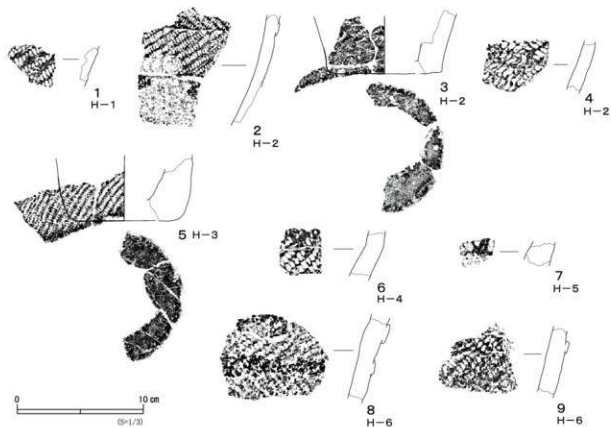


図120 遺構出土の破片土器(1)

**(2) 破片土器**

遺構出土 (図120~123 表77 図版47・48)

**竪穴住居跡 (H) 出土 (1~30)**

1はH-1出土でLR縄文が施される。2・3はH-2出土、4はH-2A出土で、2は別原体による羽状縄文、3・4は縦位回転施文と考えられる。5はH-3出土で、底外面は葉脈痕と推測される。6はH-4出土で、縦絡文あるいは原体端部の回転痕がみられる。7はH-5出土の小破片で、原体を判別できない。8~10はH-6出土で、8・9は貼付帯がみられ、別原体による施文、10の内面は工具の痕跡が観察される。11はH-7出土で、撚りの異なる原体で、地文が重複する部分がある。12・13はH-8出土で、12は無文地に縄線文、13はLR縄文が観察される。14~16はH-10出土である。14はLR縄文、15は口唇部と割れ口に粘土のつなぎ目が観察され、16の羽状縄文は条間が広い。17はH-12出土で、別原体による施文である。18~20はH-13出土で、18は結束第1種原体の可能性があり、19は貼付帯と器面が同じ原体で、20の地文は複節である。21はH-14出土で、地文はLRである。22・23はH-15出土の同一個体で、22はRL縄文、23はLR縄文が施される。24はH-16・h p-1出土で、口唇部は無文である。25はH-16出土で、外面の一部はナデ調整である。26はH-17出土で、底外面は指頭圧痕がみられる。27・28はH-19出土で、27は貼付帯上の施文が判別できず、28の地文は縦位回転施文である。29・30はH-20出土で、29は外面に刺突文、内面に縄文が施され、30の施文原体はRLである。

**土坑 (P) 出土 (31~43)**

31はP-8出土で内面が剥離する。32はP-10出土で、円形刺突文とRL縄文がみられる。33はP-11出土で、貼付帯とLR縄文が施される。34はP-12出土で羽状縄文である。35・36はP-17出土で、35は原体端部の回転圧痕がみられ、36は口唇部が無文である。37はP-20出土で、複節と考えられる。38はP-24出土で、整然とした羽状縄文がみられる。39はP-29出土で、縦位回転施文と判断される。40はP-32出土で、底外面にも条がみられる。41はP-35出土で、外面はRL縄文とナデである。42・43はP-36出土で、42は複節、43は別原体による施文である。

**石組炉 (SF) 出土 (44・45)**

44はSF-8出土で、無節の右上がりの条が観察される。45はSF-9出土で、内外面に縄文が施される。

**焼土 (F) 出土 (46~49)**

46はF-2出土で、二条の貼付帯がみられる。47はF-3出土で、羽状縄文は条間が広い。48・49はF-9出土で、ともに内面が剥離し、48はRL、49はナデである。

**土器集中 (PS) 出土 (50~52)**

50はPS-2出土で、別原体の羽状縄文である。51・52はPS-3出土で、51はLR縄文で、52は撚りの異なる原体である。

**礫集中 (S) 出土 (53)**

53はS-1出土で、外面は円形刺突文とRL縄文、口唇部はLR縄文が施される。

**A・B地区 包含層出土 (図124~131 表78 図版49~52)****I群 (1~13)**

1はLR原体による縄端圧痕文と縦位回転施文である。2は底部に張り出しがあり、撚紐による圧痕文が複数みられる。3~7は薄手で微隆起線文がみられ、3は斜行縄文、4~6は短縄文が施される。

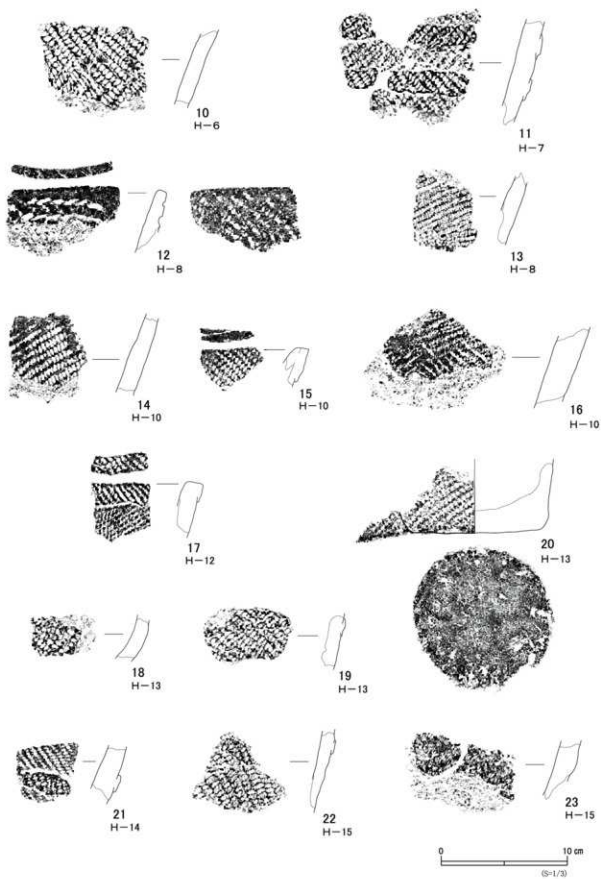


図121 遺構出土の破片土器(2)

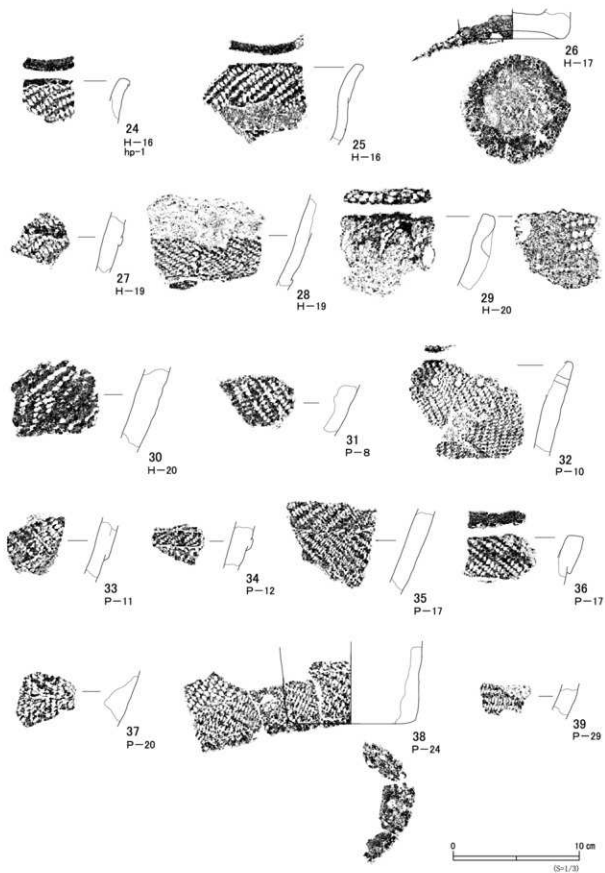


図122 遺構出土の破片土器(3)



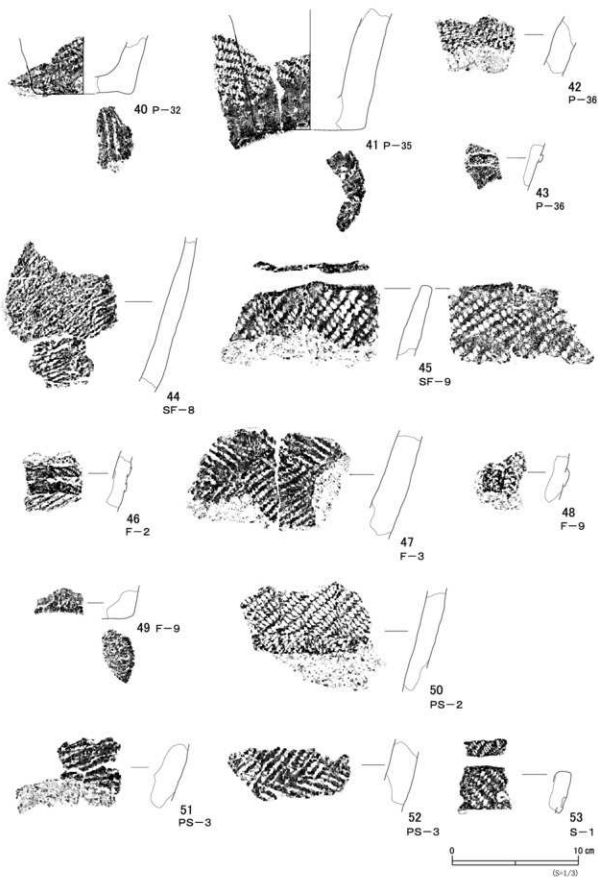


図123 遺構出土の破片土器(4)

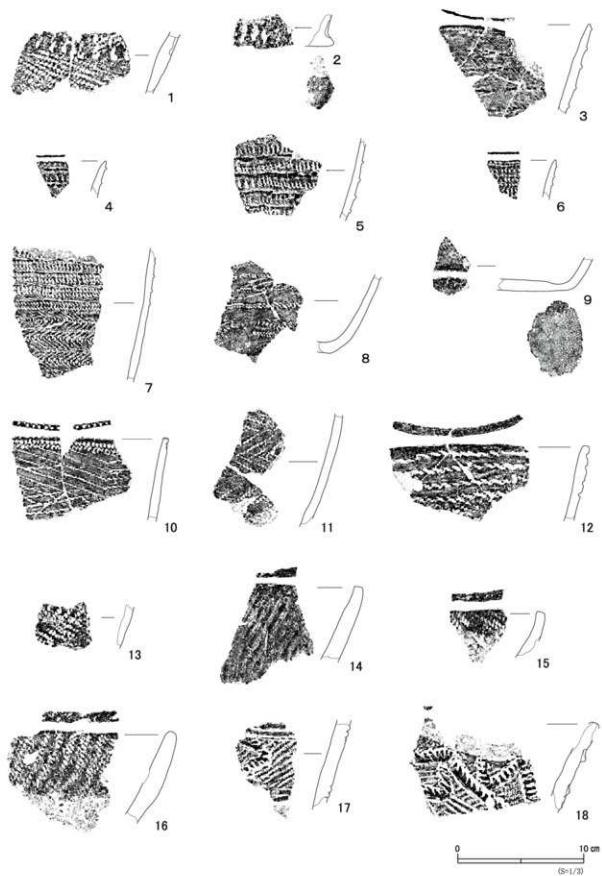


図124 A・B地区 包含層出土の破片土器(1)

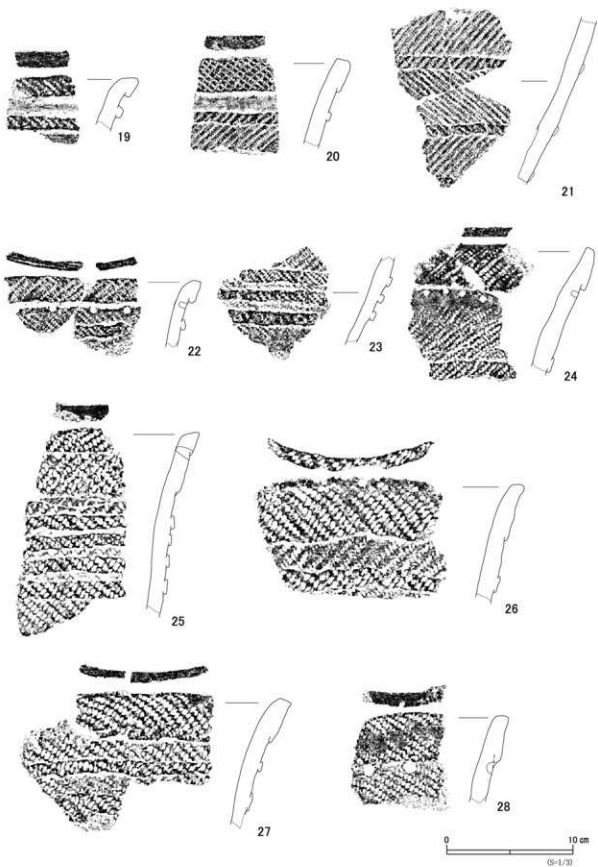


図125 A・B地区 包含層出土の破片土器(2)

7は短縄文と結束第1種羽状縄文である。8は丸底で、絡糸体圧痕文が施される。9は平底で、外面は燃紐による施文と考えられる。10は口唇部とその直下の器面に絡糸体圧痕文がみられる。11は燃りの異なる紐を用いた羽状燃糸文が観察される。12はL R原体による縄線文と縄文が施される。13はL R原体で回転方向を変えて羽状縄文を施している。

#### II群 (14~16)

14の地文は縦走気味で、条に節がみられない。15はR L縄文、16はL R縄文で、胎土に繊維を多量に含む。

#### III群 (17・18)

17・18はL R縄文地に貼付があり、半截竹管状工具により施文される。

#### IV群 a類 (19~78・80)

19の器面は無文で、貼付帯はR L縄文である。20は口唇部直下の貼付帯が、燃りの異なる原体で施文される。21は貼付帯と羽状縄文がみられる。22の口唇部は無文で、円形刺突文が施される。23は貼付帯が三条みられる。24は口唇部直下の貼付帯が幅広く、器面に円形刺突文が施される。25は貼付帯が複数みられ、胎土に石英を含む。26の器面はL R、口唇部と貼付帯はR Lによる施文である。27は器面と貼付帯はR L縄文である。28は円形刺突文がみられ、貼付帯の中央はナデである。29の円形刺突文が施される部分はナデ調整がみられる。30の刺突文は燃紐により施される。31は口唇部直下の貼付帯と器面の境に、円形刺突文が施される。32の内面は刺突文の部分が張り出す。33は器面が無節で、円形刺突文が施される。34はL Rによる刺突文がみられる。35は、縄文が施される口唇部が外面に張り出す。36の縄文はやや条間があく。37は円形刺突文と別原体による羽状縄文がみられる。38の外面は粘土のつなぎ目がみられ、段状である。39の無文部分は凹線状で刺突文が施され、内面に縄文がみられる。40は薄手で、縦走気味のR L縄文が観察される。41は器面が無文で、斜めの貼付がみられる。42は縦位の貼付に、R L縄線文が施される。43は口唇部に刺突文がみられ、内面が剥離する。44はR L原体により地文と刺突文が複数施される。45は口唇部直下の貼付帯に縄線文がみられる。46は、貼付帯の下部に斜めに縄線文が施される。47は円形刺突文がみられ、外面が広く剥離する。48は内面が剥離し、円形刺突文が施される。49は内面にもL R縄文がみられる。50は器面に原体端部の回転痕が観察される。51の刺突文はL R原体による。52は右側部分が剥離し、羽状縄文が施される。53の貼付帯は条が縦走する。54は内外面がR L縄文で、横位の縄線文がみられる。55はL R原体による縄線文が縦と横位に施される。56は胎土に岩片を多く含み、L R縄文による施文である。57の施文はR L原体である。58は縄線文が二条と羽状縄文が施される。59は燃紐による刺突文と縄線文が観察される。60は口唇部断面が角形で、61の地文は横走する。62は上部部分が剥離し、燃紐による縦長の刺突文がみられる。63は地文がL Rで、右側部分の条は横走する。64は地文が横走し、刺突文が複数みられる。65・66は口唇部と器面が同じ原体で、65は燃紐による刺突文、66は円形刺突文である。67の刺突文は斜めに施される。68は口唇部直下の内面に条が観察される。69はR L縄文で、外面に途中まで穿った補修孔がみられる。70の地文は条間が広い。71は外面に羽状縄文、内面はL R縄文である。72は図123-44と同一個体で、73の口縁部が無文である。74は開口して胴部へとつながる器形で、底外面に縄文が施される。75の胴部はL R縄文、76・77はR L縄文で、底外面は無文である。78・80はL R縄文が施される。

#### IV群 b類 (79・81~86・88)

79の底部は無文である。81・83はL R縄文と平行沈線文、これらを縦につなぐ曲線的な沈線文、刻みが施される。82・84・86は口唇部直下の器面に縄文と無文部分がみられる。85は無文で、88は

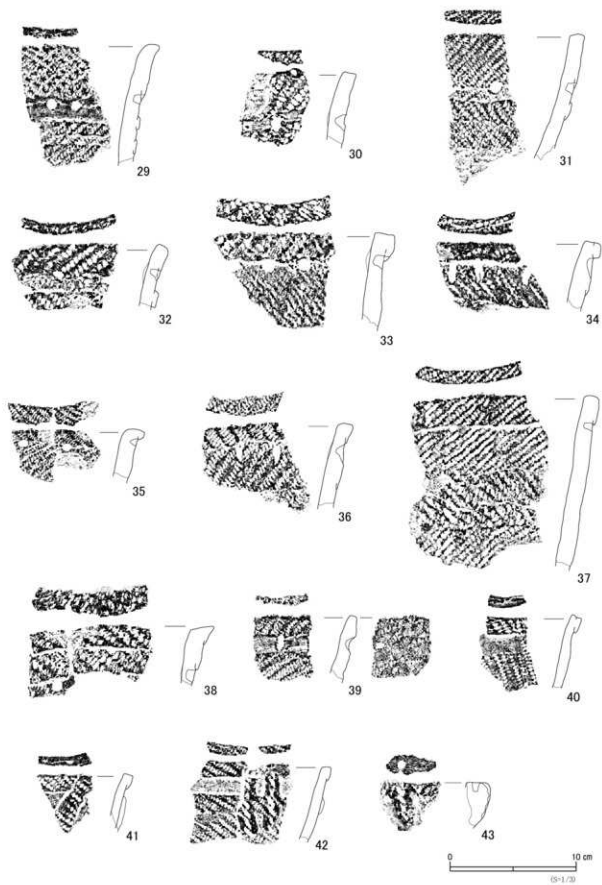


図126 A・B地区 包含層出土の破片土器(3)

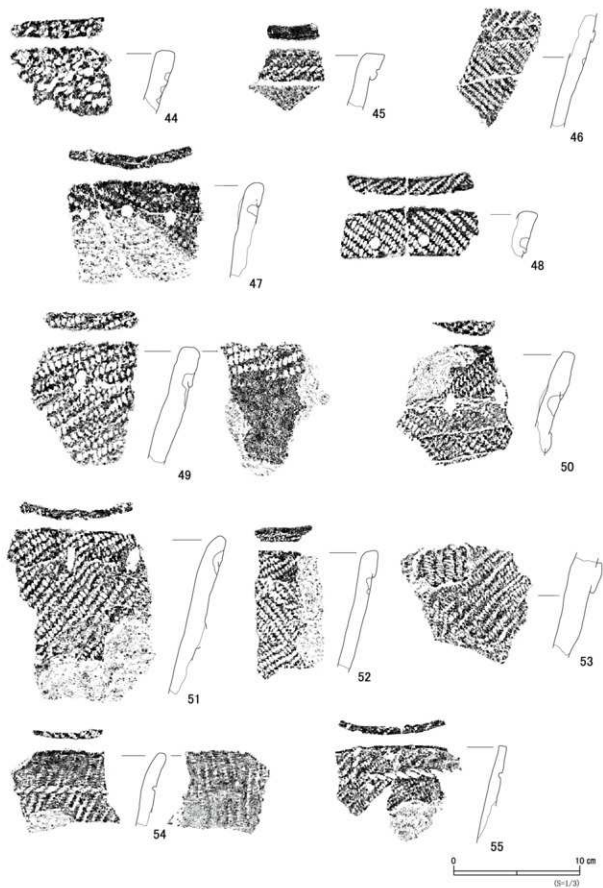


図127 A・B地区 包含層出土の破片土器(4)

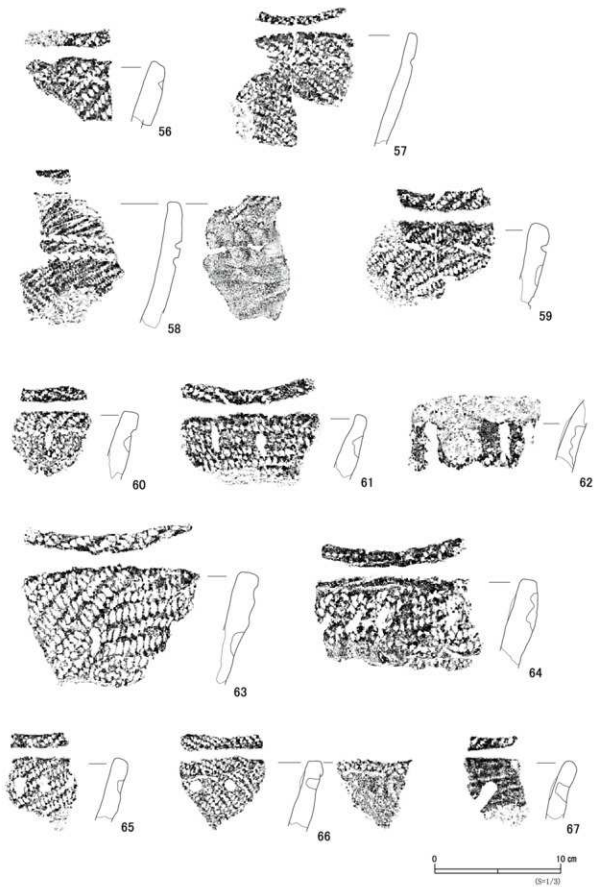


図128 A・B地区 包含層出土の破片土器(5)

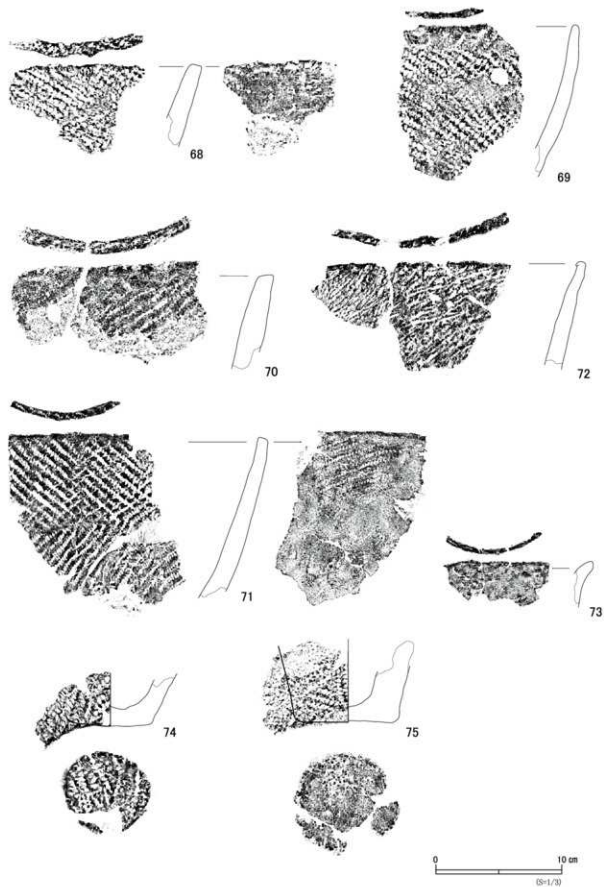


図129 A・B地区 包含層出土の破片土器(6)



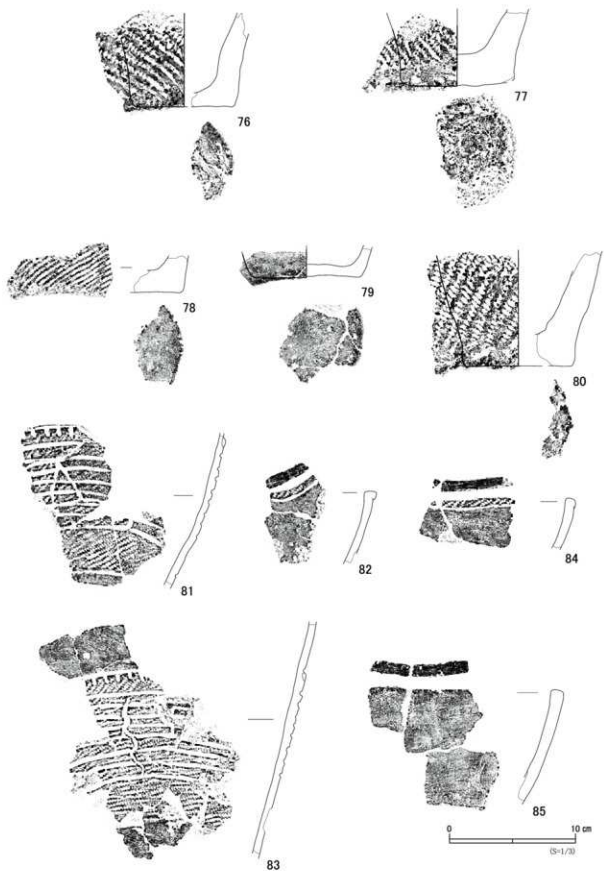


図130 A・B地区 包含層出土の破片土器(7)



図131 A・B地区 包含層出土の破片土器(8)

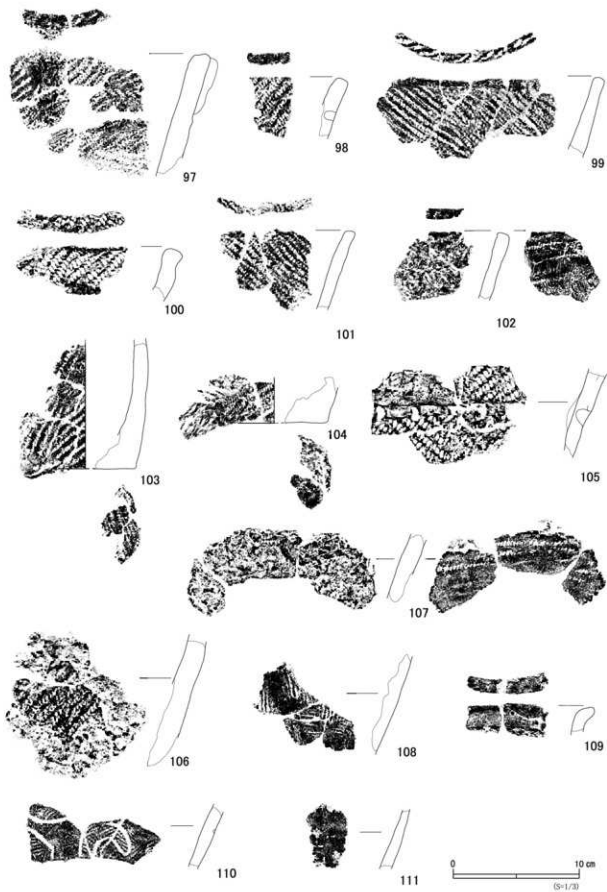


図132 C地区 包含層出土の破片土器

R L 縄文が施され、上げ底である。

#### V群 (87・89～91)

87は口唇部直下の器面は無文で、山形の沈線文が施される。89は曲線的に底部へすばまり、L R 縄文がみられる。90は口唇部に撚紐刻みと縄線文が施され、器面も同原体による施文である。91は丸底で、R L 原体による施文がみられ、底外面にも縄文が施される。

#### VI群 (92～94)

92・93は同一個体で、無文地に微隆起線文、沈線文、刺突文がみられる。94は縞縄文と三角列点文が観察される。

#### VII群 (95・96)

95・96は口縁部で、矢羽根状の刻みが施される。

### C地区 包含層出土 (図132～97～111 表79 図版53)

遺構確認調査区のC地区出土の土器である。

97はL R 縄文と縦方向に貼付が施される。98は円形刺突文がみられる。99はR L 縄文が施される。100はL R、101はR L 原体による施文である。102は内面、103は底外面に縄文が観察される。104の胴部はL R 縄文である。105は撚紐による刺突文が施される。106の外面は周縁が剥離する。107の外面に撚糸文、内面は縄文である。110は曲線的な沈線文の内部に縄文が充填される。97～107・110はIV群 a 類である。

108は撚りの異なる撚糸文で、I 群 b 類である。109・111は無文で、IV群 b 類である。

(末光)

### 3. 石器等 (図133～156 表80～82 図版54～67)

#### (1) 遺構出土の石器等 (図133～147 表80 図版54～62)

##### 剥片石器 (1～54)

##### 竪穴住居跡 (H) 出土 (1～40)

1・2はH-1出土である。1は石槍・ナイフで、腹面の先端付近の稜が磨滅し、2は両面加工のスクレイパーで、上半部を破損する。3はH-2出土のつまみ付きナイフで、周縁に加工が施され、右側縁には急角度の刃部がある。4はH-3出土の石槍・ナイフで、やや厚みがあり、先端部と基部が破損する。5・6はH-3 A 出土である。5は石鏃で側縁の上半部は内湾し、6はつまみ付きナイフで、刃部が外湾する。7～11はH-4 出土である。7は石鏃で、左右非対称である。8～10は石槍・ナイフで、8・10は両側縁が鋸歯状で、9は腹面に広い剥離面があり、先端部が曲線的である。11は縦長のスクレイパーで、両側縁と下端部に刃部がある。12～15はH-6 出土である。12は石鏃、13はつまみ付きナイフで、ともに背面が主に加工される。14・15はスクレイパーである。14は両側縁に刃部があり、背面の下側部分には原礫面がみられ、15は左側縁から下端部にかけ外湾する刃部がある。16はH-7 出土のチャートの石核で、表裏両面に周縁からの剥離痕がみられる。17・18はH-8 出土である。17は三角形の石鏃で、基部が内湾し、18はスクレイパーで、両側縁に内湾する刃部がある。

19～22はH-10 出土である。19は石槍・ナイフで、刃部は曲線的で左右非対称である。20～22はスクレイパーである。20・22は両側縁、21は左側縁の刃部が内湾し、22は下端部が二又状に加工される。23はH-11 出土の石鏃で、左右非対称である。24・25はH-13 出土である。24は石鏃で、両

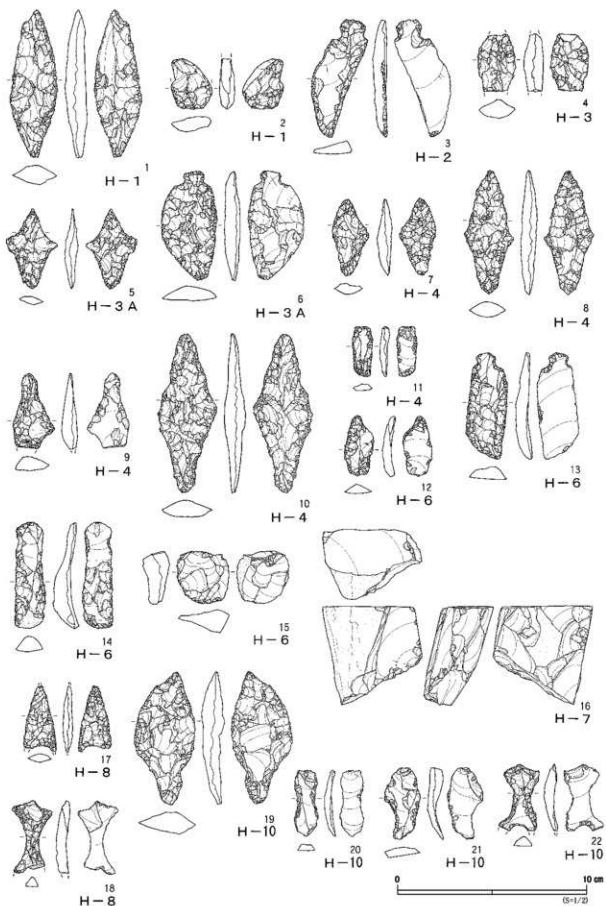


図133 遺構出土の剥片石器(1)

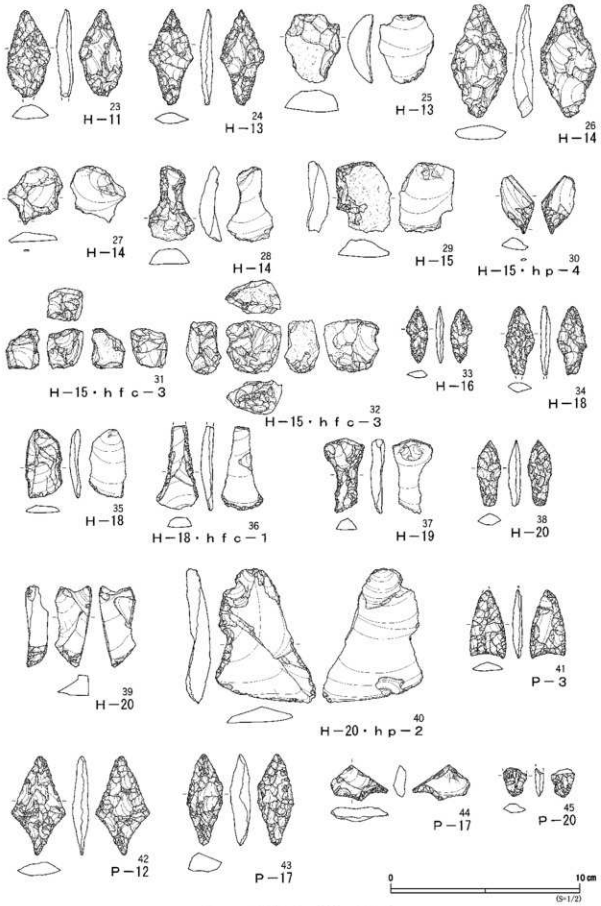


図134 遺構出土の剥片石器(2)

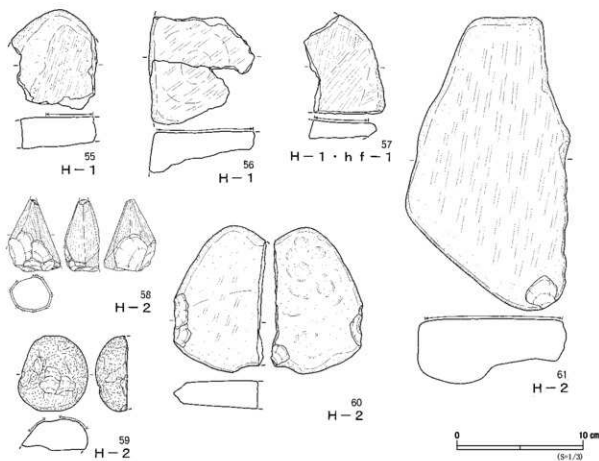
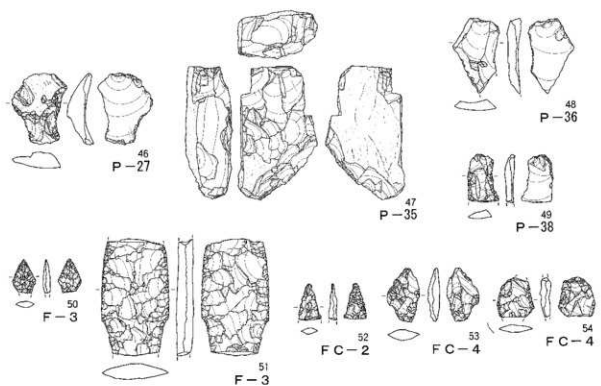


図135 遺構出土の剥片石器(3)・礫石器(1)

側縁が鋸歯状である。25はスクレイパーで、背面上部と右側縁に刃部がある。26-28はH-14出土である。26は石槍・ナイフで、右側縁の下部には原礫面がみられる。27は石錐で、円形の剥片の一端が尖る形状である。28はつまみ付きナイフで、両側縁に刃部があり、背面の下部には原礫面が残る。29-32はH-15出土である。29はスクレイパーで、背面には原礫面が広くみられる。30は石錐で、下端の機能部のみ両面加工される。31・32はh f c-3出土の黒曜石の石核で、いずれも原礫面が残る。31は直方体に近い形状で、各面に剥離痕があり、32は打面が複数みられる。33はH-16出土の石錐で、左右非対称である。34-36はH-18出土である。34は石錐で、基部が破損する。35・36はスクレイパーで、35は細かな剥離が全周にみられ、36は両側縁と下部に刃部がある。37はH-19出土のスクレイパーで、両側縁の刃部が内湾する。38-40はH-20出土である。38は石錐で、茎部が幅広である。39・40はスクレイパーで、39は下部に急角度の刃部、40は左側縁に刃部がある。

#### 土坑 (P) 出土 (41-49)

41はP-3出土のチャート製の石錐で、基部が内湾する。42はP-12出土の菱形の石錐である。43・44はP-17出土である。43は厚みのある石錐、44はスクレイパーで、下部に内湾する刃部があり、背面の稜が磨滅する。45はP-20出土の石錐で、上半部が破損する。46はP-27出土のスクレイパーで、右側縁に内湾する刃部がある。47はP-35出土のチャートの石核で、複数の打面から主に表面が剥離される。48はP-36出土のスクレイパーで、左側縁に微細な剥離痕がみられる。49はP-38出土のスクレイパーで、両側縁に刃部があり、下半部が破損する。

#### 焼土 (F) 出土 (50・51)

50・51はF-3出土である。50は菱形の石錐で、下部が破損する。51は頁岩製の石槍・ナイフで、先端部と基部が破損し、被熱により黒色化する。

#### フレイク集中 (FC) 出土 (52-54)

52はFC-2出土の石錐で、下半部が破損する。53・54はFC-4出土である。53は石錐で、左右非対称で、腹面は粗い調整であり、未成品の可能性がある。54はスクレイパーで、両面加工され、両側縁に細かな剥離痕がみられる。

#### 礫石器 (55-133)

##### 竪穴住居跡 (H) 出土 (55-101)

55-57はH-1出土で、被熱により全体が赤色化する。55は砥石、56は台石・石皿で、ともに表面に使用痕があり、57はh f-1出土の砥石で、表面に砥面がみられる。58-62はH-2出土である。58はすり石で、多数のすり面があり、下半部は破損するが、紡錘形の石製品の可能性もある。59はたたき石で、裏面側は破損する。細かなたたき痕が全体にみられ、表面の下部にはすり面がある。60は石錐で、右側の半分が破損し、左側縁には表裏面からの打ち欠きが見られる。61は砥石で、表面に平坦な砥面があり、62は台石・石皿で表面にすり面とたたき痕がある。63はH-3出土の砥石で、表面に中央がややくぼむ平滑な砥面がある。64はH-3 A出土の台石・石皿で、表面にたたき痕とすり痕がみられる。65・66はH-4出土である。65は磨製石斧で、折れ面を再加工して刃部が作出され、66は台石・石皿で、表面に平坦なすり面がある。67はH-5出土の北海道式石冠で、下部にはすり面があり、表裏両面や両側面は敲打痕が広くみられる。裏面の下部には剥落痕がある。68-73はH-6出土である。68・69は磨製石斧である。68は表裏両面に研磨後の細かな敲打痕があり、上半部は破損し、69は両側縁や下部に剥離痕、両側縁には敲打痕がみられ、表面の下半部には研磨面がある。70は砥石で表裏両面に平坦な砥面があり、71はすり石で、下部の割れ面以外は全面に



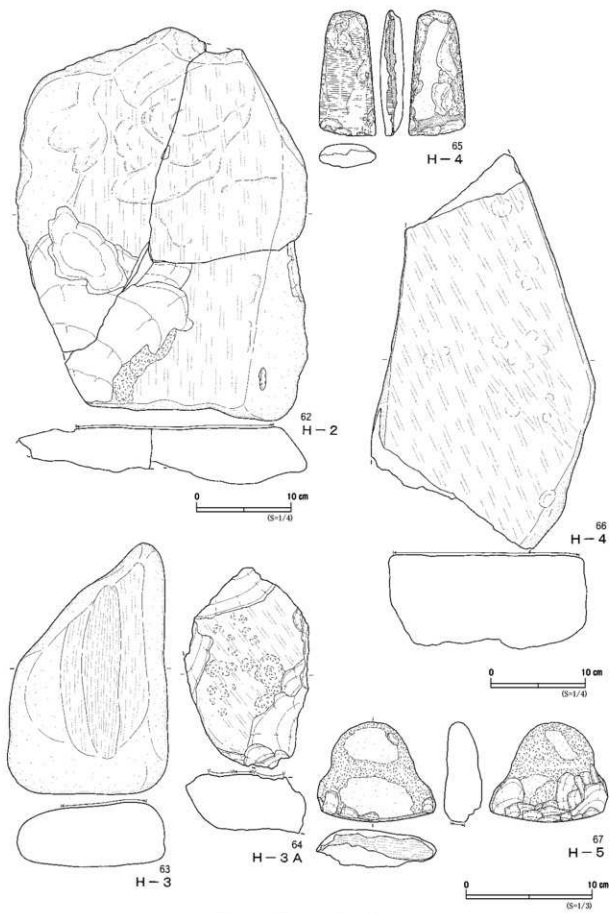


図136 遺構出土の礫石器(2)

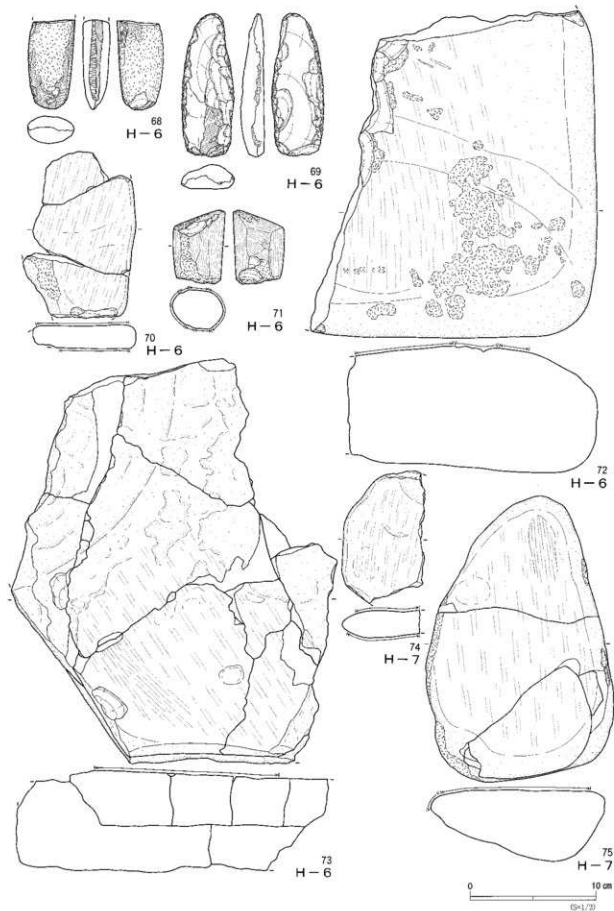


図137 遺構出土の礫石器(3)

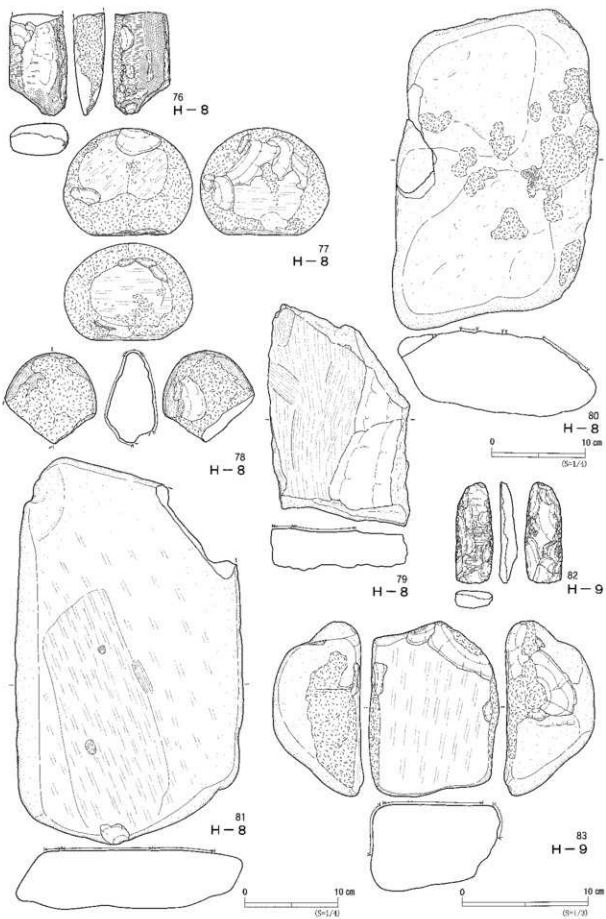


図138 遺構出土の礫石器(4)

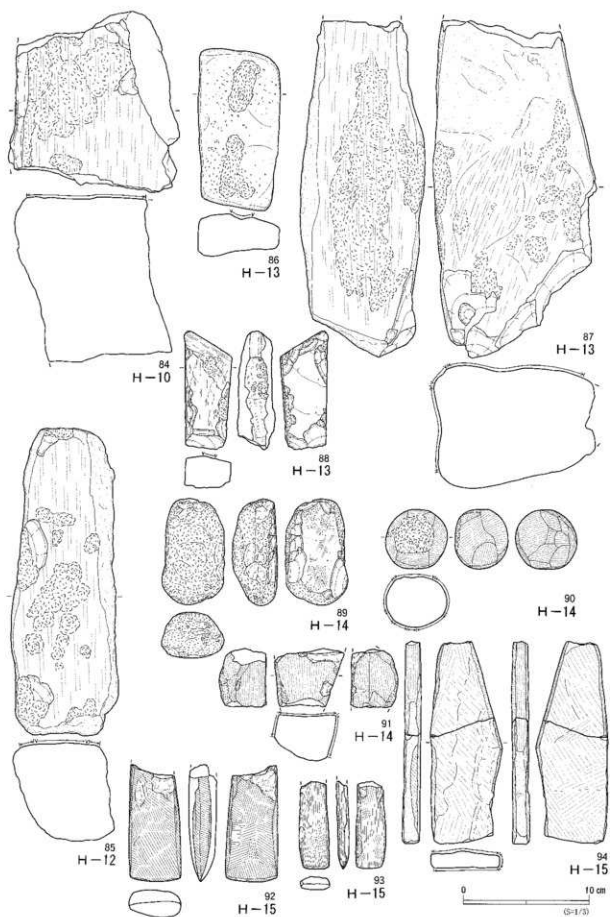


図139 遺構出土の燧石器(5)

すり面がある。72・73は台石・石皿である。72は表面に凹状のたたき痕とすり痕がみられ、73は表面に平坦なすり面があり、被熱により全体が赤色化する。74・75はH-7出土である。74はすり石で、表裏両面にすり痕がみられ、被熱により全体が赤色化する。75は台石・石皿で表面にすり痕がある。76~81はH-8出土である。76は磨製石斧で、刃部の大部分と上半部が破損し、右側面には敲打痕がみられる。77はたたき石で、表裏両面と下端面にすり面があり、それ以外の側面には細かなたたき痕がみられる。78はすり石で、下半部は破損する。周縁部にすり面があり、表裏両面には細かなたたき痕がある。79は砥石で、表面にやや曲線的にくぼむ砥面がある。80・81は台石・石皿である。80は表面から右側面にかけてたたき痕があり、中央付近には凹状のたたき痕がみられる。81は表面に平坦なすり面がある。82・83はH-9出土である。82は磨製石斧で、剥離調整後、表裏両面の中央付近が研磨される。83はたたき石で、表面にすり痕、上端部や両側面にたたき痕がある。被熱により黒色化する。

84はH-10出土の台石・石皿で、表面にすり痕とたたき痕がみられる。85はH-12出土の台石・石皿で、角柱状の砂岩の表面にたたき痕とすり痕がある。86~88はH-13出土である。86はたたき石で、表面に凹状のたたき痕が2か所あり、全体が被熱により赤色化、黒色化する。87は砥石で、表面と左側面に砥面とたたき痕がある。88は磨製石斧で、表面には研磨痕、両側面には剥離痕や敲打痕がみられる。刃部はなく、未成品である。89~91はH-14出土である。89・90はたたき石である。89は裏面にすり面、それ以外は微細なたたき痕がある。90は表面にたたき痕、それ以外は多数のすり面がみられる。91は砥石で、表面と両側面に砥面があり、裏面は破損するが四面砥石と考える。92~95はH-15出土である。92・93は磨製石斧で、ともに全面研磨され、上端部が破損する。94は板状の砥石で、表裏両面と両側面に砥面がある。95は台石・石皿で、表面に広いすり面がみられる。96はH-17出土の台石・石皿で、表面にすり面、表面から左側面にかけてたたき痕がある。97はH-18出土の砥石で、表面と両側面に砥面があり、裏面は破損するが四面砥石である。98はH-19出土のたたき石で、表裏両面に凹状のたたき痕が1か所ずつみられる。

99~101はH-20出土である。99・100はたたき石である。99は表裏両面に2か所ずつ、両側面に1か所ずつの凹状の深いたたき痕があり、左側面にはすり痕がみられる。100は表裏両面と右側面に1か所ずつたたき痕、表裏両面にはすり痕があり、101は台石・石皿で、表面に細かなたたき痕がみられる。

#### 土坑 (P) 出土 (102~126)

102はP-1出土の台石・石皿で、表面全体にすり面がある。103はP-2出土の台石・石皿で、表面にたたき痕とすり痕がみられる。104はP-3出土の台石・石皿で、表面に平坦なすり面がある。105はP-4出土の台石・石皿で、表面の中央に細かなたたき痕がみられる。106はP-10出土の砥石で、表面に広く砥面があり、中央付近ではやや曲線的な面がある。側縁部には細かなたたき痕もみられ、被熱により一部が黒色化する。107はP-11出土のすり石で、裏面と下端部が破損し、それ以外は全面にすり面がある。108はP-15出土の台石・石皿で、表面に細かなたたき痕とすり痕がある。109・110はP-17出土である。109は北海道式石冠で、表裏両面の側縁部に敲打痕があり、下半部は大部分が破損するが、右端の下端面にすり面が残る。110は台石・石皿で、表面にすり痕とたたき痕がある。111はP-20出土の台石・石皿で、表面に細かなたたき痕とすり痕がみられる。112はP-23出土のすり石で、表面に細かなたたき痕とすり痕があり、裏面は被熱により赤色化する。113・114はP-26出土である。113は磨製石斧で、右側面に擦り切り痕がみられ、上半部は破損する。114は台石・石皿で、表面にすり痕とたたき痕があり、被熱により黒色化する。115はP-28出土の台石・

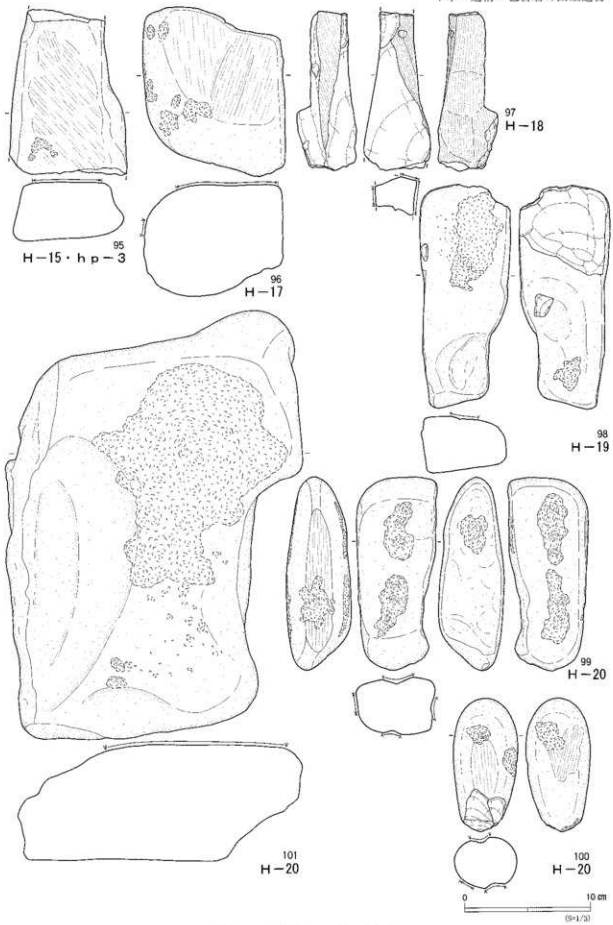


図140 遺構出土の礫石器(6)

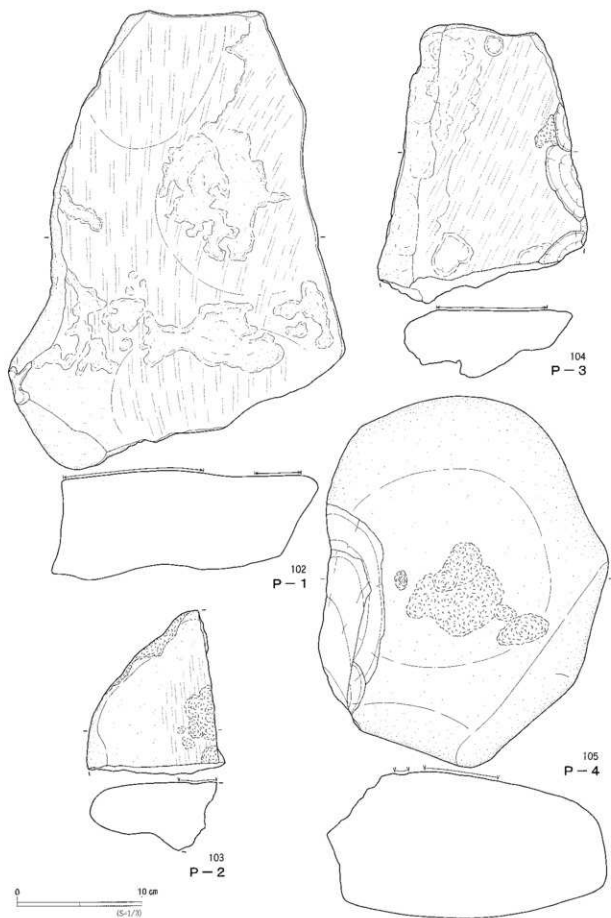


図141 遺構出土の礫石器(7)

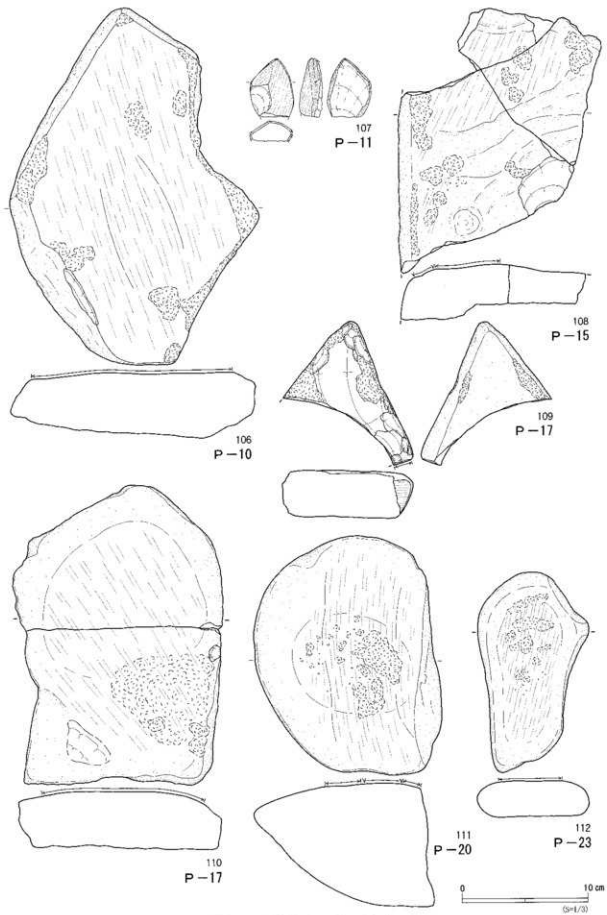


図142 遺構出土の礫石器(8)



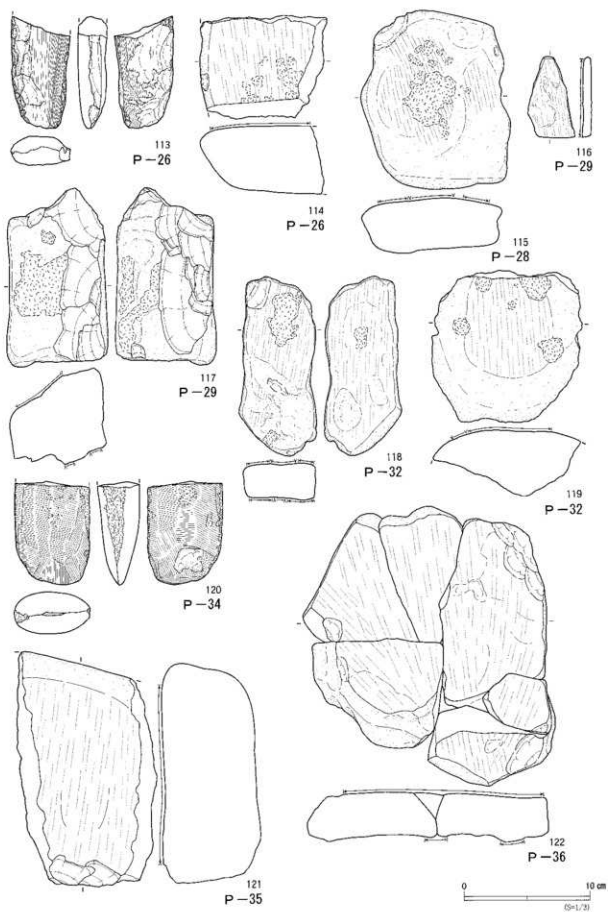


図143 遺構出土の礫石器(9)

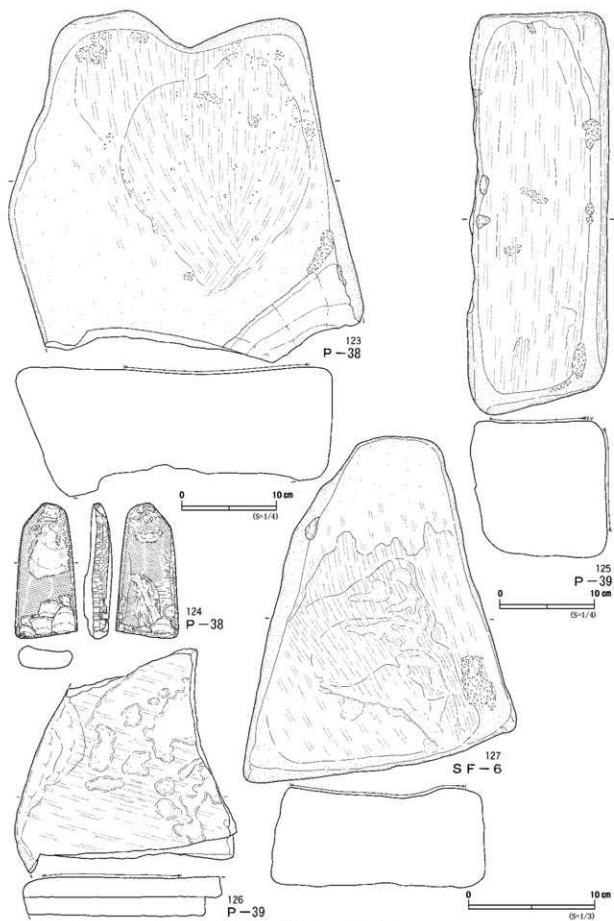


図144 遺構出土の礫石器(10)

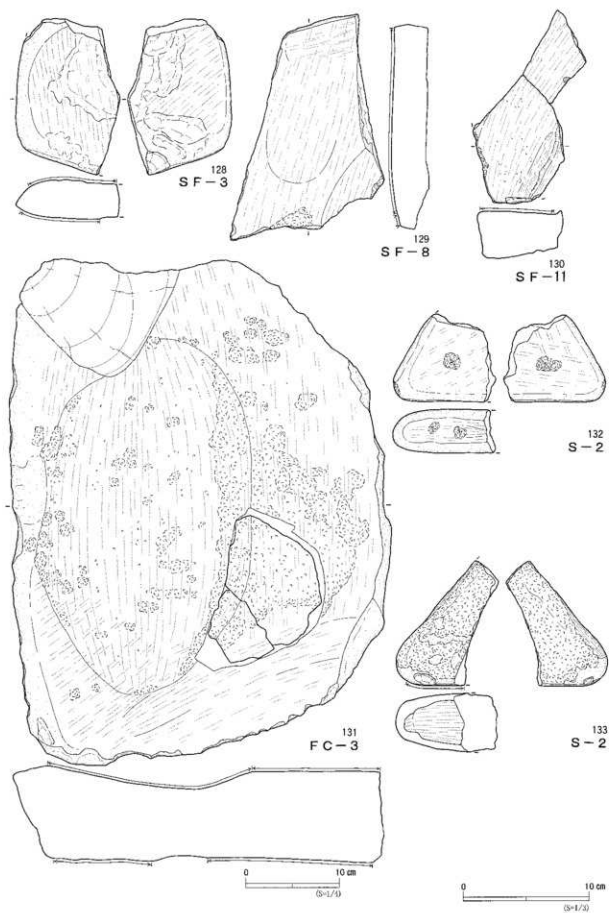


図145 遺構出土の礫石器(11)

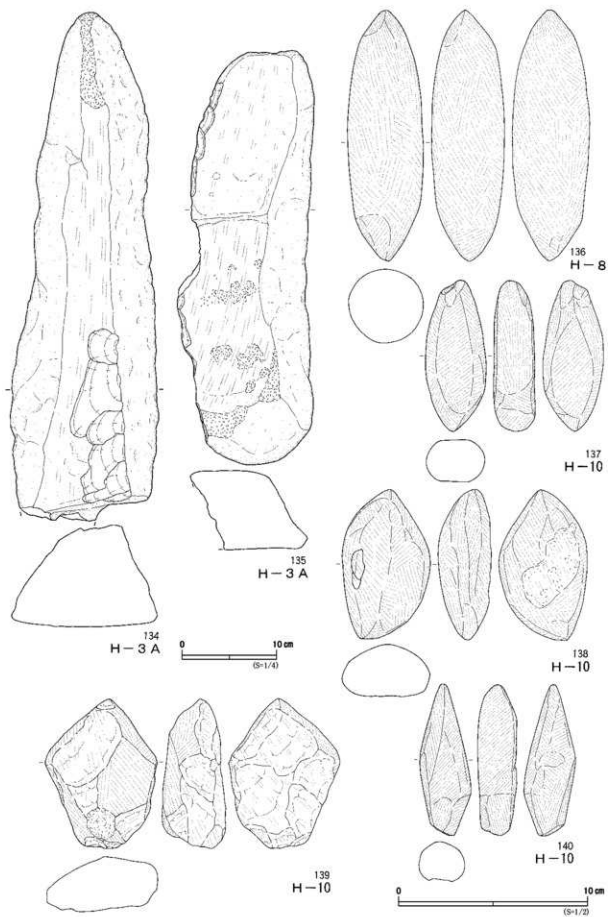


図146 遺構出土の石製品(1)

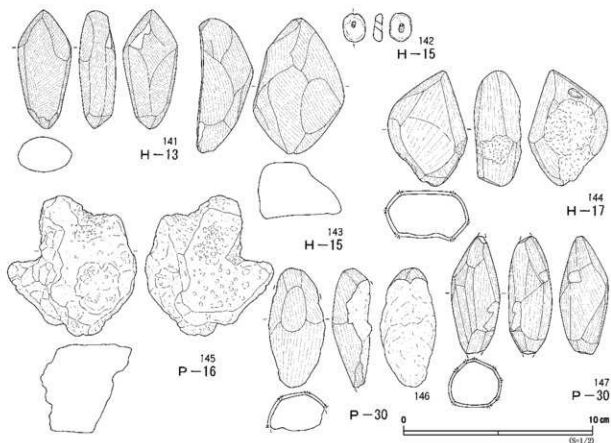


図147 遺構出土の石製品(2)

石皿で、表面にすり痕があり、中央にはたたき痕が密集し、被熱により全体が赤色化する。116・117はP-29出土である。116は板状の砥石で、表面に平坦な砥面があり、117はたたき石で、表裏両面にたたき痕や剥落痕がある。118・119はP-32出土である。118はすり石で、表裏両面に平滑なすり面と浅いたたき痕があり、119は台石・石皿で、表面にたたき痕とすり痕がみられる。120はP-34出土の磨製石斧で、上半部が破損し、表裏両面に研磨痕、両側面に敲打痕がみられる。121はP-35出土の台石・石皿で、表面に平坦なすり面がある。122はP-36出土の板状の砥石で、表裏両面に砥面がある。123・124はP-38出土である。123は台石・石皿で、表面に平滑でやや曲線的なすり面と細かなたたき痕がある。124は磨製石斧で、下端の割れ面付近では剥離痕や敲打痕がみられる。125・126はP-39出土の台石・石皿である。125は表面と右側面にすり面と細かなたたき痕があり、126は表面に平坦なすり面がみられる。

#### 石組炉 (SF) 出土 (127~130)

すべて被熱により赤色化する。127はSF-6出土の台石・石皿で、表面にはやや凹凸がある使用面がある。128はSF-3出土のすり石で、表裏両面にすり面がある。129はSF-8出土の砥石で、表面に砥面とたたき痕がみられる。130はSF-11出土の砥石で、表面に平滑な砥面がある。

#### フレイク集中 (FC) 出土 (131)

131はFC-3出土の台石・石皿である。大型で表面には曲線的にくぼむすり面がある。

#### 礫集中 (S) 出土 (132~133)

132・133はS-2出土である。132はたたき石で、表裏両面と下部部に凹状のたたき痕とすり痕が

あり、被熱により赤色化する。133は北海道式石冠で、下端部に平坦なすり面があり、表裏両面には敲打痕が全面にみられる。

#### 石製品 (134~147)

##### 竪穴住居跡 (H) 出土 (134~144)

134・135はH-3 A出土で、いずれも石組炉に用いられた細長い形状の礫で、被熱により赤色化する部分がある。134は三角柱状の礫岩製で、上端部は尖る形状で、下端部は破損する。表面には剥離痕や敲打痕、研磨痕がみられる。135は四角柱状の礫岩製で、左側面の一部が破損する。表面は研磨痕が広くみられ、側縁部には敲打痕がみられる。136 (H-8 出土)、137~140 (H-10 出土)、141 (H-13 出土)、143 (H-15 出土)、144 (H-17 出土) は、砂岩製で、紡錘形や菱形に研磨される。136は全面が研磨され、上下両端は細く尖る形状であり、138は裏面に敲打痕がある。139は剥離痕や敲打痕がみられ、140は下端部が破損する。143・144は被熱により全体が赤色化する。143は裏面に破損し、144は右側面や裏面に敲打痕がみられる。142はH-15出土の玉である。やや赤みを帯びる凝灰岩製で、中央が穿孔され、明瞭な研磨痕はみられない。

##### 土坑 (P) 出土 (145~147)

145はP-16出土で、結晶部分を有する石英の原石としたが、方解石の可能性がある。146・147はP-30出土で、砂岩製で紡錘形に研磨され、146は裏面、147は上下の端部が破損する。

## (2) 包含層出土の石器等

### A・B地区 包含層出土 (図148~151 表81 図版63・64)

#### 剥片石器 (1~22)

1~8は石鏃である。1は柳葉形で基部は直線的、2・3は三角形で基部は内湾する。4~6は菱形で、4は小型、5は左右非対称、6は側縁が鋸歯状である。7・8は有茎で、7は両側縁がやや外湾、8はやや内湾する。9~11は石槍・ナイフである。9は両側縁が鋸歯状、10は刃部が曲線的で、背面は先端部からの細長い剥離が中央付近までみられる。11は刃部が曲線的で、基部の両側縁には挟れる部分がある。12・13は石錐である。12は両面加工で、背面では急角度の剥離がみられ、13は剥片の一端に機能部があり、先端部は曲線的である。14~16はつまみ付きナイフである。14は縦長で、背面の右側縁に急角度の刃部がある。15は主に背面が加工され、16は外湾する刃部がある。17~20はスクレイパーである。17は縦長で両側縁と下端部に刃部があり、18は両側縁に内湾する刃部がある。21・22は石核である。21は円礫が素材で、上面の打面から複数の剥離がみられる。22はチャート製で、表裏両面の周縁から連続した剥離痕がある。

#### 礫石器 (23~39・43)

23~26は磨製石斧である。23は細身で、幅の狭い刃部があり、24は全面研磨され、直線的な刃部がある。25は左側縁に擦り切り痕がみられ、26は全面研磨され、やや厚みがある。27~31はたたき石である。27~29は表裏両面に複数の凹状のたたき痕とすり痕がみられる。27は表裏両面に凹状のたたき痕が2か所ずつあり、右側面にも細かなたたき痕がみられる。28は表面に2か所、裏面に3か所の凹状のたたき痕、右側面にも細かなたたき痕がある。29は表裏両面に2か所ずつの凹状のたたき痕があり、右側面にすり痕がある。30・31は片岩製で、表裏両面にすり面があり、それ以外の全面に細かなたたき痕がみられる。32・33はすり石である。32は表裏両面と右側面にすり面があり、33は扁平な礫の表裏両面にすり痕がみられる。34・35は北海道式石冠である。34は下端面に平坦なすり面があり、表裏両面の側縁付近には敲打痕がみられる。35は下端面に平坦なすり面があり、表

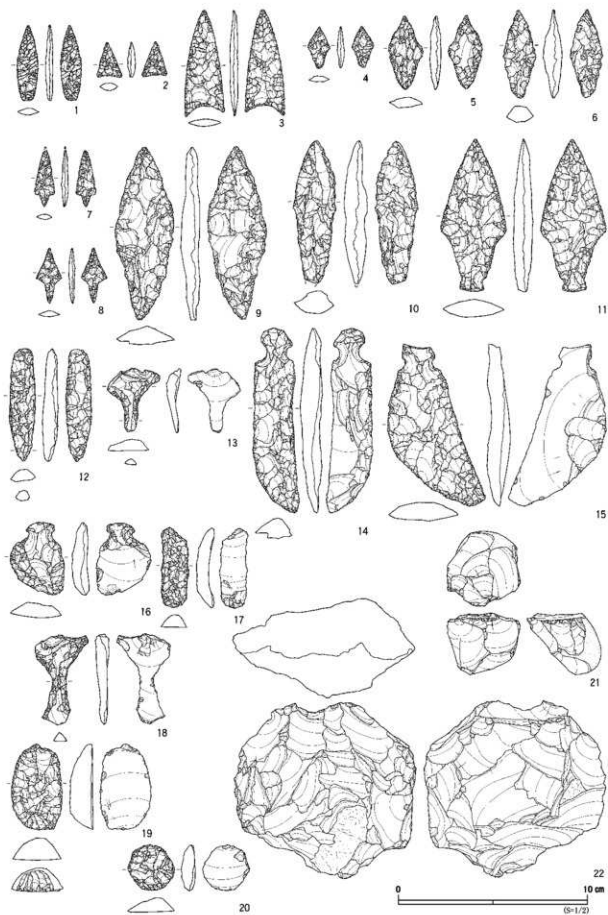


図148 A・B地区 包含層出土の剥片石器

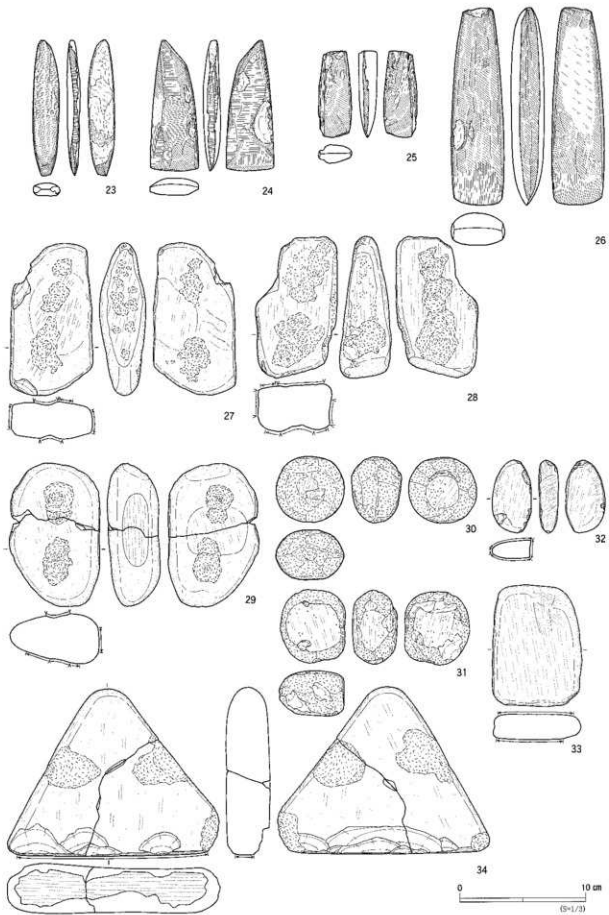


図149 A・B地区 包含層出土の礫石器(1)



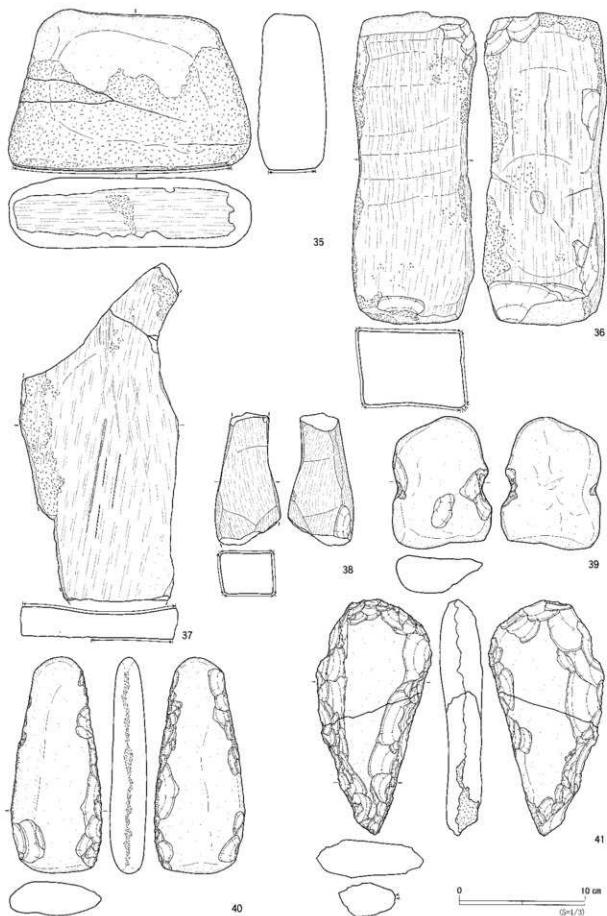


図150 A・B地区 包含層出土の礫石器(2)・石製品(1)

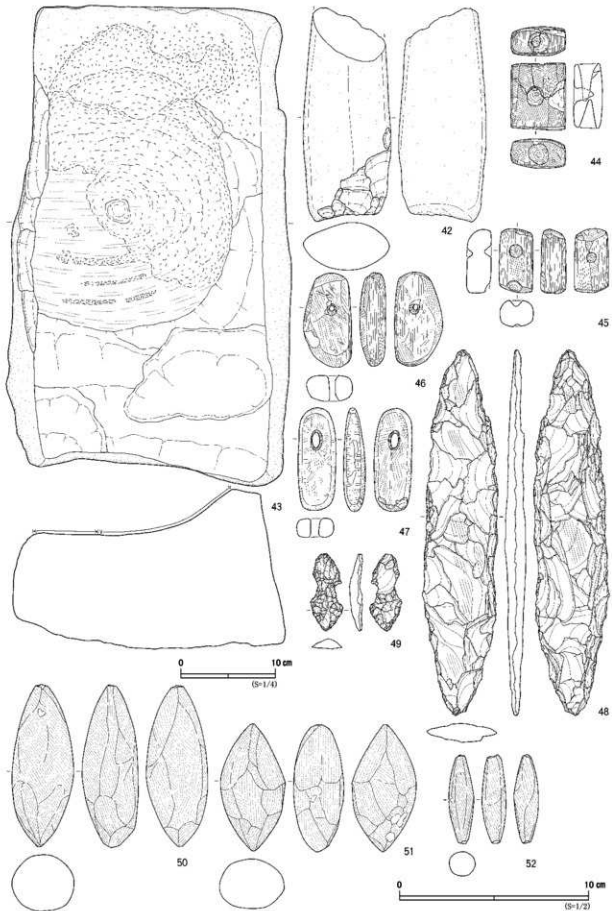


図151 A・B地区 包含層出土の礫石器(3)・石製品(2)

裏両面や両側面の下半部には敲打痕がみられる。36～38は砥石である。36・38は四つの面に砥面を有する四面砥石である。36は大型で表裏両面も側縁部にたたき痕がみられ、38は上端部が破損する。37は板状の素材で、表裏両面にやや曲線的な砥面がある。39は石錘で、両側縁の中央付近に打ち欠きがみられる。43は台石・石皿で、表面にややくぼむすり面がある。

#### 石製品 (40～42・44～53)

40～42は棍棒形石器とした。40・41は表裏両面に両側縁からの打ち欠きがみられ、側縁の断面は両縁が尖る形状である。40は砂岩製で、右側縁には敲打痕がある。41は緑色泥岩製で、両側縁に刃部があり、右側縁の下端部には敲打痕がみられる。42は緑色泥岩製で、上部が破損する。棒状を呈し下端部からの剥離痕がある。44～47は玉で、44・45は未貫通である。44は3点が接合したもので、平面が長方形を呈し、表面、上端面と下端面の中央からそれぞれ穿孔されるが、いずれも未貫通である。45は棒状で、表面の上下2か所、裏面の上位1か所に穿孔による浅いくぼみがあり、下位のくぼみ部分より下部が破損する。46・47は扁平で、平面が楕円形に近い形状である。いずれも中央より上位に孔があり、表裏両面から穿孔される。48は石槍・ナイフとも考えたが、青灰色の片岩製で、表裏両面に研磨痕がみられたので石製品とした。49は赤褐色を呈する黒曜石製で、表裏両面が加工される。上下端が尖り、両側縁の中央に抉りがみられる。50～52は砂岩で、すり面が多数あり、紡錘形を呈する。53は左側部分が破損する。扁平で表裏面に研磨痕がある。当初土製品と考えたため、図118に掲載した。

#### C地区 包含層出土 (図152～156 表82 図版65～67)

##### 剥片石器 (1～12)

1～6は石鏃である。1・2は菱形で微細な剥離痕があり、3は基部の下端部が張り出す形状である。4・5は有茎で、4は幅広、5は両側縁が内湾し、先端部と基部が破損する。6は菱形で基部が外湾する。7・8は石槍・ナイフで、いずれも両側縁が鋸歯状で、基部が直線的である。9・10はつまみ付きナイフである。9は上下端部が尖る形状で、10は右側縁部に刃部がみられ、背腹両面には広く剥離面が残る。11・12はスクレイパーで、主に背面が加工される。11は両側縁に刃部があり、12は左側縁の刃部が内湾する。

##### 礫石器 (13～37)

13～20は磨製石斧である。13は小型で全面磨される。14・15は表裏両面に剥離痕や敲打痕があり、刃部付近に研磨痕がみられる。16～20は基部付近のものである。16・17は表面に研磨痕、裏面に剥離痕や敲打痕がある。18は上端部が尖る形状で、表裏両面に剥離痕と敲打痕、右側面に平坦な研磨痕がある。19は表裏両面に剥離痕、両側縁に敲打痕がみられ、上端面と表面に研磨痕がある。20は剥離や敲打後に研磨される。21～23はたたき石で、表裏両面に凹状のたたき痕が21・23では2か所ずつ、22では1か所ずつみられる。21は左側面にも細かなたたき痕やすり痕があり、22は右側面にもたたき痕を有する。23は凹状のたたき痕のほか、表裏両面や両側面に細かなたたき痕が多数みられる。

24～28はすり石である。24～27は下端面にすり痕がみられ、27以外はたたき痕も有する。24は下端面のほか、表裏両面や左側面にもすり面があり、被熱により赤色化する。25は上下端面にすり面があり、26は裏面の平坦面に凹状のたたき痕があり、27は下端面に幅広のすり面がある。28は表裏両面にすり痕があり、側縁部には細かなたたき痕がみられる。

29～32は砥石で、29・30は被熱により赤色化する。29は表裏両面にすり痕とたたき痕があり、30

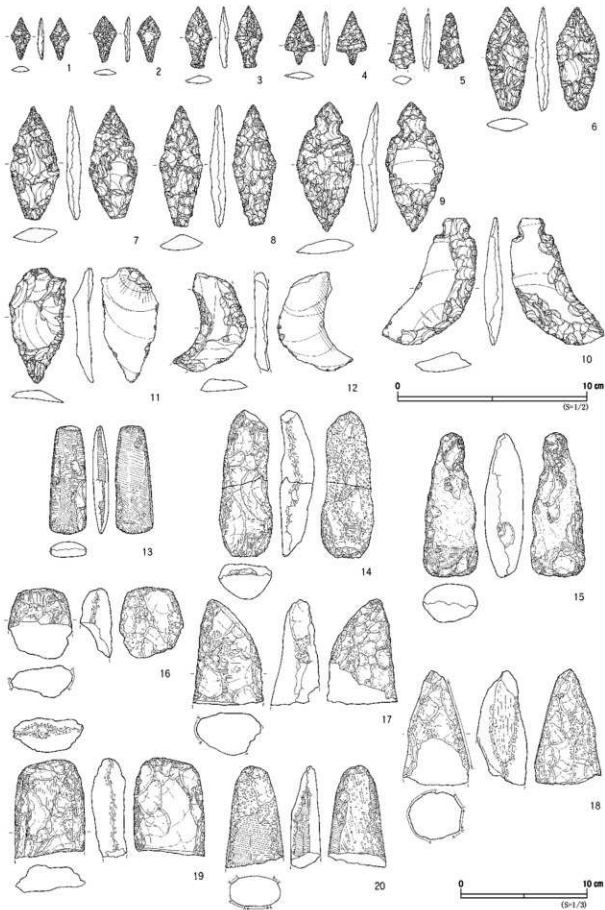


図152 C地区 包含層出土の剥片石器・礫石器(1)

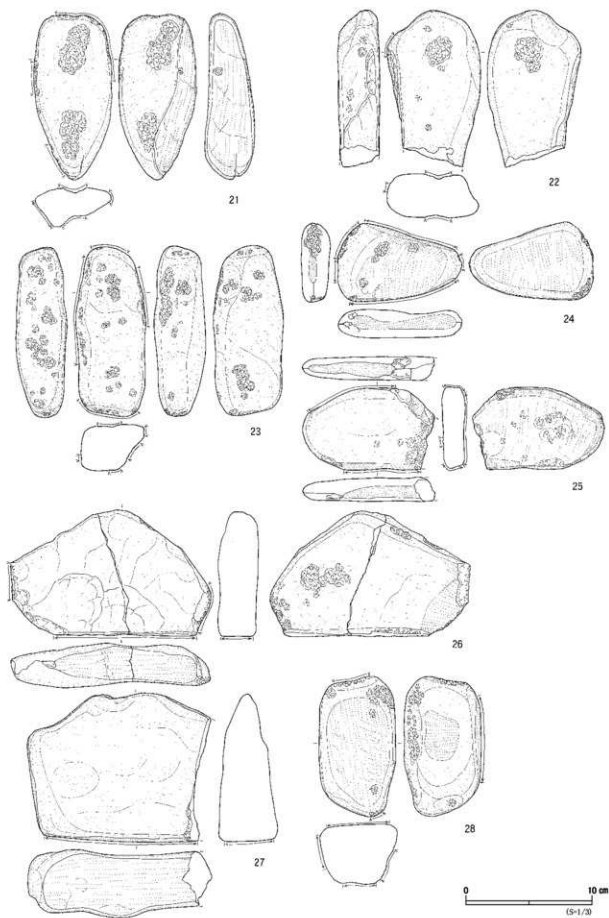


図153 C地区 包含層出土の礫石器(2)

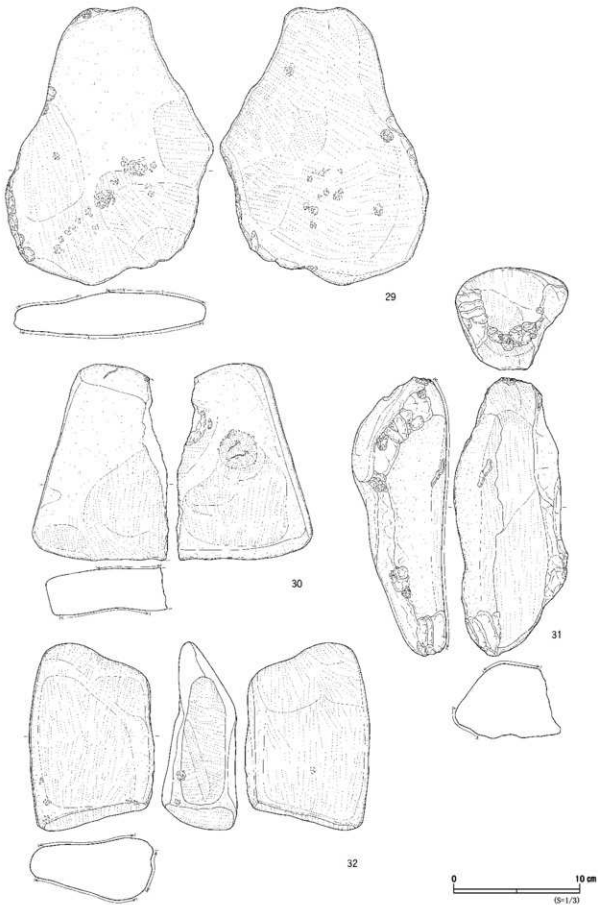


図154 C地区 包含層出土の礫石器(3)

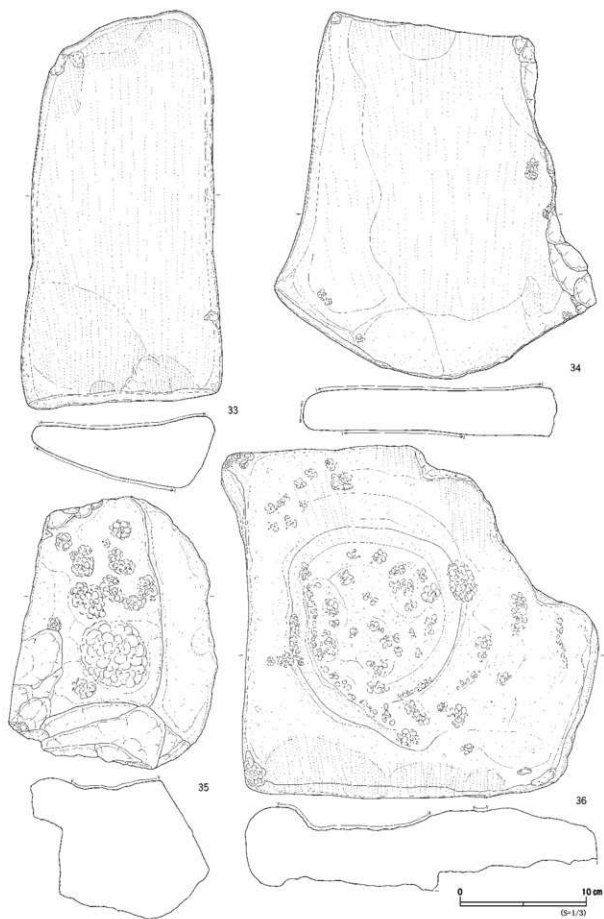


図155 C地区 包含層出土の礫石器(4)

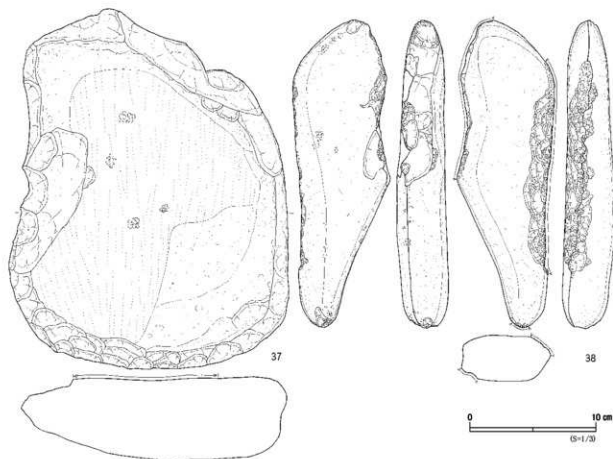


図156 C地区 包含層出土の礫石器(5)・石製品

は表裏両面に曲線的な砥面がある。31は表面に砥面、左側面にたたき痕がある。32は各面に砥面があり、右側面では溝状の使用痕がみられる。

33~37は台石・石皿で、33・37は被熱により赤色化する。33・34は表裏両面にすり面があり、34はすり面が平滑である。35は表面の中央付近に若干くぼたたき痕がある。36は表面にすり痕があり、中央付近のややくぼんだ部分に細かなたたき痕がみられる。37は表面に広いすり面があり、周縁部に剥離痕がみられる。

#### 石製品 (38)

38は泥岩製の棍棒形石器である。全体に厚みがあり、上半部が幅広で、下半部が細長い素材が使用される。両側縁は打ち欠きにより刃部が作出され、刃部には両側縁に敲打痕がみられる。

(愛場)





表23 土坑・Tピット出土土器点数表

遺構名		P-08		P-10		P-11		P-12		P-15		P-17		P-18		P-20		中計				
遺物種別/層位		量土	小計	量土	小計	量土	小計	量土	小計	量土	小計	量土	小計	量土	小計	量土	小計					
検出	部位	層位																中計				
土器	土器	埋藏層位																	中計			
		口縁部	量土																		1	
			小計																		1	
			量土	9		1		6		9				7		9		9			9	
		底面	量土					1													1	
			小計					1													1	
			量土	9		9		1		9				9		9		9			9	
		胴部	量土																			
			小計																			
			量土	2		2		1		1						2		2			10	
		脚部	量土			21		9		2		3		9		1		1			14	
			小計			21		9		2		3		9		1		1			14	
			量土	11		6		9		9		9		9		9		9			51	
		平部	量土																			
			小計																			
量土	9			9		6		9		9		9		9		9		9				
小計	量土	22		6		2		2		2		20		1		10		59				
	小計	22		6		2		2		2		20		1		10		59				
	合計	22		6		2		2		2		20		1		10		59				
土器	土器	埋藏層位																	中計	合計		
		口縁部	量土	9		9		9		9		9		2				9				9
			小計	9		9		9		9		9		2				9				9
			量土	9		9		9		9		9		9		9		9				9
		底面	量土					9														9
			小計					9														9
			量土	9		9		1		9												9
		胴部	量土																			
			小計																			
			量土	9		9		1		9		9		9		9		9				9
		脚部	量土																			
			小計																			
			量土	9		9		9		9		9		9		9		9				9
		平部	量土																			
			小計																			
量土	9			9		9		9		9		9		9		9		9				
小計	量土	41		9		20		9		9		9		9		9		90				
	小計	41		9		20		9		9		9		9		9		90				
	合計	41		9		20		9		9		9		9		9		149				

表24 焼土・石組炉出土土器点数表

遺構名		P-2		P-3		P-5		P-6		P-7		P-8		P-9		合計			
遺物種別/層位		量土	小計	量土	小計	量土	小計	量土	小計	量土	小計	量土	小計	量土	小計				
検出	部位	層位														合計			
土器	土器	埋藏層位																合計	
		口縁部	量土	9		9		9		9		9		9		9			9
			小計	9		9		9		9		9		9		9			9
			量土	9		9		9		9		9		9		9			9
		底面	量土																
			小計																
			量土	9		9		9		9		9		9		9			9
		胴部	量土																
			小計																
			量土	1		1		1		1		1		1		1			1
		脚部	量土																
			小計																
			量土	1		1		1		1		1		1		1			1
		平部	量土																
			小計																
量土	9			9		9		9		9		9		9		9			
小計	量土	9		9		9		9		9		9		9		9			
	小計	9		9		9		9		9		9		9		9			
	合計	9		9		9		9		9		9		9		9			

表25 遺物集中出土土器点数表

遺構名		PS-1		PS-2		PS-3		PS-4		PS-5		小計		
遺物種別/層位		V層	小計	V層	小計	V層	小計	V層	小計	V層	小計			
時期	部位	残存状態		残存状態		残存状態		残存状態		残存状態		小計		
		複数部位		複数部位		複数部位		複数部位		複数部位				
IV群	口縁部	良好	17		11		2		2		9	41	51	
		剥離		19	3	14		2	2	4	2	7		
		磨耗										12		0
	小破片	2										1	3	
	底部	良好	2	6		0		0		0		2	6	
		剥離	4											4
		磨耗												0
	胴部	小破片		327		263		61		61		0	1,342	
		良好	126		43		19		26		103	317		
		剥離	34		101		14		2		166	317		
		磨耗									3	3		
		小破片	167		119		28		33		358	705		
	不明	良好		0		0		0		0		0	0	
		剥離										0		
		磨耗										0		
小破片											0			
小計		352		277		63		65		642	1,399			
合計		352		277		63		65		642	1,399			

遺構名		PS-6		PS-7		PS-8		PS-9		PS-10		小計	
遺物種別/層位		V層	小計	V層	小計	V層	小計	V層	小計	V層	小計		
時期	部位	残存状態		残存状態		残存状態		残存状態		残存状態		小計	
		複数部位		複数部位		複数部位		複数部位		複数部位			
IV群	口縁部	良好	9		8			3		3		23	24
		剥離		10		8		0		3		0	
		磨耗										3	
	小破片	1											1
	底部	良好		0	3	3		0	3	5		6	8
		剥離							2			2	
		磨耗										0	
	胴部	小破片		291		1,039		1		1,832		0	3,253
		良好	86		29		76		38		229		
		剥離	56		1,010		196		12		1,275		
		磨耗									0		
	不明	小破片	149				1,560		40		1,749		
		良好		0		0		0		0		0	0
		剥離									0		
		磨耗										0	
小破片									0				
小計		301		1,050		1		1,840		93	3,285		
合計		301		1,050		1		1,840		93	3,285		

遺構名		FC-1		FC-3		S-1		B-1		遺物集中 (PS・FC ・S・B) 合計		
遺物種別/層位		V層	小計	V層	小計	V層	小計	V層	小計			
時期	部位	残存状態		残存状態		残存状態		残存状態		合計		
		複数部位		複数部位		複数部位		複数部位				
IV群	口縁部	良好						0		64	76	
		剥離		0		0		0	0	7		
		磨耗					1		1	1		
	小破片									4		
	底部	良好		0		0		0	0	8	14	
		剥離								6		
		磨耗								0		
	胴部	小破片		2		6		0	0	0	4,623	
		良好	1						1	2		548
		剥離								2		1,594
		磨耗								0		3
	不明	小破片	1		6				17	24	2,478	
		良好		0		0		0		0	0	
		剥離								0		
		磨耗								0		
小破片							0					
小計		2		6		1		20	29	4,713		
合計		2		6		1		20	29	4,713		



表27 土坑・Tピット出土剥片石器点数表

遺物名	器種	形状	P-1		P-2		P-3		P-4		P-5		P-6		P-7		P-8		P-9		合計
			遺土	小計	遺土	小計	遺土	小計	遺土	小計	遺土	小計	遺土	小計	遺土	小計	遺土	小計	遺土	小計	
石鏃	片	片																			
	片	片																			
	片	片																			
	片	片																			
	片	片																			
スクレイパー	片	片																			
	片	片																			
	片	片																			
	片	片																			
	片	片																			
U・Rフレイク	片	片																			
	片	片																			
フレイク	片	片																			
	片	片																			
合計																					

遺物名	器種	形状	P-1		P-2		P-3		P-4		P-5		P-6		P-7		P-8		P-9		合計
			遺土	小計	遺土	小計	遺土	小計	遺土	小計	遺土	小計	遺土	小計	遺土	小計	遺土	小計	遺土	小計	
石鏃	片	片																			
	片	片																			
	片	片																			
	片	片																			
	片	片																			
スクレイパー	片	片																			
	片	片																			
	片	片																			
	片	片																			
	片	片																			
U・Rフレイク	片	片																			
	片	片																			
フレイク	片	片																			
	片	片																			
合計																					

表28 焼土・石組炉出土剥片石器点数表

遺物名	器種	形状	P-1		P-2		P-3		P-4		P-5		P-6		P-7		P-8		P-9		合計
			遺土	小計	遺土	小計	遺土	小計	遺土	小計	遺土	小計	遺土	小計	遺土	小計	遺土	小計	遺土	小計	
石鏃	片	片																			
	片	片																			
	片	片																			
	片	片																			
	片	片																			
スクレイパー	片	片																			
	片	片																			
	片	片																			
	片	片																			
	片	片																			
U・Rフレイク	片	片																			
	片	片																			
フレイク	片	片																			
	片	片																			
合計																					

表29 遺物集中出土剥片石器点数表

器種	遺物名	器種名・分類/層位	FC-1		FC-2		FC-3		FC-4		S-1		B-1		合計
			V層	小計	V層	小計	V層	小計	V層	小計	V層	小計	V層	小計	
石鏃	片	片													
	片	片													
	片	片													
	片	片													
	片	片													
スクレイパー	片	片													
	片	片													
	片	片													
	片	片													
	片	片													
U・Rフレイク	片	片													
	片	片													
フレイク	片	片													
	片	片													
合計															

表30 竪穴住居跡出土 礫石器・石製品・レキ点数表(1)

遺物 品名	遺物 種別	層別			層別			層別			層別			層別			層別			合計	
		層別	数量	割合	層別	数量	割合	層別	数量	割合	層別	数量	割合	層別	数量	割合	層別	数量	割合		
礫石器	手取	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	手取	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	手取	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	手取	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
石製品	手取	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	手取	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	手取	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	手取	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
レキ	手取	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	手取	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	手取	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	手取	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

表30 竪穴住居跡出土 礫石器・石製品・レキ点数表(2)

遺跡名		40-1		40-2		40-3		40-10		40-11		40-12		40-13		40-14		小計		
遺跡	発掘位置	層	面	層	面	層	面	層	面	層	面	層	面	層	面	層	面			
藤原住居	遺跡	西	縄文前期	1															1	
			縄文後期																	
			弥生前期																	
			弥生中期																	
			弥生後期																	
			古墳時代																	
			中世																	
			近世																	
			現代																	
			不明																	
			計			1														
丸太住居	西	縄文前期																		
		縄文後期																		
		弥生前期																		
		弥生中期																		
		弥生後期																		
		古墳時代																		
		中世																		
		近世																		
		現代																		
		不明																		
		計																		0
芋田住居	西	縄文前期																		
		縄文後期																		
		弥生前期																		
		弥生中期																		
		弥生後期																		
		古墳時代																		
		中世																		
		近世																		
		現代																		
		不明																		
		計																		0
北原遺跡	西	縄文前期																		
		縄文後期																		
		弥生前期																		
		弥生中期																		
		弥生後期																		
		古墳時代																		
		中世																		
		近世																		
		現代																		
		不明																		
		計																		0
水鏡	西	縄文前期																		
		縄文後期																		
		弥生前期																		
		弥生中期																		
		弥生後期																		
		古墳時代																		
		中世																		
		近世																		
		現代																		
		不明																		
		計																		0
藤原	西	縄文前期																		
		縄文後期																		
		弥生前期																		
		弥生中期																		
		弥生後期																		
		古墳時代																		
		中世																		
		近世																		
		現代																		
		不明																		
		計																		0
田代・田代	西	縄文前期																		
		縄文後期																		
		弥生前期																		
		弥生中期																		
		弥生後期																		
		古墳時代																		
		中世																		
		近世																		
		現代																		
		不明																		
		計																		0
有明	西	縄文前期																		
		縄文後期																		
		弥生前期																		
		弥生中期																		
		弥生後期																		
		古墳時代																		
		中世																		
		近世																		
		現代																		
		不明																		
		計																		0
11-14号	西	縄文前期																		
		縄文後期																		
		弥生前期																		
		弥生中期																		
		弥生後期																		
		古墳時代																		
		中世																		
		近世																		
		現代																		
		不明																		
		計																		0
14号	西	縄文前期																		
		縄文後期																		
		弥生前期																		
		弥生中期																		
		弥生後期																		
		古墳時代																		
		中世																		
		近世																		
		現代																		
		不明																		
		計																		0
合計		11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11		
不明																		0		

表30 竪穴住居跡出土 礫石器・石製品・レキ点数表(3)

遺物	遺物名	M-1				M-2				M-3				M-4				M-5				小計	合計		
		数量	種類	体積	重量	数量	種類	体積	重量	数量	種類	体積	重量	数量	種類	体積	重量	数量	種類	体積	重量				
M-1	石器	1																							
	石器	1																							
	石器	1																							
	石器	1																							
	石器	1																							
M-2	石器	1																							
	石器	1																							
	石器	1																							
	石器	1																							
	石器	1																							
M-3	石器	1																							
	石器	1																							
	石器	1																							
	石器	1																							
	石器	1																							
M-4	石器	1																							
	石器	1																							
	石器	1																							
	石器	1																							
	石器	1																							
M-5	石器	1																							
	石器	1																							
	石器	1																							
	石器	1																							
	石器	1																							





表31 土坑・Tピット出土 礫石器・石製品・レキ点数表(2)

調査区	遺物名・品名		F1-1			F1-2			F1-3			F1-4			F1-5			F1-6			小計	合計
	種別	数量	小計	大	中	小	大	中	小	大	中	小	大	中	小	大	中	小				
豊原町南	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三六木町	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アノ草	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北新屋敷町南	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
碓氷	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
出石・石田	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
石塚島	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
シ・岸山町	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
シ本	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表32 焼土・石組炉出土 礫石器・石製品・レキ点数表(1)

調査区	遺物名・品名		F1-1			F1-2			F1-3			F1-4			F1-5			F1-6			小計	合計
	種別	数量	小計	大	中	小	大	中	小	大	中	小	大	中	小	大	中	小				
豊原町南	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三六木町	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アノ草	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
碓氷	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
出石・石田	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
シ・岸山町	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
シ本	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表32 焼土・石組炉出土 礫石器・石製品・レキ点数表(2)

遺物名		遺物名		遺物名		遺物名		遺物名		遺物名		遺物名		遺物名		遺物名		遺物名		
種別	形状	数量	小計	種別	数量	小計	種別	数量	小計	種別	数量	小計	種別	数量	小計	種別	数量	小計	種別	数量
磨製石器	石斧	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	石鏃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	石鏃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	石鏃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
石組炉	石組炉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	石組炉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	石組炉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	石組炉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
すり臼	すり臼	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	すり臼	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	すり臼	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	すり臼	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
礫石	礫石	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	礫石	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	礫石	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	礫石	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
骨・貝類	骨	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	骨	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	骨	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	骨	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
小計		4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
石・骨・貝類	石	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	骨	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	貝類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	石	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
石・骨・貝類	石	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	骨	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	貝類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	石	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
石・骨	石	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	骨	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	石	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	骨	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
小計		11	11	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
合計		14	14	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13

表33 遺物集中出土 礫石器・石製品・レキ点数表

遺構名		遺構名・分層/層位		PS-1		PS-2		PS-3		PS-4		PS-5		PS-6		小計	
遺構	残存状況	岩石	接納等	V層	小計	V層	小計	V層	小計	V層	小計	V層	小計	V層	小計	小計	
磨製石斧	完形	---	---													0	
	準完形	---	---													0	
	半形	---	---	0	0		1		0		0		0		0	0	1
	片	緑色泥岩	---				1									1	
たたき石	完形	---	---													0	
	準完形	---	---													0	
	半形	---	---	0	0		0		1		0		0		0	0	1
	片	砂岩	---						1							1	1
すり石	完形	---	---													0	
	準完形	---	---													0	
	半形	---	---	0	0		0		0		1		3		0	0	3
	片	凝灰岩	被蝕													1	3
北海道式石冠	完形	---	---													0	
	準完形	---	---	0	0		0		0		0		0		0	0	0
	半形	---	---													0	
	片	砂岩	---													0	
礫石	完形	---	---													0	
	準完形	---	---	0	1		0		0		0		0		0	0	1
	半形	---	---													1	
	片	砂岩	---		1											1	
台石・石皿	完形	---	---													0	
	準完形	---	---													0	
	半形	---	---	0	1		2		0		0		0	1	1	2	3
	片	凝灰岩	---		1											1	3
U・Rレキ	完形	---	---													0	
	片	凝灰岩	被蝕		1		0		1	13		0	1	10		0	24
	砂岩	被蝕														2	
	被蝕															7	
レキ	完形	---	---													2	4
	片	凝灰岩	---		1		1		0	1		3		0		2	0
	砂岩	---	---													2	0
	被蝕															0	0
小計				1		4		13		3		10		0		28	
合計				1		4		14		4		13		0		37	

遺構名		遺構名・分層/層位		PS-7		FC-3		S-1		S-2		B-1		C-4		小計		合計
遺構	残存状況	岩石	接納等	V層	小計	V層	小計	V層	小計	V層	小計	V層	小計	V層	小計	小計		
磨製石斧	完形	---	---													0		
	準完形	---	---													0		
	半形	---	---	1	0		0		0		1		5		0	0	7	8
	片	緑色泥岩	---	1							1		5		7	7	8	
たたき石	完形	---	---													0		
	準完形	---	---													0		
	半形	---	---	0	0		0		1		0		0		0	0	1	2
	片	砂岩	---													0	1	2
すり石	完形	---	---													0		
	準完形	---	---													0		
	半形	---	---	0	0		0		1		0		0		0	0	0	4
	片	凝灰岩	被蝕													0	1	4
北海道式石冠	完形	---	---													0		
	準完形	---	---	0	0		0		1		0		0		0	0	0	1
	半形	---	---													0		
	片	砂岩	---						1							1	0	
礫石	完形	---	---													0		
	準完形	---	---	0	0		0		0		0		0		0	0	0	1
	半形	---	---													0		
	片	砂岩	---		1											0	1	
台石・石皿	完形	---	---													0		
	準完形	---	---													0		
	半形	---	---	0	3		3		0		0		0		0	0	0	9
	片	凝灰岩	---				1									1	3	3
U・Rレキ	完形	---	---													1		
	片	凝灰岩	被蝕		0		13									13	15	376
	砂岩	被蝕					2	17		331		3	4		3	351	352	375
	被蝕						1		14	317		3			15	320	336	
レキ	完形	---	---													529	529	563
	片	凝灰岩	---		0		30				6		0		30	32	32	763
	砂岩	---	---				176		753						176	176	176	200
	被蝕						18								18	200	200	
小計				0		0		770		337		4		0	1,111	1,139		
合計				1		3		772		340		5		5	1,127	1,164		



表35 包含層出土剥片石器点数表

層位	剥片名・形状・層位		V層 層(C:他部)	G・P7層下の V層(P7層)	V層	非埋戻層部 Cの層の厚	G6位層部 層リ上げ部	その他 (土層・P層・C層)	合計	
	発出位置	品名								
石鏡	実物	黒曜石 剥片	304	2	3	11	2	13	473	
		黒曜石 剥片	19						19	
		玄武岩 剥片	1						1	
		頁岩 剥片	11						11	
		チャート 剥片	1						1	
		頁岩 剥片	111	1		6			128	
	準実物	黒曜石 剥片	6			30		5	41	
		頁岩 剥片	2						2	
		チャート 剥片	1						1	
		黒曜石 剥片	34			3			37	
		黒曜石 剥片	3			1			4	
		チャート 剥片	2						2	
片	頁岩 剥片	117	1		6			124		
	黒曜石 剥片	8			3			11		
	頁岩 剥片	1						1		
	頁岩 剥片	1						1		
石鏡・ ナイフ	実物	黒曜石 剥片	53			2		1	56	
		頁岩 剥片	2						2	
		チャート 剥片	1						1	
		黒曜石 剥片	9						9	
		頁岩 剥片	2						2	
		黒曜石 剥片	20	1	1	0	1	3	25	
	準実物	黒曜石 剥片	3					0	3	
		頁岩 剥片	1						1	
		黒曜石 剥片	19						19	
		黒曜石 剥片	1						1	
		頁岩 剥片	2						2	
		頁岩 剥片	1						1	
石鏡	実物	黒曜石 剥片	25					1	26	
		頁岩 剥片	1						1	
		チャート 剥片	2						2	
		頁岩 剥片	2						2	
		黒曜石 剥片	9						9	
		黒曜石 剥片	1						1	
	準実物	黒曜石 剥片	1			0		0	1	
		黒曜石 剥片	1						1	
		頁岩 剥片	2						2	
		頁岩 剥片	1						1	
		黒曜石 剥片	6			2		1	9	
		頁岩 剥片	2						2	
つよみけ ナイフ	実物	黒曜石 剥片	40						40	
		頁岩 剥片	29			1			30	
		片岩 剥片	1						1	
		チャート 剥片	11						11	
		黒曜石 剥片	10						10	
		黒曜石 剥片	1						1	
	準実物	頁岩 剥片	12			0		1	13	
		チャート 剥片	1						1	
		黒曜石 剥片	10						10	
		頁岩 剥片	10						10	
		チャート 剥片	2						2	
		黒曜石 剥片	13						13	
片	頁岩 剥片	2						2		
	チャート 剥片	1						1		
	黒曜石 剥片	20	1		6		1	27		
	頁岩 剥片	1						1		
スクレイパー	実物	黒曜石 剥片	202			6		1	209	
		頁岩 剥片	5					1	6	
		片岩 剥片	1						1	
		チャート 剥片	12						12	
		黒曜石 剥片	76			3		1	80	
		頁岩 剥片	1						1	
	準実物	頁岩 剥片	6						6	
		チャート 剥片	2						2	
		チャート 剥片	1						1	
		黒曜石 剥片	1			18		0	19	
		頁岩 剥片	3						3	
		黒曜石 剥片	1						1	
準実物	頁岩 剥片	3						3		
	チャート 剥片	1						1		
	黒曜石 剥片	172	1		8		2	183		
	頁岩 剥片	1			1			2		
	玄武岩 剥片	9						9		
	頁岩 剥片	7						7		
片	頁岩 剥片	1						1		
	チャート 剥片	1						1		
	黒曜石 剥片	303	3		9		2	317		
	頁岩 剥片	46			6		1	53		
U・Rフレイク	玄武岩 剥片	114	1,112	3		15	5	7	1,149	
	頁岩 剥片	20							20	
	チャート 剥片	49							49	
	黒曜石 剥片	3			1		2	6		
	黒曜石 剥片	7			1		1	9		
	チャート 剥片	31						31		
石鏡	実物	黒曜石 剥片	165		8	0	2	1	176	
		頁岩 剥片	1						1	
		頁岩 剥片	1						1	
		頁岩 剥片	1						1	
		頁岩 剥片	1						1	
		頁岩 剥片	1						1	
フレイク	実物	黒曜石 剥片	219	220		11	613	173	2	1,028
		頁岩 剥片	114				1	4		119
		玄武岩 剥片	1							1
		片岩 剥片	1							1
		頁岩 剥片	142	21,979				2	132	22,123
		頁岩 剥片	4							4
	準実物	チャート 剥片	171	1		17		1	1	190
		黒曜石 剥片	12							12
		片岩 剥片	2							2
		頁岩 剥片	1							1
		チャート 剥片	2							2
		頁岩 剥片	1							1
片	玄武岩 剥片	1		8	0	2		0	11	
	チャート 剥片	1							1	
	頁岩 剥片	1							1	
	チャート 剥片	8							8	
	頁岩 剥片	2							2	
	玄武岩 剥片	1							1	
合計	実物		21,028	323	15	694	186	164	23,206	
	準実物									
	片									
	合計									
	実物									
	準実物									

表36 包含層出土 礫石器・石製品・レキ点数表(1)

遺跡	調査区画		遺物	V層 (層・心部)	N+1層下位 (V層・下層)	IV層	小規模集落 土器時代層	遺跡集落 層位より下の層	集落 (1・2・3層)	個数		
	調査区画 番号	調査区画 名称										
高野山	A層	遺物	1							117		
		遺物	2							161		
		遺物	3							421		
	B層	遺物	4		6,360	19					4,863	
		遺物	5									
		遺物	6									
	大石寺北	A層	遺物	1							328	
			遺物	2							18	
			遺物	3							79	
		B層	遺物	4		100	2					466
			遺物	5								
			遺物	6								
		大石寺南	A層	遺物	1							317
				遺物	2							32
				遺物	3							
			B層	遺物	4		64	3				
遺物				5								
遺物				6								
大石寺東	遺物		1								9	
	遺物		2								2	
	遺物		3								24	
大石寺西	遺物		1								2	
	遺物		2								3	
	遺物		3									
大石寺南西	A層	遺物	1									
		遺物	2									
		遺物	3									
	B層	遺物	4								126	
		遺物	5									
		遺物	6									
	C層	遺物	7		1,060	2					3	
		遺物	8									
		遺物	9									
大石寺北西	A層	遺物	1									
		遺物	2									
		遺物	3									
	B層	遺物	4								201	
		遺物	5									
		遺物	6									
	C層	遺物	7		6,911	9					68	
		遺物	8									
		遺物	9									

表36 包含層出土 礫石器・石製品・レキ点数表(2)

遺物種別	遺物名		遺物種別	V層 (層位)	VI層 (層位)	VII層 (層位)	VIII層 (層位)	IX層 (層位)	X層 (層位)	XI層 (層位)	XII層 (層位)	XIII層 (層位)	XIV層 (層位)	XV層 (層位)	XVI層 (層位)	XVII層 (層位)	XVIII層 (層位)	XIX層 (層位)	XX層 (層位)	合計															
	遺物名	数量																																	
礫石器	遺物名	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...														
		...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...													
		石製品	遺物名	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...												
				...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...											
				レキ	遺物名	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...										
						...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...									
						合計			11,920	23	19	719	46	30												14,217									
						...	遺物名	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...								
								...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...							
								...	遺物名	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...						
										...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...					
										合計			11,920	23	19	719	46	30													14,217				
										...	遺物名	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...				
												...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...			
												合計			11,920	23	19	719	46	30													14,217		
												...	遺物名	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...		
														...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
														合計			11,920	23	19	719	46	30													14,217





表38 自然遺物(手取り)出土一覧表

出土地点	層位	動物遺存体			植物遺存体			自然科学的分析 試料番号	併用した フローテーション法 整理番号	備考
		種別	特徴等	自然科学的 分析	種別	特徴等				
遺構	H-2・h a-1	遺土		—	炭化材 (彫刻金塊?)	—	—	—	—	
	H-5・h c-1	床面		—	炭化物	—	—	—	—	
	H-5・h c-2	床面		—	炭化材 (彫刻金塊?)	放射性炭素 年代測定	ON2-4	—	—	
	H-6	遺土		—	炭化物	—	—	—	—	
	H-6・h e-1	床面		—	炭化物	放射性炭素 年代測定	ON2-5	—	—	
	H-10・h e-1	床面		—	炭化物	—	—	—	—	
	H-10・h e-1	(遺土上面)		—	炭化物	—	—	—	—	
	H-15・h f-1	遺土上面		—	炭化物	—	—	—	—	
	H-15・h f-2	遺土上面		—	炭化物	放射性炭素 年代測定	ON2-19	—	—	
	H-17・h f-1	遺土上面		—	炭化物	放射性炭素 年代測定	ON2-20	—	—	登録情報⑬ (h a)上層記載
	H-20	床面		—	炭化物	放射性炭素 年代測定	ON2-21	—	—	
	P-1	遺土		—	炭化材 (彫刻金塊?)	放射性炭素 年代測定	ON2-10	—	—	
	P-17	遺土	検出	シロヤ	—	—	—	—	—	
	P-20	現象層			—	炭化物	—	—	—	
	S F-2	V層 下位		—	—	炭化材 (彫刻金塊?)	放射性炭素 年代測定	ON2-11	No. 16	出土位置図 No. 11
	S F-3	遺土 付物		—	—	炭化物	—	—	—	
	C-1	V層		—	—	炭化材 (彫刻金塊?細長し編織)	放射性炭素 年代測定	ON2-14	—	—
	C-2	V層		—	—	炭化物	放射性炭素 年代測定	ON2-15	—	—
	C-3	V層		—	—	炭化物	放射性炭素 年代測定	ON2-16	—	出土位置図 No. 1-2
	C-4	V層		—	—	炭化物	放射性炭素 年代測定	ON2-22	—	—
包含層	C-4組	V層		—	炭化物	S42層 下位のV層出土	—	4	—	
	T-306区	V層	検出	シロヤ (沼澤地産?埋土)	—	—	—	—	—	
	U-27区	V層	検出	シロヤ	—	—	—	—	—	包蔵で観察
	U-28区	V層	検出	シロヤ	—	—	—	—	—	包蔵で観察
	V-24区	V層	検出	シロヤ	—	—	—	—	—	包蔵で観察
	V-26区	V層	検出	シロヤ 多量	—	炭化物 (くさぶた点)	—	—	—	—
	W-25区	V層	検出	シロヤ やや多量	—	—	—	—	—	包蔵で観察
	W-26区	V層	検出	シロヤ	—	—	—	—	—	包蔵で観察
	X-25区	V層	検出	シロヤ やや多量	—	—	—	—	—	—
	a-15区	V層	検出	シロヤ	—	—	—	—	—	—

表39 H-2 出土復原土器観察表

図 番号	図版	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
						器高	口径	底径				
113	1	40	H-2	珠墓	3	32.2	36.0	—	1,305	口縁～ 腹部下中	陶器	西部x軸 ナブツブ式
接合破片 点数		21	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			Q=275×V器×(1), Q=205×V器×(4), Q=290×V器×(3), 其=260×V器×(1), R=205×V器×(7), R=205×V器×(2), T=205×V器×(1)						
胎土 (混和材)		繊維	なし	粒徑	細～中粒	種類	硬石主体	量	多量	備考	運行状況	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内
	—		淡褐色 (10YR6/2)	黒色化	—	口唇部 (80%)		—	—	—	—	
	—		淡褐色 (10YR6/2)	黒色化	—	口縁部 (80%)		ナブ	淡い黄褐色 (10YR7/3)	黒色化	—	
	—		淡い褐色 (7.5YR7/3)	黒色化	—	胴部上半 (40%)		ナブ	淡い黄褐色 (10YR7/3)	黒色化	—	
内	—		淡い褐色 (7.5YR7/3)	—	—	胴部下半 (30%)		ナブ	黒褐色	黒色化	—	内

表40 H-3 出土復原土器観察表

図 番号	図版	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
113	2	40	H-3	墓土	—	10	14.0	—	3.3	45	腹部下中 ～底部	平足 仲体器	西部x軸
接合破片 点数		10	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)										
胎土 (混和材)		繊維	なし	粒徑	細～中粒	種類	硬石主体	量	少量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内	
	—		淡い黄褐色 (10YR6/4)	黒色化	—	胴部下半 ～底部 (90%)		ナブ	淡い黄褐色 (10YR6/4)	—	—		
内	—		灰黄褐色 (10YR6/2)	—	—	底面 (5%)		ナブ	淡い黄褐色 (10YR6/4)	—	—	内	

表41 H-4・hps-1 出土復原土器観察表(1)

図 番号	図版	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
113	3	40	H-4・ hps-1	珠墓	4	42	36.1	27.9	—	4,500	口縁～ 腹部下中	陶器	西部x軸 赤付式
接合破片 点数		0	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			H-4・hps-1・塚田・3(27), 5(12), 6(3)							
胎土 (混和材)		繊維	なし	粒徑	中～細粒	種類	硬石主体	量	多量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内	
	—		—	—	納溝	口唇部 (15%)		—	—	—	—		
	—		—	—	納溝 脇付溝の 納溝	口縁部 (15%)		ナブ	淡い黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	—		
	—		淡黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	—	胴部上半 (30%)		ナブ	淡い黄褐色 (10YR6/3)	—	—		
内	—		淡黄褐色 (10YR6/3)	—	—	胴部下半 (40%)		ナブ	淡い黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	—	内	

表42 H-4・hps-1 出土復原土器観察表(2)

図 番号	図 区	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
113	4	40	H-4・ hps-1	珠蓋	8	19	31.6	28.6	—	2.809	口縁～ 腹部下部	陶器	新野5号 金沢式
接合破片 点数		50	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			H-4・hps-1・珠蓋・1(113)、2(13)、6(13)							
胎土 (混和材)		繊維	なし	粒徑	細粒	種類	粘土主部	量	中量	備考			
外	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内			
	ナデ	—	—	剥離	口唇部 (10%)								
	—	—	—	剥離	口縁部 (20%)	ナデ	にじみ-黄褐色 (H9Y7/0)	—	—				
	藍白帯 LR・RL, 斜線文	黄褐色 (H9Y8/0)	黒色化	—	胴部上半 (30%)	ナデ	にじみ-黄褐色 (H9Y7/0)	黒色化	—				
	藍白帯 LR・RL, 斜線文	黄褐色 (H9Y8/0)	—	—	胴部下半 (40%)	ナデ	にじみ-黄褐色 (H9Y7/0)	黒色化	—				
胎土 (混和材)		繊維	なし	粒徑	細～中粒	種類	粘土主部	量	中～多量	備考			

表43 H-4・hps-1 出土復原土器観察表(3)

図 番号	図 区	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
113	5	40	H-4・ hps-1	珠蓋	—	1	11.1	—	7.8	566	胴部下半 ～底面	陶器	新野5号 金沢式
接合破片 点数		17	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			H-4・珠蓋・(1)・胴上部・T(1)、8(1)、9(1)、 胴部・(1)、O・22K・V器・(1)、O・42K・V器・(1)、 P・11K・V器・(1)							
胎土 (混和材)		繊維	なし	粒徑	細～中粒	種類	粘土主部	量	中～多量	備考			
外	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内			
	LR・RL, 斜線文	にじみ-褐色 (7.5Y7/0)	黒色化	—	胴部下半 ～底面 (30%)	ナデ	にじみ-黄褐色 (H9Y8/0)	黒色化	—				
	ナデ	にじみ-褐色 (7.5Y7/0)	—	—	底面 (5%)	ナデ	—	—	—				
胎土 (混和材)		繊維	なし	粒徑	細～中粒	種類	粘土主部	量	中～多量	備考			

表44 H-8 出土復原土器観察表(1)

図 番号	図 区	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
113	8	40	H-8	遺土片	—	1	13.7	13.1	5.2	351	口縁 ～底面	小型 陶器	新野5号
接合破片 点数		11	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			Y-10K・V器・(2)、Z-9K・V器・(2)、 a-10K・V器・(2)、a-11K・V器・(2)、 d-10K・V器・(1)、 d-11K・V器・(1)							
胎土 (混和材)		繊維	少量	粒徑	細粒	種類	灰物主部	量	中量	備考			
外	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内			
	藍白 ナデ	にじみ-黄褐色 (H9Y7/0)	—	剥離工具	口唇部 (50%)								
	ナデ 斜線文	にじみ-黄褐色 (H9Y7/0)	黒色化	—	口縁部 (50%)	ナデ 斜線文	にじみ-黄褐色 (H9Y7/0)	黒色化	—				
	ナデ	にじみ-黄褐色 (H9Y7/0)	—	—	胴部上半 (50%)	ナデ	(黄褐色)	黒色化	—				
	ナデ	にじみ-黄褐色 (H9Y7/0)	—	底面 剥離片	胴部下半 ～底面 (20%)	ナデ	(黄褐色)	黒色化	—				
胎土 (混和材)		繊維	なし	粒徑	細	種類	灰物主部	量	少量	備考			
胎土 (混和材)		繊維	なし	粒徑	細	種類	灰物主部	量	少量	備考			

表45 H-8 出土復原土器観察表(2)

図 番号	図名	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
113	7	40	H-8	床面	—	2	37.2	22.9	6.8	2,730	口縁 ~底面	陶器	新野5号 金市式
接合破片 総点数		57	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			H-8・埋土跡・(1), X-9(K・V跡・(1)), X-12(K・V跡・(1)), X-12(K・V跡・(1)), Y-11(K・V跡・(1)), Z-11(K・V跡・(1)), h-12(K・V跡・(1))							
胎土 (混和材)		繊維	少量	粒徑	中~細粒	種類	粘土土塊	量	少~中量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内	
	ナダ	淡黄色 (2.5Y6/2)	—	—	口唇部 (40%)	/							
	胎打層 1.0L・9L 1.0L・9L	淡黄色 (2.5Y6/2)	黒色化	—	口縁部 (40%)	ナダ	淡黄色 (2.5Y6/2)	—	—	—			
	胎打層 1.0L・9L	淡黄色 (2.5Y6/2)	—	—	胴部上半 (40%)	ナダ	淡黄色 (2.5Y6/2)	—	—	—			
	胎打層 1.0L・9L ナダ	淡黄色 (2.5Y6/2)	—	—	胴部下半 底部 (50%)	ナダ	淡黄色 (2.5Y6/2)	—	—	—			
底	ナダ	淡黄色 (2.5Y6/2)	—	—	底面 (80%)	ナダ	淡黄色 (2.5Y6/2)	—	—	—	底		

表46 H-15・h f-1 H-14出土復原土器観察表

図 番号	図名	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
114	8	40	H-15・ H-1 H-14	床面 遺土V跡	—	2	32.9	22.7	7.4	2,664	口縁 ~底面	陶器	新野5号 金市式
接合破片 総点数		81	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			H-15・H-1・埋土跡・(1)(1), (1)(4), (1)(8), (1)(1), (1)(9), (1)(1), (1)(1), (1)(2), (1)(4), (1)(1), (1), L-12(K・V跡・(1)), (1)							
胎土 (混和材)		繊維	少量	粒徑	細粒	種類	灰土土塊	量	中~多量	備考	有彩色物		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内	
	ナダ	淡黄褐色 (10Y6/2)	黒色化	—	口唇部 (70%)	/							
	胎打層 1.0L・9L 1.0L・9L	淡黄褐色 (10Y6/2)	黒色化	—	口縁部 (80%)	ナダ	淡黄褐色 (10Y6/2)	—	—	—			
	胎打層 1.0L・9L 1.0L・9L	淡黄褐色 (10Y6/2)	黒色化	—	胴部上半 (70%)	ナダ	淡黄褐色 (10Y6/2)	黒色化	—	—			
	胎打層 1.0L 1.0L・9L	淡黄褐色 (10Y6/2)	—	—	胴部下半 ~底部 (65%)	ナダ	(黄褐色)	黒色化	—	—			
底	ナダ	淡黄褐色 (10Y6/2)	—	—	底面 (80%)	ナダ	淡黄褐色 (10Y6/2)	—	—	—	底		

表47 P S-1 出土復原土器観察表

図 番号	図名	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
114	8	40	PS-1	V跡	1	68	32.3	17.0	7.3	2,642	口縁 ~底面	陶器	V跡5号
接合破片 総点数		195	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			PS-1・V跡・2(40), 3(1), 4(1), ~ (7)							
胎土 (混和材)		繊維	なし	粒徑	細粒	種類	灰土土塊	量	少量	備考	補修孔122円		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内	
	ナダ	淡黄褐色 (10Y6/2)	黒色化	—	口唇部 (100%)	/							
	胎打 1.0L・9L 1.0L・9L	12.5L・淡黄褐色 (10Y6/2)	淡黄色 付着	土の付 着付着 補修孔 2.0円	口縁部 (90%)	※ナダ	12.5L・淡黄褐色 (10Y6/2)	黒色化	—	—			
	1.0L・9L	12.5L・淡黄褐色 (10Y6/2)	黒色化	補修孔 2.0円	胴部上半 (70%)	※ナダ	12.5L・淡黄褐色 (10Y6/2)	黒色化	—	—			
	1.0L・9L	黄色 (10Y7/4)	—	補修孔 2.0円	胴部下半 ~底部 (90%)	※ナダ	12.5L・淡黄褐色 (10Y6/2)	黒色化	—	—			
底	1.0L・9L	12.5L・淡黄褐色 (10Y6/2)	—	—	底面 (80%)	ナダ	12.5L・淡黄褐色 (10Y6/2)	—	—	—	底		

表48 P S-2 出土復原土器観察表

図 番号	図 原	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
114	10	40	PS-2	V層	3	50	28.6	25.0	—	3,800	口縁～ 頸部下半	陶器	新野5号 糸巾式
接合破片 総点数		95	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			PS-2・V層(217)、PS-2・和豆屋(90)、S-220K・V層(14)、T-220K・V層(14)							
胎土 (混和材)		繊維	方向	粒徑	中粒	種類	粘土主体	量	中量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内
	—		淡黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	—	口唇部 (90%)		—		—	—	—	
	弘法書 丹波新文字 L.R・R.L.計状縄文		にじみ・黄褐色 (10YR7/3)	黒色化	輪切工具	口縁部 (90%)		空面 ナデ	淡黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	—	—	
	弘法書 L.R・R.L.計状縄文		淡灰色 (10YR6/2)	黒色化	—	胴部上半 (80%)		ナデ	淡黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	—	—	
蓋	L.R・R.L.計状縄文		淡黄褐色 (10YR6/3)	—	—	胴部下半 (60%)		ナデ	(黒褐色)	黒色化	—	蓋	

表49 H-3A・PS-4 出土復原土器観察表

図 番号	図 原	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
114	11	40	PS-4 H-3A	V層 *	31 1	29.1	26.0	—	3,000	口縁～ 頸部下位	陶器	新野5号 糸巾式	
接合破片 総点数		32	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			—							
胎土 (混和材)		繊維	方向	粒徑	中粒	種類	粘土主体	量	中量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内
	ナデ		淡黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	—	口唇部 (20%)		—		—	—	—	
	弘法書 L.R縄文		(黒褐色)	黒色化	—	口縁部 (20%)		ナデ	淡黄褐色 (10YR6/3)	—	—	—	
	弘法書 L.R・R.L.計状縄文		(黒褐色)	黒色化	—	胴部上半 (25%)		ナデ	淡黄褐色 (10YR6/3)	—	—	—	
蓋	弘法書 L.R・R.L.計状縄文		淡黄褐色 (10YR6/3)	—	—	胴部下半 (40%)		ナデ	(黒褐色)	黒色化	—	蓋	

表50 P S-5 出土復原土器観察表

図 番号	図 原	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
115	12	42	PS-5	V層	132	39.9	29.3	—	3,800	口縁～ 頸部	陶器	新野5号 器巾式	
接合破片 総点数		132	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			—							
胎土 (混和材)		繊維	多量	粒徑	粗粒	種類	粘土主体	量	中量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内
	ナデ		淡黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	—	口唇部 (70%)		—		—	—	—	
	L.R縄文		にじみ・黄褐色 (10YR7/3)	黒色化	輪切孔 1.0-4mm	口縁部 (70%)		ナデ	淡黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	—	—	
	L.R縄文		にじみ・黄褐色 (10YR6/4)	—	—	胴部上半 (40%)		ナデ	淡黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	—	—	
	L.R縄文		にじみ・黄褐色 (10YR7/4)	—	—	胴部下半 ～ 底唇 (30%)		ナデ	にじみ・黄褐色 (10YR6/5)	—	—	—	
蓋	—		にじみ・黄褐色 (10YR7/4)	—	灰質	底唇 (80%)		ナデ	黄灰色 (10YR7/4)	—	—	蓋	

表51 PS-6 出土復原土器観察表

調査号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
115	13	4c	PS-6	4番	4	47	130.4	33.6	—	4.520	口縁～ 頸部下段	陶器	新野6a 糸作式
結合破片 総点数		120	結合・同一體破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)				PS-6・4番・1(21), 2(17), 3(30), 4-9区・4番・(3)						
胎土 (泥和材)		繊維	少量	粒徑	中～細粒	種類	粘土土塊	量	中～少量	備考	運行状況		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	1.30編文		浅黄褐色 (2.5Y7/4)	—	—	口唇部 (70%)							
	磁針跡 内面斜交文 1.30斜交編文		浅黄褐色 (2.5Y7/4)	—	—	口縁部 (70%)	ナデ	浅黄褐色 (2.5Y6/3)	黒色化	—			
	磁針跡 1.30編文		浅黄褐色 (2.5Y7/4)	—	—	胴部上半 (65%)	ナデ	浅黄褐色 (2.5Y6/3)	—	—			
内	1.30編文		浅黄褐色 (2.5Y7/4)	—	—	胴部下半 (50%)	ナデ	浅黄褐色 (2.5Y6/3)	—	—	内		

表52 PS-7 出土復原土器観察表

調査号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
115	14	4c	PS-7	7番	—	82	15.1	25.4	8.4	3.295	口縁～ 底部	陶器	新野6a 糸作式
結合破片 総点数		63	結合・同一體破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)				—						
胎土 (泥和材)		繊維	なし	粒徑	細粒	種類	粘土土塊	量	少量	備考	運行状況		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	1.30編文		にじみ・黄褐色 (4P5Y6/2)	黒色化	—	口唇部 (95%)							
	磁針跡 内面斜交文 1.30編文		(黒褐色)	黒色化	—	口縁部 (95%)	ナデ	灰白色 (4P5Y6/2)	黒色化	—			
	1.30編文		(黒褐色)	黒色化	—	胴部上半 (80%)	ナデ	にじみ・黄褐色 (4P5Y6/2)	黒色化	—			
内	1.30斜交編文		浅黄褐色 (4P5Y6/4)	—	—	胴部下半 ～ 底部 (50%)	ナデ	にじみ・黄褐色 (4P5Y6/2)	黒色化	—	内		
	ナデ 2.0ヤナ		(黄色)	黒色化	—	底面 (10%)	—	—	—	—	内		

表53 PS-8 出土復原土器観察表

調査号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
115	15	4c	PS-8	7番	—	224	111.0	40.8	—	2.794	口縁～ 頸部下段	陶器	Y野6a
結合破片 総点数		210	結合・同一體破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)				Y-102K・Y野・(7), Y-202K・Y野・(8)						
胎土 (泥和材)		繊維	なし	粒徑	細～中粒	種類	粘土土塊	量	中～少量	備考	運行状況		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	半平文		浅黄褐色 (4P5Y6/2)	黒色化	—	口唇部 (60%)							
	内面文 斜交編文		浅黄褐色 (4P5Y6/2)	黒色化	—	口縁部 (60%)	ナデ	浅黄褐色 (4P5Y6/2)	黒色化	—			
	斜交編文		浅黄褐色 (4P5Y6/2)	黒色化	—	胴部上半 (60%)	ナデ	浅黄褐色 (4P5Y6/2)	黒色化	—			
内	斜交編文		浅黄褐色 (4P5Y6/2)	黒色化	—	胴部下半 (70%)	ナデ	(黄色)	黒色化	—	内		

表54 P S-9出土復原土器観察表

調査号	図番	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
116	16	40	P9-9	V層	—	70	23.4	9.0	4,200	口縁～底部	陶器	新形5号 糸作式	
接合破片総点数		77	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			K-25B・V層・(2)							
胎土(造和材)		繊維	少量	粒徑	中粒	種類	粘土土塊	量	少量	備考	運行状況		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他		
	ナデ		褐色色 (JY976/2)	—	—	口唇部 (15%)							
	藍白帯 内訳新交文 LR・RI, 自然縄文		にじみ-褐色色 (JY976/2)	黒色化	—	口縁部 (20%)		ナデ	褐色色 (JY976/2)	—	—		
	藍白帯 LR・RI, 自然縄文		にじみ-褐色色 (JY976/2)	黒色化	—	胴部上半 (25%)		ナデ	褐色色 (JY976/2)	—	—		
	藍白帯 LR・RI, 自然縄文		褐色 (JY976/4)	(赤色化)	—	胴部下半～底部 (30%)		—	—	—	—	剥離	
面	ナデ		褐色 (JY976/4)	(赤色化)	—	底面 (40%)		—	—	—	剥離		

表55 P S-10出土復原土器観察表

調査号	図番	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
						器高	口径	底径				
116	17	40	P9-10	V層	—	80.0	25.4	—	3,325	口縁～底部分迄	陶器	新形5号 糸作式
接合破片総点数		69	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			Q-45C・V層・(10)						
胎土(造和材)		繊維	なし	粒徑	中粒	種類	粘土土塊	量	少量	備考	運行状況	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	
	ナデ		褐色 (JY976/4)	黒色化	—	口唇部 (60%)						
	藍白帯 内訳新交文 LR1・RI, 自然縄文		黒褐色 (JY976/2)	黒色化	縁部工具 痕跡(長1.6cm)	口縁部 (50%)		空ナデ (胴部の調整組)	(褐色)	赤色化 褐色 (JY976/4)	—	
	藍白帯 LR1・RI, 自然縄文		(黒褐色)	黒色化	—	胴部上半 (30%)		空ナデ (胴部の調整組)	(黒褐色)	黒色化	—	
	面	LR1・RI, 自然縄文		褐色 (JY976/4)	(赤色化)	—	胴部下半～底部付近 (40%)		ナデ	(黒褐色)	黒色化	—



表56 I-46区出土復原土器観察表

図 番号	図 型	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
						器高	口径	底径				
116	19	42	I-46区	V層	—	33.7	18.3	8.0	1,800	口縁 ~底面	陶器	黒野山 新・旧式
接合破片 点数		33	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			—						
胎土 (産和材)		繊維	少量	粒徑	細粒	種類	灰物主体	量	少量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部 位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内
	刺突文	12.5A-褐色 (J.5.97.4)	黒色化	平截竹管状 工具による 痕文	口 縁 部 (25%)	/						
	編文	12.5A-褐色 (J.5.97.4)	黒色化	小段粒	口 縁 部 (25%)	ナデ	12.5A-褐色 (J.5.96.4)	黒色化	—	—		
	1.編文	12.5A-褐色 (J.5.97.4)	—	—	胴部上半 (30%)	ナデ	黒野山	12.5A-褐色 (J.5.96.4)	黒色化	—		
	1.編文	12.5A-褐色 (J.5.97.4)	—	—	胴部下半 ~底面 (70%)	ナデ	(黒褐色)	黒色化	—	—		
底	1.編文	12.5A-褐色 (J.5.97.3)	黒色化	—	底 面 (10%)	ナデ	12.5A-褐色 (J.5.96.3)	—	—	底		

表57 S-16区出土復原土器観察表

図 番号	図 型	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
						器高	口径	底径				
116	19	42	S-16区	V層	—	10.0	15.5	—	433	口縁~ 胴部下半	陶器	黒野山 新・旧式
接合破片 点数		33	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			I-100K・V層・(1), S-100K・V層・(1), T-100K・V層・(1)						
胎土 (産和材)		繊維	中~多量	粒徑	細粒	種類	灰石・灰物 主体	量	少量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部 位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内
	刺突文	12.5A-褐色 (J.5.95.2)	黒色化 灰化物付着	平截竹管状 工具による 痕文	口 縁 部 (70%)	/						
	編文 4.編文 1.0.編文	12.5A-赤褐色 (J.5.95.4)	—	平截竹管状 工具による 痕文	口 縁 部 (70%)	ナデ	12.5A-褐色 (J.5.95.2)	黒色化 灰化物付着	—	—		
	1.0.編文	12.5A-赤褐色 (J.5.95.4)	—	—	胴部上半 (50%)	ナデ	(黒褐色)	黒色化	—	—		

表58 F-44区出土復原土器観察表

図 番号	図 型	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
						器高	口径	底径				
116	20	42	F-44区	V層	—	28	25.0	—	1,620	口縁~ 胴部下半	陶器	黒野山 新・旧式
接合破片 点数		34	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			I-100K・V層・(1), H-400K・V層・(8)						
胎土 (産和材)		繊維	中量	粒徑	細粒	種類	灰石・灰物 主体	量	少量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部 位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内
	刺突文	12.5A-黄褐色 (H.97.2)	—	平截竹管状 工具による 痕文	口 縁 部 (30%)	/						
	1.0.編文	12.5A-黄褐色 (H.97.2)	—	編文 平截竹管状 工具による 痕文	口 縁 部 (25%)	ナデ (工具のナデ付)	12.5A-黄褐色 (H.97.4)	—	—	—		
	1.0.編文 編文	12.5A-黄褐色 (H.97.2)	—	平截竹管状 工具による 痕文	胴部上半 (15%)	ナデ (工具のナデ付)	12.5A-黄褐色 (H.97.4)	—	—	—		
	1.0.編文	12.5A-黄褐色 (H.97.2)	—	—	胴部下半 (5%)	ナデ	12.5A-黄褐色 (H.97.4)	黒色化	—	—		

表59 E-47区出土復原土器観察表

調査番号	図面	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
118	21	44	E-47区	V層	—	32	23.6	14.6	9.2	367	口縁～底面	黒陶	黒陶土器 形未詳式
接合破片総点数		37	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			—							
胎土 (泥和材)		繊維	中量	粒徑	細粒	種類	赤石・灰石 — —	量	少量	備考			
外	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内			
	3段文	にじみ・黄褐色 (10YR6/4)	黒色化	—	口縁部 (20%)	—	—	—	—				
	1段文	にじみ・褐色 (7.5YR7/4)	黒色化	—	口縁部 (20%)	ナゲ	にじみ・褐色 (7.5YR7/4)	黒色化	—				
	1段文	にじみ・褐色 (7.5YR7/4)	黒色化	—	胴部上半 (20%)	ナゲ	にじみ・黄褐色 (10YR6/4)	黒色化	—				
	1段文	にじみ・褐色 (7.5YR7/4)	黒色化	—	胴部下半～底面 (70%)	ナゲ	にじみ・黄褐色 (10YR6/4)	同化物付着	—				
底面	1段文 ナゲ	にじみ・褐色 (7.5YR7/4)	黒色化	—	底面 (30%)	ナゲ	にじみ・黄褐色 (10YR6/4)	—	—	底面			

表60 E-43区出土復原土器観察表

調査番号	図面	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
117	22	44	E-43区	V層	—	32	33.5	32.8	8.4	2,275	口縁～底面	黒陶	黒陶土器 形未詳式
接合破片総点数		49	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			E-43区・V層・(2), G-200C・V層・(2), G-430C・V層・(1), G-430C・V層・(1), K-200C・V層・(1), Q-700C・F層・(1)							
胎土 (泥和材)		繊維	なし	粒徑	細粒	種類	赤石主体	量	少量	備考			
外	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内			
	3段文	にじみ・黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—	口縁部 (20%)	—	—	—	—				
	6段文 6段文	にじみ・黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	縁状工具ナ	口縁部 (20%)	ナゲ	にじみ・褐色 (10YR6/4)	黒色化	—				
	3段文	(黒褐色)	黒色化	—	胴部上半 (30%)	ナゲ	にじみ・褐色 (10YR6/4)	黒色化 同化物付着	—				
	3段文 様未定	にじみ・黄褐色 (5YR5/4)	—	—	胴部下半～底面 (30%)	ナゲ	(黒褐色)	黒色化	—				
底面	3段文	にじみ・黄褐色 (5YR5/4)	—	—	底面 (5%)	—	—	—	—	底面			

表61 T-16区出土復原土器観察表

調査番号	図面	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
117	23	44	T-16区	V層	—	11	(16.7)	24.8	—	1,818	口縁～胴部上半	黒陶	形未詳
接合破片総点数		11	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			—							
胎土 (泥和材)		繊維	なし	粒徑	中～細粒	種類	赤石主体	量	中量	備考			
外	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内			
	3段文	にじみ・黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—	口縁部 (50%)	—	—	—	—				
	丹波刺青文 3段文様	(黒褐色)	黒色化 同化物付着	縁状工具	口縁部 (50%)	突縁 ナゲ 胴部上半	にじみ・黄褐色 (10YR7/4)	—	—				
底面	3段文 様未定	にじみ・黄褐色 (10YR7/4)	—	—	胴部上半 (40%)	ナゲ	(黒褐色)	黒色化	—	底面			

表62 c-22区出土復原土器観察表

図 番号	図 原	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
117	24	44	a-22区	V層	—	31	(31.2)	17.2	—	402	口縁～ 頸部上半	陶器	新野56 赤褐色
接合破片 総点数		13	接合・同一體破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			b-22区・V層・(1), c-22区・V層・(1)							
胎土 (澁和材)		繊維	なし	粒徑	細～中粒	種類	灰白色	量	少量	備考	赤褐色色相		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部 位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	3段縄文		にじみ・黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 部化特付者	—	口 唇 部 (80%)							
	磁針群 片形群交文 L.R・R.L.羽状縄文		にじみ・黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	縁状工具 一箇所	口 縁 部 (80%)	突端 ナデ (工具のナデ)	にじみ・褐色 (7.5YR5/4)	—	—			
	L.R・R.L.羽状縄文		にじみ・褐色 (7.5YR5/4)	—	網罟	胴部上半 (80%)	ナデ (工具のナデ)	褐色 (7.5YR4/2)	黒色化	—			
内											面		

表63 g-17区出土復原土器観察表

図 番号	図 原	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
117	25	44	g-17区	V層	—	31	(31.2)	19.0	—	3,309	口縁～ 頸部下半	陶器	新野56 赤褐色
接合破片 総点数		13	接合・同一體破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			a-16区・V層・(2)							
胎土 (澁和材)		繊維	なし	粒徑	細～中粒	種類	灰白色	量	中～多量	備考	運行破片		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部 位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	3段縄文		にじみ・黄褐色 (10YR7/2)	黒色化	—	口 唇 部 (20%)							
	磁針群 群交文 L.R・R.L.羽状縄文		にじみ・黄褐色 (10YR7/2)	黒色化	縁状工具 縁部 2ヶ所	口 縁 部 (15%)	ナデ	にじみ・黄褐色 (10YR7/2)	黒色化	—			
	L.R・R.L.羽状縄文		にじみ・黄褐色 (10YR7/2)	部化特付者	—	胴部上半 (20%)	ナデ	(黒褐色)	黒色化	—			
内											面		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部 位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	L.R・R.L.羽状縄文		にじみ・黄褐色 (10YR7/4)	—	—	胴部下半 (10%)	ナデ	にじみ・黄褐色 (10YR7/4)	—	—			

表64 U-16区出土復原土器観察表

図 番号	図 原	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
117	28	45	U-16区	V層	—	32	(31.4)	26.4	—	1,394	口縁～ 頸部下	陶器	新野56 タンブ式
接合破片 総点数		27	接合・同一體破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			V-16区・V層・(2), Y-17区・V層・(4), Y-16区・V層・(1)							
胎土 (澁和材)		繊維	少量	粒徑	粗粒	種類	灰白色	量	中～多量	備考	運行破片		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部 位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	3段縄文		黄褐色 (10YR6/2)	黒色化	—	口 唇 部 (50%)							
	磁針群 群交文 L.R・R.L.羽状縄文		黄褐色 (10YR6/2)	—	—	口 縁 部 (50%)	3段縄文 部化 突端	にじみ・黄褐色 (10YR7/2)	黒色化	—			
	L.R・R.L.羽状縄文		黄褐色 (10YR6/2)	—	—	胴部上半 (40%)	ナデ 頸部	にじみ・黄褐色 (10YR7/2)	黒色化	—			
内											面		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部 位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	L.R・R.L.羽状縄文		黄褐色 (10YR6/2)	—	—	胴部下半 (15%)	ナデ	(黒褐色)	黒色化	—			

表65 c-19区出土復原土器観察表

図 番号	図 区	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
117	27	45	a-19区	V層	—	33	42.3	38.8	8.8	3,265	口縁 ~底部	陶器	新島編 507式
接合破片 総点数				48	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			V-12C・V層・(1), V-10C・V層・(1), V-10C・V層・(1), V-10C・V層・(2), Z-12C・V層・(1), Z-12C・V層・(1), Z-10C・V層・(1), b-10C・V層・(1), b-10C・V層・(1), a-10C・V層・(1), a-10C・V層・(1), f-12C・V層・(1)					
胎土 (澁和材)		織様	粒径	相粒	種類	硬石主体	量	中~多量	備考	産内観察			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部 位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	13編文		灰白色 (10Y9/2)	—	—	口 唇 部 (20%)							
	編付帯 刺突文		灰白色 (10Y9/2)	黒色化	縁状工具 二部一組	口 縁 部 (20%)	ゴコナデ (直前の調整帯)		12C・黄褐色 (10Y9/7)	—	—		
	編付帯 1.R・9L・10L編文		灰白色 (10Y9/2)	黒色化	—	胴部上 半 (50%)	ゴコナデ (直前の調整帯)		12C・黄褐色 (10Y9/7)	—	—		
	編付帯 1.R・9L・10L編文		12C・黄褐色 (10Y9/7)	—	—	胴部下 半 ~ 底 部 (30%)	ゴコナデ (直前の調整帯)		12C・黄褐色 (10Y9/7)	—	—		
底	ナデ		12C・黄褐色 (10Y9/7)	—	—	底 面		12C・黄褐色 (10Y9/7)	—	—	底		

表66 d-14区出土復原土器観察表

図 番号	図 区	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
118	28	45	d-14区	V層	—	41	21.8	25.8	—	3,558	口縁~ 胴部下半	陶器	新島編 タブツ式
接合破片 総点数				8	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			b-10C・V層・(1), f-10C・V層・(2), a-10C・V層・(1)					
胎土 (澁和材)		織様	少量	粒径	相粒	種類	硬石主体	量	中~多量	備考	産内観察		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部 位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	13編文ナ		12C・黄褐色 (10Y9/7)	黒色化	突起部 2ヶ所	口 唇 部 (30%)							
	編付帯 13編文 13編文		12C・黄褐色 (10Y9/7)	黒色化 褐色 5Y6/2-3	—	口 縁 部 (30%)	13編文		12C・黄褐色 (10Y9/7)	黒色化	—		
	13編文		12C・黄褐色 (10Y9/7)	黒色化 赤色化 褐色 5Y6/2-3	—	胴部上 半 (40%)	ナデ (直前の調整帯)		(黒褐色)	黒色化	—		
	13編文		12C・黄褐色 (10Y9/7)	—	—	胴部下 半 (20%)	ナデ (直前の調整帯)		(褐色)	黒色化	—		
底	13編文		12C・黄褐色 (10Y9/7)	—	—	底 面		(褐色)	黒色化	—	底		

表67 T-16区出土復原土器観察表

図 番号	図 区	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
118	29	45	T-16区	V層	—	52	26.5	18.6	5.6	1,812	口縁 ~底部	陶器	新島編 タブツ式
接合破片 総点数				52	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			f-10C・V層・(1)					
胎土 (澁和材)		織様	少量	粒径	相粒	種類	硬石主体	量	少量	備考	産内観察		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部 位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	13編文		浅黄褐色 (10Y9/2)	黒色化	—	口 唇 部 (70%)							
	13編文 13編文		浅黄褐色 (10Y9/2)	同色化 付帯	刺突	口 縁 部 (70%)	13編文		浅黄褐色 (10Y9/2)	黒色化	—		
	13編文		浅黄褐色 (10Y9/2)	黒色化	刺突	胴部上 半 (70%)	ナデ		浅黄褐色 (10Y9/2)	—	—		
	13編文		浅黄褐色 (10Y9/2)	—	—	胴部下 半 ~ 底 部 (30%)	ナデ		12C・黄褐色 (10Y9/7)	黒色化	—		
底	13編文		浅黄褐色 (10Y9/2)	—	—	底 面		12C・黄褐色 (10Y9/7)	黒色化	刺突	底		

表68 Y-16区出土復原土器観察表

調査番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
						器高	口径	底径				
118	30	46	Y-16区	V層	—	33.0	24.2	7.8	2,654	口縁～底部	陶器	新形土師 土師フス
接合破片総点数		92	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)				Y-17区・V層・(18)					
胎土 (混和材)		繊維	なし	粒徑	中粒	種類	粘土主体	量	少量	備考		
外	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	1.3土師文	浅黄褐色 (10P30・4)	—	—	口唇部 (70%)	—	—	—	—			
	1.2土師文 1.3土師文	(黒褐色)	黒色化	—	口縁部 (70%)	1.3土師文	浅黄褐色 (10P30・3)	—	—			
	1.3土師文	浅黄褐色 (10P30・3)	黒色化	—	胴部上半 (80%)	1.3土師文 ナデ	浅黄褐色 (10P30・3)	黒色化	—			
	1.3土師文	浅黄褐色 (10P30・3)	—	—	胴部下半～底部 (80%)	ナデ	(黒褐色)	黒色化	—			
底	1.3土師文	浅黄褐色 (10P30・3)	—	—	底面 (20%)	—	—	—	—	底		

表69 d-12区出土復原土器観察表

調査番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
						器高	口径	底径				
118	31	46	d-12区	V層	—	29.4	22.8	6.8	3,328	口縁～底部	陶器	新形土師
接合破片総点数		56	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)				d-11区・V層・(15)、d-11区・V層・(10)					
胎土 (混和材)		繊維	なし	粒徑	中～細粒	種類	粘土主体	量	少量	備考		
外	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	3.1土師文	浅黄褐色 (10P30・3)	黒色化	—	口唇部 (40%)	—	—	—	—			
	3.1土師文	浅黄褐色 (10P30・3)	黒色化	—	口縁部 (50%)	3.1土師文	浅黄褐色 (10P30・3)	黒色化	—			
	3.1土師文	浅黄褐色 (10P30・3)	黒色化	—	胴部上半 (60%)	ナデ	浅黄褐色 (10P30・3)	黒色化	—			
	3.1土師文	浅黄褐色 (10P30・4)	—	—	胴部下半～底部 (70%)	ナデ	(黒褐色)	黒色化	—			
底	3.1土師文	浅黄褐色 (10P30・4)	—	上げ底	底面 (90%)	ナデ	にじみ黄褐色 (10P37・3)	—	—	底		

表70 W-30区出土復原土器観察表

調査番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
						器高	口径	底径				
118	32	46	W-30区	V層	—	17.21	12.8	—	227	口縁～胴部中央	小型 陶器	新形土師
接合破片総点数		14	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)				W-29区・V層・(4)					
胎土 (混和材)		繊維	少量	粒徑	中～細粒	種類	粘土主体	量	中量	備考		
外	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	ナデ	にじみ黄褐色 (10P37・3)	—	—	口唇部 (70%)	—	—	—	—			
	1.3土師文	にじみ黄褐色 (10P37・3)	黒色化	細砂孔 1.0mm	口縁部 (70%)	1.3土師文	にじみ黄褐色 (10P37・3)	黒色化	—			
底	1.3土師文	にじみ黄褐色 (10P37・3)	—	—	胴部上半 (10%)	1.3土師文	(黒褐色)	黒色化	—	底		

表71 M-42区出土復原土器観察表

図 番号	図原	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
118	33	46	M-42区	V層	—	8	15.2	9.8	4.8	210	口縁 ~底面	小型 須臾	新野古陶
接合破片 総点数		14	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			L-42D・V層・(27)・N-42D・V層・(11)・P-42D・V層・(1)							
胎土 (澁和材)		繊維	少量	粒徑	中~細粒	種類	岩石主体	量	少量	備考	—		
外	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部 位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内			
	1.30織文	比色:黄褐色 (10YR7/2)	黒色化	—	口 唇 部 (20%)	—	—	—	—				
	1.30織文	比色:黄褐色 (10YR7/2)	黒色化	—	口 縁 部 (20%)	ナダ	灰黄褐色 (10YR6/2)	—	—				
	1.30織文	比色:黄褐色 (10YR7/2)	黒色化	—	胴部上半 (15%)	ナダ	灰黄褐色 (10YR6/2)	—	—				
面	ナダ (表面に浅小 窪型)	比色:黄褐色 (10YR7/2)	—	—	胴部下半 ~底面 (50%)	ナダ	(黒褐色)	黒色化	—				
	ナダ (底)	比色:黄褐色 (10YR7/2)	—	—	底 面 (100%)	ナダ	(黒褐色)	黒色化	—				

表72 a-19区出土復原土器観察表

図 番号	図原	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
118	34	46	a-19区	V層	—	3	10.0	—	9.0	226	胴部下半 ~底面	須臾	新野古陶
接合破片 総点数		7	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			—							
胎土 (澁和材)		繊維	少量	粒徑	中~細粒	種類	岩石主体	量	少量	備考	—		
外	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部 位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内			
	1.30織文 斜小織文	比色:黄褐色 (10YR7/2)	—	—	胴部下半 ~底面 (15%)	ナダ	比色:黄褐色 (10YR6/2)	—	—				
面	ナダ (底)	比色:黄褐色 (10YR6/2)	黒色化	—	底 面 (90%)	ナダ	比色:黄褐色 (10YR6/2)	—	—	面			

表73 Y-23区出土復原土器観察表

図 番号	図原	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
118	35	46	Y-23区	V層	—	2	18.1	—	4.0	411	胴部下半 ~底面	須臾	新野古陶
接合破片 総点数		3	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			—							
胎土 (澁和材)		繊維	少量	粒徑	中~細粒	種類	岩石・灰物 (シルト)	量	少量	備考	白色破片 彩色灰物		
外	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部 位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内			
	1.30織文	明黄褐色 (10YR6/8)	—	—	胴部下半 ~底面 (30%)	ナダ	(黒褐色)	黒色化	—				
面	1.30織文	明黄褐色 (10YR6/8)	—	磨料	底 面 (100%)	ナダ	(黒褐色)	黒色化	—	面			

表74 Z-13区出土復原土器観察表

図 番号	図原	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
118	36	46	Z-13区	V層	—	8	18.0	—	4.0	181	胴部 ~底面	須臾	豊前川古陶
接合破片 総点数		9	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			Z-13D・V層・(1)							
胎土 (澁和材)		繊維	なし	粒徑	細~中粒	種類	灰物主体	量	中量	備考	—		
外	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部 位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内			
	ナダ 調整痕	比色:褐色 (7.5YR6/4)	10褐色化	磨料	胴部下半 ~底面 (20%)	ナダ	(褐色)	黒色化	—				
面	ナダ	比色:褐色 (7.5YR6/4)	10褐色化	上げ底	底 面 (60%)	ナダ	(褐色)	黒色化	—	面			

表75 h-18区出土復原土器観察表

図 番号	図 区	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
119	37	47	h-18区	48層	—	29	(32.5)	33.0	—	2,200	口縁～ 胴部下位	陶器	新器(胎) タアノ式
接合破片 点数		28	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)				—						
胎土 (混和材)		繊維	なし	粒徑	中粒	種類	新器・新物 土にのみ	量	少量	備考	有色胎物		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部 位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	—		—	—	—	口 唇 部 (20%)	—		—	—	—		
	R1編文 L.R・R1.20段編文		紅褐色 (T.25/27・4)	黒色化	—	口 縁 部 (20%)	R1編文	紅褐色 (T.25/27・4)	黒色化	—	—		
	L.R・R1.20段編文		紅褐色 (T.25/27・4)	—	—	胴部上半 (20%)	ナデ	灰黒褐色 (10/15.2)	黒色化	—	—		
面	L.R・R1.20段編文		黒褐色 (10/15.2)	—	—	胴部下半 ～ 底部 (15%)	ナデ	(黒褐色)	黒色化	—	面		

表76 p-7区出土復原土器観察表

図 番号	図 区	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
119	38	47	p-7区	48層	—	41	(33.8)	34.8	—	1,543	口縁～ 胴部中段	陶器	新器(胎) 堂林式
接合破片 点数		49	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)				p-7区・48・(5)						
胎土 (混和材)		繊維	なし	粒徑	細粒	種類	新器・新物 土にのみ	量	少～中量	備考	有色胎物		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部 位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	—		—	—	—	口 唇 部 (40%)	—		—	—	—		
	ナデ		褐色 (T.25/27.6)	黒色化	—	口 縁 部 (40%)	内面からの 削ぎ ナデ	紅褐色 (T.25/27.4)	黒色化	—	—		
	空室文 L.R編文		紅褐色 (T.25/27.4)	黒色化	縁状土具	胴部上半 (40%)	ナデ	紅褐色 (T.25/27.4)	黒色化	—	—		
面	L.R編文		紅褐色 (T.25/27.4)	黒色化	—	胴部上半 (30%)	ナデ	紅褐色 (T.25/27.4)	黒色化	—	面		

表77 遺構出土破片土器観察表(1)

図	番号	図層	出土地点	層位	遺物 番号	破片数		破片部位			重量 (g)	器種	分類		備考 (土器変式)				
						小計	合計	外蓋	内蓋	(部位)			外蓋	内蓋		外蓋	内蓋		
出土(昭和村)						文様・調整			色調			使用の痕跡							
種類		処理		種類		外蓋		内蓋		(部位)		外蓋		内蓋		外蓋		内蓋	
120	1	47	H-1	遺土	6	1		胴部			8.0	深鉢	青群a型					内面割傷	
無	無	無	無	遺石・灰物 ともにあり	L.R.縄文														
					8	1													
					9	1													
120	2	47	H-2	灰層		2		胴部			60.7	深鉢	青群a型					外面1/2割傷	
無	無	無	無	遺石主体	胎行帯 L.R.縄文		ナデ	(胎行帯) R.L.縄文											
					H-1 H-2 H-3 H-4 H-5 H-6 H-7 H-8 H-9 H-10														
120	3	47	H-2	遺土		4		底部			119.8	深鉢	青群a型					内面割傷	
少量ナ	無	無	無	遺石主体	R.L.縄文 胎行帯外縁文 ナデ			(底外面) ナデ											
120	4	47	H-2 A	遺土		1		胴部			23.3	深鉢	青群a型					黒色化	
微量	無	無	無	遺石主体	L.R.・R.L.縄文 胎行帯外縁文		ナデ												
120	5	47	H-3	遺土		3		底部			136.2	深鉢	青群a型					内面割傷後難様	
微量	無	無	無	遺石主体ナ	L.R.縄文		ナデナ	(底外面)胎 帯厚縁ナ											
120	6	47	H-4	遺土		1		胴部			23.6	深鉢	青群a型					黒色化ナ	
中量	無	無	無	遺石主体 (薬円破片)	L.R.縄文 縁飾文ナ		ナデ												
120	7	47	H-5	遺土		1		胴部			12.1	深鉢	青群a型					黒色化	
無	無	無	無	遺石主体 (多量 薬円破片)	ナ縄文		ナデ												
120	8	47	H-6	灰層	2	1		胴部			86.9	深鉢	青群a型					外面難様	
無	無	無	無	遺石・灰物 ともにあり (多量)	胎行帯 L.R.・R.L.縄文		ナデ	(胎行帯) L.R.縄文ナ											
120	9	47	H-6	灰層	3	1		胴部			45.1	深鉢	青群a型					黒色化	
無	無	無	無	遺石・灰物 ともにあり (胎行帯外縁)	胎行帯 L.R.縄文		ナデ	(胎行帯) R.L.縄文											
121	10	47	H-6	遺土		2		胴部			81.5	深鉢	青群a型					黒色化	
中量	無	無	無	遺石主体	L.R.・R.L. 縄文		ナデ (工具のナデ)												
121	11	47	H-7	灰層	5	7		胴部			130.2	深鉢	青群a型					黒色化	
少〜中量	無	無	無	遺石・灰物 ともにあり (ユツギナ)	胎行帯 L.R.・R.L.縄文		ナデ	(胎行帯) L.R.・R.L.縄文											
121	12	47	H-8	灰層	17	3		口縁部			58.8	深鉢	青群a型					黒色化 胎行帯ナ	
無	無	無	無	遺石主体 (白色胎片 薬円破片)	R.L.縄文 ナデ		R.L.ナ縄文 ナデ	(口縁部) ナデ											
121	13	47	H-8	灰層	36	1		胴部			32.9	深鉢	青群a型					内面割傷	
無	無	無	無	遺石主体 (灰胎 薬円破片)	L.R.縄文														
121	14	47	H-10	灰層	197	1		胴部			63.1	深鉢	青群a型					黒色化	
無	無	無	無	遺石・灰物 ともにあり (中量)	L.R.縄文		ナデ												
121	15	47	H-10	遺土 胎行帯		2		口縁部			15.8	深鉢	青群a型					黒色化	
無	無	無	無	遺石・灰物 ともにあり	R.L.縄文		ナデ	(口縁部) ナデ											
121	16	47	H-10	遺土 胎行帯		1		胴部			127.6	深鉢	青群a型					黒色化	
無	無	無	無	遺石主体 (白色胎片 薬円破片 多量)	L.R.・R.L. 縄文		ナデ												



表77 遺構出土破片土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物 番号	破片数		破片部位			重量 (g)	器種		分類	備考 (土器型式)
						小計	合計	外蓋	内蓋	(部位)		外蓋	内蓋		
胎土(混和材)						文様・調整			色調			使用の痕跡			
種類		粘径	種類		外蓋	内蓋	(部位)	外蓋	内蓋	外蓋	内蓋	外蓋	内蓋		
121	17	47	H-12	遺土 貯蔵	—	1		口縁部		36.9		深鉢	青群a型	内面1/2割跡	
無	細粒		岩石主体		胎行華 L.R.縄文		ナゲ	(口唇部) R.L.縄文 (胎行華) R.L.縄文		(黒褐色)		にぶい黄褐色 (10197/3)	反黄褐色 (10195/2)	黒色化 炭化物付着	—
121	18	47	H-13	床 直上	5	1		胴部		22.2		深鉢	青群a型		
微量	細粒		岩石・胎物 ともにあり		L.R.・R.L.縄文 紋付中絶縄文 胎土等1種?		ナゲ			—		にぶい黄褐色 (10195/3)	反黄褐色 (10195/2)	黒色化	黒色化
121	19	47	H-13	遺土 貯蔵	—	1		胴部		37.2		深鉢	青群a型	内面割跡	
無	粗～中粒		岩石主体 (要目確認)		胎行華 R.L.縄文		ナゲ	(胎行華) R.L.縄文		反黄褐色 (10195/4)		反黄褐色 (10195/2)		—	—
121	20	47	H-13	遺土 貯蔵	—	1		底面		370.0		深鉢	青群a型	内面割跡	
無	細粒		岩石主体 (要目確認)		L.R.L.縄文		ナゲ	(底外面) ナゲ		にぶい黄褐色 (10195/4)		反黄褐色 (10195/2)		—	—
121	21	47	H-14	遺土 貯蔵	—	1		胴部		36.6		深鉢	青群a型	内面1/2割跡	
少量	細粒		岩石・胎物 ともにあり		胎行華 L.R.縄文 紋付中絶縄文		ナゲ	(胎行華) R.L.縄文		緑色 (7.5196/6)		にぶい黄褐色 (2.9196/2)		—	—
121	22	47	H-15	遺土 貯蔵	—	2		胴部		35.8		深鉢	青群a型	内面1/2割跡 22と同一個体	
微量	粗～中粒		岩石・胎物 ともにあり		胎行華 R.L.縄文		ナゲ	(胎行華) R.L.縄文		緑色 (7.5196/6)		反黄褐色 (10195/2)		—	—
121	23	47	H-15	遺土 貯蔵	—	2		胴部		72.0		深鉢	青群a型	外面1/2割跡 21と同一個体	
無	中粒		岩石主体 (要目確認)		L.R.縄文		ナゲ			(陶灰色) (10194/1)		にぶい黄褐色 (10194/2)		黒色化	—
122	24	48	H-16- hp-1	遺土 貯蔵	—	1		口縁部		16.2		深鉢	青群a型	外面1/2割跡	
微量	中～細粒		岩石・胎物 ともにあり		L.R.縄文		ナゲ	(口唇部) ナゲ		にぶい黄褐色 (10196/3)		(黒褐色)		—	黒色化
122	25	48	H-16	遺土 貯蔵	—	1		口縁部		57.1		深鉢	青群a型		
無	細粒		胎物主体 (有色胎物 目立)		胎付? L.R.縄文 ナゲ		ナゲ	(口唇部) ナゲ		反黄褐色 (10195/2)		反黄褐色 (10194/2)		黒色化	黒色化
122	26	48	H-17	遺土 貯蔵	—	1		底面		145.6		深鉢	青群a型		
無	中粒		岩石・胎物 ともにあり		ナゲ		ナゲ	(底外面) ナゲ 胎土混入		にぶい黄褐色 (10196/3)		にぶい黄褐色 (10196/2)		—	—
122	27	48	H-19	遺土 貯蔵	—	1		胴部		25.7		深鉢	青群a型		
無	中粒		岩石・胎物 ともにあり		胎行華 L.R.縄文		ナゲ	(胎行華) R.L.縄文		にぶい緑色 (7.5196/4)		反褐色 (7.5195/2)		—	黒色化?
122	28	48	H-19	遺土 貯蔵	—	1		胴部		78.1		深鉢	青群a型	外面1/2割跡	
微量	中粒		岩石・胎物 ともにあり		胎行華 L.R.縄文 紋付中絶縄文		ナゲ	(胎行華) ?		にぶい黄褐色 (10197/4)		にぶい黄褐色 (10196/4)		—	—
122	29	48	H-20	遺土 貯蔵	—	1		口縁部		76.2		深鉢	青群a型		
無	細粒		胎物主体 (有色胎物 多量)		胎付 胎土混入 L.R.縄文		ナゲ 胎土混入	(口唇部) R.L.縄文 (胎行華)		にぶい黄褐色 (10197/3)		にぶい黄褐色 (10197/2)		黒色化 炭化物付着	—
122	30	48	H-20	遺土 貯蔵	—	1		胴部		90.3		深鉢	青群a型		
無	細粒		胎物主体 (有色胎物)		R.L.縄文?		ナゲ			にぶい黄褐色 (10197/4)		にぶい黄褐色 (10194/3)		—	—
122	31	48	P-8	遺土	—	1		胴部		28.7		深鉢	青群a型	内面割跡	
無	細粒		岩石主体 (要目確認)		R.L.縄文		ナゲ			にぶい緑色 (7.5196/4)		にぶい黄褐色 (10195/4)		—	—
122	32	48	P-10	遺土	6 7	1	2	口縁部		100.7		深鉢	青群a型	内面割跡	
無	細粒		岩石主体 (要目確認 多量)		R.L.縄文 胎土混入		ナゲ (要目)	(口唇部) 中絶文		(黒褐色)		にぶい黄褐色 (10195/3)		黒色化 炭化物付着	—

表77 遺構出土破片土器観察表(3)

図	番号	図面	出土地点	層位	遺物 番号	破片数		破片部位		重量 (g)	器種	分類		備考 (土器形式)
						小計	合計	外面	内面			外面	内面	
粘土(混和材)						文様・調整				色調		使用の痕跡		
縁部	粘付	種類	外面	内面	(部位)	外面	内面	外面	内面	外面	内面	外面	内面	
122	33	40	P-11	遺土	—	1	胴部	—	29.0	陶鉢	青群 a 型	—	—	
中流	細粒	灰物主体 (有色灰物)	胎付層 L.R. 土 陶文	ナデ	(胎付層) R.L. 陶文	淡黄色 (2.5/7/3)	淡黄色 (2.5/7/3)	—	—	—	—	—	—	
122	34	40	P-12	遺土	—	1	胴部	—	17.5	陶鉢	青群 a 型	—	—	
少～中流	細粒	灰物主体	胎付層 L.R. 土・R.L. 陶文	ナデ	(胎付層) L.R. 陶文	淡い黄棕色 (10/96/2)	淡い黄棕色 (10/96/0)	—	—	—	—	黒色化	—	
122	35	40	P-17	遺土	10	1	胴部	—	69.0	陶鉢	青群 a 型	—	内面割離	
中流	細粒	灰物主体 (薄層状 薬肉確認)	L.R.・R.L. 陶文 (原形地層の 同層位に灰)	—	—	淡い黄棕色 (10/97/4)	淡い黄棕色 (10/96/2)	—	—	—	—	黒色化	—	
122	36	40	P-17	遺土	—	1	口縁部	—	29.7	陶鉢	青群 a 型	—	内面3/4割離	
無	細～中粒	灰石・灰物 ともにあり	胎付層 ナデ	ナデ	(口縁部)ナデ (胎付層) R.L. 陶文	(黒褐色)	淡い黄棕色 (10/96/0)	—	—	—	—	黒色化 炭化層付着	—	
122	37	40	P-20	遺土	—	1	胴部	—	23.4	陶鉢	青群 a 型	—	—	
中流	中～細粒	灰物主体 (白色灰石)	L.R.L.・R.L. 陶文	ナデナデ	—	灰黄褐色 (10/96/2)	淡い黄棕色 (10/97/3)	—	—	—	—	—	—	
122	38	48	P-24 Z-15区 b-16区	遺土 V層	3 1 1	3	底面	—	196.4	陶鉢	青群 a 型	—	内面割離	
無	細粒	灰物主体 (薄層状 薬肉確認)	L.R.・R.L. 陶文 (原形地層の 同層位に灰)	—	—	(底外面) ナデ	棕色 (7.5/96/4)	淡い黄棕色 (10/96/0)	—	—	—	—	—	
122	39	48	P-29	遺土	—	1	胴部	—	13.4	陶鉢	青群 a 型	—	—	
無	中～細粒	灰物主体 (薬肉確認)	L.R. 陶文 原形同層位	ナデ	—	淡い黄棕色 (10/95/0)	(黒褐色)	—	—	—	—	黒色化	—	
123	40	48	P-32	遺土 H層	—	1	底面	—	37.3	陶鉢	青群 a 型	—	—	
無	中～細粒	灰物主体 (薄層状)	L.R. 土 陶文 灰文施ナデ	ナデ	(底外面) L.R. 土 陶文 ナデ	淡い黄棕色 (10/96/0)	(黒褐色)	—	—	—	—	黒色化	—	
123	41	48	P-35	遺土 H層	—	2	底面	—	88.6	陶鉢	青群 a 型	—	内面割離	
無	中～細粒	灰石・灰物 ともにあり	R.L. 陶文 ナデ	—	—	(底外面) ナデ	淡い黄棕色 (10/97/4)	灰黄褐色 (10/93/2)	赤褐色 (棕色) 2.5/97/4)	—	—	—	—	
123	42	48	P-36	遺土 H層	—	1	胴部	—	43.5	陶鉢	青群 a 型	—	内面割離	
無	細粒	灰物主体 (有色灰物)	L.R.L. 陶文 (原形同層位)	—	—	—	淡い黄棕色 (10/96/0)	(灰褐色)	—	—	—	黒色化?	—	
123	43	48	P-36	遺土 H層	—	1	胴部	—	8.4	陶鉢	青群 a 型	—	内面割離	
無	中粒	灰石・灰物 ともにあり (細粒の右)	胎付層 L.R. 陶文	—	—	(胎付層) R.L. 陶文	淡い黄棕色 (10/96/0)	淡い黄棕色 (10/95/4)	—	—	—	—	—	
123	44	48	S F-8 U-10区	遺土 H層 V層	8 1	3	胴部	—	145.2	陶鉢	青群 a 型	—	量129-72 と同一体	
無	細粒	灰物主体 (スロリアク、 赤色～赤褐色)	L. 陶文 (胎付)	ナデ	—	—	淡い黄棕色 (10/96/2)	灰黄褐色 (10/95/2)	—	—	—	黒色化	—	
123	45	48	S F-9	遺土 H層	6	2	口縁部	—	308.8	陶鉢	青群 a 型	—	外面1/4割離	
無	表～中粒	灰物主体	L.R. 陶文	L.R. 陶文 ナデ	(口縁部) ナデ	淡黄色 (2.5/7/3)	淡い黄棕色 (2.5/9/2)	—	—	—	—	黒色化	—	
123	46	48	F-2	遺土	—	1	胴部	—	27.7	陶鉢	青群 a 型	—	内面1/2割離	
無	中粒	灰石・灰物 ともにあり	胎付層 L.R. 陶文	ナデ	(胎付層) R.L. 陶文	淡い黄棕色 (10/96/0)	(黒褐色)	—	—	—	—	黒色化	—	
123	47	48	F-3 T-33区	遺土 V層	—	1	胴部	—	210.4	陶鉢	青群 a 型	—	—	
無	細～中粒	灰物主体	L.R.・R.L. 陶文	ナデ	—	—	淡い黄棕色 (10/96/0)	淡い黄棕色 (10/96/2)	—	—	—	—	—	
123	48	48	F-9	遺土	—	1	胴部	—	18.3	陶鉢	青群 a 型	—	内面割離	
無	中粒	灰物主体	胎付層 R.L. 陶文	—	—	(胎付層) R.L. 陶文	淡い黄棕色 (10/97/2)	淡黄褐色 (10/98/2)	—	—	—	—	—	

表77 遺構出土破片土器観察表(4)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物 番号	破片数		破片部位	重量 (g)	器種	分類	備考 (土器定式)			
						小計	合計								
胎土(混和材)						文様・調整			色調		使用の痕跡				
種類		粘理		種類		外蓋		内蓋		(部位)		外蓋		内蓋	
123	49	48	F-9	焼土	—	1	底面	18.0	灰緑	IV群 a 型	—	内面割離			
無	中粒	岩石・土物 ともに見る		ナズ	—	(底内面) ナズ		2.55・黄棕色 (10187/3)	2.55・黄棕色 (10187/2)	—	—	—			
123	50	48	PS-2	V層	1	1	胴部	154.2	灰緑	IV群 a 型	—	外面1/4割離			
無	粗粒	岩石土塊 (多量) 重円筒状		L.R・R.L 調文	ナズ	—	—	2.55・黄棕色 (10187/3)	灰白色 (10188/2)	—	—	黒色化			
123	51	48	PS-3	V層	—	3	胴部	71.9	灰緑	IV群 a 型	—	外面1/3・内面 割離			
無	粗粒	岩石土塊 (重円筒状)		L.R調文	—	—	—	明黄棕色 (10187/6)	2.55・黄棕色 (10188/3)	—	—	—			
123	52	48	PS-3	V層	—	1	胴部	96.1	灰緑	IV群 a 型	—	—			
無	粗～中粒	岩石土塊		L.R・R.L 調文	ナズ	—	—	2.55・黄棕色 (10187/1)	灰黄棕色 (10188/3)	—	—	炭化物付着			
123	53	48	S-1	V層	—	1	D縁部	21.9	灰緑	IV群 a 型	—	全体割離 内面割離			
無	中粒	岩石土塊		円形刺突文 及L調文	—	—	—	2.55・黄棕色 (10186/1)	2.55・黄棕色 (10187/1)	(口唇部) L.R調文	—	—			



表78 A・B地区 包含層出土破片土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類		備考(土器形式)
						小計	合計				外蓋	内蓋	
粘土(混和材)					文様・調整			色調		使用の痕跡			
縦横	粘理	理陰	外蓋		内蓋		(部位)	外蓋	内蓋	外蓋	内蓋		
124	15	49	V-27区	V層	—	1	口縁部	9.9	深鉢	群a型	唇内中折式		
多量	中粒		岩石・動物 ともにあり (赤瓦混在)		R.L.縄文	ナゾ	(口縁部) ナゾ	(黒褐色)	(黒褐色)	黒色化 炭化跡付着	黒色化 炭化跡付着		
124	16	49	V-31区	V層	—	1	口縁部	65.0	深鉢	群a型	唇内中折式 外蓋1/4・内蓋1/2 割断		
多量	中粒		岩石・動物 ともにあり (赤褐色)		L.R.縄文	ナゾ	(口縁部) ナゾ	(黒褐色)	褐色色 (10192/1)	黒色化 炭化跡付着	黒色化 炭化跡付着		
124	17	49	O-20区	V層	—	1	胴部	46.9	深鉢	群b型	最夕割式		
多量	中粒		岩石・動物 ともにあり		足付 手載竹管 平行沈埋文 L.R.縄文	ナゾ L.ナゾ	(足付) 手載竹管 解吸文	じぶい・黄褐色 (10197/3)	じぶい・黄褐色 (10196/3)	黒色化	—		
124	18	49	U-11区 V-11区	V層	—	1	2	胴部	87.1	深鉢	群b型	最夕割式 外蓋1/3・内蓋1/2 割断	
多量	中～細粒		動物主体		足付 手載竹管 平行沈埋文 L.R.縄文	ナゾ	(足付) 手載竹管 解吸文	じぶい・黄褐色 (10197/3)	じぶい・黄褐色 (10197/4)	黒色化	—		
125	19	49	I-45区	V層	—	1	口縁部	41.3	深鉢	群a型	—		
微量	細粒		岩石・動物 ともにあり		足付帯 ナゾ	ナゾ	(口縁部) ナゾ (足付帯) R.L.縄文	褐色色 (10193/3)	じぶい・黄褐色 (10196/4)	黒色化	—		
125	20	49	R-42区	V層	—	1	口縁部	101.3	深鉢	群a型	—		
微量	細粒		岩石・動物 ともにあり		足付帯 L.R.縄文	ナゾ	(口縁部) ナゾ L.R.・R.L.縄文	(黒褐色)	じぶい・黄褐色 (10195/3)	黒色化	—		
125	21	49	R-42区	V層	—	3	胴部	172.0	深鉢	群a型	内蓋1/3割断		
中～少量	細粒		岩石・動物 ともにあり		足付帯 L.R.・R.L.縄文	ナゾ	(足付帯) (足付帯) L.R.・R.L.縄文	じぶい・黄褐色 (10196/4)	じぶい・黄褐色 (10195/3)	黒色化	—		
125	22	49	W-26区	V層	—	3	口縁部	74.0	深鉢	群a型	—		
無	細粒		岩石主体		足付帯 L.R.・R.L.縄文	文様 ナゾ (沈埋文式の 調整)	(口縁部) ナゾ (足付帯) L.R.・R.L.縄文	じぶい・褐色 (7.5196/4)	じぶい・褐色 (7.5195/4)	黒色化 炭化跡付着	—		
125	23	49	W-27区	V層	—	1	胴部	79.0	深鉢	群a型	—		
無	粗～中粒		岩石主体		足付帯 L.R.・R.L.縄文	ナゾ	(足付帯) L.R.縄文	じぶい・褐色 (7.5195/4)	じぶい・黄褐色 (10197/4)	黒色化 炭化跡付着	—		
125	24	49	N-21区	V層	—	9	口縁部	164.2	深鉢	群a型	外蓋1/3割断		
無	粗～中粒		岩石・動物 ともにあり (赤瓦・黄褐色)		足付帯 円形解吸文 L.R.縄文 ナゾ	ナゾ	(口縁部) ナゾ (足付帯) L.R.縄文	(黒褐色)	じぶい・褐色 (7.5196/4)	黒色化 炭化跡付着	—		
125	25	49	L-20区	V層	—	2	口縁部	211.2	深鉢	群a型	—		
無	中粒		岩石・動物 ともにあり (石瓦・黄褐色)		足付帯 L.R.・R.L.縄文	ナゾ (L.瓦のタタリ)	(口縁部) ナゾ (足付帯) L.R.・R.L.縄文	(黒褐色)	じぶい・黄褐色 (10196/4)	黒色化	—		
125	26	49	T-20区	V層	—	1	口縁部	282.0	深鉢	群a型	—		
無	細粒		岩石主体 (赤褐色 赤瓦混在)		足付帯 L.R.縄文	ナゾ	(口縁部) ナゾ (足付帯) L.R.縄文	(黒褐色)	じぶい・黄褐色 (10197/4)	黒色化 炭化跡付着	—		
125	27	49	M-25区	V層	—	3	口縁部	232.6	深鉢	群a型	—		
無	中粒		岩石・動物 ともにあり (黒粒の石瓦 混在)		足付帯 R.L.縄文	ナゾ	(口縁部) ナゾ (足付帯) R.L.縄文	じぶい・黄褐色 (10195/3)	じぶい・黄褐色 (10197/4)	黒色化	—		
125	28	50	Y-22区	V層	—	1	口縁部	107.8	深鉢	群a型	—		
微量	中～細粒		岩石・動物 ともにあり (石瓦多量)		足付帯 円形解吸文 L.R.縄文 ナゾ	ナゾ	(口縁部) ナゾ (足付帯) L.R.・R.L.縄文	(黒褐色)	褐色色 (7.5193/3)	黒色化 炭化跡付着	—		
126	29	50	X-26区	V層	—	1	口縁部	107.9	深鉢	群a型	—		
微量	細粒		岩石主体 (赤褐色 赤瓦混在)		足付帯 L.R.縄文 ナゾ	ナゾ	(口縁部) ナゾ (足付帯) L.R.・R.L.縄文	じぶい・黄褐色 (10196/4)	褐色色 (2.5197/4)	小色化 (褐色 2.0197/6)	—		

表78 A・B地区 包含層出土破片土器観察表(3)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物 番号	破片数		破片部位	重量 (g)	器種	分類	備考 (土器型式)	
						小計	合計						
絵土(混和材)					文様・調整			色調		使用の痕跡			
縦横		経理		種類	外蓋		内蓋	(部位)	外蓋		内蓋	外蓋	内蓋
126	30	50	T-20区	V層	—	1		口縁部	41.2	深鉢	青群a型	外蓋1/4割断	
瓶へ少量					中～瓶短	岩石主体	胎付帯 R.L.・新交文 L.R.・R.L.縄文 ナツ	(安徳) ナツ	(口唇部) R.L.縄文	にぶい・黄褐色 (10396/1)	にぶい・褐色 (2.3398/1)	—	—
126	31	50	J-30区	V層	—	2		口縁部	99.9	深鉢	青群a型		
瓶					中短	岩石主体 (要円底状)	胎付帯 円部新交文 L.R.・R.L.縄文	ナツ	(口唇部) L.L.縄文 (胎付帯) R.L.縄文	(黒褐色)	灰黄色 (2.536/2)	黒色化 炭化物付着	—
126	32	50	d-14区	V層	—	1		口縁部	89.8	深鉢	青群a型		
瓶					中短	岩石・灰物 ともにあり (有彩色物)	胎付帯 円部新交文 R.L.縄文 ナツ	(安徳) ナツ	(口唇部) R.L.縄文 (胎付帯) R.L.縄文	にぶい・黄褐色 (10396/3)	にぶい・黄色 (2.536/4)	—	—
126	33	50	K-20区	V層	—	1		口縁部	107.7	深鉢	青群a型		
瓶					中短	岩石主体	胎付帯 円部新交文 L.L.縄文(胎付)	(安徳) ナツ	(口唇部) L.L.縄文 (胎付帯) L.R.縄文(胎付帯)	にぶい・黄褐色 (10396/1)	にぶい・黄褐色 (10396/1)	黒色化 炭化物付着	—
126	34	50	U-14区	V層	—	1		口縁部	72.2	深鉢	青群a型		
瓶					短～中短	灰物主体 (有彩色物)	胎付帯 L.L.新交文 R.L.縄文	ナツ	(口唇部) L.L.縄文 (胎付帯) L.L.縄文	灰黄褐色 (10395/2)	浅黄色 (2.5397/1)	黒色化 炭化物付着	—
126	35	50	K-21区	V層	—	2		口縁部	80.6	深鉢	青群a型	外蓋1/6割断	
瓶					短～中短	岩石・灰物 ともにあり	胎付帯 円部新交文 L.L.縄文	(安徳) ナツ	(口唇部) R.L.縄文 (胎付帯) R.L.縄文	(黒褐色)	灰黄色 (2.536/2)	黒色化 炭化物付着	—
126	36	50	f-12区	V層	—	1		口縁部	79.0	深鉢	青群a型		
瓶					短～中短	岩石・灰物 ともにあり	胎付帯 円部新交文 L.L.縄文	ナツ	(口唇部) L.L.縄文 (胎付帯) L.R.・R.L.縄文	(黒褐色)	明褐色 (7.5395/4)	黒色化	—
126	37	50	f-10区	V層	—	3		口縁部	235.2	深鉢	青群a型		
瓶					中短	岩石・灰物 ともにあり	胎付帯 L.L.新交文 L.R.・R.L.縄文	(安徳) ナツ	(口唇部) L.L.縄文 (胎付帯) L.L.縄文	にぶい・黄褐色 (10395/3)	灰黄褐色 (10395/2)	黒色化 赤色化 (粉色 7.5395/6)	—
126	38	50	L-29区	V層	—	2		口縁部	79.6	深鉢	青群a型		
中～少量					中短	岩石・灰物 ともにあり	胎付帯 R.L.縄文	(安徳) ナツ	(口唇部) R.L.縄文 (胎付帯) R.L.縄文	(黒褐色)	にぶい・黄褐色 (10396/4)	黒色化 炭化物付着	—
126	39	50	e-19区	V層	—	1		口縁部	34.8	深鉢	青群a型		
瓶					短	灰物主体 (有彩色物)	新交文 ナツ L.L.縄文 ナツ 新交文(胎付帯)	L.R.縄文 ナツ	(口唇部) L.L.縄文	にぶい・黄褐色 (10397/1)	にぶい・黄褐色 (10396/2)	—	—
126	40	50	K-29区	V層	—	1		口縁部	25.8	深鉢	青群a型		
少量					短	灰物主体	胎付帯 R.L.縄文 ナツ	ナツ	(口唇部)ナツ (胎付帯) R.L.縄文	明赤褐色 (5395/4)	瓶灰色 (10394/1)	—	黒色化
126	41	50	V-26区	V層	—	1		口縁部	16.3	深鉢	青群a型		
瓶へ少量					短	岩石・灰物 ともにあり	胎付帯 胎付 ナツ	ナツ	(口唇部)ナツ (胎付帯) R.L.縄文 (胎付帯) R.L.縄文	明赤褐色 (5395/4)	瓶灰色 (10394/1)	—	黒色化
126	42	50	V-28区 W-26区	V層	—	1 1	2	口縁部	88.2	深鉢	青群a型		
瓶					短	灰物主体 (石面)	胎付帯 胎付 R.L.縄文	ナツ	(口唇部) R.L.縄文 (胎付帯) R.L.縄文 (胎付帯) R.L.縄文	(黒褐色)	(黒褐色)	黒色化	黒色化

表78 A・B地区 包含層出土破片土器観察表(4)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物 番号	破片数		破片部位	重量 (g)	器種	分類		備考 (土器形式)
						小計	合計				外蓋	内蓋	
出土(昭和村)					文様・調整			色調		使用の痕跡			
種類		処理	種類	外蓋	内蓋	(部位)		外蓋	内蓋	外蓋	内蓋		
126	43	50	O-20区	V層	—	1		口縁部	15.7	深鉢	青群a型		内面割線
無	中粒	岩石・動物 ともにあり	胎付帯 胎付 R.L.縄文	—			(口縁部) 刺突文・ナゲ (胎付帯) R.L.縄文 (胎付) R.L.縄文	2.55(黄褐色) (2.5385/3)	2.55(褐色) (2.5386/4)	—	—		
127	44	50	S-15区	V層	—	1		口縁部	78.4	深鉢	青群a型		
無	中粒	岩石・動物 ともにあり	R.L.刺突文 R.L.縄文	ナゲ			(口縁部) R.L.縄文	(黒褐色)	2.55(褐色) (2.5387/4)	黒色化		—	
127	45	50	T-21区	V層	—	1		口縁部	36.1	深鉢	青群a型		
無	中粒	岩石・動物 ともにあり	胎付帯 ナゲ	ナゲ			(口縁部)ナゲ (胎付帯) R.L.縄文 R.L.縄文	2.55(黄褐色) (10196/4)	2.55(黄褐色) (10195/3)	—	—		
127	46	50	R-31区	V層	—	2		胴部	57.6	深鉢	青群a型		内面2/3割線
少～中量	中～細粒	岩石・動物 ともにあり	胎付帯 L.R.・R.L.縄文 R.L.縄文	ナゲ			(胎付帯) R.L.縄文	2.55(黄褐色) (10195/4)	2.55(黄褐色) (10196/4)	黒色化		—	
127	47	50	P-24区	V層	—	3		口縁部	154.8	深鉢	青群a型		外面2/3割線
無	細粒	岩石・動物 (厚層白 帯付確認)	胎付帯 内面刺突文 R.L.縄文	(突帯) ナゲ (沈着文状 の調整)			(口縁部)ナゲ R.L.縄文 (胎付帯) R.L.縄文	(黒褐色)	2.55(黄褐色) (10194/4)	黒色化		—	
127	48	50	U-18区	V層	—	2		口縁部	65.1	深鉢	青群a型		内面割線
無	細粒	岩石主体 (帯付確認)	(胎付帯) 内面刺突文 R.L.縄文	ナゲ			(口縁部) L.R.縄文	浅黄色 (2.517/3)	明黄褐色 (10197/6)	黒色化		—	
127	49	50	U-29区	V層	—	1		口縁部	132.0	深鉢	青群a型		
中～多量	細粒	岩石・動物 ともにあり (多量)	胎付帯 L.R.刺突文 R.L.縄文	L.R.縄文 ナゲ			(口縁部) L.R.縄文 (胎付帯) L.R.縄文	2.55(黄褐色) (10197/4)	2.55(黄褐色) (10196/3)	黒色化		黒色化	
127	50	50	W-12区	V層	—	1		口縁部	113.7	深鉢	青群a型		内面1/2割線
無	細粒	岩石・動物 ともにあり	胎付帯 中面刺突文 R.L.縄文	(突帯) ナゲ			(口縁部) L.R.縄文 L.R.・R.L.縄文	2.55(黄色) (2.516/3)	2.55(黄褐色) (10197/4)	黒色化		—	
127	51	50	R-24区	V層	—	1		口縁部	265.0	深鉢	青群a型		外面1/2割線
無	細粒	岩石・動物 ともにあり (多量)	胎付帯 L.R.刺突文 L.R.縄文	ナゲ			(口縁部)ナゲ L.R.縄文 (胎付帯) L.R.縄文	(黒褐色)	2.55(黄褐色) (10195/3)	黒色化		—	
127	52	50	U-10区	I層	—	1		口縁部	83.1	深鉢	青群a型		外面1/2割線
無	中粒	岩石主体 (厚層白 帯付確認)	胎付帯 R.L.刺突文 R.L.縄文 L.R.・R.L.縄文	エガキ			(口縁部)ナゲ L.R.縄文 (胎付帯) L.R.縄文	(黒褐色)	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着		黒色化	
127	53	50	X-10区	V層	—	1		胴部	192.0	深鉢	青群a型		
無	中粒	岩石・動物 ともにあり	(胎付帯) R.L.縄文	ナゲ			(胎付帯) L.R.縄文	明黄褐色 (10196/4)	灰黄褐色 (10195/2)	黒色化		黒色化	
127	54	51	U-17区	V層	—	1		口縁部	66.5	深鉢	青群a型		
無	中粒	岩石主体	R.L.縄文 R.L.縄文 ナゲ	R.L.縄文 ナゲ			(口縁部) R.L.縄文	2.55(黄褐色) (10197/4)	2.55(黄褐色) (10197/4)	黒色化		—	
127	55	51	W-17区	V層	—	3		口縁部	55.6	深鉢	青群a型		
無	細～中粒	岩石・動物 ともにあり (黄色彫刻)	L.R.縄文 L.R.縄文	ナゲ			(口縁部) ナゲ	2.55(黄褐色) (10196/4)	2.55(黄褐色) (10197/3)	黒色化 炭化物付着		—	
128	56	51	I-36区	V層	—	1		口縁部	54.8	—	青群a型		
無	細粒	岩石主体 (多量)	L.R.縄文 L.R.縄文	ナゲ			(口縁部) L.R.縄文	(黒褐色)	褐色色 (10194/1)	黒色化 炭化物付着		黒色化?	

表78 A・B地区 包含層出土破片土器観察表(5)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物 番号	破片数		破片部位	重量 (g)	器種	分類	備考 (土器型式)	
						小計	合計						
胎土(混和材)						文様・調整			色調		使用の痕跡		
縦横		前後		種類		外蓋		内蓋 (部位)		外蓋		内蓋	
128	57	51	Q-41区 R-41区	V層	—	2	3	口縁部	87.1	深鉢	群a型	—	黒色化
無	群	中～細粒	岩石・灰物 ともにあり	R.L.縄文 R.L.縄文	ナデ	(口唇部) R.L.縄文	(口唇部) R.L.縄文	にぶい・黄褐色 (T.5197/4)	灰黄褐色 (T.5196/2)	—	—	—	黒色化
128	58	51	b-11区	V層	—	2	0	口縁部	125.4	深鉢	群a型	—	黒色化?
無	群	粗粒	岩石・灰物 ともにあり (多数)	L.R.縄文 L.R.・R.L.縄文	ナデ	(口唇部) L.R.縄文	(口唇部) L.R.縄文	にぶい・褐色 (T.5198/4)	にぶい・黄褐色 (T.5199/2)	—	—	—	黒色化?
128	59	51	T-30区	V層	—	2	0	口縁部	102.5	深鉢	群a型	—	—
無	群	粗粒	岩石・灰物 ともにあり (多数)	L.R.縄文 R.L.縄文 L.R.縄文	ナデ	(口唇部) L.R.縄文	(口唇部) L.R.縄文	(黒褐色)	褐色 (T.5196/6)	黒色化・ 酸化物付着	—	—	—
128	60	51	1-40区	V層	—	1	0	口縁部	45.3	深鉢	群a型	—	—
無	群	中～細粒	岩石主珠	縄文 L.R.縄文 L.R.縄文	ナデ	(口唇部) R.L.縄文	(口唇部) R.L.縄文	にぶい・褐色 (T.5193/4)	にぶい・褐色 (T.5198/4)	黒色化	—	—	—
128	61	51	V-17区	V層	—	1	0	口縁部	102.6	深鉢	群a型	—	—
無	群	粗粒	岩石・灰物 ともにあり	縄文 R.L.縄文	ナデ (土具のアタリ)	(口唇部) R.L.縄文	(口唇部) R.L.縄文	浅黄褐色 (T.517/3)	にぶい・黄褐色 (T.5196/4)	—	—	—	—
128	62	51	V-12区	V層	—	1	0	口縁部 (空嚢部近く)	92.1	深鉢	群a型	—	外面に2/3割離
無	群	粗粒	岩石主珠 (多数) (多数)	L.R.縄文 L.R.縄文 R.L.・R.L.縄文	ナデ (空嚢部)	—	—	浅黄褐色 (T.517/3)	浅黄褐色 (T.5197/2)	—	—	—	—
128	63	51	P-17区	V層	—	1	0	口縁部	191.2	深鉢	群a型	—	3/5割離
無	群	粗粒 (断面部分と砂部分)	岩石・灰物 ともにあり	R.L.縄文 L.R.縄文	ナデ	(口唇部) R.L.縄文	(口唇部) R.L.縄文	浅黄褐色 (T.517/4)	にぶい・黄褐色 (T.5197/2)	黒色化	—	—	—
128	64	51	P-17区	V層	—	1	0	口縁部	198.0	深鉢	群a型	—	—
無	群	中～細粒	岩石・灰物 ともにあり	L.R.縄文 L.R.縄文	ナデ	(口唇部) L.R.縄文 ナデ	(口唇部) L.R.縄文	(黒褐色)	にぶい・黄褐色 (T.5196/4)	黒色化	—	—	—
128	65	51	L-40区	V層	—	1	0	口縁部	43.2	深鉢	群a型	—	—
無	群	中粒	岩石・灰物 ともにあり	縄文 L.R.縄文	ナデ	(口唇部) L.R.縄文	(口唇部) R.L.縄文	灰黄褐色 (T.5194/2)	にぶい・褐色 (T.5195/4)	黒色化?	—	—	黒色化
128	66	51	c-24区	V層	—	1	0	口縁部	57.2	深鉢	群a型	—	—
無	群	粗粒	岩石主珠 (多数)	縄文 R.L.縄文	ナデ (空嚢部)	(口唇部) R.L.縄文	(口唇部) R.L.縄文	(黒褐色)	にぶい・黄褐色 (T.5196/4)	黒色化・ 酸化物付着	—	—	黒色化?
128	67	51	P-20区	V層	—	1	0	口縁部	80.4	深鉢	群a型	—	—
無	群	中～細粒	岩石・灰物 ともにあり	縄文 L.R.縄文	ナデ (空嚢部)	(口唇部) L.R.縄文 ナデ	(口唇部) L.R.縄文 ナデ	にぶい・黄褐色 (T.5197/4)	灰黄褐色 (T.5198/2)	—	—	—	黒色化?
129	68	51	a-14区	V層	—	2	0	口縁部	95.6	深鉢	群a型	—	—
無	群	中～細粒	岩石主珠	R.L.縄文	ナデ	(口唇部) R.L.縄文	(口唇部) R.L.縄文	(黒褐色)	浅黄褐色 (T.5197/4)	黒色化	—	—	黒色化
129	69	51	c-23区	V層	—	1	0	口縁部	149.2	深鉢	群a型	—	外面に途中までの 破片あり?
無	群	粗粒	岩石主珠 (多数) (多数)	R.L.縄文	ナデ	(口唇部) ナデ	(口唇部) ナデ	明赤褐色 (S193/6)	灰褐色 (T.5194/2)	—	—	—	黒色化
129	70	51	a-16区	V層	—	2	0	口縁部	216.6	深鉢	群a型	—	補修孔
無	群	粗粒	岩石・灰物 ともにあり (多数)	L.R.縄文	ナデ	(口唇部) L.R.縄文 ナデ	(口唇部) L.R.縄文 ナデ	にぶい・黄褐色 (T.5196/4)	にぶい・黄褐色 (T.5195/2)	黒色化	—	—	黒色化 赤褐色? (褐色 T.5197/6)
129	71	51	d-14区 a-14区	V層	—	2	3	口縁部	281.0	深鉢	群a型	—	—
中量	中～細粒	岩石主珠 (白色岩石)	L.R.・R.L. 縄文	ナデ	(口唇部) ナデ	(口唇部) ナデ	(口唇部) ナデ	にぶい・黄褐色 (T.5197/4)	にぶい・黄褐色 (T.5196/2)	黒色化	—	—	黒色化
129	72	51	T-16区 U-16区	V層	—	2	3	口縁部	133.2	深鉢	群a型	—	外面に途中までの 破片あり?
微量	粗粒	岩石主珠 (スコリア) 赤色(赤褐色)	L.縄文 (黒色)	ナデ	(口唇部) ナデ ナデ	(口唇部) ナデ ナデ	(口唇部) ナデ ナデ	灰黄褐色 (T.5195/2)	にぶい・黄褐色 (T.5196/2)	黒色化	—	—	—



表78 A・B地区 包含層出土破片土器観察表(6)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物 番号	破片数		破片部位	重量 (g)	器種	分類	備考 (土器型式)
						小計	合計					
粘土(混和材)						文様・調整			色調		使用の痕跡	
縦横	経緯	種類	外蓋	内蓋	(部位)	外蓋	内蓋	外蓋	内蓋	外蓋	内蓋	
129	73	51	T-22区	V層	—	2	口縁部	24.4	深鉢 (小型)	青群a型		
無	中粒	岩石主体	ナゾ	ナゾ	(口唇部) ナゾ			2.50i・黄棕色 (10196/3)	(黒褐色)	—	黒色化	
129	74	51	L-40区 L-42区 M-40区	V層	—	2 3 1	底部	169.0	深鉢	青群a型		
無	中粒	岩石主体	L.R.縄文	ナゾ	(底外面) L.R.縄文			2.50i・黄棕色 (10196/4)	灰黄褐色 (10193/2)	—	黒色化	
129	75	52	V-12区	V層	—	4	底部	271.0	深鉢	青群a型		内蓋3/5割離
無	中粒	岩石・動物 ともに見られ (有色動物)	L.R.縄文	ナゾ	(底外面) ナゾ			棕色 (T.5106/6)	褐色 (10194/1)	赤色化? (明褐色 10195/2)	—	黒色化
130	76	52	R-20区	V層	—	2	底部	192.4	深鉢	青群a型		
少量?	中粒	岩石主体 (少〜微量)	R.L.縄文	ナゾ	(底外面) ナゾ			2.50i・黄棕色 (10196/4)	2.50i・黄棕色 (10196/4)	—	黒色化	
130	77	52	N-29区	V層	—	1	底部	224.2	深鉢	青群b型? 青群a型?		
少〜中量?	粗粒	岩石・動物 ともに見られ (無数の石灰 多量) (チャート 等可確認)	R.L.縄文 ナゾ	ナゾ	(底外面) ナゾ			2.50i・赤褐色 (10197/4)	暗褐色 (T.5103/3)	赤色化?	—	黒色化
130	78	52	W-26区	V層	—	1	底部	88.8	深鉢	青群a型		内蓋割離
無	中粒	岩石・動物 ともに見られ (石灰 黄色?)	L.R.縄文	—	(底外面) ナゾ			2.50i・黄棕色 (10196/4)	2.50i・黄棕色 (10196/4)	赤色化? (棕色 5106/4)	—	—
130	79	52	c-25区	V層	—	3	底部	54.7	深鉢	青群b型		
無	粗粒	動物主体 (石灰 黄色?)	ミガキ?	ナゾ	ナゾ			2.50i・黄棕色 (10196/4)	(黒褐色)	—	黒色化	
130	80	52	J-44区	V層	—	3	胴部 (底部近く)	210.8	深鉢	青群a型		内蓋3/5割離
無	中粒	岩石・動物 ともに見られ	L.R.縄文	ナゾ	(底外面) ナゾ			2.50i・黄棕色 (10197/4)	褐色 (T.5104/4)	—	黒色化	
130	81	52	a-5区 a-6区	V層	—	1 7	胴部	76.6	深鉢	青群b型		
無	中〜粗粒	岩石主体	縄文 平行乱縄文 C; 中粒の乱縄文 L.R.縄文 ミガキ	ナゾ ミガキ	—			2.50i・黄棕色 (10196/4)	2.50i・黄棕色 (10196/4)	黒色化?	—	黒色化 炭化物付着
130	82	52	a-6区	V層	—	1 1	口縁部	23.5	深鉢	青群b型		
無	粗粒	岩石・動物 ともに見られ (微量)	乱縄文 R.L.縄文 ミガキ ナゾ	ナゾ	(口唇部) ナゾ?			2.50i・黄棕色 (10195/2)	(黒褐色)	—	黒色化 炭化物付着	
130	83	52	a-5区 a-6区	V層	—	1 13	胴部	174.2	深鉢	青群b型		
無	粗粒	動物主体?	縄文 平行乱縄文 C; 中粒の乱縄文 L.R.縄文 ミガキ	ミガキ	—			2.50i・黄棕色 (10196/4)	2.50i・褐色 (T.5106/4)	黒色化	—	黒色化 炭化物付着
130	84	52	a-6区	V層	—	2	口縁部	28.4	深鉢	青群b型		
無	粗〜中粒	岩石・動物 ともに見られ	乱縄文 L.R.縄文 ミガキ	ナゾ ミガキ	(口唇部) ナゾ			2.50i・黄棕色 (10196/4)	(黒褐色)	—	黒色化	
130	85	52	a-6区	V層	—	3	口縁部	89.0	深鉢	青群b型		内蓋割離
無	粗〜中粒	岩石・動物 ともに見られ	ミガキ ナゾ	ナゾ?	(口唇部) ナゾ			棕色 (T.5106/6)	2.50i・黄棕色 (10196/4)	—	黒色化	
131	86	52	a-6区	V層	—	3	胴部 (口縁部近く)	107.8	深鉢	青群b型		
無	粗〜中粒	岩石主体	縄文 平行乱縄文 C; 中粒の乱縄文 L.R.縄文 ミガキ 乱縄文(少の割離物)	ナゾ ミガキ	—			2.50i・黄棕色 (10196/4)	2.50i・褐色 (T.5106/4)	黒色化 炭化物付着	—	—
131	87	52	a-10区	V層	—	1	口縁部	54.4	深鉢	V群		
少量	粗粒	岩石主体 (多量)	乱縄文 L.R.縄文 ナゾ	ナゾ	(口唇部) ナゾ			灰黄褐色 (10195/2)	2.50i・黄棕色 (10197/4)	黒色化	—	黒色化

表78 A・B地区 包含層出土破片土器観察表(7)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類	備考(土器型式)	
						小計	合計						
胎土(泥和材)						文様・調整			色調		使用の痕跡		
縦横		経緯		種類		外蓋		内蓋 (部位)		外蓋		内蓋	
131	88	52	U-14区	V層	—	3		胴部 ～底蓋	29.0	深鉢 (小型)	V群?		
無	細粒	岩石・灰物 ともにあり (微量)		R.L.縄文	ナゲ		(底外面) ナゲ	2.55・黄褐色 (10196/4)	2.55・黄褐色 (10195/3)	—	—	黒色化 酸化物付着	
131	89	52	M-32区	V層	—	12		口縁部 ～胴部	139.4	深鉢	V群?		
無	細粒	岩石・灰物 ともにあり		L.R.縄文	ナゲ		(口縁部) ナゲ	2.55・黄褐色 (10196/4)	2.55・黄褐色 (10195/3)	—	—	黒色化 赤色化 (緑色 2196/8)	黒色化 酸化物付着
131	90	52	M-19区 M-20区	V層	—	2		口縁部	12.0	深鉢	V群		
少～微量	細粒	灰物主体		R.L.縄文 R.L.縄文 貫通ナゲ	ナゲ (炊煮文様の 調整物)		(口縁部) ナゲ R.L.縄文 R.L.筋?	2.55・黄褐色 (10196/3)	2.55・黄褐色 (10197/2)	—	—	—	—
131	91	52	V-31区	I層 V層	—	7 1		胴部 ～底蓋	126.8	鉢?	V群		丸底
無	細粒	岩石・灰物 ともにあり (微量)		R.L.縄文 R.L.縄文	ナゲ		(底外面) R.L.縄文	2.55・黄褐色 (10196/3)	2.55・黄褐色 (10197/2)	赤色化 (2.5196/6)	—	—	黒色化?
131	92	52	M-20区 L-20区	V層	—	23 2	25	胴部	138.2	深鉢	V群		短と同一個体
無	細粒	岩石・灰物 ともにあり (微量)		散珠形縄文 ナゲ 新交文	ナゲ		(散珠形縄文) 新交文	2.55・黄褐色 (10197/2)	2.55・黄褐色 (10197/2)	黒色化?	—	—	—
131	93	52	V-31区	I層	—	4		胴部 ～底蓋	13.6	深鉢	V群		短と同一個体
無	細粒	岩石・灰物 ともにあり (微量)		散珠文 新交文 ナゲ	ナゲ (工具のブタナリ) (炊煮文様の 調整物)		(底外面) ナゲ	2.55・黄褐色 (10197/2)	2.55・黄褐色 (10196/4)	黒色化	—	—	—
131	94	52	a-9区	V層	—	2		胴部	17.6	深鉢	V群		
無	細～中粒	岩石・灰物 ともにあり (微量)		R.L.縄文 新交文 (三角印点文)	ナゲ		—	2.55・黄褐色 (10196/3)	2.55・黄褐色 (10197/2)	黒色化	—	—	—
131	95	52	C-43区	V層	—	1		口縁部	15.8	深鉢	V群		
無	細～中粒	岩石・灰物 ともにあり (赤黄緑点文?)		縄文 浅瀬文 ミガキ ナゲ	ミガキ (炊煮文様の 調整物)		(口縁部) ミガキ	(黒褐色)	(黒褐色)	黒色化 酸化物付着	—	—	黒色化 酸化物付着
131	96	52	R-42区	I層	—	1		口縁部	25.0	深鉢	V群		補修孔
微量	細～中粒	岩石・灰物 ともにあり		縄文 浅瀬文 ミガキ ナゲ	ナゲ		(口縁部) ナゲ ミガキ	黄褐色 (2.5194/1)	黄褐色 (2.5194/1)	黒色化	—	—	黒色化 酸化物付着

表79 C地区 包含層出土破片土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物 番号	破片数		破片部位	重量 (g)	器種	分類	備考 (土器定式)
						小計	合計					
粘土(混和材)						文様・調整			色調		使用の痕跡	
種類	処理	種類	外蓋	内蓋	(部位)	外蓋	内蓋	外蓋	内蓋	外蓋	内蓋	
132	97	53	q-11区	破片	—	6	口縁部	137.4	深鉢	Ⅱ群 a 型		
煎茶	中～粗粒	岩石主体 (白色片石 多量)	磁付 L.R.縄文 縄文	L.R.縄文 ナデ	(口縁部) ナデ 磁付 (磁付) L.R.縄文、縄文			にぶい・褐色 (T.5197/1)	にぶい・褐色 (T.5198/3)	黒色化	黒色化	
132	98	53	m-3区	破片	—	1	口縁部	21.2	深鉢	Ⅱ群 a 型		
煎茶?	細粒	岩石・泥物 ともにあり	L.R.縄文 内形削文	ナデ (L.縄文の調整層)	(口縁部) ナデ			にぶい・黄褐色 (10197/3)	にぶい・褐色 (10197/2)	—	—	
132	99	53	p-7区	破片	—	6	口縁部	114.2	深鉢	Ⅱ群 a 型		
煎	細粒	泥物主体 (有色泥物)	R.L.縄文	R.L.縄文 ナデ	(口縁部) L.R.縄文			にぶい・黄褐色 (10197/3)	にぶい・黄褐色 (10197/2)	黒色化	—	
132	100	53	j-7区	破片	—	1	口縁部	37.8	深鉢	Ⅱ群 a 型		
煎	細粒	泥物主体 (煎茶)	L.R.縄文	ナデ 微細圧痕	(口縁部) L.R.縄文			灰黄色 (2.517/2)	灰黄色 (2.516/2)	黒色化	—	
132	101	53	i-11区	破片	—	4	口縁部	42.6	深鉢	Ⅱ群 a 型		
少量	細粒	泥物主体 (有色泥物)	R.L.縄文	ナデ	(口縁部) R.L.縄文			にぶい・黄褐色 (10197/3)	にぶい・黄褐色 (10197/2)	—	—	
132	102	53	a-7区	破片	—	2	口縁部	33.5	深鉢	Ⅱ群 a 型		外面 剥離片
煎茶? 煎?	中粒	岩石主体 (白色片石)	L.R.縄文 縄文?	L.R.縄文 ナデ	(口縁部) ナデ ～底面			褐色 (T.5181/1)	にぶい・褐色 (T.5196/4)	黒色化?	—	
132	103	53	o-17区	破片	—	6	胴部 下部～底面	98.7	深鉢	Ⅱ群 a 型		内面1/2剥離
煎	中粒	岩石・泥物 ともにあり	L.R.縄文	ナデ	(底外面) L.R.縄文			にぶい・黄褐色 (10197/1)	にぶい・黄褐色 (10197/2)	—	—	
132	104	53	s-7区	破片	—	2	底面	55.9	深鉢	Ⅱ群 a 型		内面剥離
煎	細粒	泥物主体	L.R.縄文	—	(底外面) ナデ			褐色 (T.5186/6)	(にぶい・黄褐色) (10197/4)	—	—	
132	105	53	j-7区	破片	—	4	胴部 (口縁部近く)	97.0	深鉢	Ⅱ群 a 型		
煎	中粒	岩石・泥物 ともにあり	磁付層 L.R.縄文 褐色削文・ナデ	(安物) ナデ	(磁付層) L.R.縄文			にぶい・黄褐色 (10197/2)	灰黄色 (10196/2)	—	—	
132	106	53	o-17区	破片	—	2	胴部	151.4	深鉢	Ⅱ群 a 型		外面1/2・内面3/4剥離
煎	煎～中粒	岩石・泥物 ともにあり	L.R.縄文	ナデ	—			にぶい・黄褐色 (10196/4)	にぶい・黄褐色 (10196/4)	—	—	
132	107	53	a-7区	破片	—	3	胴部 (口縁部近く)	92.9	深鉢	Ⅱ群 a 型?		外面3/4剥離
煎	中～粗粒	岩石主体 (白色片石)	R.右巻き 縄文	R.L.R.縄文 ナデ	—			(黒褐色)	にぶい・黄褐色 (10195/2)	黒色化	—	
132	108	53	i-21区	破片	—	5	胴部	37.8	深鉢	I 群 b 型		内面剥離
煎	細粒	泥物主体	L・R 縄文	—	—			にぶい・黄褐色 (10196/3)	(にぶい・黄褐色) (10196/2)	—	—	
132	109	53	i-11区	破片	—	2	口縁部	18.7	深鉢	Ⅱ群		
煎茶～ 少量?	細～中粒	泥物主体 (有色泥物)	ナデ	ナデ	(口縁部) ナデ			にぶい・褐色 (T.5196/4)	にぶい・褐色 (T.5196/4)	—	—	
132	110	53	i-7区 m-7区	破片	—	1 2	胴部	52.2	深鉢	Ⅱ群 a 型		
煎茶	中～粗粒	岩石主体 (薄層部 厚肉部?)	沈濁文 L.R.縄文	ミガキナ ナデ	—			にぶい・黄褐色 (10196/4)	(黒褐色)	—	黒色化	
132	111	53	n-20区	破片	—	1	胴部	16.8	深鉢	Ⅱ群 b 型		
少～中量	細粒	泥物主体	ミガキナ	ミガキナ	—			(黒褐色)	(黒褐色)	黒色化	黒色化	

表80 遺構出土石器等観察表(1)

遺構 番号	遺構 名称	出土地点	層位	遺物 番号	種類	計測値 (mm)			重量 (g)	石材名	特徴	持ち手 形状	特徴 観察事項	備考
						長さ	幅	厚さ						
120	1	11-1	埋土	石製・ナイフ	7.9	2.2	3.2	86.4	—	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	2	11-1	埋土	ステンレイベー	12.71	2.2	0.8	4.4	—	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	3	11-1	埋土	—	つばみけナイフ	6.2	3.0	0.7	8.2	片岩	断面が粗い	断面が粗い 磨痕	—	
120	4	11-1	埋土	石製・ナイフ	13.11	2.9	1.0	6.2	—	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	5	11-2 A	埋土	—	石製	4.5	2.7	0.7	3.8	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	6	11-2 A	埋土	—	つばみけナイフ	5.7	3.0	0.8	13.3	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	7	11-4	埋土	3	石製	4.1	1.9	0.6	3.9	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	8	11-4	埋土	—	石製・ナイフ	6.0	2.6	0.8	10.1	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	9	11-4	埋土	15	石製・ナイフ	4.0	2.2	0.8	5.1	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	10	11-4	埋土	6	石製・ナイフ	8.4	3.2	1.1	17.0	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	11	11-4	埋土	—	ステンレイベー	2.7	1.1	0.5	1.3	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	12	11-6	埋土	3	石製	3.2	1.5	0.7	2.2	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	13	11-6	埋土	—	つばみけナイフ	5.6	2.2	0.8	8.0	片岩	断面が粗い	断面が粗い 磨痕	—	
120	14	11-6	埋土	—	ステンレイベー	5.6	1.6	1.4	7.9	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	15	11-6	埋土	2	ステンレイベー	2.8	2.8	1.4	8.3	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	16	11-7	埋土	—	石製	5.2	3.3	3.7	95.2	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	17	11-8	埋土	—	石製	10.51	1.8	0.5	2.4	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	18	11-8	埋土	—	ステンレイベー	3.8	2.1	0.7	2.8	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	19	11-8	埋土	—	石製・ナイフ	7.0	3.2	3.2	18.4	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	20	11-10	埋土	10	ステンレイベー	3.5	1.3	0.6	1.6	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	21	11-10	埋土	17	ステンレイベー	3.8	1.9	0.8	2.5	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	22	11-10	埋土	7	ステンレイベー	(3.51)	2.1	0.7	2.9	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	23	11-11	埋土	—	石製	(4.63)	2.3	0.9	6.8	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	24	11-13	埋土	10	石製	5.1	2.3	0.6	3.2	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	25	11-13	埋土	12	ステンレイベー	3.8	2.9	1.3	12.3	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	26	11-14	埋土	8	石製・ナイフ	6.0	3.9	1.0	14.0	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	27	11-14	埋土	5	石製	3.0	2.9	0.6	4.7	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	28	11-14	埋土	7	つばみけナイフ	4.0	2.4	1.2	6.4	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	29	11-15	埋土	7	ステンレイベー	3.7	2.9	1.1	11.5	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	30	11-15	埋土	—	石製	3.1	1.8	0.7	2.6	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	31	11-15	埋土	—	石製	2.1	1.9	1.8	8.5	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	32	11-15	埋土	—	石製	2.8	2.9	1.3	13.2	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	33	11-16	埋土	—	石製	(2.80)	1.1	0.4	1.8	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	34	11-18	埋土	2	石製	(3.61)	1.8	0.5	2.4	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	35	11-18	埋土	4	ステンレイベー	2.6	1.9	0.6	3.3	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	36	11-18	埋土	—	ステンレイベー	4.9	2.2	0.7	4.8	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	37	11-19	埋土	—	ステンレイベー	3.9	2.1	0.6	4.4	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	38	11-20	埋土	4	石製	3.0	1.3	0.7	2.5	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	39	11-20	埋土	1	ステンレイベー	4.3	1.9	1.2	8.3	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	40	11-20	埋土	7	ステンレイベー	7.1	3.3	1.3	27.9	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	41	11-3	埋土	3	鉄地面	2.6	1.9	0.5	2.3	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	42	11-2	埋土	1	石製	5.2	3.8	0.8	7.7	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	43	11-2	埋土	21	石製	4.8	1.9	1.1	7.8	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	44	11-2	埋土	29	ステンレイベー	(3.80)	11.0	0.8	2.8	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	45	11-2	埋土	—	石製	(1.51)	1.3	0.5	0.7	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	46	11-2	埋土	—	ステンレイベー	3.8	2.9	1.4	8.2	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	47	11-3	埋土	4	石製	7.0	4.2	2.3	65.8	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	48	11-3	埋土	—	ステンレイベー	(4.80)	2.5	0.7	5.1	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	49	11-3	埋土	2	ステンレイベー	2.5	1.7	0.5	1.8	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	50	11-3	埋土	—	石製	(1.80)	1.2	0.4	0.7	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	51	11-3	埋土	—	石製・ナイフ	(6.22)	3.8	0.9	26.4	片岩	断面が粗い	断面が粗い 磨痕	—	
120	52	11-3	埋土	—	石製	(1.80)	1.2	0.4	0.6	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	53	11-3	埋土	—	石製	2.8	1.7	0.7	2.6	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	54	11-3	埋土	—	ステンレイベー	(2.11)	2.0	0.6	2.2	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	55	11-1	埋土	16	鏡石	(7.30)	(6.80)	2.0	100	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	56	11-1	埋土	16	石製・石製	(8.50)	(8.20)	(3.21)	165	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	57	11-1	埋土	—	鏡石	(7.40)	(6.50)	(3.7)	87	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	58	11-2	埋土	1	すり石	(5.7)	4.1	2.8	39	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	59	11-2	埋土	—	たたま石	6.0	5.5	(2.5)	138	片岩	断面が粗い	断面が粗い 磨痕	—	
120	60	11-2	埋土	—	石製	(1.6)	(1.2)	2.3	211	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	61	11-2	埋土	7	鏡石	23.2	13.1	5.2	174	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	62	11-2	埋土	—	石製・石製	41.2	36.8	6.0	9,500	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	63	11-2	埋土	9	鏡石	18.9	12.8	5.4	1,792	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	64	11-3	埋土	2	すり石・石製	(16.0)	(9.8)	5.2	792	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	65	11-1	埋土	18	銅製石	9.9	4.5	1.9	132	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	66	11-1	埋土	26	石製・石製	(41.30)	33.7	9.9	12,130	—	—	断面が粗い 磨痕	—	
120	67	11-3	埋土	—	北海道式石	7.9	9.4	3.8	221	—	—	断面が粗い 磨痕	—	

表80 遺構出土石器等観察表(2)

調査 番号	遺物 番号	出土地点	層位	遺物 番号	種類	計測値 (mm)			重量 (g)	石材	石形 特徴	使用 状況	特徴 観察事項	備考			
						長さ	幅	厚さ									
137	68	31-6	埋土	1	磨製石斧	17.1	3.7	3.1	96	緑色長石	緑色長石 7.50x3.1	学定形	表面磨光 磨打痕				
137	69	31-6	埋土	15	磨製石斧	13.3	4.2	3.9	116	緑色長石	オリーブ灰色 5.0x3.1	学定形	磨打痕 磨打痕				
137	70	31-6	埋土	6	砥石	13.21	9.0	1.9	260	砂岩	黄褐色 灰褐色 5.0x3.2	学定形	表面 平砥石痕	石製品?			
137	71	31-6	埋土	11	すり石	5.8	4.1	3.2	94	砂岩	比色:黄褐色 3.0x3.1	学定形	表面	多量のすり面	石製品?		
137	72	31-6	埋土	10	台形・石皿	105.71	125.71	10.0	8,150	砂岩	黄褐色 5.0x3.2	学定形	学定形	磨打れたすり面			
137	73	31-6	埋土	8+9	台形・石皿	132.01	125.40	8.0	6,600	砂岩	灰褐色 3.0x3.1	学定形	学定形	すり面すり面	三点検合		
137	74	31-6	埋土	1	すり石	106.4	66.51	2.4	177	凝灰岩	比色:黄褐色 5.0x3.1	学定形	表面	表面すり面	磨打 痕あり		
137	75	31-7	埋土	4	台形・石皿	22.7	14.4	6.1	5,293	砂岩	黄褐色 5.0x3.1	学定形	表面	すり面	三点検合		
138	56	11-8	埋土	26	磨製石斧	18.11	4.6	2.5	151	緑色長石	緑褐色 7.50x3.1	学定形	表面	表面より磨打痕			
138	77	31-9	埋土	30	丸たき石	8.5	10.2	7.6	1,149	砂岩	赤褐色 3.0x3.0	学定形	表面	磨打れたすり面 すり面			
138	78	31-9	埋土	9	すり石	17.21	7.3	3.6	179	砂岩	黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	磨打すり面 平砥石に似たすり面			
138	79	31-8	埋土	38	砥石	17.6	11.2	3.3	799	凝灰岩	灰褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面			
138	80	31-8	埋土	25	台形・石皿	23.8	21.8	5.0	8,660	砂岩	灰褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面中央	丸たき石		
138	81	31-8	埋土	13	台形・石皿	40.9	24.1	4.3	9,750	砂岩	黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	すり面		
138	82	31-9	埋土	1	磨製石斧	8.0	3.0	1.4	41	緑色長石	緑褐色 3.0x3.1	学定形	表面	磨打痕	磨打痕		
138	83	31-9	埋土	2	丸たき石	13.8	10.3	6.9	1,243	砂岩	黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	すり面 丸たき石		
138	84	31-10	埋土	29	台形・石皿	114.21	114.01	13.0	12,771	砂岩	黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	丸たき石	観察器具 使用あり	
138	85	31-12	埋土	1	台形・石皿	24.2	6.5	7.8	2,352	砂岩	黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	丸たき石		
138	86	31-13	埋土層上	一	丸たき石	12.8	6.5	3.4	433	砂岩	黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	丸たき石	観察器具 使用あり	
138	87	31-13	埋土	11	砥石	126.40	12.8	9.8	4,430	砂岩	黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面より磨打 痕あり	丸たき石		
138	88	31-13	埋土層上	6	磨製石斧	9.4	3.8	3.0	174	緑色長石	オリーブ灰色 5.0x3.1	学定形	表面	表面			
138	89	31-14	埋土層上	一	丸たき石	9.4	5.0	3.1	252	緑色長石	オリーブ灰色 5.0x3.1	学定形	表面	表面以外 磨打れたすり面			
138	90	31-14	埋土	12	丸たき石	6.7	4.9	4.2	119	砂岩	灰褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面よりすり面 多量のすり面			
138	91	31-14	埋土	11	砥石	14.60	5.6	3.7	309	砂岩	灰褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面磨打 磨打 痕あり			
138	92	31-15	埋土	4	磨製石斧	18.30	4.2	2.2	154	緑色長石	オリーブ灰色 5.0x3.1	学定形	表面	表面磨打 上縁磨打痕			
138	93	31-15	埋土	一	磨製石斧	7.0	2.4	1.0	31	片岩	培養肉色 10.0x3.1	学定形	表面	表面磨打 上縁磨打痕			
138	94	31-15	埋土	6	砥石	36.0	5.9	1.5	159	砂岩	黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面磨打に似 てすり面			
140	95	31-15 土層上	埋土層上	一	台形・石皿	133.21	9.3	4.6	924	砂岩	灰褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	すり面		
140	96	31-17	埋土層上	3	台形・石皿	13.4	11.3	8.9	1,808	砂岩	黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	丸たき石		
140	97	31-18	埋土層上	一	砥石	132.51	15.20	14.70	208	砂岩	比色:黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面磨打 磨打 痕あり			
140	98	31-18	埋土層上	2	丸たき石	17.7	7.2	4.6	818	砂岩	灰褐色 7.2x3.2	学定形	表面	表面磨打 磨打れたすり面	観察 器具あり		
140	99	31-20	埋土層上	一	丸たき石	15.3	6.4	3.2	647	砂岩	黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面磨打 磨打 痕あり	丸たき石		
140	100	31-20	埋土層上	一	丸たき石	10.5	5.1	4.1	247	砂岩	黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	丸たき石		
140	101	31-20	埋土層上	一	台形・石皿	23.7	23.4	9.2	10,400	砂岩	黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	磨打れたすり面		
141	102	31-1	層上	2	台形・石皿	36.1	36.3	8.6	9,900	砂岩	黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	すり面		
141	102	31-2	層上	1	台形・石皿	111.01	5.4	7.15	砂岩	比色:黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	丸たき石			
141	104	31-3	灰褐色	6	台形・石皿	122.11	16.8	5.2	1,803	凝灰岩	灰褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	平砥石すり面		
141	105	31-4	層上	1	台形・石皿	28.2	22.8	11.8	6,600	砂岩	黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	丸たき石		
142	106	31-16	土層上	2	砥石	28.1	18.7	5.2	2,981	砂岩	黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	平砥石痕	観察 器具あり	
142	107	31-11	層上	一	すり石	14.71	3.5	1.80	27	砂岩	比色:黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	下縁磨打痕	石製品?	
142	108	31-15	埋土層上	4	台形・石皿	200.80	116.11	4.3	1,412	砂岩	黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	丸たき石	すり面	三点検合
142	109	31-17	埋土	12	北偏南式平砥石	111.40	116.40	3.8	251	砂岩	灰褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	表面磨打		
142	110	31-17	灰褐色	24	台形・石皿	23.6	15.6	4.5	2,799	凝灰岩	黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	丸たき石	観察器具 使用あり	
142	111	31-20	埋土	一	台形・石皿	16.8	14.9	9.7	2,753	砂岩	黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	丸たき石		
142	112	31-23	灰褐色	2	すり石	15.8	8.9	2.9	556	砂岩	比色:黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	すり面	表面磨打 痕あり	
143	113	31-26	埋土層上	一	磨製石斧	18.90	4.7	2.3	147	緑色長石	オリーブ灰色 5.0x3.1	学定形	表面	表面	磨打すり面		
143	114	31-26	灰褐色	一	台形・石皿	18.11	13.1	5.4	835	砂岩	黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	すり面	丸たき石	観察 器具あり
143	115	31-28	埋土層上	一	台形・石皿	14.2	11.9	4.4	994	砂岩	黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	すり面	丸たき石	
143	116	31-28	埋土	一	砥石	6.4	3.8	0.7	23	砂岩	比色:黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	平砥石痕		
143	117	31-29	埋土	一	丸たき石	14.1	8.9	7.6	1,161	砂岩	黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	丸たき石		
143	118	31-31	埋土層上	一	すり石	14.2	6.1	3.0	399	凝灰岩	黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	すり面	丸たき石	
143	119	31-32	埋土層上	一	台形・石皿	132.01	111.80	15.21	849	砂岩	黄褐色 5.0x3.2	学定形	表面	表面	丸たき石	すり面	

表80 遺構出土石器等観察表(3)

調査 区画	遺物 番号	出土地点	層位	遺物 番号	種類	計測値 (mm)			重量 (g)	石材名	石質 特徴	用途 状態	特徴 観察事項	備考	
						長さ	幅	厚さ							
143	121	60	P-24	覆土層	—	磨製石器	18.2)	5.9	5.3	366	緑色頁岩	緑色頁岩 緑色頁岩 1025/1	片	上部部 破損	
143	121	60	P-25	覆土層	5	砕石	18.6	(11.4)	7.8	2,498	砕石	緑色頁岩土 1025/2	片	表面 すり面	
143	122	60	P-26	表面	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
143	122	60	P-26	表面	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
143	124	60	P-28	覆土層	4	磨製石器	10.7	5.9	2.2	186	緑色頁岩	緑色頁岩 1026/1	摩定形	刃部 両面磨?	
143	123	60	P-28	覆土層	8	砕石	17.2)	17.8	13.7	2,760	砕石	黒色頁岩土 1026/2	片	すり面 2ヶ所	
144	125	60	P-29	覆土層	8	砕石	42.6	15.8	14.4	16,600	砕石	黒色頁岩土 1026/1	尖形	表面に石面 すり面	
144	126	61	P-29	覆土層	4	砕石	17.7)	17.5)	13.2)	1,907	砕石	黒色頁岩土 1026/2	片	表面 すり面	
144	127	61	SF-6	覆土層	13	砕石	27.4	23.5	7.8	6,100	砕石	黒色頁岩土 1026/1	尖形	表面 すり面	裏面磨削 面欠損
145	128	61	SF-6	V層	—	砕石	(22.4)	(8.2)	3.2	419	緑色頁岩	黒色頁岩土 1026/2	片	裏面側面 すり面	裏面 面欠損
145	129	61	SF-8	V層	—	砕石	17.9	12.7	3.0	723	砕石	黒色頁岩土 1026/2	片	表面 断面	裏面 面欠損
145	130	61	SF-11	覆土層	7 8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
145	130	61	SF-11	覆土層	7 8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
145	131	61	PC-3	V層	2	砕石	33.6	40.8	10.4	33,000	砕石	黒色頁岩土 1027/1	尖形	表面 くぼみすり面	
145	132	61	S-2	V層	—	砕石	(6.9)	(8.1)	3.5	235	—	—	—	—	—
145	132	61	S-2	V層	—	北陸器式平刃	(8.9)	(8.0)	4.7	304	砕石	—	—	—	—
146	134	62	H-3 A	表面	1	石製品	53.8	15.7	10.8	10,700	緑色頁岩	黒色頁岩土 1027/2	尖形	表面 研削面 割線あり	石切石
146	135	62	H-3 A	表面	3	石製品	43.8	14.5	8.4	5,632	緑色頁岩	黒色頁岩土 1027/2	尖形	表面 研削面 割線あり	石切石
146	136	62	H-8	表面	3	石製品	13.3	4.1	3.9	226	砕石	黒色頁岩土 1027/2	尖形	研削面	
146	137	62	H-10	表面	8	石製品	8.0	3.7	3.2	73	砕石	黒色頁岩土 1027/2	尖形	研削面	
146	138	62	H-10	表面	2	石製品	8.0	4.7	2.8	104	砕石	黒色頁岩土 1027/2	尖形	研削面 今今磨平	
146	139	62	H-10	表面	3	石製品	8.0	6.0	3.4	148	砕石	黒色頁岩土 1026/2	尖形	研削面 今今磨平	
146	140	62	H-10	覆土層	—	石製品	8.0	2.8	2.1	45	砕石	黒色頁岩土 1027/2	尖形	研削面	
147	141	62	H-13	覆土層	—	石製品	6.3	2.9	2.0	26.9	砕石	黒色頁岩土 1027/4	尖形	研削面	
147	142	62	H-15	表面	—	石製品	1.3	1.2	0.5	1.8	緑色頁岩	緑色頁岩土 1028/1	尖形	穿孔 研削面なし	石
147	143	62	H-15	表面土	8	石製品	7.2	4.9	(3.0)	97	砕石	黒色頁岩土 1027/2	片	研削面 裏面破損	研削 面欠損
147	144	62	H-17	表面	2	石製品	6.1	4.2	2.5	70	砕石	黒色頁岩土 1027/4	尖形	研削面 磨平	研削 面欠損
147	145	62	P-16	覆土	—	石製品	7.4	6.8	4.7	205	不発	—	—	—	—
147	146	62	P-20	覆土	3	石製品	6.3	2.9	2.1	34	砕石	—	—	—	—
147	147	62	P-20	覆土	4	石製品	(6.2)	3.8	2.3	20	砕石	—	—	—	—

表B1 A・B地区 包含層出土石器等観察表(1)

調査 年度	調査 番号	出土地点	層位	遺物 番号	種類	計測値 (mm)			重量 (g)	石材名	特徴	用途 推定	特徴 観察事項	備考	
						長さ	幅	厚さ							
1987	1	63	E-28区	V層	—	石鏃	4.0	1.1	0.3	1.4	磨礫石	—	定形	燧石	
1987	2	63	Y-16区	V層	—	石鏃	1.9	1.0	0.4	0.7	磨礫石	—	定形	高砂 黒部川沖	
1987	3	63	W-20区	V層	—	石鏃	5.6	2.1	0.5	4.4	片岩	彫刻状 10005/2	定形	高砂 黒部川沖	
1987	4	63	R-25区	V層	—	石鏃	2.3	1.1	0.4	0.6	磨礫石	—	定形	高砂	
1987	5	63	J-23区	V層	—	石鏃	3.9	1.9	0.6	2.4	磨礫石	—	定形	左石野射動	
1987	6	63	L-43区	V層	—	石鏃	4.7	1.7	1.0	5.4	磨礫石	—	定形	高砂 黒部川沖	
1987	7	63	Q-28区	V層	—	石鏃	52.93	1.1	0.3	0.7	磨礫石	(厚さ) 磨礫石 10005/2	定形	燧石	
1987	8	63	P-25区	V層	—	石鏃	2.9	1.3	0.3	0.6	磨礫石	—	定形	燧石	
1987	9	63	J-44区	V層	—	石鏃・ナイフ	9.1	3.1	1.0	23.6	磨礫石	—	定形	高砂 黒部川沖	
1987	10	63	R-22区	V層	—	石鏃・ナイフ	17.61	2.3	1.2	36.3	磨礫石	—	定形	高砂 黒部川沖 黒部川沖 黒部川沖	
1987	11	63	T-20区	V層	—	石鏃・ナイフ	8.1	3.5	1.0	22.6	片岩	灰黒褐色 10005/2	定形	高砂 黒部川沖	
1987	12	63	Y-24区	V層	—	石鏃	5.9	1.4	0.8	7.5	片岩	黒褐色 10005/2	定形	燧石	
1987	13	63	Z-14区	V層	—	石鏃	3.4	2.0	0.8	2.8	磨礫石	—	定形	下流部 黒部川沖	
1987	14	63	V-20区	V層	—	つまみ付ナイフ	9.7	2.5	1.2	22.2	片岩	灰黒褐色 10005/2	定形	高砂 黒部川沖 黒部川沖	
1987	15	63	U-27区	V層	—	つまみ付ナイフ	8.6	5.2	3.3	34.7	片岩	彫刻状 10005/2	定形	高砂 黒部川沖	
1987	16	63	X-25区	V層	—	つまみ付ナイフ	3.9	2.9	0.9	9.4	磨礫石	彫刻	定形	高砂 黒部川沖	
1987	17	63	U-24区	V層	—	スクレイパー	4.2	1.5	1.0	5.1	磨礫石	—	定形	高砂 黒部川沖 下流部 黒部川沖	
1987	18	63	J-28区	V層	—	スクレイパー	4.8	2.8	0.7	5.4	磨礫石	—	定形	高砂 黒部川沖	
1987	19	63	U-22区	V層	—	スクレイパー	4.5	2.7	1.2	15.9	磨礫石	—	定形	高砂 黒部川沖	
1987	20	63	W-26区	V層	—	スクレイパー	2.4	2.5	0.7	3.5	チャート	灰白色 10005/2	定形	高砂 黒部川沖	
1987	21	63	S-24区	V層	—	石鏃	3.3	3.9	3.9	42.6	磨礫石	円錐 磨礫石	定形	高砂 黒部川沖	
1987	22	63	U-20区	V層	—	石鏃	9.3	9.6	5.2	309	チャート	灰白色 10005/2	—	定形	高砂 黒部川沖
1987	23	63	L-42区	V層	—	磨礫石	10.7	2.1	1.0	39	片岩	緑褐色 503/3	定形	燧石	
1987	24	63	W-27区	V層	—	磨礫石	20.3	2.8	1.3	60	緑色頁岩	オリーブ褐色 土 506/1	定形	燧石	
1987	25	63	X-20区	V層	—	磨礫石	6.8	2.6	1.4	42	緑色頁岩	オリーブ褐色 土 506/1	定形	燧石	
1987	26	63	J-44区	V層	—	磨礫石	15.6	4.2	2.6	300	緑色頁岩	オリーブ褐色 土 506/1	定形	燧石	
1987	27	63	Y-26区	V層	—	たたま石	12.0	6.6	3.7	239	砂岩	中粒 灰褐色 土 507/3	定形	燧石	
1987	28	63	X-23区	V層	—	たたま石	13.1	6.5	4.0	333	砂岩	中粒 灰褐色 土 507/2	定形	燧石	
1987	29	63	T-21区	V層	—	たたま石	13.3	7.2	4.2	409	砂岩	粗粒 に少し赤褐色 土 506/3	定形	燧石	
1987	30	63	Q-15区	V層	—	たたま石	5.2	5.4	4.0	187	片岩	暗褐色 10004/1	定形	燧石	
1987	31	63	X-16区	V層	—	たたま石	5.8	5.1	3.3	205	片岩	暗褐色 10002/3	定形	燧石	
1987	32	63	P-28区	V層	—	ヤリ石	5.8	3.1	1.5	34	緑頁岩	磨礫 灰褐色 土 506/2	定形	燧石	
1987	33	63	X-17区	V層	—	ヤリ石	9.6	7.1	2.0	223	砂岩	磨礫 暗褐色 土 507/2	定形	燧石	
1987	34	63	S-20区	V層	—	北海道式不逞	13.2	16.8	8.0	958	砂岩	磨礫 に少し赤褐色 土 506/3	片	燧石	
1987	35	63	W-22区	V層	—	北海道式不逞	12.8	19.1	5.8	2,062	砂岩	磨礫 暗褐色 土 505/2	定形	燧石	
1987	36	63	4-22区	V層	—	砥石	24.7	9.7	6.0	1,477	砂岩	に少し赤褐色 土 507/3	定形	燧石	
1987	37	64	Y-26区	V層	—	砥石	28.61	12.5	2.5	1,053	砂岩	中粒 灰褐色 土 506/2	片	燧石	
1987	38	64	U-16区	V層	—	砥石	105.41	5.2	3.3	360	砂岩	中粒 黄褐色 土 507/3	定形	燧石	
1987	39	64	N-26区	V層	—	石鏃	10.5	7.8	2.9	293	砂岩	磨礫 暗褐色 土 505/2	定形	燧石	
1987	40	64	Z-7区	V層	—	石鏃	17.0	7.2	2.9	494	砂岩	磨礫 灰白色 土 506/1	定形	燧石	
1987	41	64	R-12区	V層	—	石鏃	16.2	9.1	3.1	471	緑色頁岩	オリーブ褐色 土 506/1	定形	燧石	
1987	42	64	a-7区	V層	—	石鏃	13.31	4.7	2.5	231	緑色頁岩	オリーブ褐色 土 506/1	片	燧石	
1987	43	64	T-20区	V層	—	石鏃・ナイフ	50.6	30.2	18.9	36,200	砂岩	磨礫 灰褐色 土 506/2	定形	燧石	
1987	44	64	4-4区	編年	—	石鏃	3.0	2.9	1.6	31	粗粒砂	灰白色 507/1	定形	燧石	
1987	45	64	T-15区	V層	—	石鏃	3.4	1.9	1.4	36	ギムラ	灰白色 507/1	磨礫石	燧石	
1987	46	64	N-22区	V層	—	石鏃	5.0	2.6	1.4	30	ギムラ	オリーブ褐色 土 506/1	定形	燧石	
1987	47	64	Y-24区	V層	—	石鏃	5.5	2.9	1.2	31	ギムラ	灰白色 土 506/2	定形	燧石	
1987	48	64	J-26区	V層	—	石鏃	19.3	4.0	1.1	77.4	片岩	暗褐色 10003/1	定形	燧石	
1987	49	64	D-18区	V層	—	石鏃	4.1	1.7	0.7	5	磨礫石	磨礫 暗褐色 土 503/4	定形	燧石	

表81 A・B地区 包含層出土土器等観察表(2)

図面 順 番号	図面 記号	出土地点	層位	遺物 番号	種類	計測値 (mm)			重量 (g)	石材 特徴	指す 状態	特徴 観察事項	備考	
						長さ	幅	厚さ						
151	30	64	X-23区	V層	—	石製品	8.6	3.3	3.0	80	砂岩 浅黄赤土 307/3	完整	新緑形	—
152	31	64	V-15区	V層	—	石製品	6.7	3.0	2.7	76	砂岩 浅黄赤土 307/3	完整	新緑形	—
153	32	64	e-17区	V層	—	石製品	4.7	1.9	1.8	9	砂岩 浅黄赤土 307/3	完整	新緑形	—
154	33	66	N-20区	V層	—	石製品	6.9	5.0	2.9	82	軽石 浅黄赤土 307/3	片	新緑?	新緑 赤色土

表82 C地区 包含層出土土器等観察表

図面 順 番号	図面 記号	出土地点	層位	遺物 番号	種類	計測値 (mm)			重量 (g)	石材 特徴	指す 状態	特徴 観察事項	備考			
						長さ	幅	厚さ								
155	1	65	a-4区	4層	—	石製品	2.2	1.0	0.9	6.4	黒石炭	—	完整	新緑の砂岩	—	
156	2	65	K-9区	4層	—	石製品	2.4	1.2	0.3	0.6	黒石炭	—	完整	新緑	—	
157	3	65	K-11区	4層	—	石製品	3.0	1.4	0.5	1.4	黒石炭	小緑葉	完整	新緑	—	
158	4	65	a-23区	1層	—	石製品	2.9	1.6	0.5	1.0	黒石炭	—	完整	新緑	—	
159	5	65	a-7区	4層	—	石製品	12.0	1.4	0.4	3.2	黒石炭	赤色部分あり	半完整	新緑	新緑土	
160	6	65	a-8区	4層	—	石製品	5.5	3.2	0.7	2.0	黒石炭	—	完整	新緑	—	
161	7	65	a-7区	4層	—	石製品・ナイフ	6.0	2.5	0.8	0.3	黒石炭	—	完整	新緑	—	
162	8	65	a-20区	1層	—	石製品・ナイフ	6.4	3.0	0.7	0.8	黒石炭	赤色部分あり	半完整	新緑	—	
163	9	65	1-11区	4層	—	つまみ付きナイフ	6.9	3.0	0.8	12.5	黒石炭	—	完整	新緑	—	
164	10	65	aa-18区	4層	—	つまみ付きナイフ	6.7	3.0	1.0	18.2	頁岩	緑黄 (30/10)	完整	新緑	—	
165	11	65	g-2区	4層	—	スライパー	6.1	2.0	0.9	11.0	黒石炭	—	完整	新緑	—	
166	12	65	1-8区	4層	—	スライパー	5.7	2.0	0.7	10.5	黒石炭	赤色の跡	半完整	新緑	新緑土	
167	13	65	1-11区	4層	—	新製石片	8.3	2.9	1.2	14.1	緑色頁岩	緑黄赤土 306/3	完整	新製	新緑	小型
168	14	65	a-8区	4層	—	新製石片	16.5	4.2	2.7	173	緑色頁岩	ナール頁岩 新製 新製面寸	完整	新製 新製	新製	新製品?
169	15	65	1-11区	4層	—	新製石片	10.2	4.2	3.0	145	緑色頁岩	ナール頁岩	完整	新製	新製	—
170	16	65	a-8区	4層	—	新製石片	15.0	15.1	12.0	71.9	片岩	塔黄灰石 306/4 白色の大理石	片	新製	新製	新製
171	17	65	a-12区	4層	—	新製石片	18.2	15.0	13.0	147	緑色頁岩	緑黄赤土 306/3	半完整	新製	新製	—
172	18	65	a-3区	4層	—	新製石片	19.0	15.1	13.0	211	片岩	黄灰色 306/4 白色の大理石	片	新製	新製	新製
173	19	65	1-4区	4層	—	新製石片	(7.7)	(5.5)	(2.4)	147	緑色頁岩	ナール頁岩 5076 新製面寸 新製面寸	半完整	新製	新製	新製
174	20	65	1-11区	4層	—	新製石片	18.0	14.0	12.0	114	緑色頁岩	ナール頁岩 106-2	半完整	新製	新製	—
175	21	65	d-7区	4層	—	片たき石	12.0	6.1	3.1	291	砂岩	今中巻 (頁岩)	完整	新製	新製	新製
176	22	65	1-16区	V層	—	片たき石	13.0	7.3	3.5	440	砂岩	新製 新製 新製 (頁岩)	片	新製	新製	新製
177	23	65	1-11区	4層	—	片たき石	13.4	5.4	4.1	398	砂岩	今中巻 (頁岩)	完整	新製	新製	新製
178	24	65	d-3区	V層	—	すり石	6.1	9.8	2.0	104	砂岩	新製 今中巻	完整	新製	新製	—
179	25	65	a-7区	4層	—	すり石	6.5	10.4	1.9	109	凝灰岩	新製 新製 (頁岩)	片	新製	新製	—
180	26	65	a-8区	4層	—	すり石	9.9	15.7	3.2	691	凝灰岩	新製 新製 (頁岩)	片	新製	新製	新製
181	27	65	a-8区	4層	—	すり石	11.6	14.4	4.9	1,093	凝灰岩	新製 新製 (頁岩)	片	新製	新製	新製
182	28	66	a-3区	4層	—	すり石	13.0	6.1	4.7	474	砂岩	新製 (頁岩)	完整	新製	新製	—
183	29	66	aa-7区	4層	—	鏡石	21.8	15.2	3.4	12.4	砂岩	新製 新製 (頁岩)	完整	新製	新製	新製
184	30	66	a-7区	4層	—	鏡石	15.5	(10.7)	3.4	803	凝灰岩	新製 新製	片	新製	新製	新製
185	31	66	アワード 区	1層	—	鏡石	23.9	9.4	7.4	1,440	砂岩	新製 今中巻 (頁岩)	片	新製	新製	新製
186	32	66	アワード 区	1層	—	鏡石	14.6	9.8	3.9	1,005	凝灰岩	新製 新製 (頁岩)	完整	新製	新製	—
187	33	66	aa-2区	4層	—	空石・石籠	36.6	15.8	5.4	3,640	砂岩	今中巻 新製 (頁岩)	完整	新製	新製	新製
188	34	66	a-22区	4層	—	空石・石籠	27.9	25.1	3.8	3,910	砂岩	今中巻 新製 (頁岩)	完整	新製	新製	—
189	35	67	アワード 区	1層	—	空石・石籠	23.2	15.9	10.8	4,110	凝灰岩	鏡石 (頁岩)	完整	新製	新製	新製
190	36	67	アワード 区	1層	—	空石・石籠	27.8	27.8	16.2	(3,760)	砂岩	新製 今中巻 (頁岩)	完整	新製	新製	—
191	37	67	a-19区	V層	—	空石・石籠	26.0	22.8	6.4	6,230	凝灰岩	鏡石 (頁岩)	完整	新製	新製	新製
192	38	67	k-4区	4層	—	新製石片	24.3	7.4	3.9	1,921	頁岩	新製 新製 ナール頁岩	完整	新製	新製	新製





## VI章 まとめ

### 1. 自然科学的分析結果について

これらについて、標準偏差の百分率が高いものを古い順にならびかえ、表83にまとめた。年代は大きく三つにまとまる。古いものから、ア：縄文時代中期中葉～後葉、イ：縄文時代後期初頭～中葉または後期前葉、ウ：縄文時代後期後葉～晩期初頭または晩期初頭～前葉である。

アはH-4の石組炉とH-9の炭化物集中である。H-4はIV群a類の余市式の土器集中があり、長期間使用された可能性があり、H-9は地床炉で小型のものである。イは後述する。ウは炭化物集中C-2・4で、後期末葉～晩期初頭と考えられる。同時期の遺構に土器集中PS-1・8があり(図88・91)、これらのうちC-2とPS-8は近い。

イは本遺跡の主たる時期である。古い堅穴住居跡は、大型のH-2・3A・6・10で、これらのなかでも、石組炉をもつH-2・3Aがさらに古い。これより新しいのは、大型で土器開い炉をもつH-15、小型のH-5・7・17、石組炉SF-2で、さらに新しいのは、中型のH-8・20と石組炉SF-5・6である。

「石組炉SF」を単独の野外炉跡、または発掘調査でみつけれなかった平地住居跡と仮定すると、縄文時代中期末葉～後期初頭の炉の変遷は、堅穴住居内の石組炉⇒土器開い炉⇒地床炉⇒「石組炉SF」である。堅穴住居跡は、石組炉をもつ中・小型(H-4・9)から大型(H-2・3A・6・10・15)へと変化し、その後、地床炉の中・小型のもの(H-8・20 H-5・7・17)や、野外炉または平地住居跡(SF-2・5・6)へと多様に変化すると解される。

時期が判断できる遺物を伴わない炭化物集中C-1・3や骨片集中B-2・3は、「ウ」の事例も含め年代幅があることがわかった。周辺の包含層の出土遺物からの推測や、遺跡の主たる時期に帰属させる推定は必ずしも正確でなく、年代測定でなければ正しく判断できない。C-1とB-2は石組炉をもつ大型の堅穴住居跡と同じで古く、C-3とB-3は「石組炉SF」と同時期で新しい。

### 2. 遺構について(図3・13・14)

遺構が集中する地点を想定し、堅穴住居跡と石組炉、土器集中を中心にまとめる。

#### ①：北西側；H-20付近

Ta-d 2主体の二次堆積層(Sd 2層)があり、H-20の覆土に北側から流れ込んだ様相がみられた。近くの焼土F-13・14・15も堆積層の下位である。やや離れて、楕円形の石組炉SF-12がある。

この①から南西側で、土器集中PS-10(IV群a類 余市式)と、円形のSF-11がそれぞれ単独でみられる

#### ②：南西側；H-4付近

H-4は石組炉をもつ住居跡で、IV群a類の円形刺突文をもたない余市式が2個体出土した。近くの土坑P-7・14・23はいずれも楕円形である。

#### ③：西側；H-1・5付近

H-1は中型、H-5は小型で、ともに地床炉である。近くに楕円形のP-1・8がある。

②と③の間に、P-4、F-1、PS-1(V群a類)がそれぞれ単独でみられる。

#### ④：南側；H-2・3・3A付近

H-2・3Aでは石組炉がみつかり、それぞれ重複の可能性がある。H-2とH-3A内のPS-4はIV群a類の余市式で、後者はH-3A出土の破片が接合した。また、H-3の覆土からIV群b類が出土しており、時期差があると考えるのが自然である。近くには、円形のP-12・16、長方形のSF-3、IV群a類のPS-3など遺構が密集する。

③と④の間には、Tピット予想した土坑P-9が単独で位置する。

⑤：中央～北側；H-13～H-16～H-19付近

住居跡が多く、H-13・14・15・19は大型で、前三者は掘り上げ土を伴う。中型のH-16、小型のH-17・18があり、周辺に土坑が多数みられる。PS-9は、IV群a類の円形刺突文が施される余市式である。

⑤の西側にはTP-3とフレイク集中FC-4がある。

⑥：中央南側；T～X-24～30区付近

土坑P-15からV層の等高線82.00m沿いに南東方向へY-25杭付近まで（図14）、シカの焼骨が多くみられた範囲である（図13）。SF-1・2・4はすべて長方形で、縄文時代前期のII群a類のPS-5がある。

⑦：南側；H-10付近

低位部に突き出る中位の段丘に位置し、掘り上げ土を伴う大型のH-10とP-5が位置する。

⑧：東側部分；H-6付近から東方向のすべての範囲

大型の住居跡のH-6に近接して小型のH-7、東側部分に中型のH-8があり、後者からIV群a類、縦長の刺突文が施された土器が出土した。両住居跡の間は、小型のH-9・11・12や、石組炉SF-5・6・7・10（方形）、SF-8・9（円形）がある。また、IV群a類の余市式のPS-2（円形刺突文）・PS-7（やや縦長の刺突文で貼付帯が少ない）もあり、土坑、Tピット、焼土など多くの遺構が散在的にみられる。年代測定の結果（第1節）を踏まえると、イ：石組炉が最も新しいとすると、この⑧地点は比して炉跡が多く、縄文時代中期末葉～後期前葉の本遺跡の居住空間は、概して南東方向へ移動したと推測される。ロ：V群a類のPS-8や同時期のC-2があることから、晩期前葉の遺構もあると考えられる。

⑨：vii層の範囲；B地区の南東側とC地区

低位の段丘で、P-6とIV群a類の余市式のPS-6がある。

（末光）

### 3. 遺物について

#### IV群a類土器について

調査では、縄文時代後期前葉の土器が多く出土し、復原個体が多数得られた。これらについて器形や文様から、二つの土器型式がさらに二つに分けられる。

#### 余市式

##### イ：貼付帯が施されるもの

遺物：図113-3・4（H-4・hps-1）、図114-8（H-15・hf-1 H-14）、図114-11（PS-4・H-3A）の復原土器である。

器形：器形は開口する口縁部から胴部にかけて直立気味で、胴部がわずかにふくらんで底部へと曲線的にすぼまるものが多い。

文様：貼付帯は口唇部直下から胴部下位まで複数施され、図113-3の胴部の貼付帯上には縄線文が

施される。口唇部は無文で、口縁部の外面に無文帯を有するものがある。地文はL R・R L原体による羽状縄文で、異なる条が重複する部分のみられ、複節の原体もある。

#### 口：貼付帯と円形刺突文が施されるもの

**遺物**：図113-7(H-8)、図114-10(P S-2)、図115-13(P S-6)・14(P S-7)、図116-16(P S-9)・17(P S-10)、図117-24(c-22区)・25(g-17区)・27(c-19区)出土の復原土器で、最も多い。

**器形**：器形は若干外反する口縁部から胴部にかけて直立気味で、底部へと直線的にすぼまるものが多いが、胴部が若干ふくらむものも少量みられる。

**文様**：貼付帯は口唇部直下から胴部下位まで複数施されるものが多いが、口唇部直下の外面に一条のみのものもある。複数の貼付帯が施されるものには、口縁部近くの貼付帯が非常に幅広く薄く、下部の器面と段差があるものがあり、これは余市式の「貼付帯」とタブコブ式の「段」との中間的な特徴と考える。口唇部直下の貼付帯の下には円形刺突文が棒状工具(半截竹管状)により施される。地文は、L R・R L原体による羽状縄文が多いが、同一原体の回転方向を変えて施した羽状縄文もあり、口唇部にも縄文がみられる。

#### タブコブ式

##### ハ：貼付帯と燃紐による刺突文、縄線文が施されるもの

**遺物**：図113-1(H-2)、図117-26(U-16区)、図118-28(d-14区)出土の復原土器である。

**器形**：器形は口縁部から胴部にかけて直立気味で、底部へ直線的にすぼまるものと、口縁部から底部へ曲線的にすぼまるものがあり、イ・口に比して小型で、口唇部に小突起を有するものもある。

**文様**：貼付帯は一条もしくは複数施される。図113-1は貼付帯が複数施され、口縁部近くの貼付帯が幅広く薄く、器面と段差がみられる。口唇部直下の貼付帯の下には円形や縦長の刺突文が燃紐により施され、また貼付帯上に縄線文が施されるものもある。地文はL R・R L原体による羽状縄文やL R斜行縄文で、口唇部や口縁部の内面にも縄文がみられるものがある。

##### ニ：縄線文が施されるもの

**遺物**：図118-29(T-16区)・30(Y-16区)、図119-37(h-18区)出土の復原土器である。

**器形**：器形は口縁部から底部へと曲線的にすぼまるものと、直線的にすぼまるものがあり、イ・口に比して小型である。

**文様**：縄線文は口縁部に横位に施されるものや、小突起から縦位に垂下するものがある。地文は斜行縄文や同一原体の回転方向を変えて施した羽状縄文で、条の間隔があくものが多い。口唇部や口縁部の内面にも縄文がみられる。

**その他**：図118-31(d-12区)・32(W-30区)・33(M-42区)出土の復原土器は縄文のみが施されるもので、器形と口縁部の内面に縄文が施されることから、ここに分類する。

イ・口は余市式、ハ・ニはタブコブ式で、イが古くニへと新しいと考える。

#### 棍棒形石器について

棍棒形石器は「扁平な石器素材の両側面を打ち欠いて、両側に鋸歯状の刃を作出する。その数は一側面に6~7個の場合が多い。柄部は敲打して調整したうえ、研磨して作っている」(野村 1984)もので、両側縁に刃部があり、柄部はこれに比して幅狭く整形される。また刃部は「刃のギザギザがより明瞭に作出されているもの」と「あまり強調されないもの」(前掲)がある。

厚幌ダム建設事業用地内では、厚真町教育委員会が調査したショロマ1遺跡、ショロマ2遺跡で、

棍棒形石器（ここでは棍棒棒石器も同じと考える）が出土した。両遺跡とも、刃部が鋸歯状でないものも、形態的な特徴から棍棒形石器と判断している。ショロマ1遺跡では弧状の刃部が片側にみられるもの（厚真町教委 2015）、ショロマ2遺跡では刃部が不明瞭で、たたき痕（敲打痕）が側縁に広くみられるものがある（厚真町教委 2015）。

本遺跡では棍棒形石器が包含層から4点出土した（図150-40・41、図151-42、図156-38）。

これらは鋸歯状の刃部がなく、幅広い機能部（刃部）とそれに比して幅の狭い柄部を有するもので、形態から棍棒形石器に分類した。機能部の両側縁には複数の剥離がみられ、たたき痕（敲打痕）があるものが多い。

図150-40は砂岩製で、右側縁の表裏両面に複数の剥離がある。柄部は主に裏面に剥離がみられる。図150-41は緑色泥岩製で、柄部は下端が破損し、さらに長い形状であったと推測される。表裏両面のはほぼ全周に剥離がみられ、両側縁に刃部があると考えられる。柄部は厚みがあり、右側面にたたき痕（敲打痕）がみられる。図151-42は緑色泥岩製で、扁平な棒状を呈し、機能部を破損する柄部と考えられる。表面は下端部に剥離がみられ、裏面は平滑で研磨痕と考える。図156-38は泥岩製で、全体に厚みがあり、柄部は細長い。左側縁は裏面に剥離が複数みられ、機能部の右側面には加工と思われる剥離がある。柄部は側縁や下端にたたき痕（敲打痕）がみられる。

本遺跡出土の棍棒形石器は、遺跡の主たる時期の縄文時代中期末～後期前葉と推定され、たたき石のように用いられたと推測される。

（愛場）

#### 4. 調査範囲と等高線について

厚幌ダム建設事業は、平成8（1996）年度に3級基準点設置測量が行われ、平成12（2000）年度には「現況平面図」（現況図）が作成され、平成24（2012）年度に最終版となった。これと同年度に航空レーザー測量による「厚幌ダム平面図」（等高線図）があり、事業は日本測地系で行われ、当センターの発掘調査の基図は、前半期は現況図、後半期は等高線図も加え、世界測地系に換算して実施した（Ⅲ章1節）。

現況図と等高線図は現地測量から図化方法が異なるので、細部に差異が生じている。広範囲にわたるダム建設事業では細かな部分の違いは影響ないが、埋蔵文化財の調査では、遺跡の範囲は崖や沢等の地形で定まることが多く、細部の地形は重要である。実際には、二つの図面の違いに加え、遺跡周辺では沢の有無、崖や等高線の形状等で、現地形と異なる部分があった。縮尺や精度、作図目的の違いにもよるが、実際の地物を図面で完全に再現することはできない。

調査区が長方形と仮定すると、道路建設等の線状の構造物の場合、少なくとも二辺は工事用地の境界であり、これを基準に現況と図面を一致させて整合を保つことができる。しかし、山間部に広く行われる本事業のように、用地境界等の確定的な基準となりうる地物がない場合、調査区を現地に設定する場合、定める基準により誤差や不一致が生じやすく、整合性の確保に限界がある。これらを解消するには、調査範囲を「平面直角座標」等の数値も併記することが望ましい。

描かれた図面から座標値を判読する方法は、実施者により誤差が生じることが避けられない。また、計画で調査予定面積は端数のない値で示されるが、実際には十の位程度の誤差がある。ゆえに、調査区を拡張する場合等にその分の正確な値を、元の数値に単純に加えても、上記の誤差の影響を受けるので、計測の精度による調整が必要であった。確定した発掘調査範囲は当初、現況図に示され、計画立案・積算に用いられた。後に、平成24（2012）年度の等高線図に調査区は同じ線形で示され、そ

のさいの基準は平面直角座標（日本測地系）と思われる。

また、この等高線図上の標高85.4m以上の範囲は、建設ダムの常時満水位より高いので、発掘調査が不要となった。これに該当した遺跡は、イクバンドユクナセ2遺跡・イクバンドユクナセ3遺跡・上幌内5遺跡・オニキシベ3遺跡である。等高線は同じ標高の地点を結んだとされる線であるが、実際は同じ標高値の点の平面位置を測り、これらを結んで図化されたものではなく、任意の間隔（メッシュ）で複数の地点の標高を測ったもの（標高モデル）から、これら点間の水平距離と標高の差が比例することを前提とし、補完するよう描かれたものである。補完作業は、実施者や使用ソフトにより差が生じることは避けられず、等高線のある標高値の絶対的な境界の厳密な線とすることは適切ではない。

（末光）

表83 放射性炭素年代測定結果一覽表

試料名	調査年度	遺構	付属遺構	階位	遺物番号	遺物種別	乾燥重量 (g)	1標準偏差 曆年較正年代(68.2%)		2標準偏差 曆年較正年代(95.4%)		世紀・時代				
								caBP	±	caBP	±					
ON3-8	平成27 (2015)年度	竪穴住居跡 H-9	炭化物集中 hc-1	床面	—	炭化物	0.28	4761 caBP	-	4695 caBP	(59.4%)	4767 caBP	-	4613 caBP	(74.0%)	縄文時代中期 中葉～後葉
ON3-3	平成26 (2014)年度	竪穴住居跡 H-4	石組伊 ha-1・埴土(hf-1)	埴土	—	炭化物	0.01	4647 caBP	-	4579 caBP	(36.9%)	4723 caBP	-	4530 caBP	(69.5%)	縄文時代中期 中葉～後葉
ON3-2	平成26 (2014)年度	竪穴住居跡 H-3A	石組伊 ha-1/(hf-1)	埴土	—	炭化物	0.04	4427 caBP	-	4386 caBP	(37.1%)	4490 caBP	-	4290 caBP	(94.7%)	縄文時代後期 初期～中葉
ON3-1	平成26 (2014)年度	竪穴住居跡 H-2	石組伊内 (ha-1)	床面	—	炭化物	0.09	4423 caBP	-	4382 caBP	(33.3%)	4460 caBP	-	4298 caBP	(90.1%)	縄文時代後期 初期～中葉
ON3-14	平成26 (2014)年度	炭化物集中 C-1	—	V層	—	炭化物	0.34	4423 caBP	-	4384 caBP	(31.8%)	4438 caBP	-	4284 caBP	(92.3%)	縄文時代後期 初期～中葉
ON3-5	平成26 (2014)年度	竪穴住居跡 H-6	炭化物集中 hc-1	床面	—	炭化物	0.32	4300 caBP	-	4242 caBP	(34.0%)	4413 caBP	-	4229 caBP	(90.7%)	縄文時代後期 初期～中葉
ON3-17	平成27 (2015)年度	骨片集中 B-2	—	V層	—	炭化物	0.01	4295 caBP	-	4225 caBP	(34.4%)	4300 caBP	-	4153 caBP	(75.2%)	縄文時代後期 初期～中葉
ON3-9	平成27 (2015)年度	竪穴住居跡 H-10	埴土 hf-1	埴土	—	炭化物	0.04	4249 caBP	-	4155 caBP	(35.2%)	4299 caBP	-	4196 caBP	(86.9%)	縄文時代後期 初期～中葉
ON3-6	平成26 (2014)年度	竪穴住居跡 H-7	埴土 hf-1	埴土	—	炭化物	0.13	4209 caBP	-	4155 caBP	(30.4%)	4300 caBP	-	4147 caBP	(84.4%)	縄文時代後期 初期～中葉
ON3-11	平成26 (2014)年度	石組伊 SF-2	—	V層下位 (覆土)	(11)	炭化物	0.44	4208 caBP	-	4156 caBP	(34.2%)	4300 caBP	-	4148 caBP	(84.3%)	縄文時代後期 初期～中葉
ON3-4	平成26 (2014)年度	竪穴住居跡 H-5	炭化物集中 hc-1(住居跡外)	床面	—	炭化物	0.70	4157 caBP	-	4089 caBP	(38.5%)	4238 caBP	-	4081 caBP	(90.4%)	縄文時代後期 初期～中葉
ON3-19	平成28 (2016)年度	竪穴住居跡 H-15	埴土 hf-2	埴土 (上面)	—	炭化物	0.01	4122 caBP	-	4080 caBP	(43.4%)	4226 caBP	-	4083 caBP	(94.2%)	縄文時代後期 前葉
ON3-10	平成26 (2014)年度	土坑 P-1	—	覆土	—	炭化物	0.46	4123 caBP	-	4094 caBP	(26.0%)	4244 caBP	-	4083 caBP	(94.9%)	縄文時代後期 初期～中葉
ON3-7	平成27 (2015)年度	竪穴住居跡 H-8	埴土 hf-1	埴土	—	炭化物	0.02	4081 caBP	-	4023 caBP	(49.1%)	4099 caBP	-	3915 caBP	(95.4%)	縄文時代後期 初期～中葉
ON3-16	平成27 (2015)年度	炭化物集中 C-3	—	V層	I	炭化物	0.78	4049 caBP	-	3986 caBP	(49.7%)	4100 caBP	-	3973 caBP	(84.5%)	縄文時代後期 初期～中葉
ON3-20	平成28 (2016)年度	竪穴住居跡 H-17	埴土 hf-1	埴土 (上面)	—	炭化物	0.04	4047 caBP	-	3988 caBP	(31.8%)	4094 caBP	-	3976 caBP	(91.1%)	縄文時代後期 前葉
ON3-21	平成28 (2016)年度	竪穴住居跡 H-20	—	床面	—	炭化物	0.09	3990 caBP	-	3924 caBP	(31.2%)	4009 caBP	-	3896 caBP	(69.4%)	縄文時代後期 前葉
ON3-12	平成27 (2015)年度	石組伊 SF-5	—	埴土 (覆土)	—	炭化物	0.08	3985 caBP	-	3919 caBP	(44.4%)	4004 caBP	-	3888 caBP	(76.8%)	縄文時代後期 初期～中葉
ON3-13	平成26 (2014)年度	石組伊 SF-6	—	埴土 (覆土)	—	炭化物	0.44	3869 caBP	-	3824 caBP	(38.4%)	3983 caBP	-	3720 caBP	(95.4%)	縄文時代後期 初期～中葉
ON3-18	平成27 (2015)年度	骨片集中 B-3	—	V層	—	炭化物	0.02	3868 caBP	-	3825 caBP	(39.1%)	3983 caBP	-	3720 caBP	(95.4%)	縄文時代後期 初期～中葉
ON3-15	平成26 (2014)年度	炭化物集中 C-2	—	V層	—	炭化物	0.15	3245 caBP	-	3169 caBP	(63.8%)	3269 caBP	-	3141 caBP	(75.9%)	縄文時代後期 後葉～晩期初期
ON3-22	平成28 (2016)年度	炭化物集中 C-4	—	V層	—	炭化物	0.50	3077 caBP	-	3001 caBP	(39.8%)	3083 caBP	-	2973 caBP	(69.4%)	縄文時代晩期 初期～前葉

# 付 篇

自然科学的手法による分析





## 1. 平成27(2015)年度 オニキシベ3遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

### 1 測定対象試料

オニキシベ3遺跡は、北海道勇払郡厚真町幌内445-1ほか(北緯42°45′43.35″、東経142°00′47.50″)に所在し、厚真川上流域の支流鬼岸辺川右岸(標高約80m)に立地する。測定対象試料は、堅穴住居跡や土坑等の遺構から出土した炭化物18点である(表1)。試料が出土した遺構はすべて樽前cテフラ(約2000年前降下)下位の黒色土層で検出され、縄文時代後期と推定されている。

### 2 測定の意義

試料が出土した遺構の年代を明らかにする。

### 3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/l(1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

### 4 測定方法

加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、<sup>14</sup>Cの計数、<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C濃度(<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

### 5 算出方法

- (1)  $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) <sup>14</sup>C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中<sup>14</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。<sup>14</sup>C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。<sup>14</sup>C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C年代の誤差( $\pm 1\sigma$ )は、試料の<sup>14</sup>C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の<sup>14</sup>C濃度の割合である。pMCが小さい(<sup>14</sup>Cが少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上(<sup>14</sup>Cの量が標準現代炭素と同等以上)の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の<sup>14</sup>C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の<sup>14</sup>C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差(1 $\sigma$  = 68.2%)あるいは2標準偏差(2 $\sigma$  = 95.4%)で表示される。グラフの縦軸が<sup>14</sup>C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない<sup>14</sup>C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース(Reimer et al. 2013)を用い、OxCalv4.2較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

## 6 測定結果

測定結果を表1、2に示す。

試料18点の<sup>14</sup>C年代は、4170 ± 30yrBP (ON3-8) から3020 ± 30yrBP (ON3-15) の間にあり、特に3900~3500yrBP頃のものが多い。暦年較正年代(1 $\sigma$ )は、最も古いON3-8が4826~4646cal BPの間に3つの範囲、最も新しいON3-15が3318~3169cal BPの間に2つの範囲で示される。最も古いON3-3、8が縄文時代中期中葉から後葉頃、最も新しいON3-15が後期後葉から晩期初頭頃で、年代値がまとまっているその他の15点は全体で後期初頭から中葉頃に相当する(小林編2008)。いずれもテフラとの上下関係に整合的で、推定される時期におおむね一致するものが多いと見られるが、ON3-3、8はやや古い値を示した。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

## 文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

小林達雄編 2008 総覧縄文土器. 総覧縄文土器刊行委員会. アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of <sup>14</sup>C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

表 1 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$  補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC(%)
IAAA-152791	ON3-1	竪穴住居跡 H-2hs-1 焼土	炭化物		-25.93 ± 0.44	3,930 ± 30	61.28 ± 0.22
IAAA-152792	ON3-2	竪穴住居跡 H-3Ahs-1 焼土	炭化物	AAA	-23.46 ± 0.37	3,940 ± 30	61.26 ± 0.20
IAAA-152793	ON3-3	竪穴住居跡 H-4hs-1 焼土	炭化物	AAA	-24.95 ± 0.38	4,120 ± 30	59.84 ± 0.21
IAAA-152794	ON3-4	竪穴住居跡 H-5hc-2 床面	炭化物	AAA	-25.26 ± 0.62	3,770 ± 30	62.55 ± 0.22
IAAA-152795	ON3-5	竪穴住居跡 H-6hc-1 床面	炭化物	AAA	-24.44 ± 0.60	3,870 ± 30	61.77 ± 0.22
IAAA-152796	ON3-6	竪穴住居跡 H-7hf-1 焼土	炭化物	AAA	-28.26 ± 0.45	3,830 ± 30	62.07 ± 0.21
IAAA-152797	ON3-7	竪穴住居跡 H-8hf-1 焼土	炭化物	AaA	-26.15 ± 0.46	3,670 ± 30	63.30 ± 0.21
IAAA-152798	ON3-8	竪穴住居跡 H-9hc-1 床面	炭化物	AAA	-25.30 ± 0.49	4,170 ± 30	59.48 ± 0.22
IAAA-152799	ON3-9	竪穴住居跡 H-10hf-1 焼土	炭化物	AAA	-27.75 ± 0.48	3,830 ± 30	62.10 ± 0.21
IAAA-152800	ON3-10	土坑 P-1 覆土	炭化物	AAA	-25.17 ± 0.57	3,780 ± 30	62.44 ± 0.22
IAAA-152801	ON3-11	石組炉 SF-2 V層下位	炭化物	AAA	-25.34 ± 0.29	3,830 ± 30	62.05 ± 0.21
IAAA-152802	ON3-12	石組炉 SF-5 焼土	炭化物	AAA	-24.22 ± 0.28	3,650 ± 30	63.52 ± 0.21
IAAA-152803	ON3-13	石組炉 SF-6 焼土	炭化物	AAA	-27.78 ± 0.38	3,540 ± 30	64.40 ± 0.22
IAAA-152804	ON3-14	炭化物集中 C-1 V層	炭化物	AAA	-26.66 ± 0.56	3,930 ± 30	61.32 ± 0.21
IAAA-152805	ON3-15	炭化物集中 C-2 V層	炭化物	AAA	-23.67 ± 0.63	3,020 ± 30	68.66 ± 0.23
IAAA-152806	ON3-16	炭化物集中 C-3 V層	炭化物	AAA	-24.46 ± 0.63	3,710 ± 30	63.03 ± 0.22
IAAA-152807	ON3-17	骨集中 B-2 V層	炭化物	AAA	-24.42 ± 0.52	3,840 ± 30	61.97 ± 0.20
IAAA-152808	ON3-18	骨集中 B-3 V層	炭化物	AAA	-23.15 ± 0.43	3,540 ± 30	64.40 ± 0.22

[#7793]

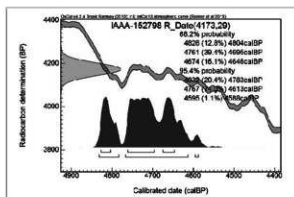
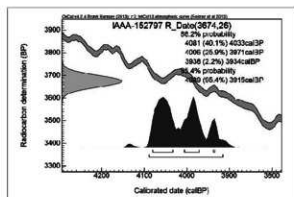
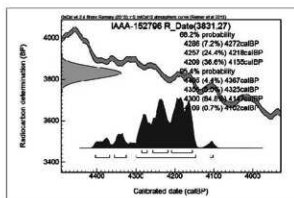
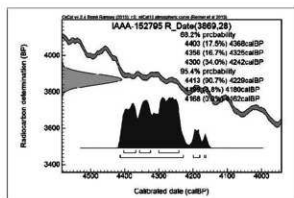
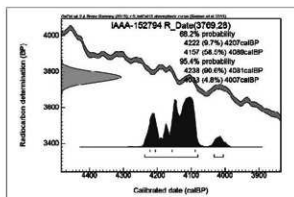
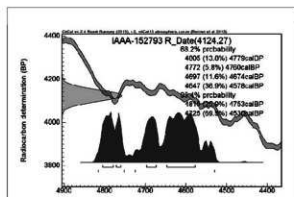
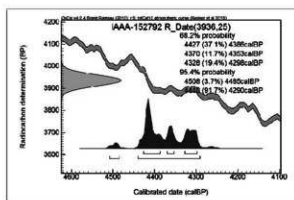
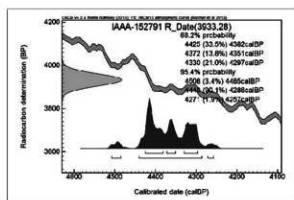
表2 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 $^{14}\text{C}$ 年代、較正年代) (1)

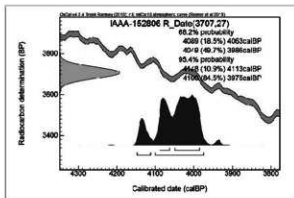
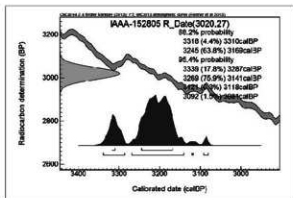
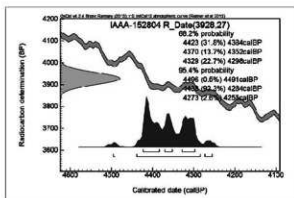
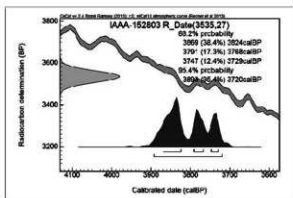
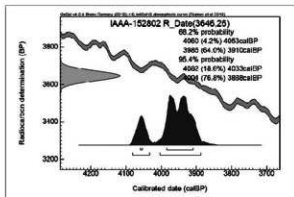
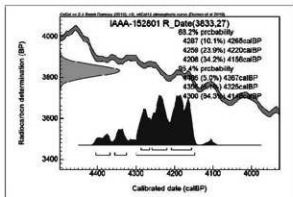
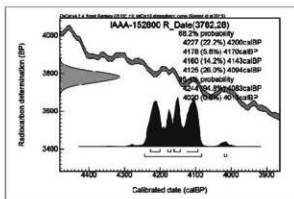
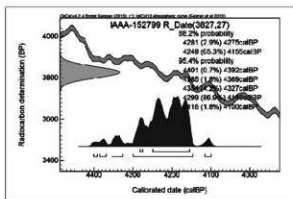
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲	
	Age (yrBP)	pMC (%)				
IAAA-152791	3,950 $\pm$ 30	61.17 $\pm$ 0.21	3,933 $\pm$ 28	4425calBP-4382calBP (33.5%)	4508calBP-4485calBP ( 3.4%)	
				4372calBP-4351calBP (13.8%)	4440calBP-4286calBP (90.1%)	
				4330calBP-4297calBP (21.0%)	4271calBP-4257calBP ( 1.9%)	
IAAA-152792	3,910 $\pm$ 20	61.46 $\pm$ 0.19	3,936 $\pm$ 25	4427calBP-4386calBP (37.1%)	4508calBP-4485calBP ( 3.7%)	
				4370calBP-4353calBP (11.7%)	4440calBP-4290calBP (91.7%)	
				4328calBP-4298calBP (19.4%)		
IAAA-152793	4,120 $\pm$ 30	59.85 $\pm$ 0.20	4,124 $\pm$ 27	4805calBP-4779calBP (13.8%)	4815calBP-4753calBP (25.9%)	
				4772calBP-4760calBP ( 5.8%)		
				4697calBP-4674calBP (11.6%)		4725calBP-4530calBP (69.5%)
				4647calBP-4578calBP (36.9%)		
IAAA-152794	3,770 $\pm$ 30	62.51 $\pm$ 0.21	3,769 $\pm$ 28	4222calBP-4207calBP ( 9.7%)	4238calBP-4081calBP (90.6%)	
				4157calBP-4089calBP (58.5%)	4033calBP-4007calBP ( 4.8%)	
IAAA-152795	3,860 $\pm$ 30	61.85 $\pm$ 0.21	3,869 $\pm$ 28	4403calBP-4368calBP (17.5%)	4413calBP-4229calBP (90.7%)	
				4356calBP-4325calBP (16.7%)	4199calBP-4180calBP ( 3.8%)	
				4300calBP-4242calBP (34.0%)	4168calBP-4162calBP ( 0.9%)	
IAAA-152796	3,880 $\pm$ 30	61.65 $\pm$ 0.20	3,831 $\pm$ 27	4286calBP-4272calBP ( 7.2%)	4405calBP-4367calBP ( 4.4%)	
				4257calBP-4218calBP (24.4%)	4356calBP-4325calBP ( 5.5%)	
				4209calBP-4155calBP (36.6%)	4300calBP-4147calBP (84.8%)	
					4109calBP-4102calBP ( 0.7%)	
IAAA-152797	3,690 $\pm$ 30	63.15 $\pm$ 0.20	3,674 $\pm$ 26	4081calBP-4033calBP (40.1%)	4089calBP-3915calBP (95.4%)	
				4006calBP-3971calBP (25.9%)		
				3938calBP-3934calBP ( 2.2%)		
IAAA-152798	4,180 $\pm$ 30	59.44 $\pm$ 0.21	4,173 $\pm$ 29	4826calBP-4804calBP (12.8%)	4832calBP-4783calBP (20.4%)	
				4761calBP-4695calBP (39.4%)	4767calBP-4613calBP (74.0%)	
				4674calBP-4646calBP (16.1%)	4595calBP-4588calBP ( 1.1%)	
IAAA-152799	3,870 $\pm$ 30	61.75 $\pm$ 0.20	3,827 $\pm$ 27		4401calBP-4392calBP ( 0.7%)	
				4281calBP-4275calBP ( 2.9%)	4385calBP-4369calBP ( 1.8%)	
				4249calBP-4155calBP (65.3%)	4354calBP-4327calBP ( 4.2%)	
					4299calBP-4146calBP (86.9%)	
IAAA-152800	3,790 $\pm$ 30	62.42 $\pm$ 0.21	3,782 $\pm$ 28	4227calBP-4200calBP (22.2%)	4416calBP-4100calBP ( 1.8%)	
				4178calBP-4170calBP ( 5.8%)	4244calBP-4083calBP (94.8%)	
				4160calBP-4143calBP (14.2%)	4020calBP-4013calBP ( 0.6%)	
				4125calBP-4094calBP (26.0%)		

表 2 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 $^{14}\text{C}$ 年代、較正年代) (2)

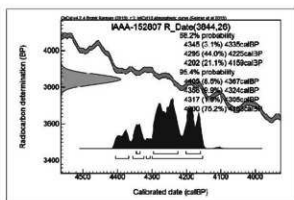
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-152801	3,840 $\pm$ 30	62.01 $\pm$ 0.21	3,833 $\pm$ 27	4287calBP-4265calBP (10.1%)	4405calBP-4367calBP ( 5.0%)
				4259calBP-4220calBP (23.9%)	4356calBP-4325calBP ( 6.1%)
				4208calBP-4156calBP (34.2%)	4300calBP-4148calBP (84.3%)
IAAA-152802	3,630 $\pm$ 30	63.62 $\pm$ 0.21	3,646 $\pm$ 26	4060calBP-4053calBP ( 4.2%)	4082calBP-4033calBP (18.6%)
				3985calBP-3910calBP (64.0%)	4004calBP-3888calBP (76.8%)
IAAA-152803	3,580 $\pm$ 30	64.03 $\pm$ 0.21	3,535 $\pm$ 27	3869calBP-3824calBP (38.4%)	3893calBP-3720calBP (95.4%)
				3791calBP-3768calBP (17.3%)	
				3747calBP-3729calBP (12.4%)	
IAAA-152804	3,960 $\pm$ 30	61.11 $\pm$ 0.20	3,928 $\pm$ 27	4423calBP-4384calBP (31.8%)	4496calBP-4491calBP ( 0.5%)
				4370calBP-4352calBP (13.7%)	4438calBP-4284calBP (92.3%)
				4329calBP-4298calBP (22.7%)	4273calBP-4255calBP ( 2.6%)
IAAA-152805	3,000 $\pm$ 30	68.85 $\pm$ 0.22	3,020 $\pm$ 27	3318calBP-3310calBP ( 4.4%)	3339calBP-3287calBP (17.8%)
				3245calBP-3169calBP (63.8%)	3269calBP-3141calBP (75.9%)
					3121calBP-3118calBP ( 0.3%)
					3092calBP-3081calBP ( 1.5%)
IAAA-152806	3,700 $\pm$ 30	63.10 $\pm$ 0.20	3,707 $\pm$ 27	4089calBP-4063calBP (18.5%)	4148calBP-4113calBP (10.9%)
				4049calBP-3986calBP (49.7%)	4100calBP-3975calBP (84.5%)
IAAA-152807	3,840 $\pm$ 20	62.04 $\pm$ 0.19	3,844 $\pm$ 26	4345calBP-4335calBP ( 3.1%)	4405calBP-4367calBP ( 8.5%)
				4295calBP-4225calBP (44.0%)	4356calBP-4324calBP ( 9.9%)
				4202calBP-4159calBP (21.1%)	4317calBP-4305calBP ( 1.9%)
					4300calBP-4153calBP (75.2%)
IAAA-152808	3,500 $\pm$ 30	64.64 $\pm$ 0.21	3,535 $\pm$ 26	3868calBP-3825calBP (39.1%)	3893calBP-3720calBP (95.4%)
				3791calBP-3769calBP (17.1%)	
				3746calBP-3730calBP (12.0%)	

[参考値]

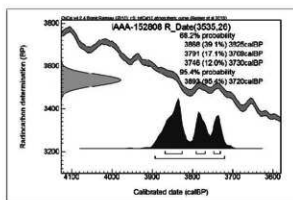








【図版】 暦年較正年代グラフ(参考)



(平成28(2016)年3月23日 受領 内容点検 愛場)

## 2. 平成28(2016)年度 オニキシベ3遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

### 1 測定対象試料

オニキシベ3遺跡は、北海道勇払郡厚真町字幌内438-19ほか(北緯42°45'37.74"、東経142°00'57.49")に所在し、厚真川支流の鬼岸辺川右岸(標高78~84m)に立地する。測定対象試料は、遺構から出土した炭化物4点である(表1)。

試料が出土した遺構はすべて樽前cテフラ(約2000年前降下)下位の黒色土層で検出され、縄文時代後期と推定されている。

### 2 測定の意義

試料が出土した遺構の年代を明らかにする。

### 3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/l(1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

### 4 測定方法

加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、<sup>14</sup>Cの計数、<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C濃度(<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

### 5 算出方法

- (1)  $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) <sup>14</sup>C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中<sup>14</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。<sup>14</sup>C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。<sup>14</sup>C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C年代の誤差( $\pm 1\sigma$ )は、試料

の<sup>14</sup>C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の<sup>14</sup>C濃度の割合である。pMCが小さい(<sup>14</sup>Cが少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上(<sup>14</sup>Cの量が標準現代炭素と同等以上)の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の<sup>14</sup>C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の<sup>14</sup>C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差(1 $\sigma$  = 68.2%)あるいは2標準偏差(2 $\sigma$  = 95.4%)で表示される。グラフの縦軸が<sup>14</sup>C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない<sup>14</sup>C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース(Reimer et al. 2013)を用い、OxCalv4.2較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

## 6 測定結果

測定結果を表1、2に示す。

試料の<sup>14</sup>C年代は、ON3-19が $3770 \pm 20\text{yrBP}$ 、ON3-20が $3700 \pm 20\text{yrBP}$ 、ON3-21が $3650 \pm 20\text{yrBP}$ 、ON3-22が $2920 \pm 20\text{yrBP}$ である。暦年較正年代(1 $\sigma$ )は、ON3-19~21が縄文時代後期前葉頃、ON3-22が晩期初頭から前葉頃に相当する(小林編2008)。テフラとの上下関係に総合的な結果である。推定される時期に対して、ON3-19~21はその範囲内であるが、ON3-22はやや新しい。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

## 文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360
- 小林達雄編 2008 総覧縄文土器. 総覧縄文土器刊行委員会. アム・プロモーション
- Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887
- Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of <sup>14</sup>C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

表 1 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$  補正值)

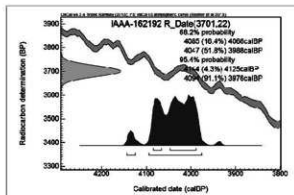
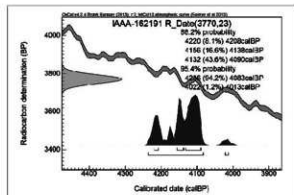
測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-162191	ON3-19	H-15h-f-2 焼土	炭化物	AaA	-27.32 ± 0.26	3,770 ± 20	62.54 ± 0.18
IAAA-162192	ON3-20	H-17h-f-1 焼土	炭化物	AAA	-24.52 ± 0.29	3,700 ± 20	63.08 ± 0.18
IAAA-162193	ON3-21	H-20 床面	炭化物	AAA	-26.27 ± 0.41	3,650 ± 20	63.45 ± 0.19
IAAA-162194	ON3-22	C-4 V層	炭化物	AAA	-25.29 ± 0.34	2,920 ± 20	69.55 ± 0.18

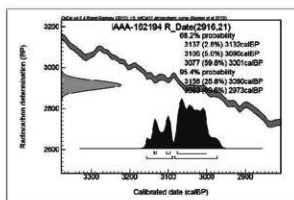
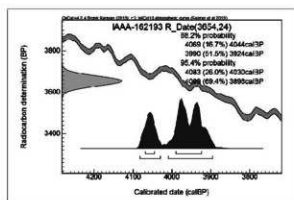
[#8387]

表 2 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$  未補正值、暦年較正用 $^{14}\text{C}$ 年代、較正年代)

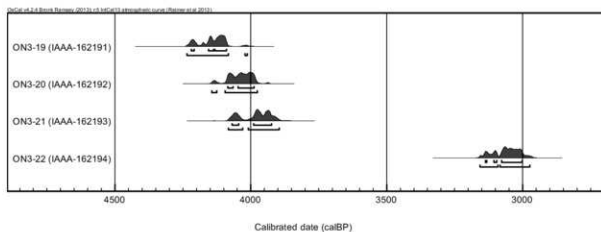
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-162191	3,810 ± 20	62.24 ± 0.18	3,770 ± 23	4220calBP-4208calBP ( 8.1%)	4236calBP-4083calBP (94.2%)
				4156calBP-4138calBP (16.6%)	4022calBP-4013calBP ( 1.2%)
				4132calBP-4090calBP (43.6%)	
IAAA-162192	3,690 ± 20	63.14 ± 0.18	3,701 ± 22	4085calBP-4066calBP (16.4%)	4144calBP-4125calBP ( 4.3%)
				4047calBP-3988calBP (51.8%)	4094calBP-3976calBP (91.1%)
IAAA-162193	3,680 ± 20	63.28 ± 0.19	3,654 ± 24	4069calBP-4044calBP (16.7%)	4083calBP-4030calBP (26.0%)
				3990calBP-3924calBP (51.5%)	4009calBP-3896calBP (69.4%)
IAAA-162194	2,920 ± 20	69.51 ± 0.18	2,916 ± 21	3137calBP-3132calBP ( 2.8%)	3156calBP-3090calBP (25.8%)
				3105calBP-3096calBP ( 5.6%)	3083calBP-2973calBP (69.6%)
				3077calBP-3001calBP (59.8%)	

[参考図]





【図版 1】 暦年較正年代グラフ (参考)



【図版 2】 暦年較正年代グラフ (マルチプロット図、参考)

(平成29(2017)年 3月24日受領 内容点検 愛場)

# 引用参考文献

## 論文・書籍等

- 池田実・亀井喜久太郎 1976 『厚真の旧地名を尋ねて』  
池田実・亀井喜久太郎 1978 『続 厚真の旧地名を尋ねて』  
小山正忠・竹原秀雄 1967 『新版 標準土色帖』日本色研事業株式会社  
松浦武四郎 秋葉実 解説 高倉新一郎校訂  
1985 『戊午 東部 安都麻志 全』『戊午 東西蝦夷山川地理取調日誌 中』北海道出版企画センター  
野村崇 1984 『青竜刀形石器と棍棒石器』『河野広道博士没後二十年記念論文集』

## 団体組織刊行物

- 厚真町 1986 『厚真町史』  
厚真町 1998 『増補 厚真町史』  
厚真シンポジウム実行委員会・厚真町教育委員会 2015  
『厚真シンポジウム 遺跡が語るアイヌ文化の成立-11~14世紀の北海道と本州島』  
厚真町観内自治会 1997 『開基百年 観内のあゆみ』  
厚真村 1956 『厚真村史』  
厚真村教育委員会・厚真村郷土研究会 1956 『厚真村古代史-村内に所在する先住民族の遺跡-』  
ベドロジスト懇談会 1984 『土壌調査ハンドブック』博友社  
北海道考古学会 2013 『2013年度 北海道考古学会 遺跡調査報告会資料集』  
北海道考古学会 2014 『2014年度 北海道考古学会 遺跡調査報告会資料集』  
北海道考古学会 2015 『2015年度 北海道考古学会 遺跡調査報告会資料集』  
北海道考古学会 2016 『2016年度 北海道考古学会 遺跡調査報告会資料集』

## 埋蔵文化財発掘調査報告書

### 厚真町教育委員会

#### 厚幌ダム建設事業

- 厚真町教育委員会 2004 『厚幌1遺跡』-厚幌ダム建設に係わる一般道道切替工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書  
厚真町教育委員会 2006 『厚真町 上幌内モイ遺跡(1)』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1  
厚真町教育委員会 2007 『厚真町 上幌内モイ遺跡(2)』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2  
厚真町教育委員会 2009 『厚真町 上幌内モイ遺跡(3)』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3  
厚真町教育委員会 2011 『オニキシベ2遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書4  
厚真町教育委員会 2013 『ワチャラセナイチャシ跡・ワチャラセナイ遺跡』  
厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5  
厚真町教育委員会 2013 『オニキシベ5遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6  
厚真町教育委員会 2014 『厚幌1遺跡(3)』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書7  
厚真町教育委員会 2014 『オニキシベ4遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書8  
厚真町教育委員会 2014 『ワチャラセナイ遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書9  
厚真町教育委員会 2014 『オニキシベ6遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書10  
厚真町教育委員会 2014 『ショロマ3遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書11  
厚真町教育委員会 2015 『ショロマ1遺跡(1)』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書12  
厚真町教育委員会 2015 『ショロマ2遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書13  
厚真町教育委員会 2016 『上幌内1遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書14  
厚真町教育委員会 2017 『上幌内2遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書15  
厚真町教育委員会 2017 『一里沢遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書16

## 国営土地改良事業勇払東部（二期）地区 厚幌導水管事業

- 厚真町教育委員会 2009 『ニタップナイ遺跡（1）』  
国営土地改良事業勇払東部（二期）地区 厚幌導水路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1
- 厚真町教育委員会 2010 『厚幌1遺跡（2） 幌内7遺跡』  
国営土地改良事業勇払東部（二期）地区 厚幌導水路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2
- 厚真町教育委員会 2010 『幌内5遺跡（1） 富里2遺跡 タップナイ遺跡（2）』  
国営土地改良事業勇払東部（二期）地区 厚幌導水路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3

## その他の事業

- 厚真町教育委員会 2002 『狸沼2遺跡』 狸沼農地造成工事・土砂採取工事用地内 埋蔵文化財工事立会報告書
- 厚真町教育委員会 2002 『豊川1遺跡』 ノーザンファームトレーニングコース（坂路馬場）造成工事立会報告書
- 厚真町教育委員会 2013 『ワイカルマイ遺跡』  
道道上幌内早来停車場線特改1種工事（道州）事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

## その他の市町村

### 苫小牧市埋蔵文化財調査センター

- 1998 『美沢東遺跡群』 道道静川美沢線道路改良工事に伴う美沢東4・5・6遺跡発掘調査報告書

## (財)・(公財) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書（北埋調報）

- (財) 北海道埋蔵文化財センター 2008 『むかわ町 穂別D遺跡』  
北進平取線交付金B（安妥）工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報259
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2015 『厚真町 朝日遺跡』  
道道早来停車場線埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報313
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2017 『厚真町 オッココ1遺跡（1）』  
厚真川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報338

## 厚幌ダム建設事業

- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2015 『厚真町 オニキシベ1遺跡』 北埋調報318
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2015 『厚真町 イクバンドユクチセ2遺跡』 北埋調報319
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2016 『厚真町 ショロマ4遺跡』 北埋調報322
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2016 『厚真町 イクバンドユクチセ3遺跡』 北埋調報325
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2017 『厚真町 上幌内3遺跡』 北埋調報335

## 国営土地改良事業勇払東部（二期）地区 厚幌導水管事業

- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2016 『厚真町 富里3遺跡』 北埋調報326
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2017 『厚真町 厚幌1遺跡・幌内6遺跡・幌内7遺跡』 北埋調報336

## (財)・(公財) 北海道埋蔵文化財センター刊行物

- (財) 北海道埋蔵文化財センター 1994 『遺跡が語る北海道の歴史』 15周年記念誌
- (財) 北海道埋蔵文化財センター 2004 『遺跡が語る北海道の歴史』 25周年記念誌
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2013 『調査年報25 平成24年度』
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2014 『調査年報26 平成25年度』
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2015 『調査年報27 平成26年度』
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2016 『調査年報28 平成27年度』
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2017 『調査年報29 平成28年度』
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2018 『調査年報30 平成29年度』

# 報告書抄録

ふりがな	あつまちょう おにしべ3いせき								
書名	厚真町 オニキシベ3遺跡								
副書名	厚真ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書								
シリーズ名	(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書(北埋調報)								
シリーズ番号	第346集								
編著者名	愛場和人・末光正卓・佐川俊一・奥山さとみ								
編集機関	公益財団法人北海道埋蔵文化財センター								
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1 TEL 011-386-3231								
発行年月日	西暦2018年3月23日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
おにしべ3 いせき 遺跡	ほっかいどう 北海道 おうむつぐみ 勇払郡 あつまちょう 厚真町 あびほろなほ 字 幌内 445-1,438-19ほか	1581	J-13 -78	U-24 グリッド杭	42° 45' 36.1"	142° 00' 59.0"	20140512 ~20141031 20150512 ~20151030 20160512 ~20161028	26,030 m <sup>2</sup>	厚真ダム建設 事業に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
オニキシベ3 遺跡	集落跡	縄文時代 中期・後期	竪穴住居跡 土坑・Tピット 焼土 石組炉 土器集中 フレイク集中 骨片集中 炭化物集中	土器 石器等 (楕円形石器)		周知の遺跡で、 鬼岸辺川 最上流部に位置する			
要約	<p>オニキシベ3遺跡は、石狩低地帯の南東側、厚真川のの上流域に位置する、これの支流である鬼岸辺川の右岸、標高84~74mの高~低位の河岸段丘に立地する。本報告は平成26(2014)・平成27(2015)・平成28(2016)年度の調査の報告である。</p> <p>遺跡の主たる時期は、縄文時代中期後半から後期前半で、遺構は竪穴住居跡・土坑・Tピット・焼土・石組炉・土器集中・フレイク集中・雑集中・炭化物集中・骨片集中を調査した。遺物は土器、石器等が出土した。土器は上記の時期が多いが、晩期初頭・早期後半・前期前半・縄文文化期・縄文文化期後半のもの少量出土した。</p> <p>割片石器は黒曜石製のものが多く頁岩製の少ない、礫石器・礫は多量に出土し、これらの多くが遺跡周囲の山体部を形成する。脆弱な堆積岩が用いられている。</p> <p>また調査区の西側で、T a - d 2 スコリアを主体とする、二次堆積層が下位の黒色土層(V層)中にみられた。</p>								





(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第346集

## 厚真町 オニキシベ3遺跡

－ 厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 －

平成30(2018)年3月23日

編集・発行 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター  
〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1  
TEL 011(386)3231 FAX 011(386)3238  
[URL] <http://www.domaibun.or.jp/>  
[E-mail] [mail@domaibun.or.jp](mailto:mail@domaibun.or.jp)

印刷 柏楊印刷株式会社  
〒007-0802 札幌市東区東苗穂2条3丁目4番48号  
TEL 011(789)2377 FAX 011(789)2376

